TOKYO DENKI UNIVERSITY

2024

東京電機大学理工学部

2024(令和6)年度 理工学部主要行事予定

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	予定
4月		1	2	3	4	5	6	4/2 入学式 4/3～10 オリエンテーション
			入学式	オリ	オリ	オリ	①	
	7	8	9	10	11	12	13	4/6 授業開始日
		オリ	オリ	オリ	①	①	②	
	14	15	16	17	18	19	20	
		①	①	①	②	②	③	
	21	22	23	24	25	26	27	
		②	②	②	③	③	④	
	28	29	30					4/29 昭和の日授業実施日 →休日振替日:8/5
		③	③					
5月				1	2	3	4	5/3 憲法記念日 5/4 みどりの日 5/5 こどもの日 5/6 振替休日(こどもの日)
				③	④			
	5	6	7	8	9	10	11	
			④	④	⑤	④	⑤	
	12	13	14	15	16	17	18	
		④	⑤	⑤	⑥	⑤	⑥	
	19	20	21	22	23	24	25	5/19 合同体育祭 5/26 合同体育祭予備日
		⑤	⑥	⑥	⑦	⑥	⑦	
	26	27	28	29	30	31		太線上:前前期 太線下:前後期
		⑥	⑦	⑦	⑧	⑦		
6月							1	
							⑧	
	2	3	4	5	6	7	8	
		⑦	⑧	⑧	⑨	⑧	⑨	
	9	10	11	12	13	14	15	
		⑧	⑨	⑨	⑩	⑨	⑩	
	16	17	18	19	20	21	22	
		⑨	⑩	⑩	⑪	⑩	⑪	
	23	24	25	26	27	28	29	
		⑩	⑪	⑪	⑫	⑪	⑫	
	30							
7月		1	2	3	4	5	6	13週目から学期末試験期間開始
		⑪	⑫	⑫	⑬	⑫	⑬	
	7	8	9	10	11	12	13	7/15 海の日授業実施日 →休日振替日:8/6
		⑫	⑬	⑬	⑭	⑬	⑭	
	14	15	16	17	18	19	20	
		⑬	⑭	⑭	予備	⑭		
	21	22	23	24	25	26	27	7/18,23,27 授業予備日 7/24～26 特定日
		⑭	予備	特定日	特定日	特定日	予備	
	28	29	30	31				
8月						1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	8/3～9/13 夏期休業 8/5 休日振替日(昭和の日) 8/6 休日振替日(海の日) 8/11 山の日 8/12 振替休日(山の日)
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	

カレンダーの見方

授業を行わない日

祝祭日等に授業を行う日

123… キャンパス開校日
123… (斜字) 事務室(理工学部事務部)閉室日
①②③… 各曜日ごとの授業回数

特定日:複数の学系にまたがる授業科目や履修者数が多い授業科目の学期末試験を行う日。授業・補講は行いません。

授業予備日:台風・降雪・東武東上線の運転見合わせ等により複数の授業が休講になった場合の補講日。

※ 長期休業期間等の「授業を行わない日」に、集中講義・補講等を実施する場合があります。

※ 予定のため変更の可能性があります。変更の場合は事前にDENDAI-UNIPA等でお知らせします。

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	予定
9月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	8/3～9/13 夏期休業 9/2 前期成績発表 9/11 創立記念日(休日) 9/14 授業開始日(後期) 9/16 敬老の日授業実施日 →休日振替日:12/25 9/22 秋分の日 9/23 振替休日(秋分の日)授業実施日 →休日振替日:12/26
							①	
	15	16	17	18	19	20	21	
		①	①	①	①	①	②	
	22	23	24	25	26	27	28	
		②	②	②	②	②	③	
	29	30						
		③						
10月			1	2	3	4	5	
			③	③	③	③	④	
	6	7	8	9	10	11	12	
		④	④	④	④	④	⑤	
	13	14	15	16	17	18	19	10/14 スポーツの日
			⑤	⑤	⑤	⑤	⑥	
	20	21	22	23	24	25	26	
		⑤	⑥	⑥	⑥	⑥	⑦	
	27	28	29	30	31			10/31 鳩山祭準備日(休講)
		⑥	⑦	⑦	準備			
11月						1	2	11/1 鳩山祭準備日(休講)
						準備	鳩祭	
	3	4	5	6	7	8	9	11/2,3 鳩山祭(休講) 11/3 文化の日 11/4,5 鳩山祭片付日(休講)
	鳩祭	祭片付	祭片付	⑧	⑦	⑦	⑧	
	10	11	12	13	14	15	16	太線上:後前期 太線下:後後期
		⑦	⑧	⑨	⑧	⑧	⑨	
	17	18	19	20	21	22	23	11/23 勤労感謝の日授業実施日 →休日振替日:12/27
		⑧	⑨	⑩	⑨	⑨	⑩	
	24	25	26	27	28	29	30	
		⑨	⑩	⑪	⑩	⑩	⑪	
12月	1	2	3	4	5	6	7	
		⑩	⑪	⑫	⑪	⑪	⑫	
	8	9	10	11	12	13	14	13週目から学期末試験期間開始
		⑪	⑫	⑬	⑫	⑫	⑬	
	15	16	17	18	19	20	21	
		⑫		⑭	⑬	⑬	⑭	12/25 休日振替日(敬老の日)
	22	23	24	25	26	27	28	12/26 休日振替日(秋分の日) 12/27 休日振替日(勤労感謝の日)
		⑬	⑬					
	29	30	31					12/27～1/5 冬季休業
2025				1	2	3	4	1/1 元旦
1月	5	6	7	8	9	10	11	1/8,14,15 予備日 1/13 成人の日 1/17,18 大学共通テストに伴う休講
		⑭	⑭	予備	⑭	⑭		
	12	13	14	15	16	17	18	
			予備	予備		共テ	共テ	
	19	20	21	22	23	24	25	1/21～23 特定日
	共テ		特定日	特定日	特定日			
	26	27	28	29	30	31		
2月							1	2/1～3/31 春季休業
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	2/11 建国記念の日
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28		2/23 天皇誕生日 2/24 振替休日(天皇誕生日)
3月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	3/4 進級発表・卒業発表・後期成績発表
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	3/17 卒業式 3/20 春分の日
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧　2024

【(公財）大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について】
　認証評価制度は、2002（平成14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間 (7年以内) ごとに文部科学大臣の認証を受けた者 (認証評価機関)による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成16）年に導入されました。
　本学は、2023（令和5）年度に（公財）大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2024（令和6）年4月1日～2031（令和13）年3月31日）されました。
　今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

東京電機大学 理工学部

この学生要覧は卒業するまで使用しますので、大切に取扱いください。

大学・大学院英文名

東京電機大学	Tokyo Denki University
理工学部	School of Science and Engineering
理工学科	Department of Science and Engineering
理学系	Division of Science
生命科学系	Division of Life Science
情報システムデザイン学系	Division of Information Systems and Design
機械工学系	Division of Mechanical Engineering
電子情報・生体医工学系	Division of Electronic Information and Biomedical Engineering
建築・都市環境学系	Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering

東京電機大学大学院	Graduate School of Tokyo Denki University
先端科学技術研究科	Graduate School of Advanced Science and Technology
博士課程（後期）	Doctoral Programs
数理学専攻	Mathematical Sciences
電気電子システム工学専攻	Electrical and Electronic Systems Engineering
情報通信メディア工学専攻	Information, Communication and Media Design Engineering
機械システム工学専攻	Mechanical System Engineering
建築・建設環境工学専攻	Architecture, Civil and Environmental Engineering
物質生命理工学専攻	Materials and Life Sciences
先端技術創成専攻	Advanced Multidisciplinary Engineering
情報学専攻	Informatics
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering
修士課程	Master's Programs
理学専攻	Science
生命理工学専攻	Life Science and Engineering
情報学専攻	Informatics
機械工学専攻	Mechanical Engineering
電子工学専攻	Electronic Engineering
建築・都市環境学専攻	Architectural, Civil and Environmental Engineering

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集
   個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。
2. 個人情報の利用
   個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。
3. 個人情報の提供
   個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。
4. 個人情報の管理
   個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。
5. 個人情報に関する請求への対応
   個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。
6. 個人情報保護の推進等
   個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

個人情報の取扱いについて

「個人情報保護に関する法律」および「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

㈠ 入学式、卒業式など、本学が主催する行事のため。
㈡ 正課授業および正課外活動のため。
㈢ 学籍（進級・休学・退学・除籍）管理、学生証発行、履修関連業務、試験の実施、成績処理、学位（申請・審査・授与）、奨学金業務（申請・受給）、各種証明書発行など、本学における教育・研究活動のため。
㈣ 学生の健康管理、学園祭等の学内行事、クラブその他学生組織の指導・連絡などの学生指導を行なうため。
㈤ 学生に対するキャリア･就職支援業務、インターンシップ支援業務、各種施設利用など、本学組織や本学施設の運営業務を行うため。
㈥ 教育・研究のために業務上必要な書類の郵送（成績通知書の送付を含む）、電話・メールなどでの連絡のため。
㈦ 学費等の請求、入金処理、督促等に必要な業務を行うため。
㈧ 官公庁等の調査依頼に対する回答のため。
㈨ 学生本人および保証人に対して、本学（本学組織含む）ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および社団法人東京電機大学校友会から通知および連絡を行うため。
㈩ その他本学の教育・研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
㈪ その他法令に基づく場合。

学生要覧に記載されている授業運営方法や各種行事予定については、諸般の事情により変更される可能性があります。
つきましては、大学からの連絡（学生ポータルサイトDENDAI-UNIPA）や本学ホームページで常に確認していただくようお願いいたします。

学生要覧　目次

第１章 はじめに（新入生の皆さんへ）

学長挨拶 …… 2

第２章 学生生活を始めるにあたって

1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法 …… 4
2　学生証 …… 5
3　通学定期乗車券 …… 7
4　スクールバス …… 7
5　車両通学 …… 8
6　交通機関の運休及び自然災害発生時等の授業措置について …… 9
7　呼出・連絡・照会 …… 10
8　キャンパスルール …… 11
9　トラブルから身を守るために …… 13
10　防犯について …… 16

第３章 学修案内

理工学部の教育
東京電機大学 …… 18
理工学部 …… 19
共通教育科目・専門教育科目のカリキュラム
人間形成科目・英語科目 …… 23
専門基礎科目 …… 33
理学系 …… 45
生命科学系 …… 65
情報システムデザイン学系 …… 79
機械工学系 …… 97
電子情報・生体医工学系 …… 111
建築・都市環境学系 …… 127
オナーズプログラム …… 141
人文社会系オープン科目履修制度 …… 147

第４章 履修案内

1　授業科目 …… 150
2　授業 …… 152
3　履修 …… 157
4　試験 …… 163
5　成績 …… 166
6　学生アドバイザーによる学修指導 …… 168
7　単位認定 …… 169
8　進級と留年 …… 173
9　卒業 …… 175
10　DENDAI − UNIPA …… 180
11　WebClass …… 181

第５章 資格と免許

1　本学卒業後に取得できる資格・免許 …… 186

第６章 教職課程

1　教職課程とは …… 192
2　東京電機大学が養成する教師像について …… 192
3　大学入学から免許状取得まで …… 193
4　取得できる教員免許状の種類と教科 …… 194
5　免許状取得要件 …… 195
6　教職課程の履修手続 …… 205
7　教育実習 …… 206
8　免許状の申請・交付 …… 208

第７章 事務取扱い

1　事務取扱事項と取扱時間 …… 212
2　主な書類の提出先 …… 213
3　証明書の交付 …… 215
4　卒業後の証明書申請 …… 216

第８章 学籍と学費

1　学籍 …… 218
2　コース制とコースの選択 …… 220
3　学費について …… 222

第９章 生活案内

1　学生生活への助言・相談 …… 224
2　留学・海外語学研修 …… 225
3　学割証（学生旅客運賃割引証） …… 226
4　健康管理 …… 227
5　保険制度 …… 229
6　奨学金制度 …… 232
7　短期貸付金制度 …… 237
8　賃貸アパートの紹介 …… 237
9　課外活動 …… 237
10　アルバイト …… 238
11　後援会 …… 240
12　校友会 …… 241
13　東京電機大学シーサート（TDU－CSIRT） …… 243
【STOP!HARASSMENT】 …… 245

第 10 章 各種施設

1　スポーツ施設 …… 250
2　総合メディアセンター …… 252
3　理工学部基礎教育センター（CFE） …… 272
4　理工学部学習サポートセンター（SSC） …… 274

第 11 章 就職・進学

1　キャリア支援・就職 …… 279
2　大学院への進学 …… 284
3　科目等履修生 …… 284

第 12 章 学則及び諸規程

1　東京電機大学学則 …… 286
2　東京電機大学理工学部規則 …… 296
3　東京電機大学学位規程 …… 300
4　試験に関する細則 …… 303
5　学生生活についての規程 …… 305
6　学生アドバイザーに関する規程 …… 307
7　部室使用に関する内規 …… 308
8　理工学部学生の車両通学に関する取扱細則 …… 310
9　特別奨学生規程 …… 312
10　東京電機大学大学院進学特別奨学金規程 …… 313
11　東京電機大学学生救済奨学金貸与規程 …… 314
12　東京電機大学学生支援奨学金貸与規程 …… 316
13　東京電機大学学生応急奨学生規程 …… 317
14　東京電機大学学生サポート給付奨学生規程 …… 318
15　東京電機大学科目等履修生規程 …… 320

第 13 章 沿革

1　沿革 …… 324

第 14 章 大学校歌・学生歌

東京電機大学校歌 …… 330
東京電機大学学生歌 …… 331
東京電機大学理工学部讃歌 …… 331

第 15 章 埼玉鳩山キャンパス案内図

埼玉鳩山キャンパス案内図 …… 334
埼玉鳩山キャンパス教員室一覧 …… 344
理工学部教員一覧 …… 346

第１章
はじめに
（新入生の皆さんへ）

科学技術により社会貢献を果たしてください

学 長　射場本　忠彦

東京電機大学は、社会が必要とする科学技術に関わる「実学」を尊重することを建学の精神として、1907 年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が、「技術で社会に貢献する人材を養成し国を発展させること」を目指して、神田に創立した電機学校が母体となっています。東京電機大学は、さらに初代学長の丹羽保次郎先生の名言である、「技術は人なり」を教育・研究の理念とし、建学の精神を連綿と受け継ぎ、学園の使命を果たしてまいりました。

本学は現在、工学部、工学部第二部、理工学部、未来科学部、システムデザイン工学部の 5 学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の 4 研究科（大学院修士課程）、および先端科学技術研究科（大学院博士課程後期）を擁しています。本学は学園創立 116 年を越え、23 万人以上の卒業生を輩出し、社会から高い評価を得ております。

現代は、社会活動、産業活動のすべての活動において、科学技術の知識を必要とする時代であり、知識自体が価値を持ち、さらに知識に基づく創案が付加価値を生み出す、「知識基盤社会」と言われております。すなわち、科学技術知識の修得さらには新たな科学技術知識の創案が、現代の「実学」であることは明らかです。本学は、この「実学」に長じて社会を支える科学技術者を養成することと、新たな科学技術知識を創案してより社会に貢献すること、で重要な役割を果たしてきました。

これから皆さんは、科学技術の基礎と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決を行い、社会へ貢献されることを期待しています。大学時代は、人生で一番効率良く多くの知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。社会に出てからも最新知識と技術を駆使するために、まずは数学のような基礎学問の修得、さらにこれに加えて専門学問の修得に励んでください。

科学技術者として社会で活躍するためには、上述のように自分の専門に関する知識を修得するだけでなく、それを活用する能力も身につけてください。あなた方が社会に出て直面する課題のほとんどは、環境、資源、エネルギー、情報等、広い分野の知識と技術を総合しなければ解決されないからです。

ほとんどの活動現場において、起案、研究、実用化、生産、販売を一つの国ないし地域の中でのみ行うことはむしろまれで、科学技術者も国際的な活動が求められる時代となり、国際的なコミュニケーション能力は必須になってきています。このような状況から、専門の修得は当然ですが、これに加えて、外国語に堪能になりかつ異文化を理解する能力を持つことが必要なことも、しっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる皆様方の問題発見と解決能力が、日本さらには人類の未来を創ります。本学卒業後、国際的な技術者として活躍できるように、意欲を持って大学生活に取り組んでください。

第２章
学生生活を始めるにあたって

1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法

大学は、高校などとは異なりホームルームがありません。学生生活に必要な情報の取得、履修登録、スケジュール管理等は全て自身で行う必要があります。皆さんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI − UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））で「掲示」します。

UNIPA とは、インターネット上で、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・スケジュール管理・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

授業の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。学内では大学から皆さんへの連絡や個別の呼び出しなども UNIPA で行います。見落としのないように、1 日に 1 回以上は確認するようしてください。

UNIPA は、学生生活を送る上で必ず使用することになります。機能を早めに理解し、是非活用してください。

2　学生証

⑴ 学生証の携帯

学生証は、皆さんが本学の学生であることを証明するものです。常に携帯してください。また、盗難や悪用などされないよう大切に扱ってください。学生証は、授業の出席や証明書自動発行機での各種証明書発行、図書館での本の貸出の際や大規模災害時の安否確認などに必要です。特に、試験等を受ける際には必要ですので、注意してください。登校に際し、学生証を忘れていないか確認する習慣を身につけてください。

学生証の取扱いは、本館１階理工学部事務部（学生厚生担当）で行っています。

⑵ 学生証の交付と年度更新

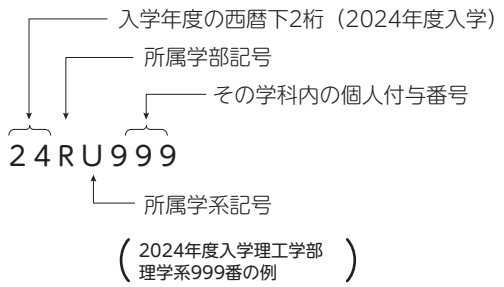
新入生：４月のオリエンテーションにて交付。

在学生：毎年４月に学生証の年度更新（裏面シールの交換）を実施しますので、定められた期間内に必ず理工学部事務部（学生厚生担当）にて手続きを行ってください。裏面シール配付時期については、UNIPA にてお知らせします。

⑶ 学籍番号のしくみ

学生証に記載された７桁の数字・記号を学籍番号といいます。

学籍番号のしくみは次の通りです。



理学系	RU
生命科学系	RB
情報システムデザイン学系	RD
機械工学系	RM
電子情報･生体医工学系	RE
建築･都市環境学系	RG

⑷ 学生証の紛失・汚損

学生証を紛失・汚損した場合は、直ちに学生証再発行の手続きをとってください。

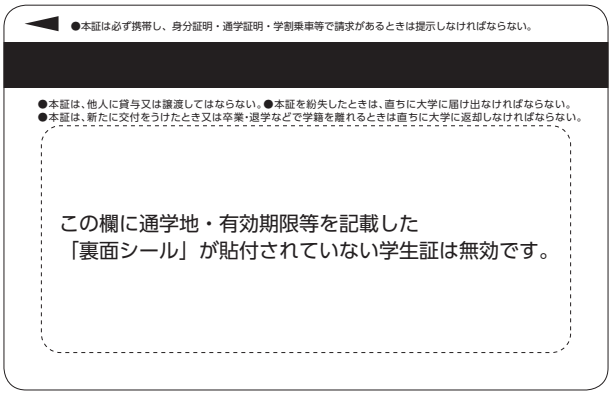
本館１階の証明書自動発行機で学生証再発行の申請書（2,000 円）を出力し、必要事項を記入の上、理工学部事務部（学生厚生担当）へ提出してください。原則として、2 日後（土･日・祝を除く）に交付します。

なお、退学・除籍の場合は、学生証を直ちに返納してください。

〔表面〕

【JIS 第 2 水準までの範囲で使用】

【学生証の顔写真の変更は不可】



〔裏面〕

通学地	埼玉県比企郡鳩山町大字石坂　049-296-0496(ダイヤルイン)					有効期限	
現住所						2025.3.31	
通学区間	～					東京電機大学	
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通用期間	発行駅	発行年月日	通用期間	発行駅	備考
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		

〔裏面シール〕

＊裏面シールが定期券購入時の通学証明書となります（年度毎に交換更新）

3　通学定期乗車券

通学のための電車・バス等を利用する場合の通学定期乗車券の購入方法は、次のとおりです。

⑴ JR・私鉄の場合

通学途中の主要駅で、駅備付の「通学定期乗車券購入申込書」に記入して、学生証を添えて駅窓口に提出すれば購入できます。

⑵ バス

バス会社によっては大学の通学証明書を必要とする場合があります。その場合には学生厚生担当で証明書を発行しますので申し込んでください。(P216 参照)

⑶ 実習用通学定期

卒業研究、教育実習等により埼玉鳩山キャンパス以外の場所へ一定の期間通学する必要が生じた場合は実習用通学定期を申請することができます（通常の通学定期と同様に１ヶ月単位での購入になります。また、履修単位の認定を行うもの、実習箇所から報酬その他交通費に相当する手当てを受けないものが条件となります)。

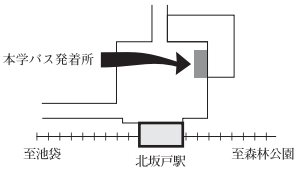
購入するには学生厚生担当窓口で手続きを行い、各鉄道会社へ申請し、発行許可を受ける必要があります。**鉄道会社から発行の許可が下りるまでは１ヶ月程度かかります**ので早めに（１ヶ月以上前に）手続きを行うようにしてください。

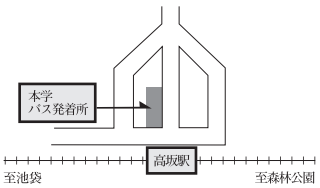
4　スクールバス

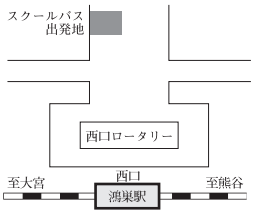
東武東上線高坂駅・北坂戸駅～大学間に、平日・土曜のみ授業時間にあわせてスクールバスを運行しています。運行時刻は大学本館前バス停、高坂駅・北坂戸駅の発着場所に掲示されています。(北坂戸駅発着のスクールバスは北坂戸に住んでいる学生を主な対象としています。便数が少ないため、できるだけ高坂駅発着のスクールバスを利用してください。)

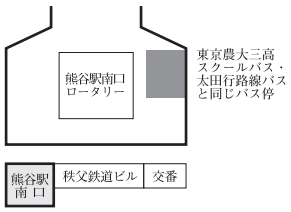
また、ＪＲ熊谷駅・鴻巣駅～大学間にもスクールバスを運行しています（原則的に熊谷便は平日・土曜、鴻巣便は授業期間の平日のみ)。ただし便数が少ないため、運行時間には注意してください。熊谷便・鴻巣便のスクールバスは、道路事情や天候などにより所要時間や運行時刻が大幅に変わる場合があるので、利用する学生はその点をよく理解した上、利用してください。

スクールバスは、日曜・祝日、大学の休業日は運行しておりません。また、大学行事などにより運行時刻が変更になることがあります。その場合には UNIPA でお知らせしますので、UNIPA をよく確認するようにしてください。









スクールバスの他、高坂駅から路線バス（有料）も大学まで運行されています。路線バスはスクールバスの運行がない日曜・祝日も運行されています。

○路線バス

運行時間帯：高坂駅発 6：10 頃～大学発 21：00 頃（平日）
詳しくは路線バスのバス停で時刻表を確認してください。

運　　賃：片道￥280（IC カード　￥280、2023 年 11 月現在）

5　車両通学

本学では「駐車許可証」の発行を受けていない者の自動車等による通学（一時的な来校を含む）は一切認めていません。

自動車等での通学を希望する場合は、年 2 回（5 月、10 月）行われる「安全運転講習」を受講し、「車両通学願」を理工学部事務部（学生厚生担当）に提出して許可を受けてください。

なお、「駐車許可証」の発行を受けるには、保証人と連名の「車両通学願」、該当車両の「任意保険証等の写し」、「免許証」の写し等が必要です。

※車両とは、ここでは「四輪」「軽四輪」「自動二輪」「原動機付自転車」を指します。「駐車許可証」の発行を受けていない学生は、車両を運転して大学に来ることは（例え一度でも）できません。

⑴ 許可条件

1. 公共の交通機関を利用しての通学が困難な者
2. 運転免許取得後 6 ヶ月以上経過している者
3. 道路運送車両法による 12 ヶ月定期点検整備の適用を受けられる者
4. 自動車損害賠償責任および次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四　　輪	7,000 万円以上	100 万円以上	500 万円以上
自動二輪	5,000 万円以上	100 万円以上	200 万円以上

⑵ **駐車許可証**

車両通学を許可した者に対しては、駐車許可証を発行します。学内に駐車する場合には、この駐車許可証を、四輪車の場合には常にダッシュボード上に提示し、自動二輪・原付の場合には常に携帯していなければなりません。

⑶ **駐車・駐輪場所**

自動車・バイク・自転車などの車両は必ず学生駐車場（第一・第二・体育館前）・駐輪場に駐車してください。特に来客用駐車場は来訪者にも迷惑をかけますので絶対に駐車しないでください。また、バイク・自転車は盗難防止のため錠前をつけるなど各自で防犯対策をとりましょう。

学生駐車場・駐輪場以外の場所に駐車した場合には罰せられますので注意してください。

⑷ **違反者の処置**

無許可で車両通学をした場合および車両通学者が道路交通法等の関係法令および学内諸規程に違反し、大学の指示に従わない場合は、学則第 51 条に則り退学を含む厳しい処分や処置を行います。

⑸ **車両通学は安全運転を心がけましょう**

電車やバスなど公共交通機関を利用しての通学が困難な場合には車両通学を認めています。しかしながら、ここ数年、車両事故による残念な報告が後を断ちません。

みなさんは、通学中に尊い生命を失ったり、重傷を負い長期間学業を中断せざるをえなくなったり、また、周囲の方々にも多大な迷惑をかけることをしてはなりません。また、交通ルールを守り、他人の駐車場を使ったり、マナー違反をしないでください。できるだけ車両通学をひかえて電車やスクールバスを利用することを勧めます。

6　交通機関の運休及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとおりの対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。この授業措置については、UNIPA にて周知します。また授業開始以後に発令された場合には、学内

放送等でも最新情報を発信しますので注意してください。

⑴ 東武東上線が運休の場合

東武東上線が運休した場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

①午前 6 時において

・運休あり ⇒ 第 1・2 時限目の授業は休講

・運休なし ⇒ 平常どおり授業

②午前 9 時において

・運休あり ⇒ 終日休校（第 1 時限目～第 5 時限目、D5 時限目の授業まで休講）※

・運休なし ⇒ 第 3 時限目以降は平常どおり授業

⑵ 台風・大雪等による暴風警報、暴風雪警報または大雪警報が発令された場合

秩父地方を除く埼玉県内に暴風警報、暴風雪警報または大雪警報（以下、警報という）が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

①午前 6 時において

・警報発令あり ⇒ 第 1・2 時限目の授業は休講

・警報発令なし ⇒ 平常どおり授業

②午前 9 時において

・警報発令あり ⇒ 終日休校（第 1 時限目～第 5 時限目、D5 時限目の授業まで休講）※

・警報発令なし ⇒ 第 3 時限目以降は平常どおり授業

※午前 6 時を過ぎてから警報が発令されて、午前 9 時においても警報が発令されている場合は、終日休校（第 1 時限目～第 5 時限目、D5 時限目の授業まで休講）となりますので、通学途中の場合は、自身の安全を確保するように行動してください。

なお、警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に警報が発令された場合は、学内放送、UNIPA で授業措置の情報を発信します。

⑶ その他

緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。その場合には、直ちに UNIPA に掲載するので、各自確認してください。

7　呼出・連絡・照会

家族・知人などから大学へ電話等で、学生の呼び出しを依頼されることがありますが、呼び

出しには応じていません。大学では学生の居場所については明確に把握しかねますので、あらかじめ承知しておいてください。

また、電話等による学生の住所、連絡先、成績などの問合せにも一切応じないことになっています。

8　キャンパスルール

●マナーの向上について

近年、一般に公共の場所でのマナーについて、社会意識が高まっています。「マナー」とは社会の中で守るべき礼儀・作法であり、人間関係の基本的なつながりを作り上げるために必要なもです。皆さんは、社会の中で立派な大人として扱われる大学生です。

社会の一員としてのマナーを守り、東京電機大学ならびに地域住民の一員として、キャンパス内・キャンパス周辺において、お互いが気持ちよく生活できるよう、心がけてください。

埼玉鳩山キャンパスでは、定期的にクリーンプロジェクトを実施しています。皆さんもぜひ、参加してください。

⑴ ゴミは分別してゴミ箱に捨ててください。

学内には、可燃ゴミ、不燃ゴミ、かん・びん、ペットボトル、弁当ゴミ、カップ麺容器などのゴミ箱が設置されています。ゴミは放置しないで、分別を徹底し、環境への配慮と学内美化の推進に協力してください。

⑵ 喫煙は指定場所で行い、吸殻は灰皿へ捨ててください

指定の喫煙場所以外では禁煙です。灰皿の設置されていない場所や歩行中の喫煙は厳禁です。吸殻は必ず灰皿へ捨ててください。健康管理のうえでも喫煙は控えましょう。

⑶ 通行マナーを守ってください

・道路は複数人で広がって通行しないでください
・路上では大声で騒がないでください
・生活道路、住宅街の通り抜けはやめましょう

⑷ 無届けの「掲示」「印刷物の配布」は禁止しています

学内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得ねばなりません。意見、主張などを書いたパンフレット、チラシなどを配布したい場合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に、理工学部事務部（学生厚生担当）に届けてください。

また、そのような行為が、不審な団体によって行われているのを見かけた際は、理工学部事務部（学生厚生担当）まで連絡してください。

⑸ 勧誘活動の禁止

・宗教団体への勧誘
・投資への勧誘
・終了後に契約を強要する、無料アンケート・無料セミナー・無料体験・オーディションなどへの勧誘

言うまでもないことですが、本学はこれらの行為を禁止しています。

友人・先輩であってもこのような勧誘等を受けた場合は、決して個人情報を提供せず、また強い意志で必ず断ると同時に、理工学部事務部（学生厚生担当）にもご連絡ください。

⑹ 良識をもって行動しましょう

・授業中の私語、居眠り
・授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用
・カンニング・レポートの丸写し
・大声を出して騒ぐ、落書き
・ゴミ、空カン、タバコの投げ捨て
・スマートフォンによる脇見歩行

これらの行動は、クラスメイトのみならず学生・教職員、地域住民に多大な迷惑をかけ、社会的マナーにも反することですので各々が自分の行動を振り返り、良識のある行動をとってください。

⑺ 落とし物・忘れ物には気を付けましょう

キャンパス内では落とし物の数が多いにもかかわらず、持ち主に引き取られるものは約半数に過ぎません。これらの落とし物は、理工学部事務部（学生厚生担当）で１年間保管していますので、気が付いたときは速やかに申し出てください。また、落とし物を拾ったときにも理工学部事務部（学生厚生担当）に届け出てください。教科書など自分の持ち物に記名することを習慣づけ、物を大切にする気持ちを養ってください。

・持ち主が明らかな物　→　大学メールアドレス、携帯電話で本人に連絡
・持ち主不明の物　→　本館１階事務室前陳列棚で１年間保管後、法に基づき処分する。

⑻ 教室内での飲食は原則禁止です

教室内での飲食により室内に匂いが充満し、授業運営の妨げになります。飲食は食堂またはラウンジ等で行ってください。

9　トラブルから身を守るために

⑴ 飲酒

大学生といえども未成年者は飲酒することができません。サークルやゼミ、友人達とお酒を飲む機会ができると思いますが、毎年各地で、短時間での多量の飲酒（イッキ飲み等）により急性アルコール中毒になり、救急車で病院に運ばれるケースも発生しています。

急性アルコール中毒になると吐き気、言語障害などの症状をおこすだけでなく、意識喪失から死に至る場合もあります。

●未成年の飲酒・飲酒の強要について

未成年が飲酒すること・未成年に飲酒をすすめることはもちろん、それを見過ごすことも重大な違法行為です。また、相手が未成年かどうかにかかわらず、飲酒の強要はハラスメントであり、許されないことです。人それぞれに合った酒量とペースがあります。

●万が一、友人が酔いつぶれてしまった場合の介護方法は

・絶対に一人にしない。
・衣服をゆるめて楽にする。
・毛布などをかけて、体温の低下を防ぐ。
・水分補給をする。
・吐しゃ物による窒息死も多いので、寝ている場合は横向きのまま吐かせること。
・体温が低い、呼吸が速くて浅い、時々しか呼吸をしない、ゆすって呼びかけてもまったく反応がないなどの症状の場合、救急車を呼ぶこと。

⑵ ドラッグ

薬物を始めるきっかけは、繁華街で誘われて、あるいは友人に勧められてというものが多いようですが、一度くらいならと興味本位で始めると取り返しのつかないことになります。

薬物使用は、薬物依存、急性中毒、心身の後遺障害など、脳と心を蝕む大きな危険をはらんでいます。薬物乱用の害は半永久的に続き、治療を行っても完全には回復しません。大切な人生を棒に振ることのないよう、誘いはきっぱりと断りましょう。

また、麻薬等の違法薬物を使用することは、たとえ一回でも重大な犯罪です。本学は、学生が決して禁止薬物に関わることのないよう強く要請し、このような違法行為に対して罰則をもって臨みます。

●持っているだけでも罰せられる主な薬物

大麻・MDMA・コカイン・覚せい剤・危険ドラッグ（脱法ドラッグ）※・アヘン・ヘロイン

※法律で所持や使用を禁止されていないが、犯罪に使用されたり、乱用による死亡事故を招くこともあり、その多くは薬事法等で製造、輸入、販売等が禁止されている。

⑶ 金融ローン

「学生証だけで低利融資します」と言うこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりでなく、両親や身近な友達にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などによく相談してください。

⑷ インターネット

インターネット上のトラブルが増加し、大学への相談も増えています。誰もが巻き込まれる可能性がありますので、特に以下の点等に注意してください。

●被害者にならないために

個人情報の公開によるトラブル	個人情報の公開は思わぬトラブルを引き起こすことがあります。自分自身の情報であっても、むやみな公開は控えましょう。 実名や年齢、所属など、個人が特定できる情報を公開する場合には、ネット上の言動にいっそう注意してください。脅しや嫌がらせを受けた例があります。
有料サイトの利用	有料サイトは利用規約をよく確認し、料金体系を理解した上で利用してください。また、請求が来たら、支払い義務があるかどうかよく確認しましょう。
ワンクリック詐欺	HP 上のリンクや画像等をクリックしただけで勝手に登録され、利用料金を請求されることがあります。 たとえ IP アドレス等が登録されても、そこから氏名や連絡先などの個人情報が判明することはありません。身に覚えのない請求は原則として無視してください。
フィッシング詐欺	実在のクレジット会社や銀行になりすまして案内メールを送り、暗証番号などを盗み出す手口です。メール本文中のリンクをクリックすると、フィッシングサイトに誘導される危険性があります。電話や公式 HP で確認しましょう。

●加害者にならないために

他人の権利侵害	他人の名誉を傷つけるような発言や他人の個人情報の公開は厳に慎んでください。また、自分の公開している情報が他人の著作権や肖像権、プライバシーを侵害していないか注意することも大切です。裁判に発展した例もあります。

⑸ 悪徳商法

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、投資用 DVD の販売、英会話学習教材の割賦販売などでもトラブルが多発しています。これらは、「もうかる話がある」「海外留学の特典がある」などの甘い誘いや、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、相手がどのような者かしっかり確認し、その内容について時間をおいて十分に検討した上で判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

●クーリング・オフ制度

セールスマンの巧みな言葉に乗せられてうっかり契約してしまった時に、申し込みの撤回や契約の解除ができる制度です。

契約した日を含めて、訪問販売（キャッチセールスやアポイントメントセールスを含む）や電話勧誘販売の場合は８日以内、マルチ商法の場合は20日以内に、内容証明郵便や配達記録（コピーをとっておくこと）で相手先に解約通知を出してください（当日消印有効）。

・マルチ（連鎖販売取引）商法

「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的、強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となりますので、こうした商法に関与しないよう充分注意してください。

・点検商法

「消防署から点検にきました」などと公的機関の職員の身分をかたり消火器などの商品を売りつける商法です。他に布団、換気扇フィルターなどの点検商法も多発しています。

・アポイントメント商法

「あなたが選ばれました」という電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。

・資格商法

講座を受けるだけで「○○資格が取れます。」という手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。

⑹ 宗教団体の勧誘

いくつかの宗教団体に関するトラブルが大きな社会問題になっています。洗脳されてさまざまな活動をさせられたり、多額の献金を要求されたりするケースもありますので、貴重な学生生活を無にしないよう十分な注意が必要です。

大学構内で勧誘されたり、勧誘しているところを見かけたりしたときは、至急、理工学部事務部（学生厚生担当）に連絡してください。

●様々な勧誘方法

①スポーツやボランティアのサークルを装った勧誘

スポーツやボランティアのサークルと偽り、宗教団体であることを隠して勧誘した団体が宗教の話を始めたら要注意です。正当な宗教サークルは名前を詐称しません。

②平和を考える会や自己啓発セミナーを装った勧誘

真面目な会合を装い、勉強会と称してビデオなどで洗脳します。特に拘束時間が長いものには注意してください。

③街頭勧誘

「アンケートに答えてください」「手相の勉強をしてます」等と誘い、高額な商品の購入をすすめ、団体に引き込もうとします。

10　防犯について

体育館、図書館、学生ラウンジなど、大学構内で盗難が多発しています。日頃からのちょっとした用心や心構えが盗難防止につながりますので、自分の持ち物の管理には十分注意してください。

⑴ 被害に遭わないために

①貴重品は必ず携帯する。
②所持品から目を離さない。
③カードの暗証番号には安易にわかるものを設定しない。
④施錠管理を徹底する。

⑵ 被害の事例

・食堂で席取りのためにカバンを置き、財布だけ持って席を離れた時にカバンを盗まれた。
・教室や図書館で机に荷物を置き、ほんの 2、3 分席をたった間に財布を抜き取られた。
・図書館の閲覧席で、居眠りをしている間に荷物がなくなっていた。
・学生ラウンジに荷物を置いたまま体育館で練習していたら、財布から現金を抜き取られた。
・教室でサークル活動中、廊下に置いていた荷物がなくなった。
・部室や研究室を数分無人にした隙に侵入され、財布を盗まれた。

⑶ 盗難に遭った場合

理工学部事務部（学生厚生担当）に速やかに報告してください。被害が現金やカードなどの貴重品の場合は、直ちに警察や金融機関等にも届け出てください。また、盗難に遭った物やその一部が拾得物として理工学部事務部（学生厚生担当）に届けられていることもありますので確認してください。

なお、学内で不審者を見かけた場合は、理工学部事務部（学生厚生担当）または守衛室に連絡してください。

第３章
学修案内

東京電機大学

建学の精神「実学尊重」

1907 年（明治 40 年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

教育・研究理念「技術は人なり」

東京電機大学の教育・研究理念として主軸にあるのが初代学長である丹羽保次郎が唱えた「技術は人なり」です。「よき技術者は人としても立派でなければならない」、つまり、技術者である前に社会の一員として、人として、常に成長しなければならないということです。この理念を胸に刻み、東京電機大学は、日本をはじめ世界で活躍する多くの技術者を育成し続けています。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

東京電機大学は、科学技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、本学に所定の期間（※）在学して、各学部で定められた卒業要件を満たし、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位を授与します。

⑴ 実学尊重を旨として、科学技術の知識と技術をもつこと。
⑵ 自らの専門的知識と専門的技術を活用し、様々な課題に挑戦し、解決する実践力をもつこと。
⑶ 理工系の幅広い基礎知識と、常に新しい知識の獲得に努める積極的な姿勢をもつこと。
⑷「技術は人なり」の精神のもと、科学技術と人間・社会との関わりを理解し、科学技術者として必要な教養、キャリア意識、倫理観をもつこと。
⑸ グローバルな視野と、科学技術者として必要なコミュニケーション力などの汎用的能力をもつこと。

※標準修業年限　4 年

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

東京電機大学は、学位授与の方針に掲げる知識・スキル・能力・態度を修得させるため、教育課程を、学位授与の方針⑴～⑶を実現する専門教育と⑶～⑸を実現する共通教育に分け、以下のように教育課程を編成・実施します。

⑴ 実学尊重を旨とし、専門教育として、各学部・学科・学系ごとに、その教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。
⑵ 課題解決型学習を取り入れ、自らの専門的知識・専門的技能を活用できる課題解決能力を涵養します。

⑶ 理工系の基礎知識を涵養する科目を配置します。
⑷「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的とした科目を配置します。
⑸ グローバルな環境で意思疎通ができる能力を涵養する科目を配置すると共に、コミュニケーション力などの汎用的能力を培う科目を配置します。

理工学部

人材養成に関する目的ならびに教育研究上の目的

（人材の養成に関する目的）

高度に発展を続ける将来の科学技術分野では、科学技術者自身が社会的ニーズを的確に捉え自立した発想のもとに企画・開発していくことが望まれます。そのような科学技術者を「未来型科学技術者」として、その養成を目的とします。また、未来型科学技術者は同時に社会に立脚し、リーダーとしての魅力が望まれます。人間性および教養の豊かな研究者・技術者および学校教員の育成をも目的とします。

（教育研究上の目的）

基礎分野としての理学と応用分野としての工学・情報学を基盤として学系およびコースを構成し、それらよりなる複合分野の教育研究を推進することを目的とします。

教育目標

理工学部の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

幅広い教養教育及び課題解決型学習の実施により、科学技術に関する高度な倫理性およびコミュニケーション能力を備えた人間性豊かな社会人を育成します。

理学・工学・情報学分野それぞれの基幹、及びそれらを相乗的に融合させるための教育システムと科目を設置することで創造的かつ自由な発想と自立性を有する研究者および技術者を育成します。

英語教育にも力を入れることでこれからの時代を見据えたグローバルな視野をもつ研究者および技術者を育成します。

教職課程の設置により中等教育に対する深い理解あふれる人材を育成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部に所定の期間在学し（※）、卒業に必要な単位を修得して、次の学修成果を上げた者に対して、学士の学位を授与します。

⑴ 実学尊重を旨として、理学、生命科学、情報学、機械工学、電子工学、建築・都市環境学の理工学６分野のうち、主となる専門分野（主コース）と副となる専門分野（副コース）の科学技術の知識・技術をもつこと。
⑵ 自立した発想のもとに解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術

を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。
⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。
⑷「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。
⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。

※標準修業年限　4 年

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部は、「未来型科学技術者」を養成するために、1 年次に専門基礎科目および学系共通科目を履修させたのち、2 年次になるときに主コースおよび副コースを各々 1 つずつ選択させます。自主的な学びのために副コースは他学系からも選択できるようにします。
また、理工学部の「学位授与の方針」を実現するために、以下のように教育課程を編成し、実施します。
⑴ 実学尊重を旨とし、理工学部の 6 つの専門分野（学系）それぞれに複数のコースを設置し、学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意します。これらの専門科目を講義、演習、実験・実習によって構成し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。
⑵ 自立した発想のもとに解くべき課題を見つけ出す能力、課題解決能力、コミュニケーション能力を涵養するために、課題解決型学習を取り入れた演習、実験・実習科目およびアクティブラーニングの手法を取り入れた科目を配置します。
⑶ 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。
⑷ 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。
⑸ 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

共通教育科目・専門教育科目のカリキュラム

共通教育科目
【人間形成科目群】
【英語科目群】

教育目標

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

履修モデル

留学生のための共通教育科目

授業科目配当表

【共通教育群・基礎教育センター】

教育目標

理工学部の共通教育群・基礎教育センターは、心身ともに豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、自己肯定感と批判的な思考力、そしてコミュニケーション能力を兼ね備え、同時に科学・技術にかかわる倫理上の問題への理解を深め、人類の幸福と希望に満ちた将来に貢献できる学生の育成を目指します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の共通教育群・基礎教育センターは、豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、国際社会に対応できる人材の養成を目指し、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

- （DP1 に対応）教職課程科目を配置し、教師として子どもを教育する上で必要な教育実践を行い、かつ教師としての力量の基礎を培います。
- （DP3 に対応）具体的に、かつ計算を重視して思考する基礎力を身につけるために、数学の魅力を知る数学科目を配置します。自然現象を物理的に見る目を涵養するとともに、専門科目の基礎となる実験的手法と論理的思考を身につけるために、物理科目を配置します。物質を理解し創製するという科学技術の基礎能力を養うために、化学科目を配置します。
- （DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。
- （DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
学部DP1	教職課程	教職入門	2	教育社会学	2	教育課程論	2	教育相談	2								
		教育学概論	2	教育心理学	2	生徒・進路指導論	2										
						特別支援教育	1			総合的な学習の時間の指導法	1						
						特別活動論	1										
						介護福祉論	2	介護福祉論	2	道徳理論と指導法	2						
										介護等体験特論（通年科目）	1						
						理科教育法（通年科目）	4			理科指導法（通年科目）	4						
						数学科教育法（通年科目）	4			数学科指導法（通年科目）	4						
						工業科教育法（通年科目）	4			工業科教育法（通年科目）	4						
						情報科教育法（通年科目）	4			情報科教育法（通年科目）	4						
												教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）	2	教育実習セミナー	2	教職実践演習（中・高）	2
														教育実習Ⅰ（通年）	2		
														教育実習Ⅱ（通年）	2		
学部DP4	人間形成主題	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1
		教養ゼミナールA	2	教養ゼミナールB	2	教養ゼミナールA	2	教養ゼミナールB	2	教養ゼミナールA	2	教養ゼミナールB	2	教養ゼミナールA	2	教養ゼミナールB	2
		多文化コミュニケーションA 東京電機大学で学ぶ※	2	多文化コミュニケーションB	2	多文化コミュニケーションA	2	多文化コミュニケーションB キャリアワークショップ	2	多文化コミュニケーションA	2	多文化コミュニケーションB キャリアワークショップ	2	多文化コミュニケーションA	2	多文化コミュニケーションB キャリアワークショップ	2
	人間形成概論	哲学	2			哲学	2			哲学	2			哲学	2		
		歴史学	2			歴史学	2			歴史学	2			歴史学	2		
		倫理学	2			倫理学	2			倫理学	2			倫理学	2		
		法学	2			法学	2			法学	2			法学	2		
		社会学	2			社会学	2			社会学	2			社会学	2		
		経済学	2			経済学	2			経済学	2			経済学	2		
		政治学	2			政治学	2			政治学	2			政治学	2		
		心理学	2			心理学	2			心理学	2			心理学	2		
	人間形成総合	現代青年の心理と論理	2	哲学特論	2	現代青年の心理と論理	2	哲学特論	2	現代青年の心理と論理	2	哲学特論	2	現代青年の心理と論理	2	哲学特論	2
				経済学特論	2			経済学特論	2			経済学特論	2			経済学特論	2
				社会学特論	2			社会学特論	2			社会学特論	2			社会学特論	2
				倫理学特論	2			倫理学特論	2			倫理学特論	2			倫理学特論	2
				社会の成り立ち	2			社会の成り立ち	2			社会の成り立ち	2			社会の成り立ち	2
				日本国憲法	2			日本国憲法	2			日本国憲法	2			日本国憲法	2
		日本の文化と倫理	2	共生文化論	2	日本の文化と倫理	2	共生文化論	2	日本の文化と倫理	2	共生文化論	2	日本の文化と倫理	2	共生文化論	2
	人間形成科学技術教養	科学技術史	2	生命倫理学	2	科学技術史	2	生命倫理学	2	科学技術史	2	生命倫理学	2	科学技術史	2	生命倫理学	2
		国際環境法	2	科学技術者と法律	2	国際環境法	2	科学技術者と法律	2	国際環境法	2	科学技術者と法律	2	国際環境法	2	科学技術者と法律	2
				科学技術倫理ゼミ	2			科学技術倫理ゼミ	2			科学技術倫理ゼミ	2			科学技術倫理ゼミ	2
				科学技術と経済	2			科学技術と経済	2			科学技術と経済	2			科学技術と経済	2
	人間形成健康スポーツ	ウェルネススポーツA,B	1	ウェルネススポーツA,B	1	ウェルネススポーツA,B	1	ウェルネススポーツA,B	1	ウェルネススポーツA,B	1	ウェルネススポーツA,B	1	ウェルネススポーツA,B	1	ウェルネススポーツA,B	1
		ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1	ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1	ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1	ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1	ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1	ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1	ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1	ｽﾎﾟｰﾂ実習A～D	1
		ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1	ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1	ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1	ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1	ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1	ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1	ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1	ｱｳﾄﾄﾞｱ実習A,B	1
学部DP5	人間形成国際理解	戦争と平和の歴史	2	戦争と平和の歴史	2	戦争と平和の歴史	2	戦争と平和の歴史	2	戦争と平和の歴史	2	戦争と平和の歴史	2	戦争と平和の歴史	2	戦争と平和の歴史	2
		欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2
		アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2
		国際社会と法	2	国際人権法	2	国際社会と法	2	国際人権法	2	国際社会と法	2	国際人権法	2	国際社会と法	2	国際人権法	2
		世界経済の現在	2	現代の国際政治	2	世界経済の現在	2	現代の国際政治	2	世界経済の現在	2	現代の国際政治	2	世界経済の現在	2	現代の国際政治	2
	英語基礎	総合英語ⅠA	1	総合英語ⅠB	1	総合英語ⅡA	1	総合英語ⅡB	1								
		コミュニケーション英語ⅠA	1	コミュニケーション英語ⅠB	1												
	英語応用					コミュニケーション英語ⅡA 科学技術英語A	1	コミュニケーション英語ⅡB 科学技術英語B	1	プレゼンテーション英語A	1	プレゼンテーション英語B	1				
		海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2
		海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1
		海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2
	留学生科目	日本語中級Ⅰ	1	日本語中級Ⅱ	1	日本語中級Ⅰ	1	日本語中級Ⅱ	1	日本語中級Ⅰ	1	日本語中級Ⅱ	1	日本語中級Ⅰ	1	日本語中級Ⅱ	1
		日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1	日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1	日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1	日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1
		日本事情A	2	日本事情B	2	日本事情A	2	日本事情B	2	日本事情A	2	日本事情B	2	日本事情A	2	日本事情B	2

※「東京電機大学で学ぶ」は修学基礎科目です。選択科目ですが「必ず履修する（学修する）科目」です。

共通教育科目履修モデル

1. 共通教育科目とは

大学に進学したみなさんには、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことが期待されています（文部科学省大学設置基準 19 条 2 項）。単にそれぞれの専門知識だけではなく、教養を身につけた人として社会に出ていくことが求められます。

東京電機大学初代学長である丹羽保次郎博士の格言「技術は人なり」は、このような教養ある技術者の養成を目指した言葉であるといえます。共通教育科目は、本学の建学の精神でもある丹羽博士のこの言葉を体現する人物となってみなさんが社会へ巣立っていくための基本的なカリキュラムを提供しようとするものです。

近年においては、AI の発展によって単純作業のような仕事だけでなく頭脳労働も機械に置き換えられていき、職種によっては人間の仕事がなくなるなどともいわれています。しかしながら、オートメーションによって工場労働の多くが機械によって行われるようになるなどの過去の歴史を振り返ってみると、そのときに職を失う人々がいても、全体として見れば人間がする仕事はなくなっていません。人間は、それぞれの時代に応じて変化に対応してきたのです。

共通教育科目では、広い視野に立って物事を考え、その時々の状況に適応するだけでなく、アイデアや表現の豊かな引き出しを持ち、自ら人生を切り開いていけるような人間としての力を身につけていくための基礎を提供します。

共通教育科目を履修することによって手に入れるであろう教養は、この力を形成するための土台となる諸々を用意するとともに、みなさんが人生に躓いたときにも、再び立ち上がるための手がかりとなるであろう知識・経験をもまた豊富に提供してくれるでしょう。

人間形成科目群の中から 16 単位を取得することが卒業要件です。専門の学修とのバランスを考え、卒業間近になって取得単位が足りなくなることがないように、計画的な学修計画を立てましょう。

2. 人間形成科目群の案内（卒業要件：以下から合計 16 単位）

人間形成科目群では、それぞれの学問領域が成立した背景を学びます。そして、それぞれの学問がどのような方法で様々な問題に取り組んできたのかをベースにして、社会問題や各自が関心をもつテーマにアプローチしていきます。

主題科目

担当教員や学生が自らの興味にしたがって設定したテーマについて、講義形式に限らず議論をしたり作業をしたりしながら、知的関心と探究心を体得していきます。

⑴ 教養ゼミナール

「ゼミナール」とはもともと「苗床」を意味します。まだ形にならない問題意識の「種子」を育てて、形をもった知識へと変換していく実践的な取り組みです。教養ゼミナールで

は、一定のテーマを設定し、自ら発表したり議論したりする中で考える力を鍛えていきます。教員の個性的なテーマに基づく、多種多様なゼミナールが提供されています。教養ゼミナールAは前期、Bは後期科目です。

⑵ 多文化コミュニケーション

多文化コミュニケーションは、英語圏以外の国々の文化、社会、言語を学ぶなかでさまざまな文化に触れ、理解を深める科目です。ドイツ語、フランス語、中国語の最初歩を学びながら、社会や文化を通じて視野を広げてもらいます。多文化コミュニケーションAは前期、Bは後期科目となります。

概論科目

概論科目は、今日まで確立されてきた人文学・社会科学の各分野（哲学、歴史学、経済学、法学、社会学など）の「知」を、それぞれの枠組みに基づいて学ぶ科目です。各領域における「知」の成り立ちや仕組みを理解した上で、その概要を見渡せる視野を獲得します。

総合科目

総合科目は、各教員の専門分野の中でも特に関心を持つ問題について紹介し、その知見を講義していきます。それぞれの学問分野の中で、社会に存在する具体的な問題がどのように扱われるのかを受講者は経験することになります。

国際理解

現在の日本は世界と緊密に結びついています。とりわけ科学技術の専門家は、今後ますます、世界の様々な人々と仕事をすることになります。国際理解科目では、世界の変化を対岸の火事として座視することなく、国際世界への理解を深めるために、歴史、政治、経済、法、欧米やアジアの文化を考察する科目を用意しています。

科学技術教養

科学者あるいは技術者になる人が知っておくべき教養を身につけます。科学技術の文化的な意味を学び、自らが扱う科学的知識や技術の置かれた社会的位置づけを把握します。また、科学技術により可能なことが、社会に許容されることなのか、重大な結果をもたらす危険をどのように捉えるべきかなど、多様な視点から科学技術を評価できる力を養います。

健康スポーツ

心身の健康、生涯スポーツへの接続、幅広い教養、社会人基礎力などのコンピテンシーを身につけることを目指します。「課題を見つけ出す能力」、「課題を解決するための実践力」、「コミュニケーション能力、人間性豊かな社会人として必要な素養を身につける」ことが可能です。

3. 英語科目群の案内（卒業要件：８単位）

社会の急速なグローバル化の進展の中で、特に理工系の分野では、より高度な英語の運用能力を身につけることが国内外で活躍するために必須の条件となっています。

また、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になり、国際共通語である英語力の向上はみなさんの将来にとって不可欠です。

英語科目群では、「読む」「書く」「話す」「聴く」という英語の４つの技能を、基礎的なことからより実践的なことまで錬成できるよう、日本人教員と英語を母語とするネイティブスピーカーの教員が協力して授業を展開しています。

必修の英語基礎６科目（6 単位）だけでなく、選択科目として英語応用 11 科目（15 単位）の中から２科目（2 単位）の履修が卒業要件の条件になります。選択科目には、担当教員の専門性を活かしながら、年度により、各種英語資格試験を目指すクラスや、英語によるプレゼンテーションを学ぶクラス、英語の論文や文章を読解するクラスなどの開設が予定されています。

また、「海外英語研修」として単位認定される英語短期研修プログラム（コロラド大学・クイーンズランド工科大学・ケンブリッジ大学等）も準備されています。

なお、みなさんの能力をより効率よく向上させるため、能力別クラス制を導入しています。受講クラスは、入学直後に新入生全員を対象に行われる「プレースメントテスト」や、１年後期の終わりに英語履修者を対象として行われる「英語実力テスト（統一テスト）」により決定します。

留学生のための共通教育科目

本学で学ぶ留学生のみなさんのために、「留学生のための共通教育科目」を開設しています。なお、「留学生のための共通教育科目」により取得した単位は、人間形成科目群の卒業要件単位数として扱われます。

日本語科目

日本語で聞き、話し、読み、書けるようになることは、留学生のみなさんにとって、必須です。みなさんの日本語能力向上のために、日本語科目を４科目用意しています。そのうち、２科目が日本語中級、２科目が日本語上級です。単位は、英語と同様、各科目１単位です。

本学で専門の学問を学修するためにも、また、学内外での社会生活や今後の就職活動等のためにも、これらの科目を取って、日本語能力を向上させることは、みなさんの留学生活に欠かせません。

日本語中級Ⅰ	日本語上級Ⅰ
日本語中級Ⅱ	日本語上級Ⅱ

日本事情科目

留学生活をする上で、専門の学修とは別に、日本の社会、地理、文化、歴史等を理解することは必須です。みなさんに日本について学んでいただくために、２つの科目（各科目２単位）を用意しました。

日本事情 A、日本事情 B

☆留学生のための共通教育科目を履修できるのは、留学生に限られます。

2024（令和6）年度カリキュラム 共通教育科目　授業科目配当表

RL

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
共通教育科目	人間形成科目	主題	DP4	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	講義	修学基礎科目。再履修不可。	
			DP4	日本語リテラシー	1	1	選	全	四半期（前前/前後/後前/後後）	演習		
			DP4	キャリアワークショップ	1	2	選	全	半期(後)	演習		
			DP4	教養ゼミナールA	1	2	選	全	半期(前)	演習		
			DP4	教養ゼミナールB	1	2	選	全	半期(後)	演習		
			DP4	多文化コミュニケーションA	1	2	選	全	半期(前)	演習		
			DP4	多文化コミュニケーションB	1	2	選	全	半期(後)	演習		
		概論	DP4	哲学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	経済学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	社会学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	法学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	倫理学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	政治学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	心理学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	歴史学	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP1	教育心理学	1	2	選	1	半期(後)	講義	教職課程履修者のみ履修可	10202
			DP1	教育学概論	1	2	選	1	半期(前)	講義	教職課程履修者のみ履修可	10202
			DP1	教育社会学	1	2	選	1	半期(後)	講義	教職課程履修者のみ履修可	10202
			DP1	介護福祉論	1	2	選	2	半期(前/後)	演習	教職課程履修者のみ履修可	10505
		総合	DP4	哲学特論	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	社会学特論	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	倫理学特論	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	共生文化論	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	日本国憲法	1	2	選	全	半期(後)	講義		00100
			DP4	経済学特論	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	日本の文化と倫理	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	現代青年の心理と論理	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	社会の成り立ち	1	2	選	全	半期(後)	講義		
		国際理解	DP5	現代の国際政治	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP5	戦争と平和の歴史	1	2	選	全	半期(前/後)	講義	オープン科目	
			DP5	世界経済の現在	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP5	国際人権法	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP5	国際社会と法	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP5	欧米文化研究	1	2	選	全	半期(前/後)	講義		
			DP5	アジア文化研究	1	2	選	全	半期(前/後)	講義		
		科学技術教養	DP4	科学技術と経済	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	科学技術者と法律	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	科学技術史	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	生命倫理学	1	2	選	全	半期(後)	講義		
			DP4	国際環境法	1	2	選	全	半期(前)	講義		
			DP4	科学技術倫理ゼミ	1	2	選	全	半期（後）	演習		
		健康スポーツ	DP4	ウェルネススポーツA	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習		00200
			DP4	ウェルネススポーツB	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習		00200
			DP4	スポーツ実習A	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習		00200
			DP4	スポーツ実習B	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習		00200
			DP4	スポーツ実習C	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習		00200
			DP4	スポーツ実習D	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習		00200
			DP4	アウトドア実習A	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習	集中講義	
			DP4	アウトドア実習B	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習	集中講義	
		留学生科目	DP5	日本語中級Ⅰ	1	1	選	全	半期(前)	演習	留学生のみ履修可	
			DP5	日本語中級Ⅱ	1	1	選	全	半期(後)	演習	留学生のみ履修可	
			DP5	日本語上級Ⅰ	1	1	選	全	半期(前)	演習	留学生のみ履修可	
			DP5	日本語上級Ⅱ	1	1	選	全	半期(後)	演習	留学生のみ履修可	
			DP5	日本事情A	1	2	選	全	半期(前)	講義	留学生のみ履修可	
			DP5	日本事情B	1	2	選	全	半期(後)	講義	留学生のみ履修可	

2024（令和6）年度カリキュラム 共通教育科目　授業科目配当表　RL

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
共通教育科目	英語科目	基礎	DP5	総合英語ＩA	1	1	必	1	半期(前)	演習		00300
			DP5	総合英語ＩB	1	1	必	1	半期(後)	演習		00300
			DP5	コミュニケーション英語ＩA	1	1	必	1	半期(前)	演習		00300
			DP5	コミュニケーション英語ＩB	1	1	必	1	半期(後)	演習		00300
			DP5	総合英語ⅡA	1	1	必	2	半期(前)	演習		00300
			DP5	総合英語ⅡB	1	1	必	2	半期(後)	演習		00300
		応用	DP5	コミュニケーション英語ⅡA	1	1	選	2	半期(前)	演習		00300
			DP5	コミュニケーション英語ⅡB	1	1	選	2	半期(後)	演習		00300
			DP5	科学技術英語A	1	1	選	2	半期(前)	演習		
			DP5	科学技術英語B	1	1	選	2	半期(後)	演習		
			DP5	プレゼンテーション英語A	1	1	選	3	半期(前)	演習		00300
			DP5	プレゼンテーション英語B	1	1	選	3	半期(後)	演習		00300
			DP5	海外英語研修A	2	2	選	全	半期(前/後)	実験・実習	集中講義	
			DP5	海外英語研修B	2	2	選	全	半期(前/後)	実験・実習	集中講義	
			DP5	海外英語研修C	2	2	選	全	半期(前/後)	実験・実習	集中講義	
			DP5	海外英語研修D	1	1	選	全	半期(前/後)	実験・実習	集中講義	
			DP5	海外事情	2	2	選	全	半期(前/後)	実験・実習		

※ 教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目
【専門基礎科目群】

教育目標
教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）
カリキュラムマップ
履修モデル
授業科目配当表

【共通教育群・基礎教育センター】

教育目標

理工学部の共通教育群・基礎教育センターは、心身ともに豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、自己肯定感と批判的な思考力、そしてコミュニケーション能力を兼ね備え、同時に科学・技術にかかわる倫理上の問題への理解を深め、人類の幸福と希望に満ちた将来に貢献できる学生の育成を目指します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の共通教育群・基礎教育センターは、豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、国際社会に対応できる人材の養成を目指し、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

- （DP1 に対応）教職課程科目を配置し、教師として子どもを教育する上で必要な教育実践を行い、かつ教師としての力量の基礎を培います。
- （DP3 に対応）具体的に、かつ計算を重視して思考する基礎力を身につけるために、数学の魅力を知る数学科目を配置します。自然現象を物理的に見る目を涵養するとともに、専門科目の基礎となる実験的手法と論理的思考を身につけるために、物理科目を配置します。物質を理解し創製するという科学技術の基礎能力を養うために、化学科目を配置します。
- （DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。
- （DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

理工学部　理工学科（専門基礎科目）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
学部 DP3	数学	基礎微積分学A	2	基礎微積分学B	2												
		基礎線形代数学A	2	基礎線形代数学B	2												
	自然科学技術	科学技術概論A	2	科学技術概論A	2												
		科学技術概論B	2	科学技術概論B	2												
		科学技術概論C	2	科学技術概論C	2												
		科学技術概論D	2	科学技術概論D	2												
		一般物理学実験（前前期）	1	一般物理学実験（後前期）	1												
		一般物理学実験（前後期）	1	一般物理学実験（後後期）	1												
		物理学A	2	物理学A	2												
				物理学B	2												
		一般化学実験（前前期）	1	一般化学実験（後前期）	1												
		一般化学実験（前後期）	1	一般化学実験（後後期）	1												
		化学A	2	化学A	2												
				化学B	2												
	情報	情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）	2	情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）	2												
		C言語プログラミング	2	C言語プログラミング	2												
		Pythonプログラミング	2	Pythonプログラミング	2												
学部 DP4	技術者倫理	技術者倫理	2	技術者倫理	2												

専門基礎科目群履修モデル

近年の科学技術の進歩は目覚ましく、様々な分野で科学技術イノベーションの担い手が求められています。未来に対して創造性・発展性のある科学技術者となるためには、確固たる学問体系に裏付けられた知識を身に着けることが必要です。理工学部では、専門教育を学ぶ上で必要となる基礎知識・学力を身につけるため、充実した専門基礎科目を開講しています。ここでの学びを土台とし、各学系、コースの専門知識が築かれていきます。従って、これらの科目は低学年のうちに修得しておくことが重要です。

専門基礎科目の構成と履修の順序

専門基礎科目群の科目構成は、「技術者倫理」、「数学」、「自然科学技術」、「情報」の４分野から成ります。

「数学」分野および「自然科学技術」分野には、共通科目や専門科目を学ぶために必要な数学・物理学・化学の専門基礎科目が用意されています。これら２つの分野と「情報」分野においては、所属する学系により推奨科目や進級条件が指定されているため、それらの指定条件に合わせて履修しましょう。

具体的にどの科目をどの順序で履修するかは、履修モデルと各科目系統別説明を参考に、学系・コースの進級条件・卒業要件を考慮して学生自らの判断で決めなくてはなりません。専門基礎科目は、卒業するまでに、「技術者倫理」２単位、「数学」６単位、「自然科学技術」８単位、「情報」４単位の全部で 20 単位取得しなくてはなりません。そのうち「技術者倫理」、「基礎微積分学Ａ」、「基礎線形代数学Ａ」、「情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）」の４科目は必修科目ですから、全て履修するようにしましょう。

科目分野別の履修について：

①「技術者倫理」分野

「技術者倫理」

理学・工学の様々な分野を開拓していくための素養を身につけることが理工系大学での学びの基本の一つです。しかし過去を振り返っても、原子爆弾のように、元来は科学に著しい進展をもたらすはずの理論が人類の大きな問題になったり、論文の捏造・剽窃のように開発者自身の倫理が問われた場面も多く見られます。したがって大学で諸分野を学ぶと同時に科学者・技術者が心得ておくべきこと、すなわち倫理性を養っておくことが重要です。この授業はその育成を目指します。

「技術者倫理」は必修科目ですから、必ず履修してください。

②「数学」分野

「基礎微積分学Ａ」
「基礎微積分学Ｂ」
「基礎線形代数学Ａ」
「基礎線形代数学Ｂ」

数学は数の基本法則を追求する学問です。自然現象や科学技術を客観的に表現する際にも数式で表現されるので、理工学全分野に必須の学問です。数学関連科目の「基礎線形代数学Ａ・Ｂ」、「基礎微積分学Ａ・Ｂ」の４科目は理工学部でこれから学んで行くいろいろな分野の基礎として、最も基本的な知識を習得するためのものです。そのためにもこれらの科目はできるだけ１年次のうちに履修して、その後の各学系・コースでの、より専門的な科目を学習するときに支障とならないようにしましょう。

特に「基礎線形代数学Ａ」、「基礎微積分学Ａ」は必修科目ですから、必ず履修してください。また「基礎線形代数学Ｂ」、「基礎微積分学Ｂ」は選択科目ですが少なくともどちらか１科目は卒業までに単位を取得しなければなりません。これら２科目「基礎線形代数学Ｂ」、「基礎微積分学Ｂ」の履修推奨程度の詳細は学系によって異なるため、学系での説明に従うか、数学担当教員に相談してください。

なお「基礎微積分学Ａ」は４月に行われるプレースメントテストの「数学」の結果が基準点以上であれば週１回授業の「基礎微積分学Ａ（標準）」クラス、基準点未満であれば週２回授業の「基礎微積分学Ａ（初歩）」クラスに配属されます。

「基礎微積分学Ａ（初歩）」クラスでは、まず基礎微積分学を学ぶための準備学習をしてから「基礎微積分学Ａ（標準）」クラスと同内容の学習をします。「基礎微積分学Ａ（初歩）」に合格すると後期の「基礎微積分学Ｂ」を履修することができます。一方、「基礎微積分学Ａ（初歩）」に不合格の場合には次年度の「基礎微積分学Ａ（初歩）」を再履修することになり、標準的な学習プランより遅れてしまうため注意が必要です。

③「自然科学技術」分野

物理学、化学などの自然科学の修得には、先人達が自然現象を注意深く観測した結果から洞察した原理・理論を学ぶという面と、その原理・理論から予測される現象を実験的に確かめる技術を学ぶという面との両面が必要です。「実験」科目の履修は後者の修得に対応し、「物理学・化学」科目の履修は前者の修得に対応します。できるだけ初年次の段階で履修するとよいでしょう。また、学系やコースにより、履修が推奨される科目が異なりますので、各学系、コースの指導に従って履修してください。

「科学技術概論Ａ～Ｄ」

近年の科学技術は様々な分野の枠を超えて展開・発展をしています。「科学技術概論」では東京電機大学教員の多岐にわたる専門的知見を集結して、未来の技術について解説していきます。

「科学技術概論」は「未来の医療」、「未来の暮らし」、「未来のエンターテインメント」、「未来のエネルギー」の４つのメイントピックに分かれています。

この科目はオープン科目のため、履修していない学生も受講可能ですが、学系・コースにより卒業所要単位数に含まれない場合もあるため、履修にあたっては各学系の指導に従ってください。

「物理学Ａ」
「物理学Ｂ」

物理学は読んで字のごとく、物事（自然現象）の理（ことわり）を探求する学問です。「自然現象が何故どのように起きているのか、それをどう理解していくのか」という、理工系の学問全体に共通する考え方の基礎を学びます。また専門分野への直接的なあるいは間接的な基礎ともなっています。

４月最初に実施されるプレースメントテストの結果に基づき、各人が「物理学Ａ（標準）」または「物理学Ａ（初歩）」のどちらを受講すればよいのかが指定されます。ある程度、物理の基礎が身についている学生は「物理学Ａ（標準）」を履修します。主に力学を中心として講義を行います。微分積分を用いた力学の再定式化を行い、運動方程式の“物理的”意味などを理解します。

「物理学Ａ（初歩）」では物理学の基本原理である力学の初歩をゼロから学びます。これまでに物理学に触れたことのない学生、触れては来たが考え方が不十分な学生に対し、より徹底して理解を促しながら大学生としての物理学の基礎を習得することを目的とします。「物理学Ａ（標準）」と「物理学Ａ（初歩）」どちらの科目においても、物理学の考え方や現象をどう理解し、どう説明するのかを、物体の運動の解析を通じて学んでいきます。

後期の「物理学Ｂ」では、物理学のもう一つの柱である電磁気学を学び、自然の理解をさらに進めます。例題や演習問題を通して、電磁気の現象を具体的に理解し、その数理的な扱いにも慣れ親しみます。習熟度別に２種類のクラスに分けて講義を行います。詳しくはオンラインシラバスで内容を確認してください。

「一般物理学実験」

教室で授業を受ける座学と並行して「一般物理学実験」があります。理論で予想されたものが実験結果と一致するかを実体験してください。実験室に常設されている計 10 種類の実験テーマから１人当り４テーマの実験とワークショップ１回を行います。ワークショップは簡単な電気回路の工作を行います。こうした実験を通じてこれまで憶えてきた物理学的知識を再確認するとともに、物理学が現実世界を描写する学問であることを学びます。さらに、実験結果をレポートにまとめることで論理的な思考能力と構成力を養います。また、実験結果を核にして調査検討を行うことでより深く知識を伸ばし、またさらに新しい知識を増やして行きます。「一般物理学実験」は、座学で学ぶ理論と現実を結ぶ貴重な体験の場です。

「化学 A」
「化学 B」

化学では物質とは何か、物質はどのように変化し物質集合体にはどのような性質があるかを学びます。現在の科学技術は物質抜きでは成り立ちません。したがって、直接化学物質を扱わない専門コースの学生にとっても、理工系である以上化学は重要な基礎科目です。

プレースメントテストの結果によって、「化学 A（標準)」または「化学 A（初歩)」のどちらかを受講するように指定されます。基礎の不十分な学生は、週２回講義のある「化学 A(初歩)」を履修することで、基礎を学びつつ、「化学 A（標準)」レベルへ到達します。

基礎がある程度身についている学生は、「化学 A（標準)」または「化学 B」を履修します。「化学 A（標準)」では量子化学によって解き明かされた原子と分子の成り立ちと化学結合を理解します。「化学 B」では物質の状態を物質エネルギーの学問体系である化学熱力学の観点から理解し、反応速度や有機高分子・金属・セラミックなどの化学材料についても概観します。

「一般化学実験」

化学は現象の発見や実験を通して発展してきた学問です。化学現象の本当の姿を理解し、化学の面白さを体験するためにはぜひ「一般化学実験」を履修してください。基本的な実験器具の扱い方の説明からはじめますから、化学実験がはじめてでも安心して受講できます。実験になれた後半では、化学実験の醍醐味である有機化合物の合成実験や、紫外・可視分光器を用いた定量分析などの実験も経験します。また、「一般化学実験」では報告書（レポート）の作成を通じて科学技術者に必要なスキルも身につきます。

④「情報」分野

情報技術は昨今の社会を担う人材に不可欠な素養で、特に理工系学生にとっては分野を問わず高いレベルで理解し実践する能力が当然のこととして要求されます。また、情報技術を修得しコンピュータを使いこなすことで、一見無関係な様々な分野の諸問題が同時に解決可能となる場合があります。

パーソナルコンピュータが普及し身近となったことで、鉛筆と消しゴムを使うようにコンピュータを使いこなせることが社会的に要求されています。大学の講義や研究での直接的な利用だけではなく、報告書の作成や生活に欠かせない事務処理、趣味や他者とのネットワークを通じた交友関係の構築など、コンピュータの活用の場は広がり続けています。

情報分野では、情報技術について基礎的な能力を涵養するために、各学系、コースの必要に応じて３科目「情報リテラシー（数理・データサイエンス入門)」、「C 言語プログラミング」、「Python プログラミング」を設置しています。卒業までにこれらの科目の中から４単位以上を取得しなければなりませんが、専門課程において必要となる場合が多いので、なるべく１年次に修得してください。分野によって必要とされる情報技術の素養が異なるため、履修する情報科目については各学系、コースの指導に従ってください。

「情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）」

情報の扱い方を、昨今注目されている数理・データサイエンスの考え方を元に、社会への影響も考えつつより高度な次元で学習します。また大学生活や卒業後の勤務先での実務に役立てられるよう、報告書の作成方法や表計算の仕組みをアプリケーションプログラムを使用しながら修得します。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）について

大学教育において学ぶべき新たなリテラシーとして、数理・データサイエンス・AI に関する教育の推進がすべての専攻分野において求められています。この流れを受け、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度が文部科学省によって創設されました。数理･データサイエンス･AI 教育プログラム（リテラシーレベル）（以下、リテラシーレベルという）では、デジタル社会の基礎的な素養（いわゆる「読み・書き・そろばん」）として初級レベルの数理・データサイエンス・AI を習得することを目的としています。

本学では、全学生が履修可能な「情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）」という科目を設け､リテラシーレベル教育プログラムとしての認定を受けています。この「情報リテラシー（数理･データサイエンス入門）」の単位を修得することにより､リテラシーレベルを修了したものと認定されます。

MDASH
Literacy
Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education
数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度
リテラシーレベル

認定期間：令和 10 年 3 月 31 日まで

「C 言語プログラミング」

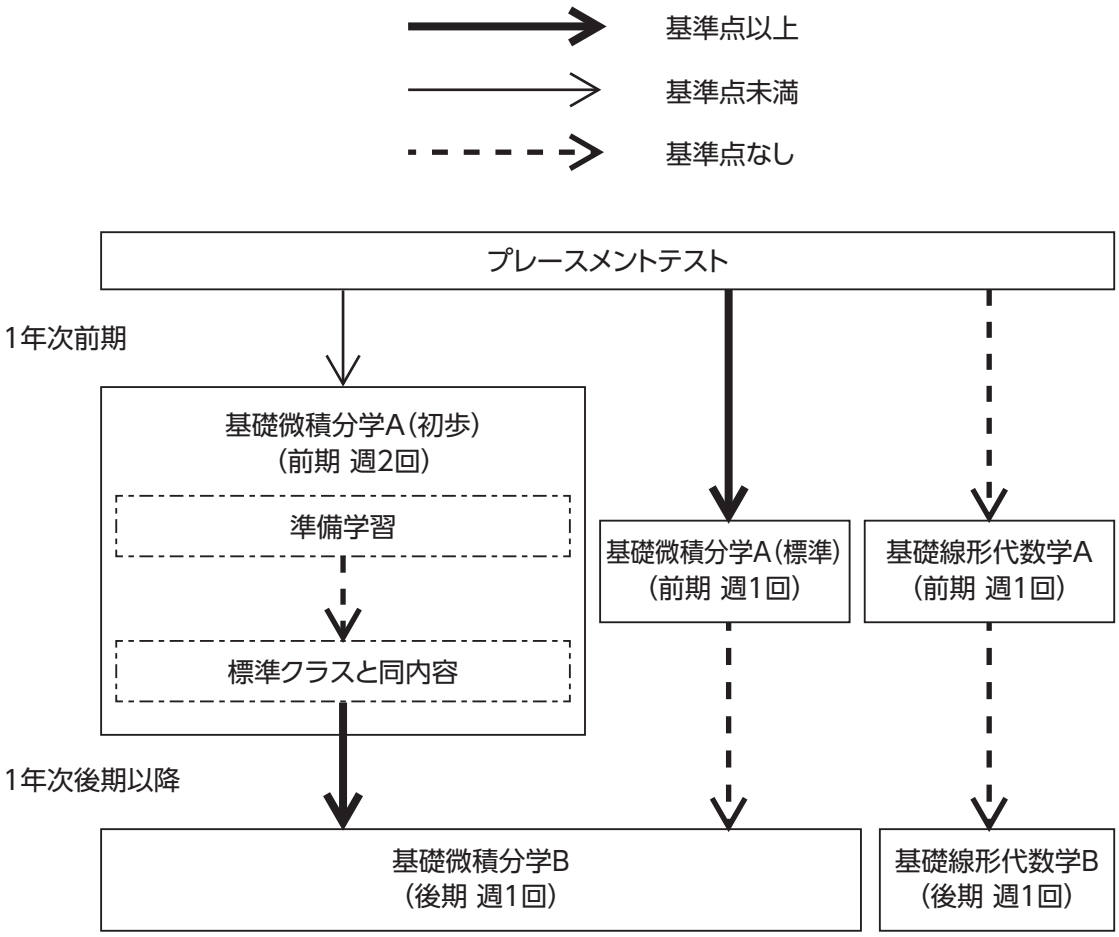
プログラミングに関する基礎的知識を、コンピュータの構造を簡潔に理解しつつ、上級年次の専門課程において学習する、より高度な情報学の修得に繋げます。様々なプログラミング言語が存在しますが、これらの基礎となる C 言語を修得しておくことで、他の言語への応用が可能となります。理工系の学生にとっては情報技術の涵養に必須となります。

「Python プログラミング」

様々なプログラミング言語の中でも、よりソフトウェア開発に有益なプログラミング言語である Python について学習します。Python は昨今注目されている人工知能の研究開発に用いられています。

専門基礎科目群の科目配置図〔履修の順序に注意が必要な科目〕

数学の履修モデル図



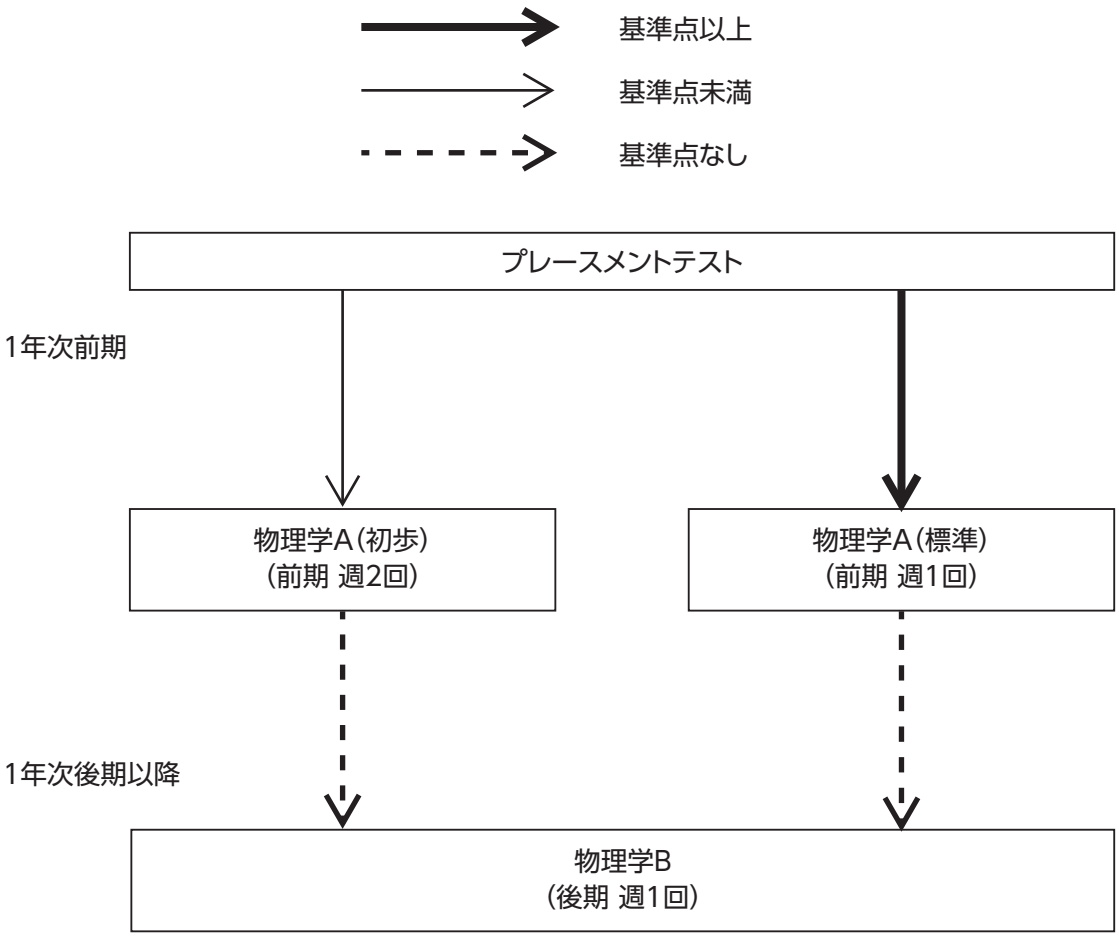
【数学】1 年次配当表

プレースメントテスト	1 年次前期	1 年次後期
基準点未満	**基礎微積分学 A（初歩）** （前期　週 2 回）	**基礎微積分学 B　※ 1** （後期　週 1 回）
基準点以上	**基礎微積分学 A（標準）** （前期　週 1 回）	**基礎微積分学 B** （後期　週 1 回）
基準点なし	**基礎線形代数学 A** （前期　週 1 回）	**基礎線形代数学 B** （後期　週 1 回）

※ 1「基礎微積分学 A（初歩）」合格者

専門基礎科目群の科目配置図〔履修の順序に注意が必要な科目〕

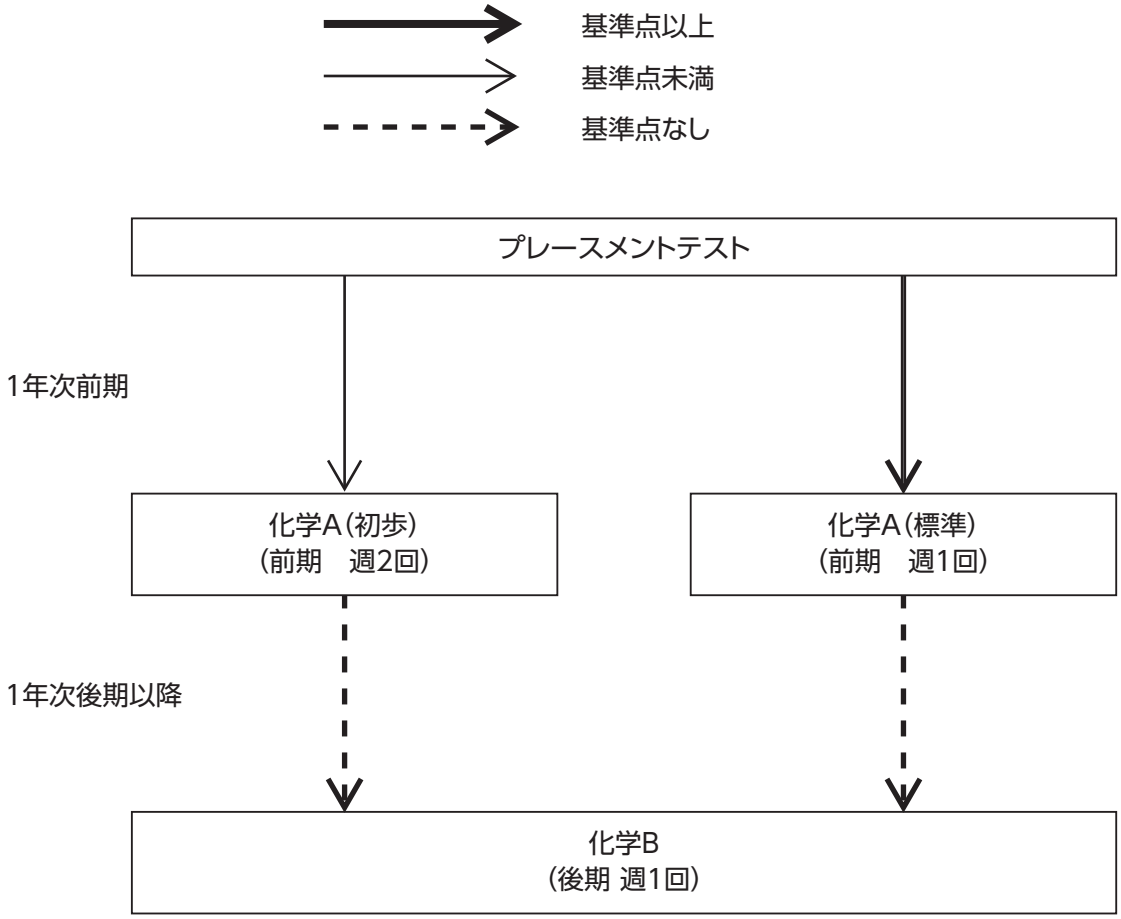
物理学の履修モデル図



【物理学】1 年次配当表

プレースメントテスト	1 年次前期	1 年次後期
基準点未満	**物理学 A（初歩）** （前期 週 2 回）	**物理学 B** （後期 週 1 回）
基準点以上	**物理学 A（標準）** （前期 週 1 回）	**物理学 B** （後期 週 1 回）

専門基礎科目群の科目配置図〔履修の順序に注意が必要な科目〕
化学の履修モデル図



【化学】1 年次配当表

プレースメントテスト	1 年次前期	1 年次後期
基準点未満	**化学 A（初歩）** （前期　週 2 回）	**化学 B** （後期　週 1 回）
基準点以上	**化学 A（標準）** （前期　週 1 回）	**化学 B** （後期　週 1 回）

2024（令和6）年度カリキュラム 専門基礎科目 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	専門基礎	技術者倫理	DP4	技術者倫理	1	2	必	1	半期(前/後)	講義	半期1コマ	60100
		数学	DP3	基礎微積分学A	1	2	必	1	半期(前)	講義	半期1コマまたは半期2コマ	20300
			DP3	基礎微積分学B	1	2	選	1	半期(後)	講義		20300
			DP3	基礎線形代数学A	1	2	必	1	半期(前)	講義		20100
			DP3	基礎線形代数学B	1	2	選	1	半期(後)	講義		20100
		自然科学技術	DP3	科学技術概論A	1	2	選	1	半期(前/後)	講義	半期1コマ　（注1）	
			DP3	科学技術概論B	1	2	選	1	半期(前/後)	講義	半期1コマ　（注1）	
			DP3	科学技術概論C	1	2	選	1	半期(前/後)	講義	半期1コマ　（注1）	
			DP3	科学技術概論D	1	2	選	1	半期(前/後)	講義	半期1コマ　（注1）	
			DP3	一般物理学実験	2	1	選	1	四半期（前前/前後/後前/後後）	実験・実習	四半期2コマ	30200
			DP3	物理学A	1	2	選	1	半期(前/後)	講義	半期1コマまたは半期2コマ	30100
			DP3	物理学B	1	2	選	1	半期(後)	講義		30100
			DP3	一般化学実験	2	1	選	1	四半期（前前/前後/後前/後後）	実験・実習	四半期2コマ	30400
			DP3	化学A	1	2	選	1	半期(前/後)	講義	半期1コマまたは半期2コマ	30300
			DP3	化学B	1	2	選	1	半期(後)	講義	半期1コマ	30300
		情報	DP3	情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）	1	2	必	1	半期(前/後)	演習	半期1コマ	00400
			DP3	C言語プログラミング	1	2	選	1	半期(前/後)	演習	半期1コマ	70100
			DP3	Pythonプログラミング	1	2	選	1	半期(前/後)	演習	半期1コマ	70100

※ 教職コードは「教職課程」参照。

（注1）「科学技術概論A・B・C・D」については履修制限が各学系にありますで、P156を参照すること。

専門教育科目

理　学　系

(Division of Science)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

理学系履修モデル

授業科目配当表

【理学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

（人材の養成に関する目的）

理学系は、数理学及び自然科学における基本理論及び基本法則を身につけた、問題を本質的に捉えて解決できる応用力の高い理学分野の専門家を養成します。また、理学分野としての学校教員の育成をも目的とします。

（教育研究上の目的）

理学系は、数学及び自然科学を共通の基礎とし、演習や実験を行いながら理学の専門分野として、数学、物理学、化学及び数理情報学の四つの専門分野の教育を行います。また、自然の仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現、体系化することによって発展してきた近代の自然科学の諸分野を研究します。

教育目標

理学系の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

数学・物理学・化学・数理情報学の４つのコースにおいて、理学的側面を強調しつつ、基礎科学から応用科学に至る幅広い専門知識を習得させると共に、人間性・社会性・国際性を涵養することを目標とします。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の理学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。

※標準修業年限は ４年

⑴ 実学尊重を旨として、理学分野における専門的知識や技術を身につけていること。（DP1）

⑵ 自立した発想のもとに理学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。（DP2）

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の基礎知識を幅広くもつこと。（DP3）

⑷「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。（DP4）

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。（DP5）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の理学系は、４つの専門コースを設け、数学、物理学、化学、数理情報学などの専門知識と理工学の基礎を身につけることおよび人間性・社会性・国際性を育むことを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コー

スを理学系から１つ、副コースを理学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴（DP1 に対応）実学尊重を旨とし、理学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵（DP2 に対応）課題・問題解決能力の育成を目的とした演習、実験、輪講科目を学年進行に従い体系的に配置し、卒業研究論文の執筆と口頭発表に至るまでの一貫した指導を行います。

⑶（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜数学コース U1 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数学コースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）代数学、解析学、幾何学に関する科目を体系的に配置します。

②（DP2 に対応）問題解決能力を涵養し、より具体的な計算力を身につけるための科目や少人数制の科目を配置します。

＜物理学コース U2 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、物理学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学、物性物理学を主とし、それぞれの分野の科目を体系的に配置します。さらに、実験、演習及びプログラミングに関する科目を配置します。

②（DP2 に対応）物理学に関する課題探求･解決能力を涵養する科目を､各学年に配置します。

＜化学コース U3 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、化学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）化学を原理から理解するために、分析化学、有機化学、無機化学、物理化学に関する分野の科目を体系的に配置します。

②（DP2 に対応）問題解決能力を涵養し、より高度な専門知識を獲得できるよう、課題探究型の科目と輪講科目を配置します。さらに、講義で学習したことを深く理解し、実験技

術を確かなものとするため、実験科目を体系的に配置します。

＜数理情報学コース U4 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数理情報学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）数理科学と情報科学に関する分野の科目を体系的に配置します。

②（DP2 に対応）問題解決能力を涵養し、より実践的な知識を獲得できるよう、コンピュータ演習科目や少人数制の輪講科目を配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

理学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、問題を本質的にとらえて解決できる創造性と専門性を備えた、21 世紀の社会に求められる人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

- ◆ 理学分野（数学、物理、化学、数理情報学）に強く興味を持ち、専門的知識や技術を身につける能力を持った学生
- ◆ 専門および人文社会系の分野の科目の学習を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、理学分野において未来社会に貢献しようと志す学生
- ◆ 演習、実験、輪講科目を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

- ◆ 理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B の範囲を十分理解し、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。
  また、理科（物理・化学のいずれか）に関して十分な基礎学力を身につけておくこと。

アセスメント・ポリシー

理学系は、学系のディプロマ・ポリシー【⑴ 理学分野における専門的知識や技術を身につけること。(DP1) ⑵ 自立した発想のもとに理学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。(DP2) ⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の基礎知識を幅広くもつこと。(DP3) ⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4) ⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)】に沿って、学生の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、機関・プログラム・授業科目の各レベルおよび課外活動において、アセスメントを実施し、教育改善に活用していきます。

なお、学系レベルにおいては、【在学時】各種内部指標（GPA、修得単位数等)、各種アセ

スメント（学内専門力調査等)、アドバイザーによる学修指導等、【卒業時】各種内部指標（卒業率、就職率、大学院進学率等）等を活用します。

また、間接指標として、各種内部指標（授業アンケート等）等を活用します。

以上を以って、不断の教育改善に努めます。

理工学部　理工学科　理学系（ U1 数学コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	解析学					解析学Ⅰ	2	解析学Ⅱ	2	解析学Ⅲ	2	解析学Ⅳ	2				
						常微分方程式	2	複素解析学	2								
								フーリエ解析入門	2								
	幾何学					幾何学Ⅰ	2			幾何学Ⅱ	2	幾何学Ⅲ	2				
	代数学					線形代数学	2										
						代数学Ⅰ	2	代数学Ⅱ	2	代数学Ⅲ	2	代数学Ⅳ	2				
	数理科学			数理のふしぎ	2	離散数学	2	確率論	2	統計学	2	数学特論	2				
				物理数学Ⅰ	2	物理数学Ⅱ	2										
				力学	2			量子力学Ⅰ	2								
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	数理科学					数学セミナーⅠ	2	数学セミナーⅡ	2								
	輪講											理学総合演習	2				
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ	2												
				数理プログラミングⅠ	2	数理プログラミングⅡ	2										
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　理学系（ U2 物理学コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	力学			力学	2	振動と波動	2	連続体の物理	2								
				物理数学Ⅰ	2	物理数学Ⅱ	2										
	電磁気学					電磁気学Ⅰ	2	電磁気学Ⅱ	2	天文学	2						
	量子力学							量子力学Ⅰ	2	量子力学Ⅱ	2	量子力学Ⅲ	2				
										量子力学演習	2						
	熱統計力学，物性物理									統計力学Ⅰ	2	統計力学Ⅱ	2				
						化学熱力学	2			統計力学演習	2	固体物理学	2				
	化学素養					有機化学Ⅰ	2	無機・分析化学	2	量子化学	2						
	数学素養					解析学Ⅰ	2	解析学Ⅱ	2								
						線形代数学	2	フーリエ解析入門	2								
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験					物理学実験	2										
	課題探求							物理学課題探求Ⅰ	2			物理学課題探求Ⅱ	2				
	輪講											理学総合演習	2				
	地学									地学実験(通年科目)			2				
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ	2												
				数理プログラミングⅠ	2												
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　理学系（ U3 化学コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	物理化学							量子力学Ⅰ	2	量子化学	2	固体物理学	2				
						化学熱力学	2			量子力学Ⅱ	2						
								界面化学	2								
								化学反応速度論	2	統計力学Ⅰ	2	統計力学Ⅱ	2				
								連続体の物理	2								
	有機化学			基礎有機化学	2	有機化学Ⅰ	2	有機化学Ⅱ	2	有機・高分子化学	2						
	無機・分析化学							無機・分析化学	2	無機化学	2						
								機器分析	2								
	材料化学											基礎高分子科学（後前期）	1				
	工業化学											工業化学要論（後後期）	1				
	数学			物理数学Ⅰ	2	解析学I	2										
						常微分方程式	2										
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験							化学実験A	2	化学実験B（前前期）	2						
										化学実験C（前後期）	2						
	輪講											化学輪講Ⅰ	2				
												化学総合演習	2	化学輪講Ⅱ	2		
	地学									地学実験(通年科目)			2				
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ	2												
				数理プログラミングⅠ	2	数理プログラミングⅡ	2										
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　理学系（ U4 数理情報学コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	数理科学					常微分方程式	2	最適化法	2	システム理論	2	制御理論	2				
						数理科学演習	1	フーリエ解析入門	2	統計学	2						
								確率論	2								
	情報科学					離散数学	2	情報論	2	人工知能	2	データ科学	2				
						情報科学基礎	2			画像処理	2						
										機械学習理論	2						
	数理情報学共通			数理情報学入門（後後期）	1	解析学Ⅰ	2	解析学Ⅱ	2								
				数理のふしぎ	2	線形代数学	2	複素解析学	2								
						代数学Ⅰ	2										
						幾何学Ⅰ	2										
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	演習							数理情報学基礎演習	2	数理情報学応用演習	2						
	輪講									数理情報学輪講	2	理学総合演習	2				
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ	2												
				数理プログラミングⅠ	2	数理プログラミングⅡ	2										
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理学系履修モデル

学系の学習・教育目標

「理学は自然現象や数理の法則を探求し、それを体系的に記述し、理解する学問です。」理学は工学や農学など様々な分野において基礎であると同時に、それ自身が多くの研究対象をもつ分野です。近代の自然科学は自然を観察し、その仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現し、そして体系化することによって発展してきました。数学・物理学・化学は理学の代表的な学問分野です。また、数理情報学は代数学や解析学などの数学をベースとする数理的なアプローチによって情報の本質を理解し考える理学系の学問分野です。

理工学では、さまざまな未知の問題に興味を持ち挑戦していく姿勢が求められます。そのために、基本的な理論を習得し、それが問題解決のためにどのように使えるかを学びます。問題を本質的に捉えて解決できるような創造性豊かで高度な専門性をもった人材を世に送り出すことを学習・教育の目標としています。

学系のカリキュラムの概要

理学系では他の学系とも連携を進め、基礎を大切にしながらも幅広い応用力も身につけられる教育システムを構築しています。いくつかの専門コースに共通で必要な基礎科目は学系共通科目として配置しています。学系共通科目は、数学、物理学、化学、その他の自然科学および数理情報学の基礎科目から成り、それぞれ科目はその分野と関連する専門コースの専門科目の学習につながる内容となるよう配慮されています。特に数学分野の学系共通科目は各コースの専門科目の前提科目となっている場合が多いため、履修計画を立てる際に注意が必要です。

コースの専門科目は 2 年次から 3 年次にかけて、基礎から段階的に応用、発展的内容になるよう配置されています。また、演習、実験が多いのも理学系の特徴です。専門の応用力を確実にするため演習、実験科目はできるだけ配当年次に履修する必要があります。配当年次に単位修得できなかった場合、上級年次での再履修が困難になる場合があるので注意が必要です。一部の専門科目は理学系内および他学系にある複数のコースに同一科目名で配置されていますが、同じ科目であるため一度しか履修することはできません。

＜各コースの概要＞

数学コース：

数学コースでは代数学、幾何学、解析学等の基礎から現代数学までの分野を学んで習得すること、ならびにそれを通じて自由な発想を持った柔軟な論理的思考力を身につけた人材を養成することを目標としております。この目標に沿って、学部共通科目・理学系共通科目・数学コース専門科目を連携して、基礎数学から現代数学に至るまでの数学を体系的に学ぶことができるようにカリキュラムが用意されております。

・数学の学習には講義だけでなく自分で問題を解く演習が大切なため、本コースのカリキュラムでは将来どの方向に進むとしても共通に必要となる 1 、2 年次の科目で演習科目が用意されています（「数学演習Ⅰ・Ⅱ」「数学セミナーⅠ・Ⅱ」）。

・各自の興味を持ったテーマを選択してその理解をさらに深めることができるように、本コースでは少人数で行われる理学総合演習があり、さらに理学卒業研究Ⅰ、理学卒業研究Ⅱが用意されています。

物理学コース：

物理学は、力学・電磁気学・量子力学・統計力学を基盤として、様々な分野が互いに関連した学問です。特に近年は分野の細分化と統合が同時に起き、ある分野で発達した方法などが他分野に応用されることも珍しくありません。その意味で、物理学コースでは、数学はもとより化学・情報など、普通の物理学科では学びにくい幅広い分野の科目を履修することができるようになっています。物理だけにとどまらず多くの他のコースや他学系の分野も学び、多彩な能力と興味を身につける必要があります。それぞれの科目を履修するためには予め履修しておく方が望ましい科目があります。科目履修に当たってはそれぞれの科目の履修要件をシラバス等で確認しておくことが必要です。

本コースでは、**物理学実験**、**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**、**理学総合演習**などの小人数教育を通して、物性物理学を中心に新しい課題に取り組み、解決する能力を涵養します。

化学コース：

科学技術の急速な進歩によって、多くの分野で物質に関する認識・知識が重要となってきています。とくに、環境分野、エネルギー分野、バイオテクノロジー分野、ナノテクノロジー分野など、現代の重要技術分野のほとんどにおいて、化学が重要基盤の一つになっています。化学コースでは、このような多くの分野に対応するため、化学の基礎から勉強をはじめ、学年が上がるとともに、高度な内容を学習します。

化学には、無機化学、有機化学、分析化学、高分子化学および物理化学などがあります。化学コースでは、物質の構造・性質・反応を系統的に勉強し、それ以外の分野の化学と連係することによって、最終的には化学の体系を学びます。さらに、**化学実験Ａ**（2 年後期）、**化学実験Ｂ・Ｃ**（3 年前期）を行って感覚的に物質に親しみます。また、**化学総合演習**で問題解決力を身につけます。4 年生では、教員の指導のもとに興味を持った研究テーマで自発的に研究を行い、それまでに学んだ化学の知識を応用します。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、演習科目を系統的に配置し、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。まず 1 年次と 2 年次では、専門基礎科目や理学系共通科目によって数学やコンピュータ、情報の基礎をしっかり学ぶことが重要と考えています。特に学系共通科目の**数理情報学入門**と、**数理プログラミングⅠ・Ⅱ**はぜひ履修することを期待します。コースに配属された 2 年次からは、徐々に数理情報学の専門に進み、3 年次での専門科目（人工知能、データ科学、機械学習理論、システム理論など）を経て 4 年次で卒業研究を行います。この間、少人数制での**数理情報学輪講**、**理学総合演習**や、情報分野の課題を題材とするコンピュー

タ演習科目である**数理情報学基礎演習**、**数理情報学応用演習**もあり実践的な学習が継続できます。なお、3 年次から 4 年次への進級の際には本コース固有の進級条件があり注意が必要です。また中学高校の「数学」や高校の「情報」の教員免許を取得することもできます。

1 年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1 年次はできるだけ学部共通の数学、物理学、化学、情報の専門基礎科目、英語科目および教養科目を中心に履修し、専門科目を学ぶ上での基礎を確かなものにします。また、理学系では他学系以上に自然科学の基礎が重要となるので、学系共通科目としても数学、物理学、化学分野の科目が配置されています。1 年次配当の理学系共通科目の数学分野の科目のうち、「数学演習Ⅰ・Ⅱ」は 2 年次以降の理学系の科目を学ぶ際に基礎として必要な数学的概念や論理的言い回しを学ぶ科目です。

さらに、2 年次から学ぶ専門分野により基礎として重視される科目が異なりますので、希望する主専攻コースに応じて下記を考慮する必要があります。

数学コース：

数学コースを希望する学生には、大学数学の基礎練習科目である**数学演習Ⅰ**、**数学演習Ⅱ**の履修を勧めます。

さらに**数理のふしぎ**も数学の面白さを実感させてくれる科目として履修を勧めます。

（これらの 3 科目は本コースの 3 年次から 4 年次の進級条件で必ず単位を修得する必要のある科目となっています。）

物理学コース：

物理学は特に基礎から理論と実験を積み上げていく学問です。例えば力学を理解しないで量子力学を理解することは困難です。そこで物理学コースを志望する学生は、**物理学 A・B**、**力学**および**物理数学Ⅰ**を履修する必要があります。理論だけでなく**一般物理学実験**も大切です。物理学は多くの面で数学を利用するので、基礎数学（**基礎微積分学A・B**、**基礎線形代数学A・B**）も身につける必要があります。**Python プログラミング**は**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**で使用しますので履修を推奨します。

また、この時期に専門基礎科目はもちろんのこと、人文・社会系の科目である人間形成科目群と英語科目も修得しましょう。

化学コース：

化学コースを選択しようと考えている学生は、大学における化学の基礎を身につけるために、専門基礎科目の**化学 A・B** および学系共通科目の**基礎有機化学**を履修することをすすめます。また**物理学 A・B** は高学年で学ぶ専門科目の基礎として大切な科目です。2 年次以降で行う専門的な実験に先立ち、実験の基礎を身につけるために、専門基礎科目の**一般化学実験**と**一般物理学実験**を履修することをすすめます。

数理情報学コース：

1年次では数学や情報、コンピュータの基礎の学習に努めてください。数学では専門基礎科目の**基礎微積分学A・B**、**基礎線形代数学A・B**の4科目すべてを履修してください。また並行して開講されている演習科目（理学系共通科目の**数学演習Ⅰ・Ⅱ**など）も履修することを勧めます。情報やコンピュータ関係では、**C言語プログラミング**（前期）、**数理プログラミングⅠ**（後期）、**数理情報学入門**（後後期）は全て履修してください。プログラミングを含む演習科目は2年次以降にも継続して開講されます。

主専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

1年次に理学系の共通科目を学ぶことで、各専門分野がどのような性格・内容の学問分野であるかが入学段階と比べて良く理解されたでしょう。専門コースの選択は卒業後の歩み方に大きな影響を与えますので、入学段階でのコース希望にとらわれず各コースの内容を理解した上で、自分にあったコースを主専攻コースとして選ぶ必要があります。2年次以上では主専攻コースとして選んだコースに応じて、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

・理学系共通科目に分類されている2年次の数学分野の科目も、将来数学のどの分野に進むにも基本となる内容ですからそれらを履修してください。2年次は本コースで基本となる科目を学習する大切な学年です。
・3年次には、興味や将来の進路などを考えて履修科目を選択していくことになります。本コースの理学総合演習の単位修得は進級のために必要です。
・本コースを主コースとした場合、3年次から4年次への進級には理工学部で共通の進級条件の他に本コース独自の進級条件もみたす必要があります。詳しくは進級条件表（理学系）の数学コースの欄を見てください。

物理学コース：

力学、**電磁気学**、**量子力学**、**熱力学**、**統計力学**はどの分野を学ぶ上でも必須科目となります。

物理学を理解するためには学習の順序があります。物理学の基礎としてはじめに**力学**と**電磁気学Ⅰ**、物理で使う数学の基礎として、**物理数学Ⅰ**を学びます。また、**一般物理学実験**・**物理学実験**および**振動と波動**も早めに履修すると良いでしょう。次に**化学熱力学**、**連続体の物理**と**量子力学Ⅰ・Ⅱ**を履修します。以上の基礎が理解できたら**天文学**、**統計力学Ⅰ・Ⅱ**、**量子力学Ⅲ**および**固体物理学**に進みます。

物理学の講義科目を学びながら演習科目を履修し、さらに、**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**や**理学総合演習**で物理学の知識を確かなものとします。物理学コースの卒業研究を受けるには、**物理学実験**、**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**および**理学総合演習**の単位取得が必要です。

化学コース：

化学コースを主コースとする学生は、2年次において「学系共通科目」と「コース専門

科目」の両方から、学問分野を考慮しバランスよく科目を履修してください。例えば、**有機化学Ⅰ**、**無機・分析化学**、**化学熱力学**など化学の大きな部門をなす分野名のついた科目は低学年次において学習しておく必要があります。また、**量子力学Ⅰ**、**化学反応速度論**などの物理化学の基礎となる分野を履修し学習しておくことは高学年次にそれらを基盤とする化学の科目を履修する際に大きなアドバンテージとなります。3年次においては高度に専門化された科目が多くなり、それらの多くは「コース専門科目」として準備されています。**基礎高分子科学**や**工業化学要論**など初めて学習する分野もありますが、**量子化学**や**無機化学**など、2年次に配当される科目の内容をふまえて講義を進めるような科目が多くあります。更に、2年次、3年次では講義で学習した内容を実際に実験で確かめてみる意味で**化学実験A・B・C**を履修します。実験で確認することによって理論がより鮮明に理解できるでしょう。**化学輪講Ⅰ**、**化学総合演習**ではいくつかの各論を学び、化学の知識と課題解決力を確かなものとします。4年次においては**理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ**を履修し、各人が個別のテーマで研究を行います。また、**化学輪講Ⅱ**では卒業研究の内容をまとめて報告する方法を学んだり、研究テーマに関連する文献の輪講などを行なったりします。これらは化学コースで学習したことの総仕上げの意味がありますので、非常に重要な科目です。

数理情報学コース：

2年次からは、徐々に数理情報学の専門的な科目に移っていきます。本コースに所属して順調に進級し卒業できるよう、以下の点に注意しながら今後の履修計画を立てて勉学に取り組んでください。

①進級・卒業条件：主コース、副コースの条件も含め、学部共通の条件をよく確認してください。なお、数理情報学コースでは3年次から4年次への進級条件として、コース専門科目の**数理情報学基礎演習**と**数理情報学応用演習**の2科目、および**数理情報学輪講**、**理学総合演習**の2科目が単位修得できていることが必要です。注意してください。

②取得単位数の目安：4年次では**理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ**（計6単位）や進学、就職の活動が中心となります。卒業に必要な単位数は124単位ですから、3年次までは各年次40単位を目安に単位修得するとよいでしょう。

③科目履修ガイド：進級・卒業に必要な単位を修得していくことはもちろんですが、人間形成科目や英語科目、主コース、副コースの科目もバランスよく履修するように計画することを勧めます。理学系共通科目の中でも**離散数学**、**フーリエ解析入門**を始めとする数理情報学分野の科目はすべて履修してください。数理情報学コース専門科目では、**数理情報学基礎演習**と**数理情報学応用演習**の2科目、またその他の科目もできる限り多く履修し修得するよう心がけてください。

④教員免許：中学高校の「数学」、高校の「情報」の教員免許が取得できます。教員免許の項を参照してください。

副専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

どの副専攻コースを選択するかは、主専攻コースとして選んだ専門分野と合わせてどのようなスペシャリストを目指すのか、またはどの分野の進学やどのような業種の就職を目指すのか

を考えて決定する必要があります。主コースと副コースとの組み合わせと進学、就職分野がわからない場合は各コースの教員に相談すると良いでしょう。副専攻コースとして理学系の各コースを選んだ場合、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

他のコースを主コースとしたが数学も学んでみたいという場合や、主コースのために数学による基礎付けをしておきたいなど、数学コースを副コースとして希望する目的にはいろいろな場合が考えられます。いずれにしろ本コースを副コースとする場合、数学全体を学ぶだけの科目数を履修する余裕がもてないことも考えられますので、各自の趣味、将来の希望、主コースとの関連、科目間のつながり等を考慮して有効に履修科目を選択する必要があります。

数学コースの専門科目の中には準備が想定されている科目もあります。本コースを副コースとする学生も、学系共通科目から対象となる科目を履修しておくことが望ましいです。詳しくは各科目のシラバスをご覧ください。また、数学コースのホームページに「数学を副コースとする学生のための履習科目ガイド」がありますので、それを参考にしてください。

物理学コース：

力学、**電磁気学Ⅰ**、**物理数学Ⅰ**、**量子力学Ⅰ**、**統計力学Ⅰ**が何を学ぶにしても必須科目です。それぞれの科目の前提となる科目については、主コースの欄と同じですので参照してください。専門科目は、**振動と波動**、**連続体の物理**、**化学熱力学**等の履修を勧めます。**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**は、主に**物理学コースを主コースとする学生**が対象の科目です。

化学コース：

学系共通科目としては、**有機化学Ⅰ**、**無機・分析化学**、**機器分析**をすべて履修することを勧めます。専門科目としては、2 年次に**界面化学**、**化学反応速度論**、3 年次に**量子化学**、**無機化学**、**有機・高分子化学**などから興味のある科目を選択してください。**化学総合演習**は化学コースの学生を対象とする科目です。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、低学年次で数学やコンピュータ、情報の基礎を学び、その後、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。従って、数理情報学コースを副コースとして選び、コース専門科目を履修する際には、できるだけその前提となる基礎科目を履修しておいてください。また、科目の一部には履修制限する場合がありますので注意してください。

理学系における 3 年以上在学での卒業について（3 年卒業、3.5 年卒業）

理学系での 3 年以上在学での卒業には、理工学部で定められた 3 年以上在学での卒業の条件に加えて、下記の卒業研究に関する条件をみたす必要があります。

・3 年在学での卒業の場合は 3 年後期の理学特別卒業研究の単位修得が必要です。

・3.5 年在学での卒業の場合は 4 年前期の理学卒業研究Ⅰは早期卒業の計画に沿った卒業

研究としての単位修得が必要です。

なお、**3年以上在学での卒業を希望する学生は事前に学系長に申しでて、上記の卒業研究履修の承諾**を得ることが必要です。

その他注意事項

理学系の教職科目に指定されている科目履修で数学、理科または情報の教員免許を取得することができます。学系共通科目、コース専門科目には教職科目に指定されている科目が多数あるため、教員免許取得を目指す学生は教職課程の章を良く読んで目指す免許状に応じて履修計画を立てる必要があります。例えば､数学の教員免許の「教科に関する科目」としてコンピュータに区分された科目があり、理学系の学生に対しては「数理プログラミングⅠ」が必修となっています。

理学系の科目配置図

	数学コース	物理学コース	化学コース	数理情報学コース
4年			〔化学コース専門科目〕 化学輪講Ⅱ	
	〔コース専門科目〕 理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ （必要に応じて）理学インターンシップA・B			
3年	〔数学コース専門科目〕 代数学Ⅲ 代数学Ⅳ 幾何学Ⅱ 幾何学Ⅲ 数学特論 解析学Ⅲ 解析学Ⅳ 理学総合演習	〔物理学コース専門科目〕 統計力学Ⅱ 量子力学Ⅲ 固体物理学 物理学課題探求Ⅱ 量子力学演習 統計力学演習 理学総合演習	〔化学コース専門科目〕 量子化学 無機化学 基礎高分子科学 有機・高分子化学 工業化学要論 化学実験B・C 化学総合演習 化学輪講Ⅰ 固体物理学	〔数理情報学コース専門科目〕 人工知能 データ科学 機械学習理論 システム理論 制御理論 数理情報学応用演習 数理情報学輪講 理学総合演習
	〔学系共通科目〕 天文学，量子力学Ⅱ，統計力学Ⅰ，統計学，画像処理，地学実験			
	〔コース専門科目〕 （必要に応じて）理学特別卒業研究，理学インターンシップA・B			
2年	〔数学コース専門科目〕 代数学Ⅱ，解析学Ⅱ 数学セミナーⅠ 数学セミナーⅡ 学系共通科目の数学分野科目を履修すること	〔物理学コース専門科目〕 電磁気学Ⅱ 振動と波動 化学熱力学 物理学課題探求Ⅰ 連続体の物理	〔化学コース専門科目〕 化学熱力学 界面化学 化学反応速度論 有機化学Ⅱ	〔数理情報学コース専門科目〕 最適化法 数理情報学基礎演習 情報論 情報科学基礎
	〔学系共通科目〕 （数学分野） 解析学Ⅰ 線形代数学 代数学Ⅰ 複素解析学 幾何学Ⅰ	（物理学・化学分野） 量子力学Ⅰ 化学実験A，物理学実験 電磁気学Ⅰ，物理数学Ⅱ 機器分析，有機化学Ⅰ 無機・分析化学	（数理情報学分野） 離散数学 常微分方程式 数理科学演習 フーリエ解析入門 確率論 数理プログラミングⅡ	
	（コース専門科目）理学インターンシップA・B			
1年	〔学系共通科目〕 （数学分野） 数学演習Ⅰ・Ⅱ 数理のふしぎ	（物理学・化学分野） 物理数学Ⅰ，力学，基礎有機化学 （数理情報学分野） 数理プログラミングⅠ，数理情報学入門		
	〔専門基礎科目〕 （数　学）：基礎微積分学A・B，基礎線形代数学A・B （物理学）：物理学A・B，一般物理学実験 （化　学）：化学A・B，一般化学実験 （情報学）：情報リテラシー（数理・データサイエンス入門），C言語プログラミング，Pythonプログラミング （その他）：技術者倫理，科学技術概論A・B・C・D			

共通教育科目

人間形成科目

英語科目

理学系　進級条件表
（2024年度カリキュラム）

RU

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間形成			12	16
英語			6	8
技術者倫理			2	2
数学			4	6
自然科学技術			6（※1）	8（※1）
情報			2	4
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群（※2）	副コース	9	14

（※2）指定科目群については、P176 を参照すること。

2．理学系の各コースを主コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を全て修得していること。

数学コース	物理学コース	化学コース	数理情報学コース
数学演習Ⅰ	物理学実験	化学実験A	数理情報学基礎演習
数学演習Ⅱ	物理学課題探求Ⅰ	化学実験B	数理情報学応用演習
数理のふしぎ	物理学課題探求Ⅱ	化学実験C	数理情報学輪講
理学総合演習	理学総合演習	化学輪講Ⅰ	理学総合演習
		化学総合演習	

（※1）「科学技術概論A･B･C･D」の取り扱いは以下のとおり。

卒業所要単位数への算入対象科目	卒業所要単位数に算入されない科目	卒業所要単位数への算入上限単位数
科学技術概論A･B･C･D		4（2科目）

2024（令和6）年度カリキュラム 理学系　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	数学	DP3	数学演習Ⅰ		1	2	選	1	半期(前)	演習		
			DP3	数学演習Ⅱ		1	2	選	1	半期(後)	演習		
			DP1	数理のふしぎ		1	2	選	1	半期(後)	講義		
			DP1	解析学Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義		20300
			DP1	線形代数学		1	2	選	2	半期(前)	講義		20100
			DP1	代数学Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義		20100
			DP1	複素解析学		1	2	選	2	半期(後)	講義		20300
			DP1	幾何学Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義		20200
		物理学	DP1	力学		1	2	選	1	半期(後)	講義		
			DP1	電磁気学Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義		30100
			DP2	物理学実験		2	2	選	2	半期(前)	実験・実習		30200
			DP1	統計力学Ⅰ		1	2	選	3	半期(前)	講義		30100
			DP1	量子力学Ⅰ		1	2	選	2	半期(後)	講義		30100
			DP1	量子力学Ⅱ		1	2	選	3	半期(前)	講義		30100
			DP1	物理数学Ⅰ		1	2	選	1	半期(後)	講義		30100
			DP1	物理数学Ⅱ		1	2	選	2	半期(前)	講義		30100
			DP1	天文学		1	2	選	3	半期(前)	講義		30100
		化学	DP1	基礎有機化学		1	2	選	1	半期(後)	講義		30300
			DP1	有機化学Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義		30300
			DP1	機器分析		1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	無機・分析化学		1	2	選	2	半期(後)	講義		30300
			DP2	化学実験A		2	2	選	2	半期(後)	実験・実習		30400
		地学	DP2	地学実験		1	2	選	3	通年	実験・実習	集中講義　通年科目　教職課程履修者のみ履修可	30800
		数理情報学	DP3	数理プログラミングⅠ		1	2	選	1	半期(後)	演習		20500 60200
			DP3	数理プログラミングⅡ		1	2	選	2	半期(前)	演習		60200
			DP1	数理情報学入門		1	1	選	1	四半期(後後)	講義		60100
			DP1	数理科学演習		1	1	選	2	半期(前)	演習		60300
			DP1	常微分方程式		1	2	選	2	半期(前)	講義		20300
			DP1	離散数学		1	2	選	2	半期(前)	講義		20500 60200
			DP1	確率論		1	2	選	2	半期(後)	講義		20400
			DP1	統計学		1	2	選	3	半期(前)	講義		20400
			DP1	フーリエ解析入門		1	2	選	2	半期(後)	講義		20300
			DP1	画像処理		1	2	選	3	半期(前)	講義		60500

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

2024（令和6）年度カリキュラム 理学系 授業科目配当表

RU

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	数学コース専門科目	数学	DP1	解析学Ⅱ	U1	1	2	選	2	半期(後)	講義		20300
			DP1	解析学Ⅲ	U1	1	2	選	3	半期(前)	講義		20300
			DP1	解析学Ⅳ	U1	1	2	選	3	半期(後)	講義		20300
			DP1	代数学Ⅱ	U1	1	2	選	2	半期(後)	講義		20100
			DP1	代数学Ⅲ	U1	1	2	選	3	半期(前)	講義		20100
			DP1	代数学Ⅳ	U1	1	2	選	3	半期(後)	講義		20100
			DP1	幾何学Ⅱ	U1	1	2	選	3	半期(前)	講義		20200
			DP1	幾何学Ⅲ	U1	1	2	選	3	半期(後)	講義		20200
			DP2	数学セミナーⅠ	U1	1	2	選	2	半期(前)	演習		
			DP2	数学セミナーⅡ	U1	1	2	選	2	半期(後)	演習		
			DP1	数学特論	U1	1	2	選	3	半期(後)	講義		
	物理学コース専門科目	物理学	DP1	連続体の物理	U2	1	2	選	2	半期(後)	講義		30100
			DP1	振動と波動	U2	1	2	選	2	半期(前)	講義		30100
			DP2	物理学課題探求Ⅰ	U2	2	2	選	2	半期(後)	講義		30200
			DP2	物理学課題探求Ⅱ	U2	2	2	選	3	半期(後)	講義		30200
			DP1	化学熱力学	U2・U3	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	30300
			DP1	統計力学Ⅱ	U2	1	2	選	3	半期(後)	講義		30100
			DP1	量子力学Ⅲ	U2	1	2	選	3	半期(後)	講義		30100
			DP1	固体物理学	U2・U3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	30100
			DP1	電磁気学Ⅱ	U2	1	2	選	2	半期(後)	講義		30100
			DP1	量子力学演習	U2	1	2	選	3	半期(前)	演習		
			DP1	統計力学演習	U2	1	2	選	3	半期(前)	演習		
	化学コース専門科目	化学	DP2	化学総合演習	U3	1	2	必	3	半期(後)	講義	【アセスメント科目】 主コースが化学コースの学生のみ必修科目	
			DP1	化学熱力学	U2・U3	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	30300
			DP1	界面化学	U3	1	2	選	2	半期(後)	講義		30300
			DP1	無機化学	U3	1	2	選	3	半期(前)	講義		30300
			DP1	化学反応速度論	U3	1	2	選	2	半期(後)	講義		30300
			DP1	基礎高分子科学	U3	1	1	選	3	四半期(後前)	講義		30300
			DP1	工業化学要論	U3	1	1	選	3	四半期(後後)	講義		
			DP1	有機・高分子化学	U3	1	2	選	3	半期(前)	講義		30300
			DP1	量子化学	U3	1	2	選	3	半期(前)	講義		30300
			DP1	固体物理学	U2・U3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	30100
			DP1	有機化学Ⅱ	U3	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	30300
			DP2	化学実験B	U3	4	2	選	3	四半期(前前)	実験・実習		30400
			DP2	化学実験C	U3	4	2	選	3	四半期(前後)	実験・実習		30400
	数理情報学コース専門科目	数理情報学	DP1	人工知能	U4	1	2	選	3	半期(前)	講義		60500
			DP1	データ科学	U4	1	2	選	3	半期(後)	講義		60300
			DP1	最適化法	U4	1	2	選	2	半期(後)	講義		60300
			DP1	情報科学基礎	U4	1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP1	情報論	U4	1	2	選	2	半期(後)	講義		60400
			DP1	機械学習理論	U4	1	2	選	3	半期(前)	講義		20500 60200
			DP1	システム理論	U4	1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	制御理論	U4	1	2	選	3	半期(後)	講義		
			DP2	数理情報学基礎演習	U4	1	2	選	2	半期(後)	演習		60300
			DP2	数理情報学応用演習	U4	1	2	選	3	半期(前)	演習		60500
	コース専門科目	卒研等	DP2	数理情報学輪講	U4	1	2	選	3	半期(前)	演習	数理情報学コースの学生のみ履修可	
			DP2	化学輪講Ⅰ	U3	1	2	選	3	半期(後)	演習	化学コースの学生のみ履修可	
			DP2	理学総合演習	U1・U2・U4	1	2	必	3	半期(後)	演習	【アセスメント科目】 主コースが数学・物理学・数理情報学コースの学生のみ必修科目	
			DP2	化学輪講Ⅱ	U3	1	2	選	4	半期(前)	演習	化学コースの学生のみ履修可	
			DP2	理学特別卒業研究		3	3	選	3	半期(後)	実験・実習	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			DP2	理学卒業研究Ⅰ		3	3	必	4	半期(前)	実験・実習		
			DP2	理学卒業研究Ⅱ		3	3	必	4	半期(後)	実験・実習		
		キャリアデザイン	DP4	理学インターンシップA		2	2	選	2,3,4	半期(前)	実験・実習	随時	
			DP4	理学インターンシップB		2	2	選	2,3,4	半期(後)	実験・実習	随時	
			DP4	情報と職業入門		1	1	選	1,2	四半期(前前)	講義		
			DP4	情報と職業		1	2	選	全	半期(後)	講義		60600
			DP4	情報倫理		1	2	自	2	半期(後)	講義		60100

※1の科目を履修した場合は、同一科目名の他コース科目を履修することはできません。
※ コース専門科目でコースコードが記載されていない科目は全て主コースのコース専門科目となります。

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

生命科学系

(Division of Life Science)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

生命科学系履修モデル

授業科目配当表

【生命科学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

（人材の養成に関する目的）

生命科学系では、生物がもつ高度な機能の本質を解明し理解すると同時に、それら機能の制御や活用を目指した教育と研究を通して、生命科学に関連する様々な課題に取り組む能力を備えた人材を養成します。

（教育研究上の目的）

専門知識や技術を体系的に習得するとともに、学際領域を視野に入れた応用力や正しい倫理観を養うことにより、今後直面する生命科学分野の諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行います。

教育目標

理工学部生命科学系の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

⑴ 理工学分野広範にわたる基礎教育と教養教育により、広い視野を備えた人間性豊かな人材を育成します。
⑵ 論理的な思考力を身につける教育を行うことで、主体的に考え行動できる人材を育成します。
⑶ 生命科学分野における専門的な知識と技能を有する人材を育成します。
⑷ 英語教育や多様性ある考えを身につける教育を行うことで、グローバル化した社会で活躍できる人材を育成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の生命科学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 実学尊重を旨として、生命科学分野で必要とされる知識や技術を身につけること。（DP1）
⑵ 自立した発想のもとに生命科学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現し、議論する能力を身につけること。（DP2）
⑶ 理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。（DP3）
⑷「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。（DP4）
⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。（DP5）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の生命科学系は、２つの専門コースを設け、健康・医療分野あるいは食品・環境工学分野の専門知識や応用技術の基礎を身につけるとともに、その知識や技術を活用できる人材

を育成することを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを生命科学系から１つ、副コースを生命科学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴（DP1 に対応）実学尊重を旨とし、生命科学全般の核となる生物学、化学、情報・統計学に関する科目や、２つの専門コースに特化した知識や技術を学ぶ科目を配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵（DP2 に対応）他者と協力して課題・問題解決する能力や、主体的に取り組む姿勢の養成を目的とし、ゼミ、実習、実験科目を学年進行に従い体系的に配置します。

⑶（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜分子生命科学コース B1 ＞

生命科学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、分子生命科学コースは健康・医療分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

①（DP1 に対応）生命現象を分子レベルで解き明かし、人々の健康維持や医療に活用する能力を養うため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

②（DP2 に対応）生体分子の生理機能や相互作用を解明するための研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験・演習を進級条件科目として配置します。

＜環境生命工学コース B2 ＞

生命科学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、環境生命工学コースは食品工学や環境工学分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

①（DP1 に対応）環境保全および食料や生物資源の生産・活用に必要な知識や思考力を育むため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

②（DP2 に対応）環境保全や食品製造に必要な技術や実践力を養うため、小グループによる実験・演習を進級条件科目として配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

生命科学系は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、生物がもつ高度な機能の本質を理解し、生命科学分野（「健康・医療」、「食品製造・物質生産」、「環境保全」の各分野）において、生命に関わる諸問題の解決に取り組む力を備えた人材を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

- ◆ 生命科学分野に強く興味を持ち、化学・物理学や生物学を基礎として生命現象の解明や生物機能の活用に取り組む意欲のある学生
- ◆ 生命科学系における実験・実習・ゼミ科目を通して、専門性を活かした思考力・判断力・表現力を修得し、実践力と倫理観を兼ね備えた科学技術者を目指す学生
- ◆ 生命科学系における学系共通科目と主コース専門科目の学びを通して、生命科学に関連した様々な分野で自らの役割を認識し、他者と協働して課題・問題を解決する意欲のある学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

- ◆ 理工学部のアドミッション・ポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。
  加えて、理科（物理・化学・生物のいずれか1つ以上）は十分な基礎学力を身につけておくこと。

アセスメント・ポリシー

生命科学系は、学系のディプロマ・ポリシー【⑴ 生命科学分野で必要とされる知識や技術を身につけること。(DP1) ⑵ 自立した発想のもとに生命科学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現し、議論する能力を身につけること。(DP2) ⑶ 理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。(DP3) ⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4) ⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)】に沿って、学生の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、機関・プログラム・授業科目の各レベルおよび課外活動において、アセスメントを実施し、教育改善に活用していきます。

なお、学系レベルにおいては、【在学時】各種内部指標（GPA、修得単位数等）、各種アセスメント（学内専門力調査等）、アドバイザーによる学修指導等、【卒業時】各種内部指標（卒業率、就職率、大学院進学率等）等を活用します。

また、間接指標として、各種内部指標（授業アンケート等）等を活用します。

以上を以って、不断の教育改善に努めます。

理工学部　理工学科　生命科学系（ B1 分子生命科学コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	生物			細胞の科学	2	生化学	2	分子生物学	2	遺伝子工学	2						
				生命科学	2	微生物学	2										
						生物学	2										
	化学			基礎有機化学	2	有機化学Ⅰ	2	有機化学Ⅱ	2	生体高分子科学Ⅰ	2						
						生命物理化学	2	機器分析	2								
	情報・その他					生物統計学	2	生物情報科学I	2								
	生命科学					生体組織学	2	免疫学	2			薬理学	2				
										生物情報科学Ⅱ	2	再生医科学	2				
	物質科学									生体材料学	2	生体高分子科学Ⅱ	2				
												創薬化学	2				
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験					生命科学基礎実験Ⅰ	2	生命科学基礎実験Ⅱ	2	分子生命科学実験Ⅰ	2	分子生命科学実験Ⅱ	2				
	ゼミ			生命科学基礎演習	2	生命科学演習Ⅰ	2	生命科学演習Ⅱ	2	分子生命科学ゼミ	2	分子生命科学総合ゼミ	2				
	卒業研究											生命科学特別卒業研究	3	生命科学卒業研究Ⅰ	3	生命科学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	生命科学概論	2														
	地学									生態地球科学	2						
										地学実験(通年)			2				
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン											生命科学キャリア開発ゼミ	2				
		情報と職業入門（前前期）	1			生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2	生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2	生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2												
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　生命科学系（ B2 環境生命工学コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	生物			細胞の科学	2	生化学	2	分子生物学	2	遺伝子工学	2						
				生命科学	2	微生物学	2										
						生物学	2										
	化学			基礎有機化学	2	有機化学Ⅰ	2	有機化学Ⅱ	2	生体高分子科学Ⅰ	2						
						生命物理化学	2	機器分析	2								
	情報・その他					生物統計学	2	生物情報科学I	2								
	環境生命					環境生物学	2	植物育種工学	2			生物プロセス工学	2				
										環境計測学	2	生命環境工学	2				
	食品工学							食品製造学Ⅰ	2	食品化学	2	食品製造学Ⅱ	2				
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験					生命科学基礎実験Ⅰ	2	生命科学基礎実験Ⅱ	2	環境生命工学実験Ⅰ	2	環境生命工学実験Ⅱ	2				
	ゼミ			生命科学基礎演習	2	生命科学演習Ⅰ	2	生命科学演習Ⅱ	2	環境生命工学ゼミ	2	環境生命工学総合ゼミ	2				
	卒業研究											生命科学特別卒業研究	3	生命科学卒業研究Ⅰ	3	生命科学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	生命科学概論	2														
	地学									生態地球科学	2						
										地学実験(通年)			2				
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン											生命科学キャリア開発ゼミ	2				
		情報と職業入門（前前期）	1			生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2	生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2	生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2												
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

生命科学系履修モデル

1. カリキュラムの概要

生命科学系のカリキュラムでは、生命科学全般の核となる生物学、化学、情報・統計学に関する科目が基盤科目として配置され、その上に 2 つの専門コース（分子生命科学コース、環境生命工学コース）の専門科目が配置されています。基礎から応用まで無理なく知識や技術を身につけられるよう編成されています。希望する進路に最適な履修計画を立て学んでください。

1. 1. コースの概要

生命科学系の教育分野は次の 2 つの専門コースに分かれています。

⑴「分子生命科学コース」

生命現象を分子レベルで解き明かし、人々の健康維持や医療に活用するため、生体分子の生理機能や相互作用を解明したり、生命と調和した物質を創生したりするための知識や技術を学びます。

⑵「環境生命工学コース」

さまざまな環境変化や刺激に対する生物の応答機能を解明するとともに、環境保全及び食料や生物資源の生産・活用につなげるための知識や技術を学びます。

1. 2. 授業科目

生命科学系の授業科目は次のように分類されます。

1) 専門科目・・・学系共通科目群、コース専門科目群
2) 人間形成科目群、英語科目群
3) 専門基礎科目群

生命科学系の各学年における進級条件や卒業要件などの詳細は生命科学系の進級条件表を参照してください。

2. 各コースの概要

2. 1. 分子生命科学コース

分子生命科学コースでは、さまざまな生命現象を分子のレベルで説明することを目標としています。DNA やタンパク質の構造・機能を理解し、これらの相互作用にもとづく高次の生命現象について学びます。このため本コースのカリキュラムは、生化学や分子生物学、有機化学などの基盤的な科目に加え、遺伝子工学、薬理学、再生医科学や創薬化学などの専門性の高い科目で構成されています。このカリキュラムのもと、バイオテクノロジー、バイオインフォマティクス、医薬品、化粧品、再生医療に関連する領域での最先端の教育・研究を行います。

カリキュラム：1 年生では生命科学概論、細胞の科学、基礎有機化学など、生命科学の基盤となる科目の履修を勧めます。2 年生では有機化学などの化学科目の他に分子生物学や生体組織学、免疫学などの細胞や生体レベルで生命現象を解説する科目や生物統計学、生物情報

科学Ⅰなど生命現象の情報処理機構について、また 3 年生では遺伝子工学、薬理学、再生医科学、創薬化学などの応用科目を中心に履修することを勧めます。

2. 2.　環境生命工学コース

環境生命工学コースでは、環境や食料など人類の生存と発展に関わる分野を扱います。環境からのさまざまな刺激に対する生物の応答機能を例示し、そのメカニズムを明らかにするとともに、植物・微生物を利用した環境保全及び食料や生物資源の生産・活用方法について学びます。このため本コースのカリキュラムは、生化学や分子生物学、有機化学などの基盤的な科目にはじまり、環境生物学、植物育種工学、食品製造学、生物プロセス工学などの専門性の高い科目で構成されています。このカリキュラムのもと、バイオテクノロジー、食品、環境計測に関連する領域での最先端の教育・研究を行います。

カリキュラム：1 年生では生命科学概論、細胞の科学、基礎有機化学など、生命科学の基盤となる科目の履修を勧めます。2 年生では有機化学などの化学科目の他に微生物学、食品製造学などの科目を、また 3 年生では環境計測学、食品化学、生物プロセス工学、生命環境工学などの応用科目を中心に履修することを勧めます。

3.　1 年次における学習の進め方

新しい生活に向けて期待に胸ふくらませていることと思います。入学後、最初の年は大学生活の中でも重要な年になります。1 年生の時は焦らずに基礎の勉強をしっかりと行ってください。1 年生の基礎科目がしっかりと身に付いていないと 2 年生以降の専門科目が理解できず、高学年でその影響が大きく生じてきます。このため 1 年生時における勉学への取り組みには十分注意をしてください。本学系では、学生の自主性を重んじ自らが履修計画を立て、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義、実験、演習には予習してのぞみ、時間内に内容を身につける努力をするとともに、復習を必ず行ってください。

1 年次における単位数が 30 単位に達していないと 2 年生への進級を許可しません。まず 1 年生から 2 年生への進級条件をクリアしてください。1 年次には人間形成科目、英語科目、専門基礎科目を主に履修します。これらは 3 年生から 4 年生への進級条件や卒業要件に深く関わっています。進級条件表を見て計画を立て、1 年次に履修する単位数を決めてください。英語は国際社会において必要不可欠です。積極的に取り組んでください。大学卒業後、高い専門的な学力に加え、社会で通用する一般教養の知識も求められます。人間形成科目群は哲学や経済学、心理学など理工学分野の学生でも身につけておくべき科目で構成されています。各科目のシラバスを参考に、興味を持った科目を積極的に履修してください。専門科目には専門基礎科目と学系共通科目があります。まず、専門基礎科目で数学、物理、化学、情報、技術者倫理の基礎を学びます。高校の復習と同時に大学で学ぶことの根幹をなす科目です。一方、2 年次にコースを選択する際に必要となる学系共通科目があります。学系共通科目は生命科学系で学んでいくための基盤となる科目です。生命科学概論は学系共通科目の導入科目ですので、必ず履修してください。1 年次に履修する学系共通科目を参考にコース選択を行なってください。

4. 2年生～4年生 (主コース学生と副コース学生の履修計画と学習の進め方)

(主コース・副コース共に生命科学系の学生)

2年生からはコース専門科目の履修が開始されます。2年生、3年生では主に学系共通科目とコース専門科目を履修することになります。学系共通科目は、どちらのコースに所属していても履修が必要です。特に実験科目、演習科目は必修ですので、必ず履修登録してください。学系共通科目、コース専門科目ともに3年生から4年生への進級条件があります。不足の無いように計画を立ててください。また、英語科目や人間形成科目の履修も進級条件を考え、不足のないようにすることが重要です。進級条件は、進級に必要な最低条件です。ぎりぎりの単位数で進級や卒業しようとするのではなく、余裕を持って条件をクリアできるよう、履修登録単位数は少し多めに設定してください。

4年生進級時に、卒業に必要な124単位を上回っていると良いでしょう。4年生では卒業研究に1年間かけて取り組むため、時間に余裕はありません。学部卒で就職する場合、未取得単位数が多いと就職活動も不利になります。また、4年生は大学院へ進学する際の準備段階でもあります。大学院生になるために必要な知識と技術を、研究を通して身につけてください。

(主コースのみを生命科学系とした学生)

人間形成科目、英語科目、専門基礎科目は、進級条件を考慮し不足のないよう余裕を持って履修してください。3年生から4年生への進級条件では学系共通科目およびコース専門科目に進級条件があり、実験も修得することになっています。条件をよく確認し履修してください。副コースに関しても他学系の副コースの履修条件をよく確認し不足のないようにしてください。

(副コースのみを生命科学系とした学生)

進級条件は主コースを選択している学系により異なりますので、主コースのある学系の進級条件を確認して不足のないように履修してください。副コースで取得が必要な科目群から、卒業までに必要な学系共通科目および副コースの科目の単位を修得するようにしてください。

5. 大学院進学について

国内外の他大学と同様、本学系のカリキュラムは大学院進学を前提としています。 大学院では、学部で受けた教育を基盤として集中的に研究活動を行います。多くの学生が研究成果を国内外で発表しています。学部卒の就職活動とは異なり、研究経験とその成果を誇る就職活動が可能です。皆さんは、大学院で身につけた研究・開発能力を武器に、企業や団体にて研究・開発の実務を担い、将来は中心的役割を担うことでしょう。大学院では、学部で学んだことをさらに深く追求し、特定領域の専門家になることを目指してください。同時に、異分野への理解を前提とした共同作業もこなせるよう、様々な関連分野の知識習得も試みてください。工学者として成長するために、目標を明確にして課題に取り組み、難易度の高い目標に向かって新しい道を切り開く勇気を持ってください。どのような目標を立てるかにより、大学院で履修する科目は大きく変わります。目標に合わせ、自分のペースで、多様な科目をバランス良く履修してください。研究室のメンバーと議論を戦わせ、助け合い切磋琢磨することは、人格形成に

も、社会で活躍するためにも大いに役立ちます。修士課程の後、博士課程への進学も推奨します。社会が解決すべき研究テーマを自力で着想し、解決する能力を深めるため、博士課程に進学し、社会を牽引する役割を担ってください。

生命科学系　進級条件表
（2024年度カリキュラム）

RB

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間形成			12	16
英語			6	8
技術者倫理			2	2
数学			4	6
自然科学技術			6（※1）	8（※1）
情報			2	4
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群（※2）	副コース	9	14

（※2）指定科目群については、P176 を参照すること。

2．上の条件に加えて、以下に定める科目を修得のこと。

①「生命科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て修得すること。

②「生命科学演習Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースのゼミ科目を全て修得すること。

③「生命科学概論」および「生命科学キャリア開発ゼミ」を修得すること。

（※1）「科学技術概論A・B・C・D」の取り扱いは以下のとおり。

卒業所要単位数への算入対象科目	卒業所要単位数に算入されない科目	卒業所要単位数への算入上限単位数
科学技術概論A･B･C･D		2（1科目）

2024（令和6）年度カリキュラム 生命科学系 授業科目配当表

RB

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	生物	DP3	生命科学概論		1	2	選	1	半期(前)	講義		
			DP1	細胞の科学		1	2	選	1	半期(後)	講義		30500
			DP1	生命科学		1	2	選	1	半期(後)	講義		30500
			DP1	生物学		1	2	選	2	半期(前)	講義		30500
			DP1	生化学		1	2	選	2	半期(前)	講義		30500
			DP1	分子生物学		1	2	選	2	半期(後)	講義		30500
			DP1	微生物学		1	2	選	2	半期(前)	講義		30500
			DP1	遺伝子工学		1	2	選	3	半期(前)	講義		30500
		化学	DP1	基礎有機化学		1	2	選	1	半期(後)	講義		30300
			DP1	有機化学Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義		30300
			DP1	生命物理化学		1	2	選	2	半期(前)	講義		30300
			DP1	有機化学Ⅱ		1	2	選	2	半期(後)	講義		30300
			DP1	機器分析		1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	生体高分子科学Ⅰ		1	2	選	3	半期(前)	講義		30300
		情報・その他	DP1	生物統計学		1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP1	生物情報科学Ⅰ		1	2	選	2	半期(後)	講義		
		地学	DP3	生態地球科学		1	2	選	3	半期(前)	講義		30700
			DP3	地学実験		1	2	選	3	通年	実験・実習	集中講義 通年科目 教職課程履修者のみ履修可	30800
		職業	DP4	生命科学キャリア開発ゼミ		1	2	選	3	半期(後)	演習		
		ゼミ	DP2	生命科学基礎演習		1	2	選	1	半期(後)	演習		
			DP2	生命科学演習Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	演習		
			DP2	生命科学演習Ⅱ		1	2	選	2	半期(後)	演習		
		実験	DP2	生命科学基礎実験Ⅰ		2	2	選	2	半期(前)	実験・実習		30600
			DP2	生命科学基礎実験Ⅱ		2	2	選	2	半期(後)	実験・実習		30600
専門教育科目	分子生命科学コース専門科目	生命科学	DP1	生体組織学	B1	1	2	選	2	半期(前)	講義		30500
			DP1	免疫学	B1	1	2	選	2	半期(後)	講義		30500
			DP1	生物情報科学Ⅱ	B1	1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	薬理学	B1	1	2	選	3	半期(後)	講義		30500
			DP1	再生医科学	B1	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		物質科学	DP1	生体材料学	B1	1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	生体高分子科学Ⅱ	B1	1	2	選	3	半期(後)	講義		
			DP1	創薬化学	B1	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		ゼミ	DP2	分子生命科学ゼミ	B1	1	2	必	3	半期(前)	演習		
			DP2	分子生命科学総合ゼミ	B1	1	2	必	3	半期(後)	演習	【アセスメント科目】 主コースが分子生命科学コースの学生のみ必修科目	
		実験	DP2	分子生命科学実験Ⅰ	B1	2	2	必	3	半期(前)	実験・実習		30600
			DP2	分子生命科学実験Ⅱ	B1	2	2	必	3	半期(後)	実験・実習		30600
専門教育科目	環境生命工学コース専門科目	環境生命	DP1	環境生物学	B2	1	2	選	2	半期(前)	講義		30500
			DP1	植物育種工学	B2	1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	環境計測学	B2	1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	生物プロセス工学	B2	1	2	選	3	半期(後)	講義		30500
			DP1	生命環境工学	B2	1	2	選	3	半期(後)	講義		30500
		食品工学	DP1	食品製造学Ⅰ	B2	1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	食品化学	B2	1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	食品製造学Ⅱ	B2	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		ゼミ	DP2	環境生命工学ゼミ	B2	1	2	必	3	半期(前)	演習		
			DP2	環境生命工学総合ゼミ	B2	1	2	必	3	半期(後)	演習	【アセスメント科目】 主コースが環境生命工学コースの学生のみ必修科目	
		実験	DP2	環境生命工学実験Ⅰ	B2	2	2	必	3	半期(前)	実験・実習		30600
			DP2	環境生命工学実験Ⅱ	B2	2	2	必	3	半期(後)	実験・実習		30600

※ コースコードは、B1:分子生命科学コース・B2:環境生命工学コース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

2024（令和6）年度カリキュラム 生命科学系　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	コース専門科目	卒研等	DP2	生命科学特別卒業研究		3	3	選	3	半期(後)	実験・実習	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			DP2	生命科学卒業研究Ⅰ		3	3	必	4	半期(前)	実験・実習		
			DP2	生命科学卒業研究Ⅱ		3	3	必	4	半期(後)	実験・実習		
		キャリアデザイン	DP4	生命科学インターンシップA		2	2	選	2,3,4	半期(前)	実験・実習	随時	
			DP4	生命科学インターンシップB		2	2	選	2,3,4	半期(後)	実験・実習	随時	
			DP4	情報と職業入門		1	1	選	1,2	四半期(前前)	講義		
			DP4	情報と職業		1	2	選	全	半期(後)	講義		60600

※ コース専門科目でコースコードが記載されていない科目は全て主コースのコース専門科目となります。

※ コースコードは、B1:分子生命科学コース・B2:環境生命工学コース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

情報システムデザイン学系

(Division of Information Systems and Design)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

情報システムデザイン学系履修モデル

授業科目配当表

【情報システムデザイン学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

（人材の養成に関する目的）

情報システムデザイン学系では、複雑化・高度化する社会環境において、高度な情報システム技術を駆使できると同時に、幅広い視野から自律的に分析・判断・企画・行動できる実践力とコミュニケーション能力を備えた次世代型スペシャリストを養成します。

（教育研究上の目的）

情報システムデザイン学系では、情報、ネットワーク、コンピュータに関わる知識・技術を基盤として人間、社会システムから、文化、芸術、アミューズメントにいたるまで文理複合的視点から幅広い分野の教育研究を行います。

教育目標

情報システムデザイン学系の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

情報技術の基盤科目そして日本語、芸術、文化、社会に至る科目群を学系共通科目として設置し、実践的な教育を行います。さらに各コースには、より高度な専門科目を配置し「未来の情報学」を担う人材を育成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の情報システムデザイン学系は、学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（情報学）の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 実学尊重を旨として、情報学の分野における専門的知識や技術を身につけること。(DP1)

⑵ 自立した発想のもとに情報学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。(DP2)

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3)

⑷「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の情報システムデザイン学系は、４つの専門コースを設け、情報科学、情報システム、知能情報、プログラミング、情報社会、情報メディアなどの専門知識と理工学の基礎を身につけることおよび人間性・社会性・国際性を育むことを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを情報システムデザイン

学系から１つ、副コースを情報システムデザイン学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴（DP1 に対応）実学尊重を旨とし、情報システムデザイン学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵（DP2 に対応）課題・問題解決能力の育成を目的とした演習、実験・実習科目を学年進行に従い体系的に配置し、卒業研究論文の執筆と口頭発表に至るまでの一貫した指導を行います。

⑶（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。さらに、情報科学、情報工学、プログラミング、芸術などの実習科目等を１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜コンピュータソフトウェアコース D1 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、コンピュータソフトウェアコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）ソフトウェアの理論的基礎となるコンピュータ科学の科目とともに、幅広い用途のソフトウェアの開発と利活用に必要な技術を修得するための科目を配置します。

②（DP2 に対応）ソフトウェアシステムの設計・構築に関する理論と応用を体系的かつ実践的に学べるよう、基礎、専門、応用に至る科目を段階的かつ体系的に配置します。

③（DP3 に対応）現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

＜情報システムコース D2 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、情報システムコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）情報システムの構造と構成要素に関する技術を理解するための科目と、それらを組み合わせて設計・運用に活かす科目を、体系的に配置します。

②（DP2 に対応）ソフトウェア技術の枠を超えて、コンピュータ科学の理論と基礎から、様々な現象の情報化と活用技術まで学べるよう、基礎、専門、応用に至る科目を段階的かつ体系的に配置します。

③（DP3 に対応）現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

＜知能情報デザインコース D3 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、知能情報デザインコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）人間の脳と心に関する知識を理解するための科目と、それらを組み合わせて人間中心のシステム設計・運用に係わる科目を、体系的に配置します。

②（DP2 に対応）統計学・データ分析に関する科目と、人工知能に関するコンピュータソフトウェアの設計・開発について総合的に学べる科目を、体系的に配置します。

③（DP3 に対応）倫理的側面から人工知能，ネットワークシステムと人間・社会の関連を横断的に理解できるよう，文科系・理科系の統合的なコミュニケーション能力を育成する科目を配置します。

＜アミューズメントデザインコース D4 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、アミューズメントデザインコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）技術・芸術・社会の相互性を意識化し、情報を編集・デザインし表現するための先端的技術と、国際化や IT に対応するコミュニケーション能力を身につけることを目標に、文理複合型のカリキュラム構成とします。

②（DP2 に対応）実習を含むアート＆デザイン、情報社会、情報メディア科目を、1 年次から体系的に配置します。

③（DP3 に対応）理工学と芸術との関連を見出すための科目を 1 年次に配置し、段階的に新規分野への学習を深められるような指導を行います。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

情報システムデザイン学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、情報に関して統合的に研究する「情報学」の専門家を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

- ◆ コンピュータシステムと人間・社会の関連に強く興味を持ち、自分の考えを論理的に構築し、効果的に表現する能力を持った学生
- ◆ 実験・実習科目などの実践を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生
- ◆ 情報技術と人間・社会・文化に関する幅広い知識の理解を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、情報学の専門家を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

- ◆ 理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B を十分

理解しておくこと。
加えて、理科・国語（物理・化学・現代文のいずれか 1 つ以上）についても十分な基礎学力を身に付けておくこと。また芸術、社会についても学習しておくことが望ましい。

アセスメント・ポリシー

情報システムデザイン学系は、学系のディプロマ・ポリシー【⑴ 情報学の分野における専門的知識や技術を身につけること。(DP1) ⑵ 自立した発想のもとに情報学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。(DP2) ⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3) ⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4) ⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)】に沿って、学生の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、機関・プログラム・授業科目の各レベルおよび課外活動において、アセスメントを実施し、教育改善に活用していきます。

なお、学系レベルにおいては、【在学時】各種内部指標（GPA、修得単位数等）、各種アセスメント（学内専門力調査等）、アドバイザーによる学修指導等、【卒業時】各種内部指標（卒業率、就職率、大学院進学率等）等を活用します。

また、間接指標として、各種内部指標（授業アンケート等）等を活用します。

以上を以って、不断の教育改善に努めます。

理工学部　理工学科　情報システムデザイン学系（ D1 コンピュータソフトウェアコース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	情報科学			情報数学Ⅰ	2	情報数学Ⅱ	2	情報・符号理論	2	計算量と暗号	2	数理最適化入門	2				
				基礎確率論	2	数値解析学	2			情報セキュリティ概論	2						
						アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2								
						統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2								
	情報システム			コンピュータ基礎	2					オペレーティングシステム	2	センサ工学	2				
										コンピュータ設計学	2	ソフトウェア工学	2				
	情報メディア							コンピュータグラフィックス	2	数理とデザイン	2						
	プログラミング					オブジェクト指向プログラミング	2	応用Javaプログラミング	2	CGプログラミング	2	生成人工知能	2				
						ゲームプログラミングⅠ	2	ゲームプログラミングⅡ	2	深層学習	2						
						人工知能プログラミングⅠ	2	人工知能プログラミングⅡ	2								
						データ表現とプログラミング	2										
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報システムデザイン特別卒業研究	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報学ゼミ	2				
DP3	アート＆デザイン	造形デザイン入門	2	デザイン学	2	音楽とデザイン	2	美術・芸術学	2			思考と試行	2				
						技術と表現	2	色彩論	2								
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	コミュニケーション・心理					コミュニケーションデザイン	2										
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
	情報システム					電気基礎	2	論理回路	2	データベース	2						
	情報メディア							情報ネットワーク概論	2								
	情報社会					現代マスコミ論	2			業務システム設計論	2						
	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報システム演習Ⅰ	2	情報システム演習Ⅱ	2	情報システム総合演習	2						
	キャリアデザイン							キャリア開発論（後前期）	1	情報産業論	2						
								基本情報処理技術	2	地域貢献論	2						
		情報と職業入門（前前期）	1			情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　情報システムデザイン学系（ D2 情報システムコース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	情報科学			情報数学Ⅰ	2	情報数学Ⅱ	2	情報・符号理論	2	計算量と暗号	2	数理最適化入門	2				
				基礎確率論	2	数値解析学	2			多変量解析	2						
						アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2	情報セキュリティ概論	2						
						統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2								
						動的システム	2										
	情報システム			コンピュータ基礎	2			組み込みシステム	2	オペレーティングシステム	2	センサ工学	2				
										コンピュータ設計学	2	ソフトウェア工学	2				
	プログラミング					オブジェクト指向プログラミング	2	応用Javaプログラミング	2	UNIXプログラミング	2	生成人工知能	2				
						人工知能プログラミングⅠ	2	人工知能プログラミングⅡ	2	深層学習	2						
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報システムデザイン特別卒業研究	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報学ゼミ	2				
DP3	アート＆デザイン	造形デザイン入門	2	デザイン学	2	音楽とデザイン	2	美術・芸術学	2			思考と試行	2				
						技術と表現	2	色彩論	2								
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	コミュニケーション・心理					コミュニケーションデザイン	2										
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
	情報システム					電気基礎	2	論理回路	2	データベース	2						
	情報メディア							情報ネットワーク概論	2								
	情報社会					現代マスコミ論	2			業務システム設計論	2						
	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報システム演習Ⅰ	2	情報システム演習Ⅱ	2	情報システム総合演習	2						
	キャリアデザイン							キャリア開発論（後前期）	1	情報産業論	2						
								基本情報処理技術	2	地域貢献論	2						
		情報と職業入門（前前期）	1			情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　情報システムデザイン学系（ D3 知能情報デザインコース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	アート＆デザイン					五感とデザイン	2			インタラクティブデザイン論	2						
	コミュニケーション・心理					認知心理学	2			実験心理・行動科学	2						
	情報科学			情報数学Ⅰ	2	情報数学Ⅱ	2	情報・符号理論	2	多変量解析	2	データサイエンス入門	2				
				基礎確率論	2	数値解析学	2					数理最適化入門	2				
						アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2								
						統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2								
	情報社会											社会調査論	2				
	情報メディア							コンピュータグラフィックス	2	数理とデザイン	2						
	情報システム			コンピュータ基礎	2					オペレーティングシステム	2	センサ工学	2				
										コンピュータ設計学	2	ソフトウェア工学	2				
	プログラミング					オブジェクト指向プログラミング	2	応用Javaプログラミング	2	CGプログラミング	2	生成人工知能	2				
						人工知能プログラミングⅠ	2	人工知能プログラミングⅡ	2	深層学習	2						
						データ表現とプログラミング	2										
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報システムデザイン特別卒業研究	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報学ゼミ	2				
DP3	アート＆デザイン	造形デザイン入門	2	デザイン学	2	音楽とデザイン	2	美術・芸術学	2			思考と試行	2				
						技術と表現	2	色彩論	2								
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	コミュニケーション・心理					コミュニケーションデザイン	2										
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
	情報システム					電気基礎	2	論理回路	2	データベース	2						
	情報メディア							情報ネットワーク概論	2								
	情報社会					現代マスコミ論	2			業務システム設計論	2						
	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報デザイン演習Ⅰ	2	情報デザイン演習Ⅱ	2	情報デザイン総合演習	2						
						知能情報デザイン概論	2										
	キャリアデザイン							キャリア開発論（後前期）	1	情報産業論	2						
								基本情報処理技術	2	地域貢献論	2						
		情報と職業入門（前前期）	1			情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　情報システムデザイン学系（ D4 アミューズメントデザインコース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	アート＆デザイン					五感とデザイン	2	音楽構造論	2	数理とデザイン	2						
								映像制作論	2								
	コミュニケーション・心理									実験心理・行動科学	2						
	情報科学			情報数学Ⅰ	2	情報数学Ⅱ	2	情報・符号理論	2	多変量解析	2						
				基礎確率論	2	数値解析学	2										
						アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2										
	情報システム			コンピュータ基礎	2					オペレーティングシステム	2	センサ工学	2				
										コンピュータ設計学	2						
	情報メディア							出版メディア論	2	インタラクティブデザイン論	2	教育システムデザイン論	2				
								メディア×カルチャー	2								
								コンピュータグラフィックス	2								
	プログラミング					ゲームプログラミングⅠ	2	ゲームプログラミングⅡ	2	CGプログラミング	2						
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報システムデザイン特別卒業研究	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報学ゼミ	2				
DP3	アート＆デザイン	造形デザイン入門	2	デザイン学	2	音楽とデザイン	2	美術・芸術学	2			思考と試行	2				
						技術と表現	2	色彩論	2								
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	コミュニケーション・心理					コミュニケーションデザイン	2										
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
	情報システム					電気基礎	2	論理回路	2	データベース	2						
	情報メディア							情報ネットワーク概論	2								
	情報社会					現代マスコミ論	2			業務システム設計論	2						
	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報デザイン演習Ⅰ	2	情報デザイン演習Ⅱ	2	情報デザイン総合演習	2						
	キャリアデザイン							キャリア開発論（後前期）	1	情報産業論	2						
								基本情報処理技術	2	地域貢献論	2						
		情報と職業入門（前前期）	1			情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

情報システムデザイン学系履修モデル

1. 学系の学習・教育目標

朝起きてから寝るまで、そして寝ている間さえ、私たちの暮らしを支える情報技術による社会環境は休むことなく動き続けています。しかし情報技術は便利で快適な生活を与えてくれる反面、新たな格差や社会問題、犯罪を引き起こす要因ともなってきました。科学技術だけでは解決できない複雑な問題を抱えた社会、それが私たちの暮らしている情報社会なのです。

そこで東京電機大学では創立 100 周年となる 2007 年に、情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の 4 学科から情報に関わる領域を選択・融合し、「情報学」を昨今の世情に合わせて多面的、総合的に学べる複合型教育組織として数度の改組を行い、現在では「コンピュータソフトウェアコース」「情報システムコース」「アミューズメントデザインコース」「知能情報デザインコース」の 4 つのコースから成る「情報システムデザイン学系」として教育に取り組んでいます。近年注目されている、IoT、人工知能、VR をはじめとする最先端の情報技術に対応した新しい 4 コース体制で教育・研究を行なっていきます。

「情報学」とは、情報に関する広範な研究領域を総合的に扱う学問です。情報学は対象とする領域が広く、情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造などさまざまな異なった分野から構成されています。本学系では主･副コース選択制カリキュラムとマルチメディア教育環境を有効に活用し、学生達が本当に学びたいことを見つけ出し、それに必要な専門知識と実践力を身に付け情報学の専門家として活躍できるようになることを目標に、理学系、工学系、情報系、人文社会系、芸術系の専門家を擁するバラエティ豊かな教授陣が一致協力し教育を進めていきます。

2. 学系のカリキュラムの概要

本学系では、「情報科学」「情報システム」「情報メディア」「情報社会」「コミュニケーション・心理」「アート & デザイン」の各分野についてそれぞれの専門のコース科目として学んでいきます。これら専門科目の内容に加え、問題解決力、実践力を養う科目として、「プログラミング」と「総合情報」を設け、ゼミ、実習など、さまざまな授業形態で立体的、総合的に学んでいきます。

また社会で活躍する能力を養うため「キャリアデザイン」科目も配置されています。

3. 各コースの概要

●コンピュータソフトウェアコース（D 1）

数理、プログラミング、グラフィックス、人工知能の各分野から専門技術を修得し、コンピュータソフトウェアの設計・開発に関する総合的な実習を通じて、コンピュータソフトウェアの高度化・知能化に挑戦します。本コースでは、ビジネスからアミューズメント産業まで、あらゆる分野に現れるソフトウェアの開発に必要な技術を習得することができます。１年次から３年次までに、Ｃ言語やＪａｖａ、ゲームプログラミング、人工知能プログラミング、コンピュータグラフィックスなど、プログラミングに関する幅広い講義、

演習が用意されており、プログラミングの様々な技法を実践的に学ぶことができます。

●情報システムコース（D 2）

我々の身近な生活なども含め、あらゆる現象をコンピュータで扱い生活へ還元するためには、現象を情報化して適切な処理を施し、現象の操作を行う必要があります。昨今では、データ処理の最適化、機器の小型化、コンピュータネットワークなどの技術的な進歩が著しく、IoT などの用語にあるように、社会現象としての影響を無視できなくなってきています。

情報システムコースでは、情報化と現象の操作を中心とし、周辺領域の様々な分野について統合的に学習を行う科目が配置されています。情報の処理に必要な他コースと合わせて学習することにより、高い次元の情報処理システムを習得し、社会へ還元できる情報技術者・研究開発者の育成を目指します。

●知能情報デザインコース（D 3）

急速に進む情報技術や生命科学などの発展により、2045 年頃には人工知能が人間の能力を超越する技術的な特異点（シンギュラリティ）が生じ、社会システムに大変革が起こるとの予測すら議論されてきました。高度な人工知能を実現するにはどうすればよいか、また高度な人工知能を社会の中でどのように活かしていけばよいのかを考えることは私たちにとって重要な課題となっていくでしょう。知能情報デザインコースでは、人間の脳と心の働きとその特性について理解し、統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力と、人間の知能を代替しうる能力を持ったシステムの設計、評価を行うための知識と能力を養うことを通じ、現在の社会でも、大変革が起こった後の社会でも活躍できる新世代の情報技術者・研究開発者の育成を目指します。

●アミューズメントデザインコース（D 4）

新しい情報社会の潮流のなかで、「遊び」や「人を楽しませること」に関わるテクノロジー、芸術、文化について学び、感動力・発想力をあわせ持つ表現創造型情報技術者の養成を目指します。現在から未来、さらにその先に向けた情報デザインには、「どうやって」作るのかという技術習得を超え「何を、何のために」作るのかという、作るモノの存在と、その価値観をも、ゼロから創り出す提案力が求められます。美術、映像、ＣＧ、電子出版、音楽制作等の分野を、それぞれ「技術」「文化」「表現」「コミュニケーション」「教育」等の視点から多角的に捉えることを重視、人間の感性と情報技術の高度なコミュニケーションメディアであるアミューズメントを総合的に科学することで、番組制作者やＣＧ・ウェブデザイナー、ゲームクリエイター等、コンテンツの中身そのものをトータルデザインし、社会に向けて情報発信することを目標とします。

4.　1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1 年生から 2 年生に進級するのに必要な単位数は 30 ですが卒業に必要な単位数は 124 となっていますので、最低でも 40 単位、できれば、44 単位を目標に履修してください。「情

報学」で取り扱う学問領域には、理学、工学はもちろん、人文科学や社会科学、芸術なども含まれます。従って学系の専門科目はもちろんですが、共通教育科目もできる限り履習する必要があります。英語や自然科学（数学、物理、化学）の基礎科目、人間形成科目についてはできるだけ１年次に履習するようにしましょう。１年終了時には、主コース、副コースの選択を行います。１年次に履習できる学系専門科目はまだ少ししかありませんが、自分が第一希望とするコースに関係する科目はもちろん、他コースに関連のある科目についても積極的に履習し、情報学の全体像を捉えるとともに、基礎学力を充実させることを目指してください。

5. 情報システムデザイン学系で学ぶカリキュラムの構成

情報システムデザイン学系では、情報学に関する広範な領域を体系的に学んでいけるように、各コースにつながる基礎的分野を、「システム系基礎科目」「デザイン系基礎科目」「情報系基礎科目」に分け学習していきます。さらに学年進行とともにコース共通専門科目、コース専門科目を学び、各自の専門性を高めていけるようなカリキュラム構成となっています。

6. 情報システムデザイン学系のカリキュラム構成概念図

系統別基礎科目

システム系基礎科目、デザイン系基礎科目、情報系基礎科目で構成されています。主として、１～２年次に配当される科目です。基礎科目の総合的な演習を行う科目が情報学基礎実習です。これらは希望するコースに関係なく全員が身につけなければならない基礎的な内容を含む科目となっており、コース選択に役立つ内容となっています。情報系基礎科目には、情報数学Ⅰ、コンピュータ基礎、基礎確率論、コンピュータプログラミングⅠ・同演習などが含まれます。システム系基礎科目は、主としてコンピュータソフトウェアコース、情報システムコースの学生はすべて履修してもらい、アミューズメントデザインコース、知能情報デザインコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。

システム系基礎科目には、電気基礎、論理回路、情報ネットワーク概論、アルゴリズムとデータ構造Ⅰ、情報・符号理論、コンピュータプログラミングⅡ・同演習などが含まれます。システム系基礎科目の総合的な演習を行う科目が情報システム演習Ⅰ・Ⅱです。

デザイン系基礎科目は、主としてアミューズメントデザインコース、知能情報デザインコースの学生すべてに履修してもらい、コンピュータソフトウェアコース、情報システムコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。デザイン系基礎科目には、造形デザイン入門、美術・芸術学、現代マスコミ論、色彩論、認知心理学などが含まれます。デザイン系基礎科目の総合的な演習を行う科目が情報デザイン演習Ⅰ・Ⅱです。

2、3 年次からは、複数のコースが共同で設置している複合コース専門科目、各自が主コース、副コースとして選んだコースのコース専門科目を学びます。コース専門科目の総合的な演習を行う科目として情報システム総合演習、情報デザイン総合演習があります。

キャリア科目

キャリア科目は、共通教育や専門分野とは別に将来社会人として活躍していくために必要

な知識や心構えを身につけることを目的とする科目です。進級条件としては、情報システムデザイン概論だけが指定されていますが、他のキャリア科目についてもできるだけ履修し、自分を高める努力を積み重ねてください。

7. （2～4年次生向け）主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース（D 1）

本コースでは、以下の分野に取り組みます。

【数理】グラフィックス処理、プログラミング、人工知能のための数理を学ぶ。

【プログラミング】Ｃ言語、Ｃ＋＋言語、Ｊａｖａ言語を習得し、オブジェクト指向プログラミングとゲームプログラミングに取り組む。

【マルチメディア】図形、グラフィックス、サウンドなどのコンピュータ処理技術を実践的に学ぶ。

【人工知能】人間と同じ感覚でつきあえるような究極のソフトウェアづくりを目指す。

【ソフトウェア開発】ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、情報と経営の各方面を幅広く学び、視野の広いＩＴエンジニアを目指す。

【総合】人工知能、ＣＧ、ゲーム、画像処理、図形処理を題材に、大規模なソフトウェアの開発を行う。

これらの分野を総合的に学習することにより、ソフトウェア開発者としての実践的な技術と幅広い教養を身に付けることができます。

●情報システムコース（D 2）

情報システムコースでは、コンピュータと現実の現象とをつなぐ様々な技術について学習します。これらを学習するために、数学や物理学の深い知識を必要とするものも含まれていますので、１年次の基礎的な科目からしっかりと学習して積み上げを行なってください。根本的な原理原則を学ぶための「情報科学」と、情報を処理するための技術である「プログラミング」、これらを体系的に扱い、現実世界へと実装するための「情報システム」の分野を中心に据え、自分の将来設計に合わせて履修する科目を選択してください。

●知能情報デザインコース（D 3）

知能情報デザインコースでは、人間の脳と心の働きとその特性について理解し、統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力と、人間の知能を代替しうる能力を持ったシステムの設計、評価を行うための知識と能力を養います。人間の脳と心の働きとその特性を理解するには、「コミュニケーション・心理」分野の科目を学びます。統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力については「情報科学」分野の統計や多変量解析に関する科目を学びます。人工知能システムの設計、評価を行うためには、「情報システム」「情報メディア」分野のコンピュータシステムの原理とシステム構築に関する科目、人工知能プログラミングⅠ・Ⅱを中心とした「プログラミング」分野の科目を学んでいきます。

●アミューズメントデザインコース（D 4）

私たちの生活を取り巻く多くの「モノ」は例外なく人によって「デザイン」されたものです。人の役に立ち、人を楽しませる「モノ」をデザインするということは、仕組みを支える技術と、その技術を形にするアート感覚とをバランス良く身に付けることで初めて可能となります。１年次から２年次にかけては学部共通科目と学系共通科目を学ぶことで、「モノ」の仕組みの基本的な知識と表現の技法を習得します。２年次以降、コース専門科目では「仕組み」に関する知識と技術に加え、様々な文化的な側面についても学びます。

本コースでは、メディア学、芸術表現学、映像情報美学、現代音楽、教育工学の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講していますので、五感とデザイン、出版メディア論、技術と表現、映像制作論、音楽とデザイン等の科目を履修することで幅広い視野を身に付けることが望まれます。また、工学から表現学に至る幅広い分野に関する実習を通して多眼的、実践的な問題解決力を身に付けることを望みます。

8.（2 ～ 4 年次生向け）副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース（D 1）

本コースでは、数理、プログラミング、マルチメディア、人工知能、ソフトウェア開発、総合のそれぞれの分野で履修を推奨する科目を提示していますので、科目選択の際の目安としてください。本コースを副コースとして選択する場合、どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能です。

●情報システムコース（D 2）

情報システムコースでは、コンピュータと現実の現象とをつなぐ様々な技術について学習します。これらを学習するために、数学や物理学の深い知識を必要とするものも含まれていますので、１年次の基礎的な科目からしっかりと学習して積み上げを行なってください。どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能ですが、主コースで選んだ分野と関連のある科目を履修した上で、知見を広げるために興味のある科目を選択してください。

●知能情報デザインコース（D 3）

知能情報デザインコースを副コースとする学生には、人間の脳と心の働きとその特性についてと、統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力、人工知能システムの概念を与える科目を学ぶことを推奨します。学系共通科目では、基礎的な数学（情報数学、確率）、統計学、多変量解析などについて学んでもらいます。コース専門科目としては、人工知能システム概念を与える科目として知能情報デザイン概論を学んだ上で、コミュニケーション、心理に関する科目を学んでください。

●アミューズメントデザインコース（D 4）

本コースでは、メディア学、芸術表現学、映像情報美学、現代音楽、教育工学の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講しています。どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能ですが、出来るだけ五感とデザイン、出版メディア論、美術・芸術学、映像制作論、音楽とデザインを含め、各自の主コースとの関連のある科目を中心に履修することを推奨します。

情報システムデザイン学系　進級条件表　RD
（2024年度カリキュラム）

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間形成			12	16
英語			6	8
技術者倫理			2	2
数学			4	6
自然科学技術			6（※1）	8（※1）
情報			2	4
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群（※2）	副コース	9	14

（※2）指定科目群については、P176 を参照すること。

2．上記に加え、所属する主コースの下記科目を全て履修し、それらの単位を全て修得すること。
（※下記の記載のコース専門科目は、主コース科目として単位修得すること。）

コンピュータソフトウェアコース	情報システムコース	知能情報デザインコース	アミューズメントデザインコース
情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論
情報学基礎実習	情報学基礎実習	情報学基礎実習	情報学基礎実習
コンピュータプログラミングⅠ・同演習	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	コンピュータプログラミングⅠ・同演習
情報学ゼミ	情報学ゼミ	情報学ゼミ	情報学ゼミ
情報システム演習Ⅰ	情報システム演習Ⅰ	情報デザイン演習Ⅰ	情報デザイン演習Ⅰ
情報システム演習Ⅱ	情報システム演習Ⅱ	情報デザイン演習Ⅱ	情報デザイン演習Ⅱ
情報システム総合演習	情報システム総合演習	情報デザイン総合演習	情報デザイン総合演習

（※1）「科学技術概論A・B・C・D」の取り扱いは以下のとおり。

卒業所要単位数への算入対象科目	卒業所要単位数に算入されない科目	卒業所要単位数への算入上限単位数
科学技術概論B･C･D	科学技術概論A	6（3科目）

2024（令和6）年度カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表

RD

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	アート＆デザイン	DP3	造形デザイン入門		1	2	選	1	半期(前)	演習		60500
			DP3	デザイン学		1	2	選	1	半期(後)	講義		
			DP3	音楽とデザイン		1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP3	美術・芸術学		1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP3	色彩論		1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP3	技術と表現		1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP3	思考と試行		1	2	選	3	半期(後)	講義		
		キャリアデザイン	DP3	情報システムデザイン概論		1	2	必	1	半期(前)	講義		60100
			DP4	情報産業論		1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP4	キャリア開発論		1	1	選	2	四半期(後前)	講義		
			DP4	基本情報処理技術		1	2	選	2	半期(後)	講義		20500 60200
			DP4	地域貢献論		1	2	選	3	半期(前)	講義		
		コミュニケーション・心理	DP3	コミュニケーションデザイン		1	2	選	2	半期(前)	講義		
		情報科学	DP1	情報数学Ⅰ		1	2	選	1	半期(後)	講義		20500 60200
			DP1	基礎確率論		1	2	選	1	半期(後)	講義		20400
			DP1	数値解析学		1	2	選	2	半期(前)	講義		20500 60200
			DP1	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義		20500 60200
			DP1	情報・符号理論		1	2	選	2	半期(後)	講義		20100
			DP1	情報数学Ⅱ		1	2	選	2	半期(前)	講義		
		情報システム	DP1	コンピュータ基礎		1	2	選	1	半期(後)	講義		20500 60200
			DP3	電気基礎		1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP3	論理回路		1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	オペレーティングシステム		1	2	選	3	半期(前)	講義		60300
			DP1	コンピュータ設計学		1	2	選	3	半期(前)	講義		20500 60200
			DP3	データベース		1	2	選	3	半期(前)	講義		60300
			DP1	センサ工学		1	2	選	3	半期(後)	講義		
		情報社会	DP3	現代マスコミ論		1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP3	業務システム設計論		1	2	選	3	半期(前)	講義		
		情報メディア	DP3	情報ネットワーク概論		1	2	選	2	半期(後)	講義		60400
		総合情報	DP4	情報学基礎実習		2	2	必	1	半期(後)	実験・実習		
		プログラミング	DP3	コンピュータプログラミングⅠ・同演習		2	3	必	1	半期(前)	講義・演習		20500 60200
			DP3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習		2	3	選	1	半期(後)	講義・演習		60300
	コンピュータソフトウェアコース専門科目	情報科学	DP1	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	D1/D2,D3	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	60300
			DP1	数理最適化入門	D1/D2,D3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	60300
			DP1	計算量と暗号	D2,D1	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	統計学Ⅰ	D1,D2,D3	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	20400
			DP1	統計学Ⅱ	D1,D2,D3	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	20400
			DP1	情報セキュリティ概論	D2/D1	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
		情報システム	DP1	ソフトウェア工学	D1/D2,D3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	
		情報メディア	DP1	コンピュータグラフィックス	D1,D3,D4	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	20500 60200
			DP1	数理とデザイン	D1,D4/D3	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	20200
		総合情報	DP4	情報システム演習Ⅰ	D1,D2	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP4	情報システム演習Ⅱ	D1,D2	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP4	情報システム総合演習	D1,D2	1	2	必	3	半期(前)	演習	※1 【アセスメント科目】 主コースがD1・D2コースの学生のみ必修科目	
		プログラミング	DP1	データ表現とプログラミング	D3,D1	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	
			DP1	ゲームプログラミングⅠ	D1,D4	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP1	ゲームプログラミングⅡ	D1,D4	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP1	オブジェクト指向プログラミング	D1,D2,D3	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	60300
			DP1	応用Javaプログラミング	D1,D2,D3	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	60400
			DP1	人工知能プログラミングⅠ	D1,D3/D2	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP1	CGプログラミング	D1,D3,D4	1	2	選	3	半期(前)	演習	※1	60500
			DP1	人工知能プログラミングⅡ	D1,D3/D2	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP1	深層学習	D1,D3/D2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	生成人工知能	D1,D3/D2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	

※ コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース ・ D2:情報システムコース・D3:知能情報デザインコース・D4:アミューズメントデザインコース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

2024（令和6）年度カリキュラム 情報システムデザイン学系　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	情報システムコース専門科目	情報科学	DP1	動的システム	D2	1	2	選	2	半期(前)	講義		20300
			DP1	計算量と暗号	D2,D1	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	多変量解析	D2,D3,D4	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	20400
			DP1	情報セキュリティ概論	D2/D1	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	統計学Ⅰ	D2,D1,D3	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	20400
			DP1	統計学Ⅱ	D2,D1,D3	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	20400
			DP1	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	D1/D2,D3	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	60300
			DP1	数理最適化入門	D1/D2,D3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	60300
		情報システム	DP1	組み込みシステム	D2	1	2	選	2	半期(後)	講義		60500
			DP1	ソフトウェア工学	D1/D2,D3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	
		総合情報	DP4	情報システム演習Ⅰ	D2,D1	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP4	情報システム演習Ⅱ	D2,D1	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP4	情報システム総合演習	D2,D1	1	2	必	3	半期(前)	演習	※1 【アセスメント科目】 主コースがD1・D2コースの学生のみ必修科目	
		プログラミング	DP1	オブジェクト指向プログラミング	D1,D2,D3	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	60300
			DP1	応用Javaプログラミング	D2,D1,D3	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	60400
			DP1	UNIXプログラミング	D2	1	2	選	3	半期(前)	演習		
			DP1	人工知能プログラミングⅠ	D1,D3/D2	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP1	人工知能プログラミングⅡ	D1,D3/D2	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP1	深層学習	D1,D3/D2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	生成人工知能	D1,D3/D2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	
	知能情報デザインコース専門科目	アート＆デザイン	DP1	五感とデザイン	D3,D4	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	
			DP1	インタラクティブデザイン論	D3,D4	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	60500
		コミュニケーション・心理	DP1	認知心理学	D3	1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP1	実験心理・行動科学	D3,D4	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
		情報科学	DP1	統計学Ⅰ	D3,D1,D2	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	20400
			DP1	統計学Ⅱ	D3,D1,D2	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	20400
			DP1	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	D1/D2,D3	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	60300
			DP1	多変量解析	D3,D2,D4	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	20400
			DP1	データサイエンス入門	D3	1	2	選	3	半期(後)	講義		
			DP1	数理最適化入門	D1/D2,D3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	60300
		情報社会	DP1	社会調査論	D3	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		情報メディア	DP1	コンピュータグラフィックス	D3,D1,D4	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	20500 60200
			DP1	数理とデザイン	D1,D4/D3	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	20200
		情報システム	DP1	ソフトウェア工学	D1/D2,D3	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	
		総合情報	DP4	情報デザイン演習Ⅰ	D3,D4	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP4	情報デザイン演習Ⅱ	D3,D4	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP4	知能情報デザイン概論	D3	1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP4	情報デザイン総合演習	D3,D4	1	2	必	3	半期(前)	演習	※1 【アセスメント科目】 主コースがD3・D4コースの学生のみ必修科目	
		プログラミング	DP1	データ表現とプログラミング	D3,D1	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	
			DP1	オブジェクト指向プログラミング	D1,D2,D3	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	60300
			DP1	応用Javaプログラミング	D2,D1,D3	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	60400
			DP1	人工知能プログラミングⅠ	D1,D3/D2	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP1	人工知能プログラミングⅡ	D1,D3/D2	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP1	CGプログラミング	D3,D1,D4	1	2	選	3	半期(前)	演習	※1	60500
			DP1	深層学習	D1,D3/D2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	生成人工知能	D1,D3/D2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	
	アミューズメントデザインコース専門科目	アート＆デザイン	DP1	五感とデザイン	D4,D3	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	
			DP1	音楽構造論	D4	1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	映像制作論	D4	1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	数理とデザイン	D4,D1/D3	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	20200
		コミュニケーション・心理	DP3	実験心理・行動科学	D3,D4	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
		情報科学	DP1	多変量解析	D3,D2,D4	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	20400
		情報メディア	DP1	コンピュータグラフィックス	D4,D1,D3	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	20500 60200
			DP1	出版メディア論	D4	1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	メディア×カルチャー	D4	1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	インタラクティブデザイン論	D4,D3	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	60500
			DP1	教育システムデザイン論	D4	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		総合情報	DP4	情報デザイン演習Ⅰ	D4,D3	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP4	情報デザイン演習Ⅱ	D4,D3	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP4	情報デザイン総合演習	D4,D3	1	2	必	3	半期(前)	演習	※1 【アセスメント科目】 主コースがD3・D4コースの学生のみ必修科目	
		プログラミング	DP1	ゲームプログラミングⅠ	D4,D1	1	2	選	2	半期(前)	演習	※1	
			DP1	ゲームプログラミングⅡ	D4,D1	1	2	選	2	半期(後)	演習	※1	
			DP1	CGプログラミング	D4,D1,D3	1	2	選	3	半期(前)	演習	※1	60500

※ コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース ・ D2:情報システムコース・D3:知能情報デザインコース・D4:アミューズメントデザインコース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

2024（令和6）年度カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	コース専門科目	卒研等	DP2	情報学ゼミ		1	2	必	3	半期(後)	演習		
			DP2	情報システムデザイン特別卒業研究		3	3	選	3	半期(後)	実験・実習		
			DP2	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ		3	3	必	4	半期(前)	実験・実習		
			DP2	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ		3	3	必	4	半期(後)	実験・実習		
		キャリアデザイン	DP4	情報システムデザインインターンシップA		2	2	選	2,3,4	半期(前)	実験・実習	随時	
			DP4	情報システムデザインインターンシップB		2	2	選	2,3,4	半期(後)	実験・実習	随時	
			DP4	情報と職業入門		1	1	選	1,2	四半期(前前)	講義		
			DP4	情報と職業		1	2	選	全	半期(後)	講義		60600
			DP4	情報倫理		1	2	自	2	半期(後)	講義		60100

※1の科目を履修した場合は、同一科目名の他コース科目を履修することはできません。

※ コースコードが "/ "で区切られている科目は、コースへの関連の強さ度合を表す。

例：D1,D4/D2 → D1とD4コースの方がD2コースに比べて関連が強い。

※ コース専門科目でコースコードが記載されていない科目は全て主コースのコース専門科目となります。

※ コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース ・ D2:情報システムコース・D3:知能情報デザインコース・D4:アミューズメントデザインコース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

専 門 教 育 科 目

機械工学系

(Division of Mechanical Engineering)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

機械工学系履修モデル

授業科目配当表

【機械工学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材の養成に関する目的)

機械工学系では、機械工学の基礎となる（四つの）力学を身につけることに重点を置き、さらに、新しいものづくり技術に興味を抱き、環境にも配慮できる教養を備え、基幹産業を支える気概のある技術者の育成を目指します。

(その他の教育研究上の目的)

我が国の産業の発展は、自動車、鉄道、航空機、造船など機械工学の発展とともにあったと言っても過言ではありません。産業分野の拡大と多様化に伴って、教育、研究分野も変化を遂げつつありますが、機械工学が直面する難題にも粘り強く取り組むことのできる技術者の育成を目指します。

教育目標

機械工学系では、二年次までは機械工学の基礎科目を徹底的に学び、機械工学分野の基礎を構成している各種力学の十分な定着を第１の目的とします。さらに、二つの専門コースを設け、機械工学を掘り下げると同時に、関連分野の基礎知識や技術の修得を目指します。

実学尊重の校是を具現化する、設計製図、実験実習では、定着させた知識を技術者（機械屋）として活用できるよう、個々あるいは少人数グループに個別の課題を与える教育を実践します。学士課程のまとめとなる卒業研究では、計画を立案すること、実行することにより問題解決能力を積極的に養います。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の機械工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は ４年

⑴ 実学尊重を旨として、機械工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。(DP1)

⑵ 自立した発想のもとに機械工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的な知識と技術を習得した上で、その課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。(DP2)

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3)

⑷「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の機械工学系は、理工学の基礎知識に加えて、2つの専門コースを設け、設計・解析ならびに加工・制御の専門知識を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

教育課程の実施に際して、主コースを機械工学系から1つ、副コースを機械工学系または他学系から1つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴ (DP1 に対応)実学尊重を旨とし、機械工学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵ (DP2 に対応）課題発見能力を養うとともに、その課題を論理的に説明する力、解決する力を育成するために、実験、実習、演習、ゼミを体系的に配置します。

⑶ (DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に1年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷ (DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸ (DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜設計・解析コース M1 ＞

（DP1 に対応）機械工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、設計・解析コースでは、機械設計、機械の製作に必要となる力学的な解析などの機械工学分野で活躍できる技術者を育成するために、専門に特化した科目を配置し、実施します。

＜加工・制御コース M2 ＞

（DP1 に対応）機械工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、加工・制御コースでは、機械加工、機械を精密に運動させるための制御などの機械工学分野で活躍できる技術者を育成するために、専門に特化した科目を配置し、実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

機械工学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、基礎学力を身につけ、新しいものづくり技術に興味を抱き、粘り強く問題の解決に取り組むことのできる「機械工学のフロントランナー」を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

- ◆ 機械工学分野に強く興味を持ち、機械工学系で修得した知識と技術を活かして社会の発展に貢献し、活躍することを望む学生

◆ 機械工学系における学びのハイライトとなる実験・実習、設計製図、卒業研究を通じて、多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、困難に直面しても粘り強く問題を解決しようとする強い意欲を持つ学生

◆ コース専門科目及び学部・学系共通科目を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、幅広い教養に基づいた深い洞察力と広い視野を備えた技術者を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆ 理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくこと。理科については、物理基礎および物理の範囲を学習しておくこと。

アセスメント・ポリシー

機械工学系は、学系のディプロマ・ポリシー【⑴ 機械工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。(DP1) ⑵ 自立した発想のもとに機械工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的な知識と技術を習得した上で、その課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。(DP2) ⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3) ⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4) ⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)】に沿って、学生の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、機関・プログラム・授業科目の各レベルおよび課外活動において、アセスメントを実施し、教育改善に活用していきます。

なお、学系レベルにおいては、【在学時】各種内部指標（GPA、修得単位数等)、各種アセスメント（学内専門力調査等)、アドバイザーによる学修指導等、【卒業時】各種内部指標（卒業率、就職率、大学院進学率等）等を活用します。

また、間接指標として、各種内部指標（授業アンケート等）等を活用します。

以上を以って、不断の教育改善に努めます。

理工学部　理工学科　機械工学系（ M1 設計・解析コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	基礎力学			工業力学Ⅰ・演習	3	工業力学Ⅱ・演習	3	機械力学Ⅰ・演習	3								
						材料力学Ⅰ・演習	3										
						流体力学Ⅰ・演習	3										
								工業熱力学Ⅰ・演習	3			機械基礎演習（後前期）	2				
	熱・流体							流体力学Ⅱ・演習	3	工業熱力学Ⅱ・演習	3	熱流体機械	2				
	材力・機力							材料力学Ⅱ・演習	3	機械力学Ⅱ・演習	3						
												機械応用力学	2				
	材料・要素							機械要素Ⅰ・演習	3	機械要素Ⅱ	2						
						機械材料	2			CAD/CAE	2	塑性力学	2				
	加工・制御					機械加工学Ⅰ・演習	3	機械加工学Ⅱ	2								
								計測工学	2	制御工学	2	ロボット工学	2				
	電気・情報					数値解析A	2	数値解析B	2	基礎電気工学	2	基礎電子工学	2				
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験・実習					機械設計製図Ⅰ	1	機械設計製図Ⅱ	1	機械設計製図Ⅲ	1	機械設計製図Ⅳ	1				
						機械工学実験・実習Ⅰ	1	機械工学実験・実習Ⅱ	1	機械工学実験・実習Ⅲ	1	機械工学実験・実習Ⅳ	1				
	ゼミ					機械総合演習Ⅰ	2	機械総合演習Ⅱ	2	機械総合演習Ⅲ	2	機械総合演習Ⅳ	2				
												機械システムゼミ（後後期）	2				
	卒研											機械工学特別卒業研究	3	機械工学卒業研究Ⅰ	3	機械工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	導入・概論	機械工学入門（前後期）	2	基礎製図	4												
		機械工学概論（前前期）	2														
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2	機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2	機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導	2	工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　機械工学系（ M2 加工・制御コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	基礎力学			工業力学Ⅰ・演習	3	工業力学Ⅱ・演習	3	機械力学Ⅰ・演習	3								
						材料力学Ⅰ・演習	3										
						流体力学Ⅰ・演習	3										
								工業熱力学Ⅰ・演習	3			機械基礎演習（後前期）	2				
	熱・流体							流体力学Ⅱ・演習	3	工業熱力学Ⅱ・演習	3	熱流体機械	2				
	材力・機力							材料力学Ⅱ・演習	3	機械力学Ⅱ・演習	3						
												機械応用力学	2				
	材料・要素							機械要素Ⅰ・演習	3	機械要素Ⅱ	2						
						機械材料	2			CAD/CAE	2	塑性力学	2				
	加工・制御					機械加工学Ⅰ・演習	3	機械加工学Ⅱ	2								
								計測工学	2	制御工学	2	ロボット工学	2				
	電気・情報					数値解析A	2	数値解析B	2	基礎電気工学	2	基礎電子工学	2				
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験・実習					機械設計製図Ⅰ	1	機械設計製図Ⅱ	1	機械設計製図Ⅲ	1	機械設計製図Ⅳ	1				
						機械工学実験・実習Ⅰ	1	機械工学実験・実習Ⅱ	1	機械工学実験・実習Ⅲ	1	機械工学実験・実習Ⅳ	1				
	ゼミ					機械総合演習Ⅰ	2	機械総合演習Ⅱ	2	機械総合演習Ⅲ	2	機械総合演習Ⅳ	2				
												機械システムゼミ（後後期）	2				
	卒研											機械工学特別卒業研究	3	機械工学卒業研究Ⅰ	3	機械工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	導入・概論	機械工学入門（前後期）	2	基礎製図	4												
		機械工学概論（前前期）	2														
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2	機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2	機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導	2	工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

機械工学系履修モデル

1. 機械工学の必要性

目覚ましい工学技術の発展に伴い、産業分野は拡大し多岐にわたっていますが、依然として機械工学を基礎とした自動車、鉄道、航空機、船舶などの分野は我が国の産業の根幹をなしています。一方で、工学が利益や利便性だけを追求して使われ始めると、環境汚染をはじめとして自然や人間に有害となることは歴史の教えるところであります。従って、自然や社会、人間にとってやさしいものづくりには、技術の追求はもとより、自然や社会に与える影響を広く深く考えることが必要となります。昨今は個性の尊重が重視されていますが、複雑な機械は一人では製造できませんし運転することもできないのです。機械システムを構築する工学技術者には、手を動かし試行錯誤を繰り返した経験に加え、広く知識を習得し、関係する方々とコミュニケーションを取りながら問題を解決する能力が求められます。社会で活躍する技術者にとって求められる「必要な資質」とは何かということを常に思案しながら、学生生活を送ってください。

2. 学系の学習・教育目標

私たちの身の回りには多くの機械システムが溢れていますが、これらのひとつひとつは、要素部品から構成されています。機械設計技術者は、要素部品の性質を把握し、各部品を物理法則や経験則に基づいて構成することにより必要な機構や機能を作り上げてきました。しかしいま、機械設計は危機に瀕しています。小型化、高機能化を目指した結果、機械部品がユニット化され、ブラックボックスになってしまったのです。例えば自動車の変速は、以前はギヤで行っていましたが、現在はＣＶＴ（無段変速機）と呼ばれるボックスになってしまいました。かつての技術者は機構を理解しているからよいのです。しかしみなさんは知らないのです。そこで「機械工学系」では、まず機械工学の基礎となる四力（材料力学、熱力学、流体力学、機械力学）をしっかりと学ぶとともに、これらを機械システムへ応用（解析、改良）できるよう進めて行きます。一方で、技術の追求だけに偏ることのない豊かな人間性を有する技術者の育成も目標としています。新しい技術を理解することは厳しい道のりですが「ローマは一日にして成らず」ということを学習の糧としてください。

3. 学系カリキュラムの概要

本学系は、根幹となる機械工学の基礎専門科目に加えて、数値解析、制御工学、基礎電気工学、ロボット工学などの専門応用科目といった、ものづくりに直結した分野で構成されています。カリキュラムはコース毎に基礎分野の習得を行えるよう編成しており、さらに「技術者・研究者」に求められる応用力を養えるよう、大学院進学を視野に入れ、自動車産業をはじめとする機械産業全般について、幅広い分野の工学技術を学べるよう工夫しています。

授業科目は専門科目（専門基礎科目群、学系共通科目群、コース専門科目群）、共通科目（人間形成科目群、英語科目群）の５つに大別されます。学生は、１年次に配当されている機械工学概論、機械工学入門、基礎製図、工業力学Ⅰ・演習の専門科目を履修することにより、コー

スを選択する前に各コースで学ぶ専門的な内容を把握することができます。進級・卒業条件は選択した主・副コースによって異なりますので、詳細は表を参照してください。

機械工学系では学生自らが履修計画を立て、予習・復習も含めて積極的に授業に参加し、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものとするように努力するとともに、分からなかった部分をそのままにしないでオフィスアワーを活用して教員へ質問し、科目の教育補助を担当している大学院生への質問・相談、基礎学力への不安は学習サポートセンターを活用し勉学に励んでください。

なお、本学埼玉鳩山キャンパスには、大学院理工学研究科が設置されており、毎年多くの先輩が大学院に進学しています。大学院では、学部と異なり、社会で即戦力として活躍できる研究、開発、設計が行える総合的な能力のある高度技術者を育成しています。ぜひ大学院への進学も視野に入れて勉学に努めてください。

4. 各コースの概要

⑴ 設計・解析コース

設計・解析コースは、「機械設計、機械の製作に必要となる力学的な解析」を学ぶコースです。様々な力学的解析技術を用いて、機械を設計することができる力を養い、設計や解析のフロントランナーとして活躍できるよう、機械工学分野における想像力や応用力を身に付けます。

⑵ 加工・制御コース

加工・制御コースは、「機械加工、機械を精密に運動させるための制御」を学ぶコースです。最先端の加工技術や機械を精密に動かす制御技術によって、ものづくり現場に対応できるエキスパートとして活躍できるよう、機械工学分野における実践力や応用力を身に付けます。

5. 1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

学習の進め方は高校時代と違い、まず、「将来は何になりたいのか」、「どのような技術の専門家になりたいのか」を考え、目標をもって大学生活を送ることが必要です。2年次へ進級するための最低条件は「1年次に配当されている科目から 30 単位以上取得すること」となっています。4年次で卒業研究に専念するには、3年次終了までに 120 単位以上の取得を目指すのが望ましく、各年次で年間 40 単位を目安として取得するよう努めてください。

1年次に配当されている「機械工学概論」は必ず1年次に履修するようにしてください。各コースがどのような特徴を持っているかを分かりやすく説明します。卒業後、どのような職につき、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができ、今後、自ら学んでいく専門科目の位置づけや重要性を学ぶことができます。この科目は、主コース・副コースを選択する際に重要な科目になります。

「機械工学入門」、「基礎製図」、「工業力学Ⅰ・演習」は、いずれも各専門分野の基礎を扱う科目です。科目配置図やオンラインシラバスを良く見てしっかりと4年間の履修計画を立て、必要な科目は積極的に履修するようにしてください。

6. 主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

⑴ 学系共通科目の履修（２コース共通）

本学系の目標である「基礎となる力学を身に付け，新しいものづくりに興味を抱く」技術者の育成は２年次から本格的にスタートし、多くの専門科目が配当されています。学系内における各専門科目と２つのコースとの関連は、科目配置図を参照してください。専門科目の中で、どちらのコースの学生にとっても、機械工学を志すのに学ぶべき科目は学系共通科目として位置づけられています。コース専門科目とのつながりと進級・卒業に必要な単位数を良く考えて、履修科目を決めてください。

⑵ 設計・解析コースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年次

２年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、学系共通科目かコース専門科目に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示すコースコードがふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。進級条件表には、３年次から４年次への進級条件として、１年次から３年次に配当されている科目から最低 104 単位と記されています。これはあくまでも最低単位数であり、４年次における研究活動や就職活動を行うためには、３年終了時に 120 単位程度取得していることが望ましいです。また、その中には、人間形成、英語、技術者倫理、数学、自然科学技術、情報、学系共通科目、コース専門科目といった科目区分にしたがって、それぞれに必要な最低単位数が決められています。「進級条件表」をよく確認するようにして下さい。特に、副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、注意が必要です。

コース専門科目の中でも、「流体力学Ⅱ・演習」、「工業熱力学Ⅱ・演習」、「機械要素Ⅱ」は、これらの入門にあたる「流体力学Ⅰ・演習」、「工業熱力学Ⅰ・演習」、「機械要素Ⅰ・演習」などを理解せずして単位取得はままならないため、履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、２年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

設計・解析コースでは、２年次で「機械工学実験・実習Ⅰ」「機械工学実験・実習Ⅱ」「機械設計製図Ⅰ」「機械設計製図Ⅱ」「機械総合演習Ⅰ」「機械総合演習Ⅱ」、３年次で「機械工学実験・実習Ⅲ」「機械工学実験・実習Ⅳ」「機械設計製図Ⅲ」「機械設計製図Ⅳ」「機械総合演習Ⅲ」「機械総合演習Ⅳ」「機械基礎演習」「機械システムゼミ」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある設計・解析コース専門科目を中心に履修することを薦めます。

(b)4 年次

４年次は、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に所属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成さ

せます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身に付けます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、卒業に必要な単位を十二分に余裕を持って取得するようにしてください。

⑶ 加工・制御コースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年次

２年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、学系共通科目かコース専門科目に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示すコースコードがふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。進級条件表には、３年次から４年次への進級条件として、１年次から３年次に配当されている科目から最低１０４単位と記されています。これはあくまでも最低単位数であり、４年次における研究活動や就職活動を行うためには、３年終了時に１２０単位程度取得していることが望ましいです。また、その中には、人間形成、英語、技術者倫理、数学、自然科学技術、情報、学系共通科目、コース専門科目といった科目区分にしたがって、それぞれに必要な最低単位数が決められています。「進級条件表」をよく確認するようにして下さい。特に、副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、注意が必要です。

コース専門科目の中でも、「材料力学Ⅱ・演習」、「機械力学Ⅱ・演習」、「機械加工学Ⅱ」は、これらの入門にあたる「材料力学Ⅰ・演習」、「機械力学Ⅰ・演習」、「機械加工学Ⅰ」などを理解せずして単位取得はままならないため、履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、２年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

加工・制御コースでは、２年次で「機械工学実験・実習Ⅰ」「機械工学実験・実習Ⅱ」「機械設計製図Ⅰ」「機械設計製図Ⅱ」「機械総合演習Ⅰ」「機械総合演習Ⅱ」、３年次で「機械工学実験・実習Ⅲ」「機械工学実験・実習Ⅳ」「機械設計製図Ⅲ」「機械設計製図Ⅳ」「機械総合演習Ⅲ」「機械総合演習Ⅳ」「機械基礎演習」「機械システムゼミ」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある加工・制御コース専門科目を中心に履修することを薦めます。

(b)4 年次

４年次は、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に所属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身に付けます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、卒業に必要な単位を十二分に余裕を持って取得するようにしてください。

7. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方（2 コース共通）

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

8. その他の注意事項

⑴ 大学院進学について

国内の理工系の大学院進学率は、現在、平均 5 割程度（国立大学では 7 ～ 8 割）になっています。従来、大学院進学は研究のためと考えられてきましたが、最近の理工系学部では、卒業後にそのまま就職せず、大学院進学を選択する学生が半数近くいます。理工系で就職を目指すのであれば、「研究活動で研鑽を積み、実績を積んで自分の能力を向上させてから」と考えて、大学や公的な研究機関、あるいは企業の研究開発職の両方を見据えて、学部卒業生よりもより専門性の高い技術開発や研究を担う専門職に就くために、修士課程へと進む学生が増えています。機械工学系でも大学院への進学を推奨しています。二年間の修士課程を修了した後に三年間の博士課程に進んで博士号を取得して、大学や工業高等専門学校の教育研究職に従事し活躍している OB もいます。

機械工学系の二つのコースのカリキュラムでは、卒業後に大学院に進学するための基礎になる主要な科目で構成されています。大学院に進学するには、入学試験を受けて合格することが必要ですが、優秀な学生には推薦入学の制度を利用することができます。

大学院進学を希望する学生は、早い段階から、機械工学系の主要科目にしっかり取り組み時間をかけて理解するように心がけましょう。大学院でさらに勉強に励み、希望する職種の選択肢を広げ、企業の設計部門や研究開発、大学や公的機関の研究部門の専門職に就ける可能性を拡げましょう。

⑵ 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩方の努力により、毎年多くの求人をいただいています。最近は自由応募で就職する学生も増えてきていますが、先輩のいる企業に学校推薦で就職することにより環境や仕事の情報など貴重なアドバイスを受けられるメリットがあります。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、基礎学力はあって当たり前として、最も重視されることは、コミュニケーション能力や主体性、協調性です。これらは、実験や実習などのグループ学習での積極的な活動を通じて培われ、日常生活における習慣や取り組みによって蓄積されるものです。また、英語検定や各種資格を受験し、取得することも重要視されています。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

なお、技術開発に携わる職種の就職においては、本人の技術に対する取り組み方、卒業研究の進め方とその内容、大学での学業に対する取り組み方などの積極性、責任感、論理性を重視する場合がありますので、将来何をやりたいか目標を持って広く、深く勉学に励んでください。

機械工学系　進級条件表
（2024年度カリキュラム）

RM

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間形成			12	16
英語			6	8
技術者倫理			2	2
数学			4	6
自然科学技術			6（※1）	8（※1）
情報			2	4
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群（※2）	副コース	9	14

（※2）指定科目群については、P176 を参照すること。

2．次の14科目を全て修得のこと。

機械工学実験・実習Ⅰ
機械工学実験・実習Ⅱ
機械工学実験・実習Ⅲ
機械工学実験・実習Ⅳ
機械設計製図Ⅰ
機械設計製図Ⅱ
機械設計製図Ⅲ
機械設計製図Ⅳ
機械総合演習Ⅰ
機械総合演習Ⅱ
機械総合演習Ⅲ
機械総合演習Ⅳ
機械基礎演習
機械システムゼミ

（※1）「科学技術概論A・B・C・D」の取り扱いは以下のとおり。

卒業所要単位数への算入対象科目	卒業所要単位数に算入されない科目	卒業所要単位数への算入上限単位数
科学技術概論A･B･C･D		2（1科目）

2024（令和6）年度カリキュラム 機械工学系　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	基礎力学	DP1	工業力学Ⅰ・演習		2	3	選	1	半期(後)	講義・演習		70100
			DP1	工業力学Ⅱ・演習		2	3	選	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	材料力学Ⅰ・演習		2	3	選	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	流体力学Ⅰ・演習		2	3	選	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	機械力学Ⅰ・演習		2	3	選	2	半期(後)	講義・演習		
			DP1	工業熱力学Ⅰ・演習		2	3	選	2	半期(後)	講義・演習		
			DP1	機械基礎演習		2	2	必	3	四半期(後前)	講義・演習		
		設計・加工	DP1	機械要素Ⅰ・演習		2	3	選	2	半期(後)	講義・演習		
			DP1	機械加工学Ⅰ・演習		2	3	選	2	半期(前)	講義・演習		70100
		導入・概論	DP3	機械工学入門		2	2	選	1	四半期(前後)	講義		
			DP3	基礎製図		2	4	選	1	半期(後)	講義・演習		70100
			DP3	機械工学概論		2	2	選	1	四半期(前前)	講義		70100
		電気・情報	DP1	数値解析A		1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP1	数値解析B		1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	基礎電気工学		1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	基礎電子工学		1	2	選	3	半期(後)	講義		
		ゼミ	DP2	機械総合演習Ⅰ		1	2	必	2	半期(前)	講義・演習		
			DP2	機械総合演習Ⅱ		1	2	必	2	半期(後)	講義・演習		
			DP2	機械総合演習Ⅲ		1	2	必	3	半期(前)	講義・演習		
			DP2	機械総合演習Ⅳ		1	2	必	3	半期(後)	講義・演習		
	設計・解析コース専門科目	熱・流体	DP1	流体力学Ⅱ・演習	M1・M2	2	3	選	2	半期(後)	講義・演習		70100
			DP1	工業熱力学Ⅱ・演習	M1・M2	2	3	選	3	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	熱流体機械	M1	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		要素・材料	DP1	機械材料	M1	1	2	選	2	半期(前)	講義		
			DP1	機械要素Ⅱ	M1・M2	1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	塑性力学	M1	1	2	選	3	半期(後)	講義		
			DP1	CAD/CAE	M1	1	2	選	3	半期(前)	講義		
	加工・制御コース専門科目	材力・機力	DP1	材料力学Ⅱ・演習	M1・M2	2	3	選	2	半期(後)	講義・演習		70100
			DP1	機械力学Ⅱ・演習	M1・M2	2	3	選	3	半期(前)	講義・演習		
			DP1	機械応用力学	M2	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		加工・制御	DP1	計測工学	M2	1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP1	機械加工学Ⅱ	M1・M2	1	2	選	2	半期(後)	講義		
			DP1	制御工学	M2	1	2	選	3	半期(前)	講義		
			DP1	ロボット工学	M2	1	2	選	3	半期(後)	講義		
	コース専門科目	実験・実習	DP2	機械工学実験・実習Ⅰ		1	1	必	2	半期(前)	実験・実習		70100
			DP2	機械工学実験・実習Ⅱ		1	1	必	2	半期(後)	実験・実習		70100
			DP2	機械工学実験・実習Ⅲ		1	1	必	3	半期(前)	実験・実習		70100
			DP2	機械工学実験・実習Ⅳ		1	1	必	3	半期(後)	実験・実習		70100
			DP2	機械設計製図Ⅰ		1	1	必	2	半期(前)	実験・実習		70100
			DP2	機械設計製図Ⅱ		1	1	必	2	半期(後)	実験・実習		70100
			DP2	機械設計製図Ⅲ		1	1	必	3	半期(前)	実験・実習		70100
			DP2	機械設計製図Ⅳ		1	1	必	3	半期(後)	実験・実習		70100
		ゼミ	DP2	機械システムゼミ		2	2	必	3	四半期(後後)	講義	【アセスメント科目】	
		卒研	DP2	機械工学特別卒業研究		3	3	選	3	半期(後)	実験・実習	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			DP2	機械工学卒業研究Ⅰ		3	3	必	4	半期(前)	実験・実習		
			DP2	機械工学卒業研究Ⅱ		3	3	必	4	半期(後)	実験・実習		
		キャリア	DP4	機械工学インターンシップA		2	2	選	2,3,4	半期(前)	実験・実習	随時	
			DP4	機械工学インターンシップB		2	2	選	2,3,4	半期(後)	実験・実習	随時	
			DP4	情報と職業入門		1	1	選	1,2	四半期(前前)	講義		
			DP4	情報と職業		1	2	選	全	半期(後)	講義		60600
			DP4	工業技術概論		1	2	自	3	半期(後)	講義		70100
			DP4	職業指導		1	2	自	3	半期(前)	講義		70200

※ コース専門科目でコースコードが記載されていない科目は全て主コースのコース専門科目となります。

コースコードは、M1：設計・解析コース、M2：加工・制御コース。
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

電子情報・生体医工学系

(Division of Electronic Information and Biomedical Engineering)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

電子情報・生体医工学系履修モデル

授業科目配当表

【電子情報・生体医工学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材養成に関する目的)

電子情報・生体医工学系では、技術者として豊かな人間性と電気電子工学の知識と技術を有し、電子機器、医療機器、福祉機器、材料・デバイスなどの電子システムのものづくりを通して、未来の人間社会に貢献できる技術者を養成します。

(教育研究上の目的)

電子情報・生体医工学系では、電気電子工学を基礎として、社会のニーズに応じた新しいものづくりや、起こりうる社会問題に対して、人間や環境に配慮した解決方法を見いだす能力を、教育研究を通じて養います。

教育目標

電子情報・生体医工学系では、電気電子工学を学ぶとともに、人間の特性についても学ばせます。人間の特性を理解し、人間と共存することのできる電気電子システムの研究、開発、設計を通して人間社会に貢献できる豊かな人間性と、電子回路、電子制御、電子情報通信、電子材料、電子デバイスなどの、電気電子工学分野の素養と知識と技術を有する技術者の育成を目的にしています。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の電子情報・生体医工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 実学尊重を旨として、電気電子工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。(DP1)

⑵ 自立した発想のもとに電気電子工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現する能力を身につけること。(DP2)

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3)

⑷「技術は人なり」の精神のもと、倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の電子情報・生体医工学系は、２つの専門コースを設け、電気・電子工学、人間医工学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的に、以下の方針に基づいて教育課程

を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを電子情報・生体医工学系から１つ、副コースを電子情報・生体医工学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴（DP1 に対応）実学尊重を旨とし、電子情報・生体医工学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵（DP2 に対応）課題・問題解決能力の育成を目的とした実験科目およびゼミ科目を、学年進行に従い体系的に配置します。

⑶（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜電子情報コース E1 ＞

電子情報･生体医工学系における教育課程編成･実施の方針を踏まえ、電子情報コースは、ハードウェアとソフトウェアの両分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

①（DP1 に対応）電気電子工学分野におけるハードウェアとソフトウェアの技術を養うため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

②（DP1 に対応）ハードウェアとソフトウェア技術のそれぞれの特性の理解に必要な知識や思考力を育むため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

③（DP2 に対応）電子情報工学に関する諸問題の解決に向けての研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験およびゼミ科目を進級条件科目として配置します。

＜電子システムコース E2 ＞

電子情報・生体医工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、電子システムコースは、電子工学分野、システム工学の両分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

①（DP1 に対応）電子システム工学分野における電子工学とシステム工学の技術を養うため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

②（DP1 に対応）電子工学とシステム工学の理解に必要な知識や思考力を育むため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

③（DP2 に対応）電子システム工学に関する諸問題の解決に向けての研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験を進級条件科目として配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

電子情報・生体医工学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた「電気電子工学分野、ならびに生体医工学分野の高度専門技術者」を養成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

- ◆ 電気電子工学分野、ならびに生体医工学分野に強く興味を持ち、数学、物理、英語に対して高い能力、関心をもった学生
- ◆ ものづくりを学ぶことを通して主体性を持って多様な人々と協働し、自ら課題を発見、解決しようとする意欲のある学生
- ◆ 講義、演習、実験・実習、課題・問題解決型の各科目を通し、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、通信・情報、エネルギー・制御、材料・エレクトロニクスなどの電気電子工学分野、ならびに医療機器、人工臓器、再生医療、福祉機器などの生体医工学分野のより高度な専門知識を身につけることを目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

- ◆ 理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分に理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。
  加えて、物理基礎、物理は十分な基礎学力を身につけておくこと。電気電子工学分野の専門科目を学ぶために必要となる情報の科目や工業科等における電気・電子分野の科目に関する知識を身につけておくこと。

アセスメント・ポリシー

電子情報・生体医工学系は、学系のディプロマ・ポリシー【⑴ 電気電子工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。(DP1) ⑵ 自立した発想のもとに電気電子工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現する能力を身につけること。(DP2) ⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3) ⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4) ⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)】に沿って、学生の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、機関・プログラム・授業科目の各レベルおよび課外活動において、アセスメントを実施し、教育改善に活用していきます。

なお、学系レベルにおいては、【在学時】各種内部指標（GPA、修得単位数等）、各種アセスメント（学内専門力調査等）、アドバイザーによる学修指導等、【卒業時】各種内部指標（卒業率、就職率、大学院進学率等）等を活用します。

また、間接指標として、各種内部指標（授業アンケート等）等を活用します。

以上を以って、不断の教育改善に努めます。

理工学部　理工学科　電子情報・生体医工学系（E1 電子情報コース）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	電子情報・電子システム工学共通	電気回路Ⅰ・演習	3	電気回路Ⅱ・演習	3	電子情報回路Ⅰ・演習	3	電子情報回路Ⅱ・演習	3	制御工学Ⅰ・演習	3	制御工学Ⅱ・演習	3				
		電子情報・生体医工学概論	2	電磁気学Ⅰ・演習	3	電磁気学Ⅱ・演習	3	過渡現象	2	信号処理工学A	2	信号処理工学B	2				
						電気電子計測工学	2	電子物理学	2	電子デバイス工学	2	人工臓器学	2				
												メカトロニクス	2				
	電子情報									ディジタル回路	2	通信工学	2				
										応用プログラミング	2						
										応用数値解析	2						
	電子システム・生体医工学									医用電子工学	2						
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	ゼミ							電子工学ゼミA	2	電子工学ゼミB	2	電子情報・生体医工学総合演習	2				
	実験・実習			電子工学基礎実習	1	基礎電子工学実験Ⅰ	3	基礎電子工学実験Ⅱ	3	電子情報工学実験Ⅰ	3	電子情報工学実験Ⅱ	3				
	卒業研究											電子情報・生体医工学特別卒業研究	3	電子情報・生体医工学卒業研究Ⅰ	3	電子情報・生体医工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎			生理学	2	工業数学Ⅰ・演習	3	工業数学Ⅱ・演習	3								
						コンピュータ工学Ⅰ	2	コンピュータ工学Ⅱ	2								
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			電子情報・生体医工学インターンシップA	2	電子情報・生体医工学インターンシップB	2	電子情報・生体医工学インターンシップA	2	電子情報・生体医工学インターンシップB	2	電子情報・生体医工学インターンシップA	2	電子情報・生体医工学インターンシップB	2
												電子情報・生体医工学特別講義	2				
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2	職業指導	2	工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　電子情報・生体医工学系（E2 電子システムコース）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	電子情報・電子システム工学共通	電気回路Ⅰ・演習	3	電気回路Ⅱ・演習	3	電子情報回路Ⅰ・演習	3	電子情報回路Ⅱ・演習	3	制御工学Ⅰ・演習	3	制御工学Ⅱ・演習	3				
		電子情報・生体医工学概論	2	電磁気学Ⅰ・演習	3	電磁気学Ⅱ・演習	3	過渡現象	2	信号処理工学A	2	信号処理工学B	2				
						電気電子計測工学	2	電子物理学	2	電子デバイス工学	2	人工臓器学	2				
												メカトロニクス	2				
	電子システム・生体医工学									パワーエレクトロニクス	2	エネルギー変換工学	2				
										医用電子工学	2	先端エレクトロニクス概論	2				
										人間工学	2	材料学	2				
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	ゼミ							電子工学ゼミA	2	電子工学ゼミB	2	電子情報・生体医工学総合演習	2				
	実験・実習			電子工学基礎実習	1	基礎電子工学実験Ⅰ	3	基礎電子工学実験Ⅱ	3	電子システム工学実験Ⅰ	3	電子システム工学実験Ⅱ	3				
	卒業研究											電子情報・生体医工学特別卒業研究	3	電子情報・生体医工学卒業研究Ⅰ	3	電子情報・生体医工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎			生理学	2	工業数学Ⅰ・演習	3	工業数学Ⅱ・演習	3								
						コンピュータ工学Ⅰ	2	コンピュータ工学Ⅱ	2								
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			電子情報・生体医工学インターンシップA	2	電子情報・生体医工学インターンシップB	2	電子情報・生体医工学インターンシップA	2	電子情報・生体医工学インターンシップB	2	電子情報・生体医工学インターンシップA	2	電子情報・生体医工学インターンシップB	2
												電子情報・生体医工学特別講義	2				
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2	職業指導	2	工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

電子情報・生体医工学系履修モデル

1. 電子工学・情報工学・生体医工学の必要性

これまでの目覚ましい工学技術の発展は、人々の生活様式からコミュニケーション方法までを大きく変えてきました。反面、工学技術は、使用環境や使う人間のことを忘れてつくられ使われると、環境汚染をはじめとする自然や人間に有害となることも分かってきました。このため、自然、社会、人間にとってやさしいものづくりには、技術の追求に加え、人間や自然現象をより広く深く知ってこそ、よりよく役に立つ技術ができると考えられます。そもそも専門家が使う電子機器システムでさえ、設計者の想う通りに動かすには多くの工夫が必要です。今は、多くの電子機器システムは家庭内で使われるようになり、社会からはより多くの場面で安定して活用でき、さらに使用者の意の通りに、賢くふるまうことを求められています。このような電子機器システムをつくれる工学技術者には、手を動かし試行錯誤を繰り返した経験に加え、広く知識を取得し、活用できる問題解決能力が求められます。自ら社会で活躍する工学技術者にとって求められる「必要な資質」とは何かということを常に念頭におきながら、学生生活を送ってください。

2. 学系の学習・教育目標

私たちの周りには多くの電子機器システムが溢れていますが、これらひとつひとつは、要素部品からできています。電子機器システムの技術者は、それぞれの要素部品と部品間の関係、各部品のふるまいを物理法則や情報に関する理論に基づき扱えることで必要な機能を作り上げていきます。また、多くのシステムは人間が扱うことから、生体としての人間、人間と機械の相互関係を理解したものづくりの能力が必要です。人間の特性を理解し、その特性に合わせたシステムを構築することで、システムが人間の技能や習熟度に適応することが望まれます。このような、電子機器主導型のシステムから、人間主導型のシステムへの転換は、我々の社会生活の全てに関わる大きな技術革新として位置づけられるでしょう。そこで「電子情報・生体医工学系」では、電気電子工学の基礎をしっかりと学ぶとともに、人間の特性を理解するための学問についても学びます。人間の特性を理解し、人間とうまく共存することのできる、交通機械、産業機械、家庭用電子機器、医療機器、生活支援機器、先端材料などのものをつくり、動かす技術の研究、開発、設計を通して人間社会に貢献できる、豊かな人間性と電気電子工学の知識および技術を有する技術者の育成を目的としています。

3. 学系カリキュラムの概要

本学系は、根幹となる電気電子工学や数学情報技術の基礎専門科目、そして電子情報通信、電子システム、電子デバイス、生体医工学、電子制御などの専門応用科目といった、ものづくりに直結した分野で構成されています。カリキュラムはコース毎にこれら基礎分野の習得を行えるよう編成しており、さらには「技術者」に求められる応用力を養えるよう、大学院進学を視野に入れ、医療機器産業をはじめとする産業応用全般において、電気電子系の業界の幅広い分野の工学技術を学べるよう工夫しています。

授業科目は学系共通科目、コース専門科目、技術者倫理、自然科学技術、数学、情報、人間形成、英語に区別されます。学生は、１年次に配当されている電子情報・生体医工学概論、電気回路、電磁気学、生理学等の専門科目を履修することにより、コースを選択する前に各コースで学ぶ専門的な内容を把握することができます。進級・卒業条件は選択した主・副コースによって異なりますので、詳細は電子情報・生体医工学系進級条件表を参照してください。

電子情報・生体医工学系では学生自らが履修計画を立て、予習・復習も含め積極的に授業に参加し、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものとするように努力するとともに、分からなかった部分をそのままにしないでオフィスアワーを活用して教員へ質問する他に、科目の教育補助を担当している大学院生への質問・相談、基礎学力への不安は学習サポートセンターを活用し勉学に励んでください。

なお、本学埼玉鳩山キャンパスには、大学院理工学研究科が設置されており、毎年多くの先輩が大学院に進学しています。大学院では、学部と異なり、社会で即戦力として活躍できる研究、開発、設計が行える総合的な能力のある高度技術者を育成しています。ぜひ大学院への進学も視野に入れて勉学に努めてください。

4. 各コースの概要

⑴ 電子情報コース

電子情報コースでは、電気電子工学のハードウェアとソフトウェアの技術に関し特色ある電子工学と情報工学について、「信号処理工学」、「通信工学」、「ディジタル回路」、「応用プログラミング」などの専門科目を体系的に学ぶことで、ものづくりに応用展開できる技術を学びます。人間の生活を支える情報通信機器や、生体の特性を理解するための生体信号計測や情報処理技術などは、電気電子工学や情報工学をベースとした様々な先端工学技術が集まったシステムです。本コースでは、ベースとなる電気電子工学とともに、対象となる人間の生理学、医学的知識について学ぶことで、人間の特性を理解し、それに適応した電子情報機器や、生活支援機器などのシステムを作り上げることのできる能力の獲得を目標としています。

⑵ 電子システムコース

電子システムコースでは、電気電子機器を総合的に動かす技術であるシステム工学と制御工学について、「電子デバイス工学」、「電気電子計測工学」、「パワーエレクトロニクス」、「材料学」、「エネルギー変換工学」などの専門科目を体系的に学ぶことで、ものづくりに応用展開できる技術を学びます。生体の機能を代替する人工臓器、手術ロボットをはじめとする様々な医療機器、再生医療を支える再生医工学などは、電気電子工学をベースとした様々な先端工学技術が集まったシステムです。本コースでは、ベースとなる電気電子工学とともに、対象となる人間の生理学、医学的知識について学ぶことで、人間の特性を理解し、それに適応した診断支援機器などのシステムを作り上げることのできる能力の獲得を目標としています。

5.　1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

学習の進め方は高校時代と違い、まず、「将来何になりたいのか」、「どのようなエンジニアになりたいか」、「何の技術の専門家になるのか」を考え目標をもつことが大学生活を有意義に送る上で必要です。なお、2 年次へ進級する上での最低条件は、「1 年次に配当されている科目から **30 単位以上**取得すること」です。4 年次では卒業研究に専念するためには、3 年次終了までに 120 単位以上の取得を目指すのが望ましく、各年次で年間 40 単位を目安として取得するよう努めてください。

1 年次に配当されている「電子情報・生体医工学概論」は必ず 1 年次に履修してください。各コースがどのような特徴を持っているかを分かりやすく説明します。卒業後、どのような職につき、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができ、今後、自ら学んでいく専門科目の位置づけや重要性を学ぶことができます。この科目は、主コース・副コースを選択する際に重要な科目になります。

「電気回路Ⅰ・演習」、「電気回路Ⅱ・演習」、「電磁気学Ⅰ・演習」、「生理学」は、いずれも各専門分野の基礎を扱う科目です。また、「電気回路Ⅰ・演習」、「電気回路Ⅱ・演習」、「電磁気学Ⅰ・演習」の取得は 4 年次への進級条件です。科目配置図やオンラインシラバスを良く見てしっかりと 4 年間の履修計画を立て、必要な科目は積極的に履修するようにしてください。

6.　主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

⑴ 学系共通科目の履修（2 コース共通）

本学系の目標である「人間にやさしいものづくり」に携わる技術者育成は 2 年次から本格的に開始し、多くの専門科目が配当されています。学系内における各専門科目と 2 つのコースとの関連は、科目配置図を参照してください。専門科目の中で、どちらのコースの学生にとっても、電気電子工学を志すのに学ぶべき科目は学系共通科目として位置づけられています。「電磁気学Ⅱ・演習」、「電子情報回路Ⅰ・演習」、「電子情報回路Ⅱ・演習」、「制御工学Ⅰ・演習」、「制御工学Ⅱ・演習」は電子工学における重要な基幹科目であり、必修科目です。また、「電磁気学Ⅱ・演習」、「電子情報回路Ⅰ・演習」、「電子情報回路Ⅱ･演習」の取得は 4 年次への進級条件です。コース専門科目とのつながりと進級･卒業に必要な単位数を良く考えて、履修科目を決めてください。

⑵ 電子情報コースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年

2 年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。3 年次前期終了時の単位数によって 4 年次の卒業研究のための研究室仮配属の可否を判断します。さらに 3 年次から 4 年次への進級条件として、1 年次から 3 年次に配当されている科目から最低 **104 単位**、4 年次に研究や就職活動を十分に行うには 120 単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である 104 単位の中には、少なくとも、人間形成科目（12 単位）、英語科目（6 単位）、技術者倫理（2 単位）、数学（4 単位）、自然科学技術（6 単位）、情報（2 単位）、学系共通科目（**23 単位**）、コース専門科目の中からコースコード **E1**（E1：電子情報コース）のついた科目（**18 単位**）と副コース（自学系）として選んだコースコード **E2** をもつ科目（**5 単位**）が含まれていなければ 、4 年次への進級はできません。副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、自学系の進級条件表をよく確認してください。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、1 科目でも多く学び、十分専門領域の知識をもった信頼できる工学技術者として活躍できるよう履修計画を立ててください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、2 年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある電気電子工学の分野を中心に、数学情報技術、電子情報通信、電子システム、電子デバイス、生体医工学、電子制御などの分野の科目を履修することを薦めます。特に、**3 年次の「電子情報・生体医工学特別講義」**は、進路に関連した科目であるため履修することを強く薦めます。

(b)4 年次

4 年次生は、4 年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位**を**十二分に余裕を持って**取得するようにしてください。

⑶ 電子システムコースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年次

2 年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。3 年次前期終了時の単位数によって 4 年次の卒業研究のための研究室仮配属の可否を判断します。さらに 3 年次から 4 年次への進級条件として、1 年次から 3 年次に配当されている科目から最低 **104 単位**、4 年次に研究や就職活動を十分に行うには 120 単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である 104 単位の中には、少なくとも、人間形成科目（12 単位）、英語科目（6 単位）、技術者倫理（2 単位）、数学（4 単位）、自然科学技術（6 単位）、情報（2 単位）、学系共通科目 **(23 単位)**、コース専門科目の中からコースコード **E2**（E2：電子システムコース）のついた科目 **(18 単位)** と副コース（自学系）として選んだコースコー

ド **E1** をもつ科目（**5 単位**）が含まれていなければ、4 年次への進級はできません。副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、自学系の進級条件表をよく確認してください。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、1 科目でも多く学び、十分専門領域の知識をもった信頼できる工学技術者として活躍できるよう履修計画を立ててください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、2 年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

コース専門科目に関しては、電子情報・生体医工学系授業科目配当表にある電気電子工学の分野を中心に、数学情報技術、電子情報通信、電子システム、電子デバイス、生体医工学、電子制御などの分野の科目を履修することを薦めます。特に、**3 年次の「電子情報・生体医工学特別講義」**は、進路に関連した科目であるため履修することを強く薦めます。

(b)4 年次

4 年次生は、4 年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位を十二分に余裕を持って**取得するようにしてください。

7. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方（2 コース共通）

進級条件は、主コースとした学系により異なります。進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

8. その他の注意事項

⑴ 大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学の受験資格を認めています。進学を希望する学生は、早い段階から、受講する科目に十分時間をかけて学ぶように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業者よりもより専門性の高い新技術の研究、開発に関する職種、部門に就職することができます。また、大学院在籍中に、海外の大学院へ留学し異文化を学び、その中で活躍する能力を身につけることもできます。

電気電子工学分野の大学院は、開発を中心とした高級技術者や研究者、専門知識として電気・電子・情報システム技術を教える高校教諭、高等専門学校や大学等の教育に従事する教育研究者を目指す登竜門でもあります。大学院在籍中に奨学金を得て、フランスの精密機械大学院大学（ＥＮＳMM）等の海外の研究機関に留学し、研究と文化の違いを学ぶ大学院生もいます。

⑵ 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。最近は自由応募で就職する学生もいますが、卒業生のいる企業への学校推薦での就職も環境や仕事の情報などのアドバイスも受けられることからメリットがあります。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、基礎学力はあって当たり前として、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や主体性、協調性です。これらは、実験や実習の中で積極的な活動を通じて培われ、日常生活における習慣や取り組みによって蓄積されるものです。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

なお、電気・電子・情報システム・医療機器などの技術開発に携わる職種の就職においては、本人の技術に対する取り組み方、卒業研究の進め方とその内容、大学での学業に対する取り組み方などの積極性、責任感、論理性を重視する場合がありますので、将来何をやりたいか目標を持って広く、深く勉学に励んでください。

電子情報・生体医工学系の履修配置図

	【 電子情報コース 】	【 電子システムコース 】	
4年	[電子情報コース専門科目] 【前期】 電子情報・生体医工学卒業研究Ⅰ 【後期】 電子情報・生体医工学卒業研究Ⅱ	[電子システムコース専門科目] 【前期】 電子情報・生体医工学卒業研究Ⅰ 【後期】 電子情報・生体医工学卒業研究Ⅱ	共通教育科目 専門基礎科目 教職科目
3年	[電子情報コース専門科目] 【前期】 信号処理工学 A、電子デバイス工学、医用電子工学 応用数値解析、応用プログラミング ディジタル回路 電子情報工学実験Ⅰ 電子工学ゼミ B 【後期】 信号処理工学 B、人工臓器学、メカトロニクス 通信工学 電子情報工学実験Ⅱ 電子情報・生体医工学総合演習	[電子システムコース専門科目] 【前期】 信号処理工学 A、電子デバイス工学 医用電子工学、パワーエレクトロニクス 人間工学 電子システム工学実験Ⅰ 電子工学ゼミ B 【後期】 信号処理工学 B、人工臓器学、メカトロニクス 先端エレクトロニクス概論、材料学 エネルギー変換工学 電子システム工学実験Ⅱ 電子情報・生体医工学総合演習	
	[学系共通科目] 【前期】 制御工学Ⅰ・演習 【後期】 制御工学Ⅱ・演習、電子情報・生体医工学特別講義		
2年	[電子情報コース専門科目] 【前期】 電気電子計測工学 基礎電子工学実験Ⅰ 【後期】 電子物理学 基礎電子工学実験Ⅱ	[電子システムコース専門科目] 【前期】 電気電子計測工学 基礎電子工学実験Ⅰ 【後期】 電子物理学 基礎電子工学実験Ⅱ	
	[学系共通科目] 【前期】 工業数学Ⅰ・演習、コンピュータ工学Ⅰ、電磁気学Ⅱ・演習、電子情報回路Ⅰ・演習 【後期】 工業数学Ⅱ・演習、コンピュータ工学Ⅱ、電子情報回路Ⅱ・演習、過渡現象、電子工学ゼミ A		
1年	[学系共通科目] 【前期】電子情報・生体医工学概論、電気回路Ⅰ・演習 【後期】電気回路Ⅱ・演習、電磁気学Ⅰ・演習、生理学、電子工学基礎実習		
	[共通教育科目・専門基礎科目] 人間形成、英語、技術者倫理、数学、自然科学技術、情報		

その他：電子情報・生体医工学特別卒業研究（3 年時）、電子情報・生体医工学インターンシップ A・B（2 年～4 年次）、職業指導（3 年次）

電子情報・生体医工学系　進級条件表　RE
（2024年度カリキュラム）

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1. 下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間形成			**12**	16
英語			**6**	8
技術者倫理			**2**	2
数学			**4**	6
自然科学技術			**6（※1）**	8（※1）
情報			**2**	4
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	**23**	34
	コース専門科目	主コース	**18**	26
		副コース	**5**	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	**19**	28
	コース専門科目	主コース	**18**	26
	指定科目群（※2）	副コース	**9**	14

（※2）指定科目群については、P176 を参照すること。

2. 上記に加え、所属する主コースの下記科目を全て履修し、それらの単位を全て修得すること。

E1　電子情報コース	E2　電子システムコース
電気回路Ⅰ・演習	電気回路Ⅰ・演習
電気回路Ⅱ・演習	電気回路Ⅱ・演習
電磁気学Ⅰ・演習	電磁気学Ⅰ・演習
電磁気学Ⅱ・演習	電磁気学Ⅱ・演習
電子情報回路Ⅰ・演習	電子情報回路Ⅰ・演習
電子情報回路Ⅱ・演習	電子情報回路Ⅱ・演習
電子工学ゼミA	電子工学ゼミA
基礎電子工学実験Ⅰ	基礎電子工学実験Ⅰ
基礎電子工学実験Ⅱ	基礎電子工学実験Ⅱ
電子情報工学実験Ⅰ	電子システム工学実験Ⅰ
電子情報工学実験Ⅱ	電子システム工学実験Ⅱ
電子工学ゼミB	電子工学ゼミB
電子情報・生体医工学総合演習	電子情報・生体医工学総合演習

（※1）「科学技術概論A・B・C・D」の取り扱いは以下のとおり。

卒業所要単位数への算入対象科目	卒業所要単位数に算入されない科目	卒業所要単位数への算入上限単位数
科学技術概論A	科学技術概論B・C・D	2（1科目）

2024（令和6）年度カリキュラム 電子情報・生体医工学系 授業科目配当表

RE

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	電気電子工学	DP1	電子情報・生体医工学概論		1	2	選	1	半期(前)	講義		70100
			DP1	電気回路Ⅰ・演習		1.5	3	必	1	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	電気回路Ⅱ・演習		1.5	3	必	1	半期(後)	講義・演習		70100
			DP1	電磁気学Ⅰ・演習		1.5	3	必	1	半期(後)	講義・演習		70100
			DP1	電磁気学Ⅱ・演習		1.5	3	必	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	電子情報回路Ⅰ・演習		1.5	3	必	2	半期(前)	講義・演習		60300
			DP1	電子情報回路Ⅱ・演習		1.5	3	必	2	半期(後)	講義・演習		60300
			DP1	過渡現象		1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP2	電子工学基礎実習		1	1	選	1	半期(後)	実験・実習		
			DP2	電子工学ゼミA		1	2	必	2	半期(後)	講義・演習		
		数学情報技術	DP3	工業数学Ⅰ・演習		1.5	3	選	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP3	工業数学Ⅱ・演習		1.5	3	選	2	半期(後)	講義・演習		70100
			DP3	コンピュータ工学Ⅰ		1	2	選	2	半期(前)	講義・演習		60200
			DP3	コンピュータ工学Ⅱ		1	2	選	2	半期(後)	講義・演習		60500
		生体医工学	DP3	生理学		1	2	選	1	半期(後)	講義		
		電子制御	DP1	制御工学Ⅰ・演習		1.5	3	必	3	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	制御工学Ⅱ・演習		1.5	3	必	3	半期(後)	講義・演習		70100
		キャリア	DP4	電子情報・生体医工学特別講義		1	2	選	3	半期(後)	講義		
	電子情報コース専門科目	電子情報通信	DP1	電気電子計測工学	E1・E2	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	70100
			DP1	信号処理工学A	E1・E2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	60200
			DP1	信号処理工学B	E1・E2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	60200
			DP1	応用数値解析	E1	1	2	選	3	半期(前)	講義		60200
			DP1	応用プログラミング	E1	1	2	選	3	半期(前)	講義・演習		
			DP1	通信工学	E1	1	2	選	3	半期(後)	講義		60400
		電子デバイス	DP1	電子物理学	E1・E2	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	70100
			DP1	電子デバイス工学	E1・E2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	ディジタル回路	E1	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
		生体医工学	DP1	医用電子工学	E1・E2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	人工臓器学	E1・E2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	
		電子制御	DP1	メカトロニクス	E1・E2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	70100
		実験	DP2	基礎電子工学実験Ⅰ	E1・E2	3	3	必	2	半期(前)	実験・実習	※1	70100
			DP2	基礎電子工学実験Ⅱ	E1・E2	3	3	必	2	半期(後)	実験・実習	※1	70100
			DP2	電子情報工学実験Ⅰ	E1	3	3	必	3	半期(前)	実験・実習		60400
			DP2	電子情報工学実験Ⅱ	E1	3	3	必	3	半期(後)	実験・実習		60500
		ゼミ	DP2	電子工学ゼミB	E1・E2	1	2	必	3	半期(前)	演習	※1	
		総合演習	DP1・2	電子情報・生体医工学総合演習	E1・E2	1	2	必	3	半期(後)	演習	※1 【アセスメント科目】	
	電子システムコース専門科目	電子システム	DP1	電気電子計測工学	E1・E2	1	2	選	2	半期(前)	講義	※1	70100
			DP1	信号処理工学A	E1・E2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	60200
			DP1	信号処理工学B	E1・E2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	60200
			DP1	先端エレクトロニクス概論	E2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	人間工学	E2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
		電子デバイス	DP1	電子物理学	E1・E2	1	2	選	2	半期(後)	講義	※1	70100
			DP1	電子デバイス工学	E1・E2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	材料学	E2	1	2	選	3	半期(後)	講義		
		生体医工学	DP1	医用電子工学	E1・E2	1	2	選	3	半期(前)	講義	※1	
			DP1	人工臓器学	E1・E2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	
		電子制御	DP1	パワーエレクトロニクス	E2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	エネルギー変換工学	E2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	メカトロニクス	E1・E2	1	2	選	3	半期(後)	講義	※1	70100
		実験	DP2	基礎電子工学実験Ⅰ	E1・E2	3	3	必	2	半期(前)	実験・実習	※1	70100
			DP2	基礎電子工学実験Ⅱ	E1・E2	3	3	必	2	半期(後)	実験・実習	※1	70100
			DP2	電子システム工学実験Ⅰ	E2	3	3	必	3	半期(前)	実験・実習		70100
			DP2	電子システム工学実験Ⅱ	E2	3	3	必	3	半期(後)	実験・実習		70100
		ゼミ	DP2	電子工学ゼミB	E1・E2	1	2	必	3	半期(前)	演習	※1	
		総合演習	DP1・2	電子情報・生体医工学総合演習	E1・E2	1	2	必	3	半期(後)	演習	※1 【アセスメント科目】	

コースコードは、E1:電子情報コース、E2:電子システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

2024（令和6）年度カリキュラム 電子情報・生体医工学系 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	コース専門科目	卒研等	DP2	電子情報・生体医工学特別卒業研究		3	3	選	3	半期(後)	実験・実習	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			DP2	電子情報・生体医工学卒業研究Ⅰ		3	3	必	4	半期(前)	実験・実習		
			DP2	電子情報・生体医工学卒業研究Ⅱ		3	3	必	4	半期(後)	実験・実習		
		キャリアデザイン	DP4	電子情報・生体医工学インターンシップA		2	2	選	2,3,4	半期(前)	実験・実習	随時	
			DP4	電子情報・生体医工学インターンシップB		2	2	選	2,3,4	半期(後)	実験・実習	随時	
			DP4	情報と職業入門		1	1	選	1,2	四半期(前前)	講義		
			DP4	情報と職業		1	2	選	全	半期(後)	講義		60600
			DP4	情報倫理		1	2	自	2	半期(後)	講義		60100
			DP4	工業技術概論		1	2	自	3	半期(後)	講義		70100
			DP4	職業指導		1	2	自	3	半期(前)	講義		70200

※1の科目を履修した場合は、同一科目名の他コース科目を履修することはできません。

※ コース専門科目でコースコードが記載されていない科目は全て主コースのコース専門科目となります。

コースコードは、E1:電子情報コース、E2:電子システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

建築・都市環境学系

(Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

建築・都市環境学系履修モデル

授業科目配当表

【建築・都市環境学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材の養成に関する目的)

人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、社会基盤の創造と保全に寄与でき、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の養成を目的とします。

(教育研究上の目的)

建築・都市環境学系の教育研究を通じて、社会が直面する諸問題を多面的に考察・評価し、解決方法を論理的に導きだす能力を培います。

教育目標

建築・都市環境学系の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

建築学、土木工学、都市工学、環境学などの専門知識や技術を教授すると共に、人間性・社会性・国際性を育み、社会が直面する諸問題を多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の育成を目標とします。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

建築・都市環境学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 実学尊重を旨として、建築・都市環境学の分野において必要な専門的知識や技術、ならびに計画的に仕事を進め遂行することができる建設技術者としての能力を身につけること。(DP1)

⑵ 豊かな創造力や柔軟な思考力を有し、社会が直面している諸問題を認識して、その問題を解決することができる建設技術者としての実践力、コミュニケーション能力を身につけること。(DP2)

⑶ 人間と自然とが共生できる持続可能な社会の構築に寄与することができる理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。(DP3)

⑷「技術は人なり」の精神のもと、良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質・感性を有し、生涯に渡り研鑽を積むことのできる心身健全な建設技術者としての素養を身につけること。(DP4)

⑸ 異文化理解の資質・感性を有し、意見や情報を当事者間で適切に授受することができ、国際的に活躍できる建設技術者としての能力を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

建築・都市環境学系は、２つの専門コースを設け、建築学、土木工学、都市工学、環境学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを建築・都市環境学系から１つ、副

コースを建築・都市環境学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴（DP1 に対応）実学尊重を旨とし、建築・都市環境学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵（DP2 に対応）実験、実習、デザイン演習、プロジェクト科目、卒業研究を、学年進行に従い体系的に配置します。

⑶（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。「技術は人なり」の精神のもと、豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、英語科目に加え、国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜建築コース G1 ＞

（DP1 に対応）「建築計画・意匠、建築法規、建築構造、建築環境・設備など」建築学を主コースとして、「都市計画、景観計画、防災工学、環境衛生工学、リモートセンシングなど」都市・環境学を副コースとして履修できるように配置します。

＜都市環境コース G2 ＞

（DP1 に対応）「都市計画、景観計画、防災工学、環境衛生工学、リモートセンシングなど」都市・環境学を主コースとして、「建築計画・意匠、建築法規、建築構造、建築環境・設備など」建築学を副コースとして履修できるように配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

建築・都市環境学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を備えた「地球環境に優しい未来型の建築・都市環境の技術者・専門家」を育成します。本学の教育・研究理念である「技術は人なり」に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

- ◆ 地球に優しく、人間と自然が調和した建築・都市環境を構築することに大いに興味を持ち、専門分野や一般分野を幅広く学習し、その実現のための知識を吸収する能力を持った学生
- ◆ 実験・実習科目、デザイン演習科目、卒業研究等において、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見・設定し、それらを解決しようと努める意欲のある学生
- ◆ 各種のプロジェクト科目や学部共通教育を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観

を習得し建築・都市環境の技術者や専門家を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆ 理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲を学習しておくことが望ましい。
また、高等学校課程の物理基礎及び物理の範囲を学習しておくことが望ましい。

アセスメント・ポリシー

建築・都市環境学系は、学系のディプロマ・ポリシー【⑴ 建築・都市環境学の分野において必要な専門的知識や技術、ならびに計画的に仕事を進め遂行することができる建設技術者としての能力を身につけること。(DP1) ⑵ 豊かな創造力や柔軟な思考力を有し、社会が直面している諸問題を認識して、その問題を解決することができる建設技術者としての実践力、コミュニケーション能力を身につけること。(DP2) ⑶ 人間と自然とが共生できる持続可能な社会の構築に寄与することができる理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。(DP3) ⑷ 良識ある人間性，倫理性，福祉への眼差し等の資質・感性を有し，生涯に渡り研鑽を積むことのできる心身健全な建設技術者としての素養を身につけること。(DP4) ⑸ 異文化理解の資質・感性を有し、意見や情報を当事者間で適切に授受することができ、国際的に活躍できる建設技術者としての能力を身につけること。(DP5)】に沿って、学生の入学時から卒業時までの成長を視野に入れ、機関・プログラム・授業科目の各レベルおよび課外活動において、アセスメントを実施し、教育改善に活用していきます。

なお、学系レベルにおいては、【在学時】各種内部指標（GPA、修得単位数等)、各種アセスメント（学内専門力調査等)、アドバイザーによる学修指導等、【卒業時】各種内部指標（卒業率、就職率、大学院進学率等）等を活用します。

また、間接指標として、各種内部指標（授業アンケート等）等を活用します。

以上を以って、不断の教育改善に努めます。

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	数理・情報			基礎統計学	2	計画数理	2										
	構造			静力学	2	応用力学A・演習	3	応用力学B	2	鋼構造学	2						
										鉄筋コンクリート工学	2						
	地盤							地盤工学A・演習	3	地盤工学B	2						
	水理					水理学A・演習	3	水理学B	2								
	測量					測量学・演習	3										
	材料					建設材料学	2										
	施工											建設施工	2				
	建築コース専門							住居論	2	建築デザイン論	2	建築法規（後前期）	1				
								建築計画学	2	建築環境工学	2	耐震設計法	2				
								建築史	2			建築構法	2				
												建築設備	2				
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	デザイン			建築都市デザイン演習Ⅰ	3	建築都市デザイン演習ⅡA	2	建築都市デザイン演習ⅡB	2	建築都市デザイン演習ⅢA	2	建築都市デザイン演習ⅢB	2				
												建築・都市環境総合演習	2				
	実験・実習					材料実験	1	土質実験	1	構造実験	1	水理実験	1				
						測量実習	2										
	卒業研究											建築・都市環境特別卒業研究	3	建築・都市環境卒業研究Ⅰ	3	建築・都市環境卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎（導入）	建築・都市環境学へのアプローチ	2														
		建築・都市デザイン概論	2														
		立体図学（前前期）	1														
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			建築・都市環境インターンシップA	2	建築・都市環境インターンシップB	2	建築・都市環境インターンシップA	2	建築・都市環境インターンシップB	2	建築・都市環境インターンシップA	2	建築・都市環境インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導	2	工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　建築・都市環境学系（ G2 都市環境コース ）

2024（令和6）年度カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	数理・情報			基礎統計学	2	計画数理	2										
	構造			静力学	2	応用力学A・演習	3	応用力学B	2	鋼構造学	2						
										鉄筋コンクリート工学	2						
	地盤							地盤工学A・演習	3	地盤工学B	2						
	水理					水理学A・演習	3	水理学B	2								
	測量					測量学・演習	3										
	材料					建設材料学	2										
	施工											建設施工	2				
	都市・環境コース専門									景観デザイン	2	防災工学	2				
										空間情報工学	2	都市計画	2				
												河川・海岸計画	2				
										交通計画	2	都市プロジェクトの評価	2				
										リモートセンシング	2						
								水圏の環境	2	都市衛生工学	2	環境アセスメント	2				
								気圏・地圏の環境	2	水文学	2	地球観測	2				
	教職課程	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
DP2	デザイン			建築都市デザイン演習I	3	建築都市デザイン演習ⅡA	2	建築都市デザイン演習ⅡB	2	建築都市デザイン演習ⅢA	2	建築都市デザイン演習ⅢB	2				
												建築・都市環境総合演習	2				
	実験・実習					材料実験	1	土質実験	1	構造実験	1	水理実験	1				
						測量実習	2										
	卒業研究											建築・都市環境特別卒業研究	3	建築・都市環境卒業研究Ⅰ	3	建築・都市環境卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は専門基礎科目のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎（導入）	建築・都市環境学へのアプローチ	2														
		建築・都市デザイン概論	2														
		立体図学（前前期）	1														
DP4	人間形成	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門（前前期）	1			建築・都市環境インターンシップA	2	建築・都市環境インターンシップB	2	建築・都市環境インターンシップA	2	建築・都市環境インターンシップB	2	建築・都市環境インターンシップA	2	建築・都市環境インターンシップB	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導	2	工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育科目のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

建築・都市環境学系履修モデル

1. 建築・都市環境学系の学習・教育到達目標

建築・都市環境学系では、21 世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある生活環境を目指して社会基盤の創造と保全に寄与できる建設技術者の育成を目的としています。この目的を達成するため、本学系では以下の（A）～（E）の学習・教育到達目標を掲げています。

（A）「技術は人なり」を継承する人間形成

良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し、異文化理解等の資質・感性を有し、生涯に渡り研鑽を積むことのできる心身健全な建設技術者としての素養を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）持続可能な社会構築を担う人間形成
2）技術者の社会的な責任を理解する
3）異文化を理解する資質・感性を身につける
4）自主的に継続学習できる能力を身につける
5）自主的に生涯学習できる能力を身につける

（B）相互理解を深めるコミュニケーション能力の開発

意見や情報を当事者間で適切に授受することができ、国際的に活躍できる建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）論理的な口頭表現の能力を身につける
2）受け取った意見・情報を正確に理解する能力を身につける
3）論理的な記述表現の能力を身につける
4）英語を用いて意見や情報を授受するための能力を身につける

（C）実学教育にもとづく実践力の開発

人間と自然が共生できる持続可能な社会を構築するために必要な、工学基礎・情報技術・建設工学を応用する建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）数学・物理などの工学基礎の習得
2）建設工学の専門知識の習得
3）情報技術を利活用する能力を身につける

（D）創造力および問題発見・解決能力の開発

豊かな創造力や柔軟な思考力を有し、社会が直面している諸問題を認識して、その問題を解決する建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）現実社会の中で直面している諸問題を認識し、その問題解決について考える能力を身につける
2）情報を収集・評価・利用する能力を身につける

3）豊かな創造力や柔軟な思考力を身につける
4）高度な社会的要請に対応できる能力を身につける

（E）プロジェクト遂行能力の開発

与えられた制約のもとで目標を設定し、計画的に仕事を進め、遂行することができる建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）協働して行う作業のリーダー、あるいは一員として計画的に仕事を進めるマネジメント能力を身につける
2）プロジェクト遂行能力を身につける

2. 学系カリキュラムの概要

建築・都市環境学系のカリキュラムは、建築学、建設工学、土木工学、都市工学、環境学といった私たちの生活環境づくりに直結した学問分野で構成されています。そして、それぞれの分野に関して基礎から応用へと段階的に学習できるようにカリキュラムが編成されています。この段階的な学習を確実なものとするために、特に３年次から４年次への進級に際して、学系独自の進級条件を設定しています。この進級条件は所属する主コース・副コースの組み合わせによって異なるため、些細な勘違いなどで留年しないよう細心の注意を払って履修計画を立ててください。履修方法に関する疑問等は、学年担任をはじめとする学系教員に気軽に質問してください。

3. 各コースの概要

⑴ 建築コース

建築コースは建築の専門知識や技術を学び、デザインするための感性を磨くコースです。本コースの特徴は単体の建物だけでなく、都市・環境・景観に配慮した総合的な視野を備えた建築家や建設技術者を育成する点にあります。講義では建築のデザイン、歴史、計画、構造、構法、設備等の専門知識はもちろんのこと、都市環境コースとの連携により都市・環境・土木分野の知識について幅広く学ぶことができます。また、ＣＡＤの使い方、建築図面の描き方、建築設計の方法を学ぶ建築都市デザイン演習や、構造実験・材料実験といった実験科目を通して、実践的な技術力・判断力・プレゼンテーション能力を身につけることができます。

⑵ 都市環境コース

都市環境コースは、ひとにやさしく、安全で快適なまちづくりの方法を学ぶコースです。まちづくりの中心には市民がおり、市民が満足しなければまちづくりとは言えません。市民が満足するためには、機能性、経済性、意匠性を同時に兼ね備えていなければなりません。都市環境コースが対象とする施設は、われわれの日常生活を支える上で必要不可欠なものばかりです。たとえば、鉄道、駅、道路、空港などの交通施設、電気、水道などのライフライン施設、公園広場、ビオトープ、屋上緑化施設などの都市環境施設などがあります。

また本コースでは、社会基盤施設の計画から設計に至る能力を学習します。さらに地球環境問題が深刻さを増しつつある今日、建設に携わる技術者も環境を視野に入れて行動することが求められています。したがって、建設と環境との関連性に関する知識を習得して、環境に配慮した都市や地域づくりを実践できる 21 世紀型グローバル・エンジニアや都市環境デザイナーを育成します。

4.　1 年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1 年次に配当されている科目の中から 30 単位以上修得することで、2 年次に進級することができます。学部共通科目群の必修科目以外にも「一般物理学実験」「一般化学実験」を履修することを推奨します。

つぎに専門科目としては、1 年前期に、導入科目である「建築･都市環境学へのアプローチ」と「建築・都市デザイン概論」が開講されます。この講義では、各コースがどのような特徴を持っているかを分かり易く説明し、卒業後、どのような職に就き、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。卒業するための学系必修科目となっているので、1 年次に履修してください。

1 年後期では、まず「建築都市デザイン演習Ⅰ」の 1 科目 3 単位を必ず履修してください。つぎに「基礎統計学」「静力学」の 2 科目 4 単位を履修してください。これらの講義では、建築や都市をデザインすることの面白さや大切さを学習し、あるいは 2 年次以降に学習する専門科目を理解するための基礎学力を培います。また、これらの 2 科目も卒業するための学系必修科目となっています。

5.　主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

2 年次と 3 年次の 2 年間で、「3 年次から 4 年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3 年次から 4 年次への進級条件」は選択した副コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

⑴ **「建築コース（主）＋都市環境コース（副）」もしくは「都市環境コース（主）＋建築コース（副）」とする学生の履修計画**（主：主コース、副：副コースを示す。以下同じ。）

（学系共通科目の履修）

①学系共通の必修科目 14 単位以上を含む 23 単位以上を履修してください。

② 2 年次・3 年次の「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」の 4 科目 4 単位の中から必ず 3 単位以上履修してください。ただし、「都市環境コース（主）＋建築コース（副）」の場合は、「水理実験」を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

①卒業研究を除くコース専門の必修科目をすべて履修してください。

②主コースから 18 単位以上、副コースから 5 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

⑵ **「建築コース（主）＋他学系のコース（副）」もしくは「都市環境コース（主）＋他学系のコース（副）」とする学生の履修計画**

（学系共通科目の履修）

①学系共通の必修科目 14 単位以上を含む 19 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。なお、技術者として必要である実践的な技術力・判断力・レポート作成能力・プレゼンテーション能力を身につけるために、「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」といった実験科目も履修することを強く推奨します。

（コース専門科目の履修）

①卒業研究を除くコース専門の必修科目をすべて履修してください。

②主コースから 18 単位以上、副コースの指定科目群から 9 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

6. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

2 年次と 3 年次の 2 年間で、「3 年次から 4 年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3 年次から 4 年次への進級条件」は選択した主コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

7. その他の注意事項

⑴ 大学院進学について

専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学を認めています。進学を希望する学生は、早い段階からよい成績を取るように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業生よりも専門性の高い職種、部門に就職することができます。大学院在籍中に、海外の大学院へ留学することもできます。近年は、建設系コンサルタント、設計コンサルタント、建築設計事務所やゼネコンの設計部などの専門性の高い職種の企業からは、大学院卒の学生に対する募集が多くなっています。

⑵ 就職について

本学卒業生の活躍が評価され、毎年多数の求人案内が届きます。最近は自由応募で就職活動する学生が多く見られますが、大学に寄せられた求人情報を是非活用してください。なお、いずれの場合も大学名のみで採用に至ることはありません。

近年の就職活動では、教養の広さ･深さに加えて、コミュニケーション能力、チームワーク力、問題発見・解決能力が重視されています。これらは一朝一夕で身につくものではありません。日頃より意識して習慣づけることが肝要です。本学系では、これらの能力・態度（行動特性）を身につけることを目的として、1 年次に「東京電機大学で学ぶ」を

配置し、また 2 年次以降も「JABEE プログラム学習の手引き」に掲載した「カリキュラムマップ」に示す通り多くの科目を配置しています。

一方、本学系では、職業観を涵養するために「建築・都市環境インターンシップ A ／ B」を配当しています。「建築・都市環境インターンシップ A ／ B」は何れの配当期でも受講できますが、専門知識がある程度身についた後の 3 年次の夏休み以降に受講することを推奨します。

⑶ JABEE プログラム（土木及び関連の工学分野）について

本学系は JABEE（日本技術者教育認定機構）より、国際水準の技術者教育を行う教育組織としての認定を受けています。コース選択において、建築コースと都市環境コースを主・副コース（主・副は任意）として選択した学生はこの JABEE プログラムの履修生となります。JABEE プログラムを修了し、本学を卒業すると登録により技術士補の資格を得ることができます（＊）。学系では、学習・教育到達目標の達成度の評価方法、達成度の自己点検方法について解説した「JABEE プログラム学習の手引き」を配布しています。

また、JABEE プログラム（建築コース＋都市環境コース）以外の学生が、本学の転学部、転学科、転学系、転コース制度を利用して新たに JABEE プログラム（建築コース＋都市環境コース）に移籍する場合は、当該学生の既取得科目と単位数を勘案し、本学系の学習・教育目標の達成可能性を検討の上、個別に JABEE プログラム受け入れの可否を決定します。詳細は、学系ホームページを参照してください。

（＊）JABEE プログラムは定期的な審査により認定されるものであり、本学系は学生教育にとって有意義であるとの判断から、継続的にその認定を受ける方針を定めています。しかしながら、予期せぬ事情によりこの認定を受けられない場合、技術士補の資格を得られなくなることもありますので、この点についてはあらかじめ了承ください。

⑷ 建築士プログラムについて

コースとは独立した教育課程として、建築士資格取得を目指した「建築士プログラム」が用意されています。コースの進級条件等とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

⑸ 建設系資格について

建築士プログラム同様、建設系の各種資格については、コースの進級条件等とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

建築・都市環境学系の履修モデル図

人間形成科目・英語科目（1年～4年）

専門基礎科目

- 技術者倫理
- 基礎微積分学A
- 基礎微積分学B
- 基礎線形代数学A
- 基礎線形代数学B
- 一般物理学実験
- 物理学A
- 物理学B
- 一般化学実験
- 化学A
- 化学B
- 情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）
- C言語プログラミング
- Pythonプログラミング
- 科学技術概論A
- 科学技術概論B
- 科学技術概論C
- 科学技術概論D

専門科目

分野	1年	2年	3年	4年
導入	建築・都市環境学へのアプローチ 立体図学 建築・都市デザイン概論			建築・都市環境卒業研究Ⅰ 建築・都市環境卒業研究Ⅱ
数理・情報	基礎統計学	計画数理		
構造	静力学	応用力学A・演習 応用力学B	鋼構造学　鉄筋コンクリート工学 構造実験	
地盤		地盤工学A・演習 土質実験	地盤工学B	
水理		水理学A・演習 水理学B	水理実験	
測量		測量学・演習 測量実習		
材料		建設材料学 材料実験		
施工			建設施工	
デザイン	建築都市デザイン演習Ⅰ	建築都市デザイン演習ⅡA 建築都市デザイン演習ⅡB	建築都市デザイン演習ⅢA 建築都市デザイン演習ⅢB 建築・都市環境総合演習	
環境		水圏の環境 気圏・地圏の環境	リモートセンシング 都市衛生工学　環境アセスメント 水文学　地球観測	
都市			都市計画　河川・海岸計画 交通計画　空間情報工学 景観デザイン　防災工学 都市プロジェクトの評価	
建築		住居論　建築計画学 建築史	建築デザイン論　建築法規 建築環境工学　建築設備 建築構法　耐震設計法	
キャリアデザイン		建築・都市環境インターンシップA 建築・都市環境インターンシップB（2年～4年）		

建築・都市環境学系　進級条件表　RG
（2024年度カリキュラム）

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし、以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区　分			単位数	卒業要件
人間形成			**12**	16
英語			**6**	8
技術者倫理			**2**	2
数学			**4**	6
自然科学技術			**6（※1）**	8（※1）
情報			**2**	4
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	**23**	34
	コース専門科目	主コース	**18**	26
		副コース	**5**	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	**19**	28
	コース専門科目	主コース	**18**	26
	指定科目群（※2）	副コース	**9**	14

（※2）指定科目群については、P176 を参照すること。

＊1　対象副コースが建築・都市環境学系

(1)学系共通の必修科目から14単位以上修得のこと。

(2)学系共通科目の「材料実験」、「土質実験」、「構造実験」、「水理実験」から3単位以上を修得し、主コースが都市環境コースの場合は、「水理実験」を修得のこと。

(3)コース専門の必修科目（卒研等を除く）はすべて修得のこと。

＊2　対象副コースが他学系

(1)主コース学系共通の必修科目から14単位以上修得すること。

(2)主コース専門の必修科目（卒研等を除く）はすべて修得のこと。

（※1）「科学技術概論A・B・C・D」の取り扱いは以下のとおり。

卒業所要単位数への算入対象科目	卒業所要単位数に算入されない科目	卒業所要単位数への算入上限単位数
科学技術概論A･B･C･D		2（1科目）

2024（令和6）年度カリキュラム 建築・都市環境学系 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	導入	DP3	建築・都市環境学へのアプローチ		1	2	必	1	半期(前)	講義		70100
			DP3	立体図学		1	1	選	1	四半期(前前)	講義		70100
			DP3	建築・都市デザイン概論		1	2	必	1	半期(前)	講義		70100
		数理・情報	DP1	基礎統計学		1	2	必	1	半期(後)	講義		70100
			DP1	計画数理		1	2	選	2	半期(前)	講義		70100
		構造	DP1	静力学		1	2	必	1	半期(後)	講義		70100
			DP1	応用力学A・演習		2	3	必	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	応用力学B		1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP1	鉄筋コンクリート工学		1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	鋼構造学		1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP2	構造実験		1	1	選	3	半期(前)	実験・実習		70100
		地盤	DP1	地盤工学A・演習		2	3	必	2	半期(後)	講義・演習		70100
			DP1	地盤工学B		1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP2	土質実験		1	1	選	2	半期(後)	実験・実習		70100
		水理	DP1	水理学A・演習		2	3	必	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP1	水理学B		1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP2	水理実験		1	1	選	3	半期(後)	実験・実習		70100
		測量	DP1	測量学・演習		2	3	必	2	半期(前)	講義・演習		70100
			DP2	測量実習		2	2	必	2	半期(前)	実験・実習		70100
		材料	DP1	建設材料学		1	2	選	2	半期(前)	講義		70100
			DP2	材料実験		1	1	選	2	半期(前)	実験・実習		70100
		施工	DP1	建設施工		1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
	建築コース専門科目	建築	DP1	建築法規	G1	1	1	選	3	四半期(後前)	講義		70100
			DP1	住居論	G1	1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP1	建築計画学	G1	1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP1	建築史	G1	1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP1	建築設備	G1	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	建築デザイン論	G1	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	建築環境工学	G1	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	耐震設計法	G1	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	建築構法	G1	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
	都市環境コース専門科目	都市	DP1	都市計画	G2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	交通計画	G2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	景観デザイン	G2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	河川・海岸計画	G2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	空間情報工学	G2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	防災工学	G2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	都市プロジェクトの評価	G2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
		環境	DP1	水圏の環境	G2	1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP1	気圏・地圏の環境	G2	1	2	選	2	半期(後)	講義		70100
			DP1	リモートセンシング	G2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	都市衛生工学	G2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	水文学	G2	1	2	選	3	半期(前)	講義		70100
			DP1	環境アセスメント	G2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
			DP1	地球観測	G2	1	2	選	3	半期(後)	講義		70100
	コース専門科目	デザイン	DP2	建築都市デザイン演習Ⅰ	G1・G2	3	3	必	1	半期(後)	演習		70100
			DP2	建築都市デザイン演習ⅡA	G1・G2	2	2	必	2	半期(前)	演習		70100
			DP2	建築都市デザイン演習ⅡB	G1・G2	2	2	必	2	半期(後)	演習		70100
			DP2	建築都市デザイン演習ⅢA	G1・G2	2	2	選	3	半期(前)	演習		70100
			DP2	建築都市デザイン演習ⅢB	G1・G2	2	2	選	3	半期(後)	演習		70100
			DP2	建築・都市環境総合演習	G1・G2	1	2	必	3	半期(後)	演習	【アセスメント科目】	70100
		卒研等	DP2	建築・都市環境特別卒業研究		3	3	選	3	半期(後)	実験・実習		
			DP2	建築・都市環境卒業研究Ⅰ		3	3	必	4	半期(前)	実験・実習		
			DP2	建築・都市環境卒業研究Ⅱ		3	3	必	4	半期(後)	実験・実習		
		キャリアデザイン	DP4	建築・都市環境インターンシップA		2	2	選	2,3,4	半期(前)	実験・実習		
			DP4	建築・都市環境インターンシップB		2	2	選	2,3,4	半期(後)	実験・実習		
			DP4	情報と職業入門		1	1	選	1,2	四半期(前前)	講義		
			DP4	情報と職業		1	2	選	全	半期(後)	講義		60600
			DP4	工業技術概論		1	2	自	3	半期(後)	講義		70100
			DP4	職業指導		1	2	自	3	半期(前)	講義		70200

※ コース専門科目でコースコードが記載されていない科目は全て主コースのコース専門科目となります。

コースコードは、G1:建築コース・G2:都市環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

オナーズプログラム

(HONORS PROGRAM)

オナーズプログラム

「東京電機大学理工学部オナーズプログラム（次世代技術者育成プログラム）」（以下 HP）は意欲のある学生が、さらに高いレベルの研究に取り組むことができる、学部・大学院が連携した教育研究システムです。これからの産業ニーズを先取りした「宇宙工学・生体医工学・環境工学」の３つのプログラムを開講します。分野を横断した複合研究領域を学習し、産学官と連携を強化することで、次世代の高度な技術者を養成します。また、大学院科目の先取り履修を活用することで、一般的なカリキュラムよりもゆとりを持って研究・留学・インターンシップなど、様々な活動に取り組むことができます。

1. 対象学生：HP に参加したい学部生であれば、どの学系の学部生でも参加できます。大学院理工学研究科（修士課程）進学が前提です。理工学研究科にて HP に関連した研究活動を行いますので、HP に関係する専攻研究室に配属される必要があります。詳しくは HP ガイダンスにて説明しますので、確認してください。

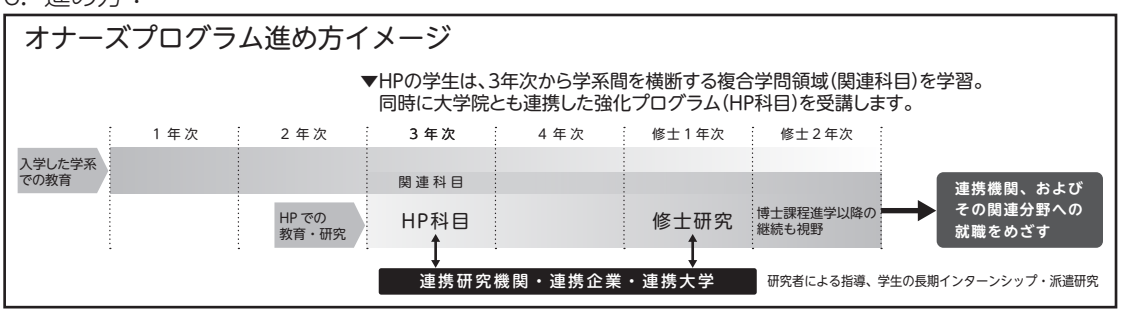
2. 応募条件：
【学部３年次 前期募集】
学部２年次の後期成績発表時：各学系・学年 GPA 順位で上位 50%以上。
【学部４年次 前期募集】
学部３年次の後期成績発表時：各学系・学年 GPA 順位で上位 50%以上。
【学部３年次 後期募集】
学部２年次の後期成績発表時：各学系・学年 GPA 順位で上位 50%以上
または、学部３年次の前期成績発表時：各学系・学年 GPA 順位で上位 50%以上。

3. 募集時期：
【学部３年次・４年次 前期募集】
学部２年次および３年次３月頃（UNIPA に掲示）
【学部３年次 後期募集】
学部３年次５月～９月上旬（UNIPA に掲示）

4. 募集人数：各プログラムとも 20 名程度

5. 修了条件：認定科目 20 単位以上修得及び修士論文の提出・合格

6. 進め方：



宇宙工学プログラム　Space engineering

キーワード：地球観測、小型衛星、精密測量

概要：天気予報、目的地探索、災害監視、環境監視、通信、宇宙探査など、人工衛星がもたらす情報や機会の増大は社会に不可欠です。人工衛星をはじめ宇宙技術が国際競争化している中、次世代の宇宙技術者の育成が求められています。宇宙工学プログラムでは、衛星からの情報解析技術や通信技術、小型衛星の設計開発に必要な知識・技術を習得し、日本をはじめ世界の宇宙産業で活躍する高度な人材を育成します。

担当教員 / 研究室一覧

★ 島田 政信 教授　｜ RG　衛星リモートセンシング研究室
地球物理量抽出の研究。観測衛星などのデータを解析し森林減少面積、災害箇所、地盤沈下を推定

秋山 康智 教授　｜ RD　スマートICTソリューション研究室
最新ICT技術を活用し、より賢く高機能な新しい社会システムのプロトタイプ創出と、そのデータ分析

神戸 英利 特定教授　｜ RD　IoE/M2Mソリューション研究室
すべてをインターネットでつなぐIoE化とそこで得たデータの数値化と分析

高橋 達二 教授　｜ RD　内部観測研究室
人間や動物が「一を聞いて十を知る」方法を分析し、またそれを機械学習アルゴリズムとして定式化

井上 貴浩 教授　｜ RM　制御工学研究室
生体機能・構造の模倣によるロボットの設計製作と制御にかかわる研究、および生活支援ロボット、不整地走行ロボット、空中搬送ロボットに関する研究

遠藤 正樹 教授　｜ RM　熱流体関連振動研究室
超音速流に伴う流動現象や熱移動を研究
これら熱移動の非定常的な物理現象の解明

榊原 洋子 教授　｜ RM　流体工学研究室
圧縮性流体のもつ性質を分析し
衝撃波と固体との干渉現象を解明

古屋 治 教授　｜ RM　振動工学研究室
構造物の耐震・振動応答低減技術の研究
安全な次世代の振動制御技術の研究開発

山崎 敬則 教授　｜ RM　生産工学研究室
工作機械を中心に産業機械の挙動を解析し
その精度向上のための研究

原田 陽平 准教授　｜ RM　材料工学研究室
ミクロ組織制御による軽金属材料の高性能化に関する研究、特殊試液による材料内の溶質偏析可視化に関する研究

田中 慶太 教授　｜ RE　電子計測研究室
超小型衛星の開発と電源系、通信系
姿勢・軌道制御系、構体系などの研究

石川 敬祐 准教授　｜ RG　地盤防災･環境工学研究室
豪雨や地震による地盤災害のメカニズムの解明やその対策方法に関する研究

宮地 一裕 准教授　｜ RG　構造工学研究室
私達の生活を支える構造物を対象とし、防災・維持管理や新形式構造の提案等の研究

★：HP リーダー、RD：情報システムデザイン学系、RM：機械工学系、RE：電子情報・生体医工学系、RG：建築・都市環境学系

カリキュラムマップ（認定科目一覧）

学系	1年次	2年次	3年次
学系共通科目			●オナーズプログラムA ●オナーズプログラムB
理学系			○天文学
生命科学系			
情報システムデザイン学系			○オペレーティングシステム ○センサ工学 ○UNIXプログラミング ○ソフトウェア工学
機械工学系		○流体力学Ⅰ・演習 ○機械加工学Ⅱ ○機械力学Ⅰ・演習 ○工業熱力学Ⅰ・演習	○機械力学Ⅱ・演習 ○工業熱力学Ⅱ・演習 ○熱流体機械
電子情報・生体医工学系			○通信工学 ○信号処理工学A ○信号処理工学B
建築・都市環境学系		○応用力学A・演習 ○応用力学B	○リモートセンシング ○地球観測 ○空間情報工学 ○防災工学

専攻	修士1年次	修士2年次
研究科共通科目		
理学専攻		
生命理工学専攻		
情報学専攻	●修士特別研究Ⅰ	●修士特別研究Ⅱ
機械工学専攻	●修士特別研究Ⅰ ○航空宇宙工学特論 ○機械耐震工学特論 ○制御工学特論 ○熱流体機械特論 ○数値解析特論 ○ロボット工学特論	●修士特別研究Ⅱ
電子工学専攻	●修士特別研究Ⅰ ○電磁場計測特論	●修士特別研究Ⅱ
建築・都市環境学専攻	●修士特別研究Ⅰ ○リモートセンシング特論A ○地盤防災工学特論 ○有限要素法特論 ○宇宙工学特論	●修士特別研究Ⅱ

●…オナーズプログラムの必修科目

※担当教員 / 研究室一覧および認定科目は 2024 年 3 月現在のものであり、変更することがある。

生体医工学プログラム　Biomedical engineering

キーワード：医療機器開発、医薬品創出、支援機器開発

概要：超高齢化社会を迎えた日本では、医療機器、人工臓器、福祉機器、新薬創薬などの需要が急速に高まっています。これらの工学技術に対して、生体医工学は極めて重要な存在です。「人間を対象とした工学に関する知識や技術」を体系的に学び、生体機能を理解した工学技術を創り出す理論・技術を習得します。最新医工学研究に接し、豊かな人間性と知識・技術を兼ね備えた人材の育成を目指します。

担当教員 / 研究室一覧

★ 荒船 龍彦 教授　｜ RE　先進生体医工学研究室
基礎医学的な疾患原因解明や、臨床向け
外科治療支援機器、創薬支援システムを開発

大西 謙吾 教授　｜ RE　バイオメカトロニクス研究室
義肢や生活支援用ロボットなどの開発と
評価を目的とした研究

足立 直也 准教授　｜ RU　有機・高分子学研究室
あらゆる機能性有機・高分子化合物の
合成と機能についての研究

田中 慶太 教授　｜ RE　電子計測研究室
人間（脳）機能を調べ、人間と機械の関係を
工学的な立場で研究

石井 聡 准教授　｜ RU　ナノマテリアル研究室
ナノマテリアルの創製とデバイス化

本間 章彦 教授　｜ RE　応用医工学研究室
生体心臓機能、全人工心臓システムと周辺技術
人工臓器に関する研究開発

長原 礼宗 教授　｜ RB　細胞生化学研究室
アポトーシス（細胞死）の解明と
それに関係する病気治療と皮膚保湿の研究

矢口 俊之 教授　｜ RE　医用電子工学研究室
技術開発を目標とした細胞や細菌等を用いた
生体医工学に関する基礎研究

村松 和明 教授　｜ RB　生体組織工学研究室
体性・組織幹細胞やバイオマテリアルによる
再生医学の基礎研究

住倉 博仁 准教授　｜ RE　応用電子工学研究室
カテーテル式小型血液ポンプの開発、人工弁の性能評価
試験、連続流型補助人工心臓の関発に関する研究

大越 康晴 教授　｜ RE　薄膜・表面工学研究室
生体医工学分野への応用を中心に
環境調和に優れた薄膜の素材開発や表面設計

★：HP リーダー、RU：理学系、RB：生命科学系、RE：電子情報・生体医工学系

カリキュラムマップ（認定科目一覧）

学系	1年次	2年次	3年次
学系共通科目			●オナーズプログラムA ●オナーズプログラムB
理学系	○基礎有機化学	○界面化学	
生命科学系	○基礎有機化学	○免疫学	○生体材料学 ○薬理学
情報システムデザイン学系			
機械工学系			
電子情報・生体医工学系			○制御工学Ⅰ・演習 ○制御工学Ⅱ・演習 ○人工臓器学 ○メカトロニクス
建築・都市環境学系			
（工学部）先端機械工学科			○先端医用工学

●…オナーズプログラムの必修科目　■…東京千住キャンパス

専攻	修士1年次	修士2年次
研究科共通科目	○先端バイオメディカル・エンジニアリング特論	
理学専攻	●修士特別研究Ⅰ	●修士特別研究Ⅱ
	○高分子合成化学特論	
生命理工学専攻	●修士特別研究Ⅰ	●修士特別研究Ⅱ
	○生体組織工学	
情報学専攻		
機械工学専攻		
電子工学専攻	●修士特別研究Ⅰ	●修士特別研究Ⅱ
	○レギュラトリーサイエンス特論 ○医用電子機械工学特論 ○薄膜材料工学特論 ○マイクロバイオロジー工学特論 ○機能設計工学特論 ○生体医工学概論	
建築・都市環境学専攻		
（工学研究科）電気電子工学専攻	○医用電子計測/学習システム特論	
（工学研究科）機械工学専攻 先端機械工学専攻	○医用工学・医療福祉機器特論	

※担当教員 / 研究室一覧および認定科目は 2024 年 3 月現在のものであり、変更することがある。

環境工学プログラム　Environmental engineering

キーワード：環境汚染、環境保全、生態系

概要：地球温暖化による異常気象、都市部での大気汚染やヒートアイランド現象、化学薬品や農薬による土壌や河川の汚染など、地球全体で環境問題が発生しています。これらは、種の多様性、生態系、我々の日常生活に大きな負荷となっています。本プログラムではモニタリング、センシング技術、環境保全・環境修復のための理論と技術を習得し、環境汚染の実態を把握して課題を明確にすると同時に、解決のための技術を開発する人材を育成します。

担当教員 / 研究室一覧

★ 安部 智子 准教授　｜ **RB　環境微生物学研究室**

発酵工業や環境浄化等への利用も期待される
微生物の新たな可能性を探りその働きを解明

半田 明弘 教授　｜ **RB　食品タンパク質化学研究室**

卵白、卵黄の物性機能（加熱凝固性、起泡性、乳化性）
の改変とその機構解明、マヨネーズの乳化機構解明

向山 義治 教授　｜ **RU　電気化学研究室**

金属ナノ微粒子（電極触媒）を用いた環境浄化法と
新規人工光合成系（光電極）の探求

島田 政信 教授　｜ **RG　衛星リモートセンシング研究室**

地球物理量抽出の研究。観測衛星などのデータを
解析し森林減少面積、災害箇所、地盤沈下を推定

足立 直也 准教授　｜ **RU　有機・高分子化学研究室**

環境中の金属イオンや有害な気体の検出を可能にする
有機蛍光色素の創出および有害物質の可視化を研究

高田 和幸 教授　｜ **RG　都市・交通計画研究室**

主な研究テーマは都市計画、交通計画
まちづくりなど

小曽根 崇 准教授　｜ **RU　配位化学研究室**

環境負荷低減を目指したガス吸脱着機能を基盤とした
多重物性を有する配位高分子化合物の合成研究

鳥海 吉弘 教授　｜ **RG　建築環境・設備研究室**

建築環境工学・建築設備の室内温熱・空気環境
省エネルギー、建築ストック活用技術を研究

武政 誠 教授　｜ **RB　生物物理化学研究室**

高分子の物理化学的性質解析と制御法を模索し
最大限に活用する研究

中井 正則 教授　｜ **RG　水理・環境研究室**

水理学と環境科学を中心に
両者の境界付近の問題に重点をおいて研究

★：HP リーダー、RU：理学系、RB：生命科学系、RG：建築・都市環境学系

カリキュラムマップ（認定科目一覧）

学 系	1 年 次	2 年 次	3 年 次
学系共通科目			●オナーズプログラムA ●オナーズプログラムB
理学系		○化学反応速度論 ○無機・分析化学	○工業化学要論 ○有機・高分子化学 ○無機化学
生命科学系		○環境生物学	○環境計測学 ○生態地球科学 ○生命環境工学
情報システムデザイン学系			
機械工学系			
電子情報・生体医工学系			
建築・都市環境学系		○気圏・地圏の環境 ○水圏の環境	○都市衛生工学 ○リモートセンシング ○建築環境工学 ○環境アセスメント ○都市プロジェクトの評価

専 攻	修士1年次	修士2年次
研究科共通科目	○環境マネジメント特論	
理学専攻	●修士特別研究Ⅰ	●修士特別研究Ⅱ
	○反応化学特論 ○電気化学特論 ○有機合成化学特論 ○高分子合成化学特論 ○錯体化学特論 ○無機材料化学特論 ○植物細胞工学	
生命理工学専攻	●修士特別研究Ⅰ	●修士特別研究Ⅱ
	○食品バイオ工学 ○植物細胞工学 ○微生物工学 ○環境工学概論	
情報学専攻		
機械工学専攻		
電子工学専攻		
建築・都市環境学専攻	●修士特別研究Ⅰ	●修士特別研究Ⅱ
	○応用水理学特論A ○応用水理学特論B ○環境流体力学特論	

●…オナーズプログラムの必修科目

※担当教員 / 研究室一覧および認定科目は 2024 年 3 月現在のものであり、変更することがある。

2024（令和6）年度カリキュラム オナーズプログラム 授業科目配当表 HP

科目区分	科目群	分野名称	DP	科目名	コースコード	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
専門教育科目	コース専門科目	オナーズプログラム	DP2	オナーズプログラムA		1	2	選	3	半期(前)	演習		
			DP2	オナーズプログラムB		1	2	選	3	半期(後)	演習		

※ コース専門科目でコースコードが記載されていない科目は全て主コースのコース専門科目となります。

人文社会系オープン科目履修制度

【人文社会系オープン科目履修制度】

本制度は、人文社会系の魅力ある教育を、キャンパスを超えて履修することができる制度であり、2022 年度以降の 1 年次入学者より対象となります。

授業方法は、原則すべての授業回において、多様なメディアを高度に利用した授業（オンライン授業）であり、配当学年によらず、当該授業を行う教室等以外の場所にて受講することが可能です。（履修者数に制限があります。）

1．埼玉鳩山キャンパスで開講される科目については以下のとおりです。

【人文社会系オープン科目（埼玉鳩山キャンパスの科目）】

授業科目配当表の備考にオープン科目と記載されています。

【履修上の注意点】

①履修上限単位数に含まれます。

②履修登録方法は、理工学部の通常の履修登録期間と同様となります。（開講科目の詳細は、学期初めに UNIPA 掲示する「履修登録の案内」において、別途案内します。）

③履修登録期間（履修登録修正期間を含む。）であれば、履修の取り消しは可能です。

④本制度で履修した科目の修得単位については、「人間形成科目」区分及び進級・卒業所要単位数に含まれます。

2．東京千住キャンパスで開講される科目については以下のとおりです。

【人文社会系オープン科目（東京千住キャンパスの科目）】

科目区分	科目群	科目名	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	開講時間割 ※2
共通教育科目	人間形成科目	人間関係の心理	1	2	選	2 ※1	半期（前／後）	講義	前期 水曜日３限 後期 水曜日３限
		科学技術の失敗から学ぶ	1	2	選	2 ※1	半期（前／後）	講義	前期 水曜日３限 後期 水曜日３限
		先端技術と社会問題	1	2	選	2 ※1	半期（前／後）	講義	前期 水曜日３限 金曜日１限 後期 水曜日３限 金曜日１限
		持続可能性と科学技術	1	2	選	2 ※1	半期（前／後）	講義	前期 水曜日３限 金曜日１限 後期 水曜日３限 金曜日１限

※1　配当学年によらず履修することが可能です。

※2　開講する時間割は、年度により異なる場合がありますので、UNIPA 掲示「履修登録の案内」で確認してください。

【履修上の注意点】

①履修上限単位数に含まれます。

②履修登録方法は、通常の履修登録（抽選申込）期間と同様となります。（開講科目の詳細は、学期初めに UNIPA 掲示する「履修登録の案内」において、別途案内します。）

③抽選の結果、当選となった場合でも履修登録期間（履修登録修正期間を含む。）であれば、履修の取り消しは可能です。

④本制度で履修した科目の修得単位については、「人間形成科目」区分及び進級・卒業所要単位数に含まれます。

第４章
履修案内

1　授業科目

1　教育課程

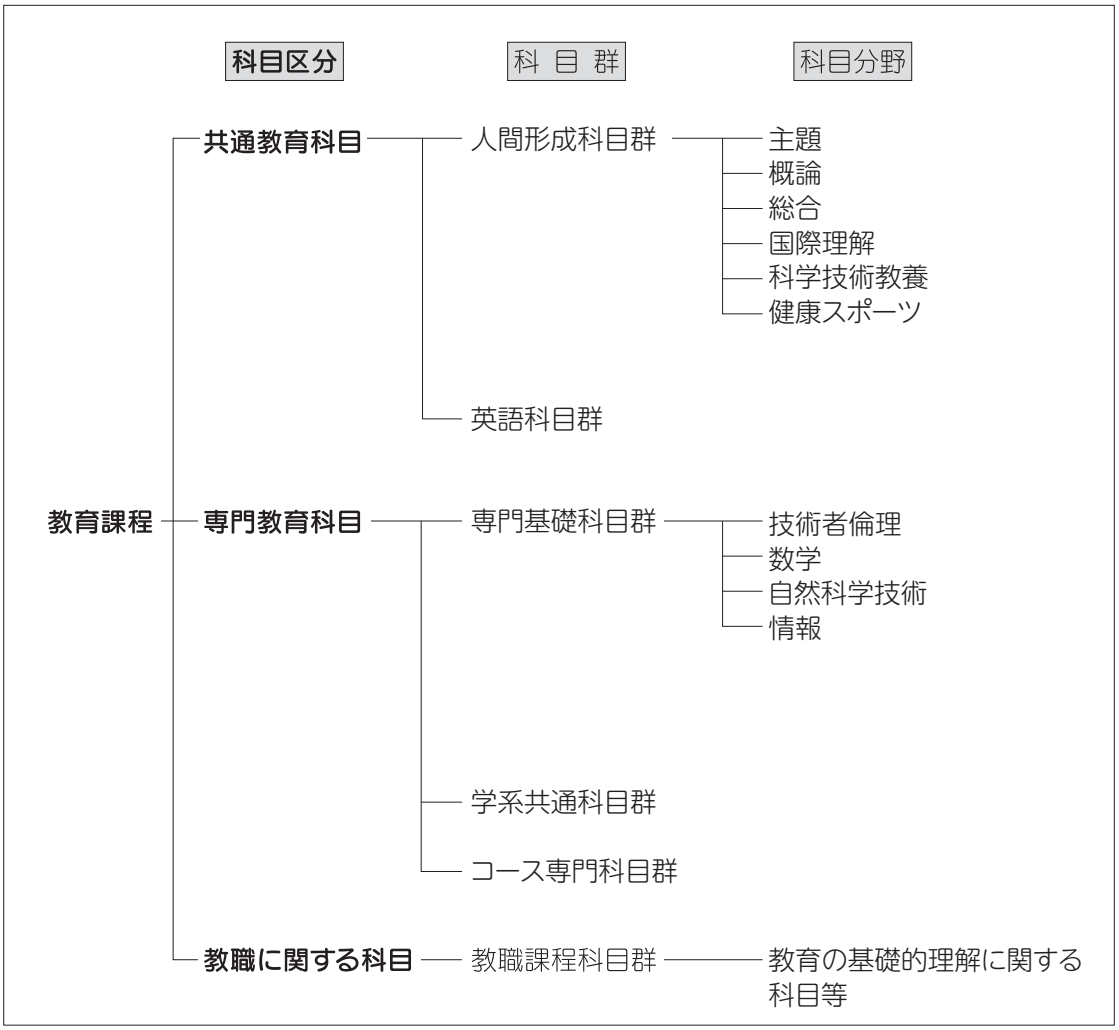
教育課程（以下、カリキュラム）とは、科目の配当や進級条件・卒業要件を定めたもので、万一留年しても卒業まで変更されることはありません。

2024 年度に入学した学生のカリキュラム　　：2024 年度カリキュラムを適用
2024 年度に 3 年次編入した学生のカリキュラム　：2022 年度カリキュラムを適用

同一学系・学年であっても、カリキュラム年度によっては、配当されている科目や単位数、必修・選択区分などが異なる場合があります。詳細は「授業科目配当表」に記載されています。

カリキュラム年度は UNIPA の【学籍情報照会】画面で確認できます。

本学部ではカリキュラムを次のように構成しています。



2　科目の区分（必修・選択・自由科目）

科目には次の区分があります。

区　分	内　　容
必修科目	単位修得が義務づけられている科目。卒業するためには必ず単位を修得しなければいけない。
選択科目	各人の意思により選択する科目。単位修得の義務はないが、卒業所要単位数に算入される科目。ただし、各学系の「進級条件」「卒業要件」「カリキュラムマップ」等に留意すること。
自由科目	単位は修得できるが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目（主に教職の科目）。

3　配当学年

科目は、カリキュラム上体系的に関連づけられており、学修が効果的に行われるよう開講される学年が予め定められています。従って、自分の学年以下に配当された科目を履修することになります。上級学年に配当された科目は特別の場合を除いて履修できません。

4　配当期

科目の開講される期間（配当期）により、次のように区分されます。

通年科目	1 年間 28 週にわたって授業が行われる科目
前期科目	前期半年間 14 週にわたって授業が行われる科目
後期科目	後期半年間 14 週にわたって授業が行われる科目
四半期（前前期、前後期、後前期、後後期）科目	1/4 年間 7 週にわたって授業が行われる科目 学期の開始と終了日は主要行事予定で確認すること。
集中講義科目	開講曜日・時限が定期ではなく、特別な期間に集中して開講される科目。

5　単位数

大学では、各科目の授業形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の 1 単位は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

各科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

科目種別	基　　準
講義及び演習	15 時間の授業をもって 1 単位
実験・実習・製図及び実技	30 時間の授業をもって 1 単位
卒業研究等	学修の成果を考慮して単位数を定めている

必要な学修時間の計算例

授業形態		科目の単位数	学修必要時間①	授業時間数②	授業時間外に必要な学修時間※
講義・演習	半期科目 15 時間で 1 単位	2 単位	45時間×2単位 ＝90時間	15時間×2単位 ＝30時間	①90時間－②30時間＝60時間
実験・実習等	半期科目 30 時間で 1 単位	2 単位	45時間×2単位 ＝90時間	30時間×2単位 ＝60時間	①90時間－②60時間＝30時間

※各科目における授業時間外に必要な学修時間についてはシラバスを参照のこと。

2 授 業

1 学年と学期

授業は一定の期間継続して行われます。期間には、「学年」と「学期」という概念があります。

学 年	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
学 期	前学期（前期）：4 月 1 日から 9 月 4 日まで 後学期（後期）：9 月 5 日から 3 月 31 日まで

ただし、授業開始日と学期の開始日が異なる場合がありますので、その年の学事日程で確認してください。また、授業日程の年間スケジュールは、毎年掲示で確認してください。

2 授業時間

授業時間は、以下のように定められています。

	1 時限	休憩	2 時限	休憩	3 時限	休憩	4 時限	休憩	5 時限
時間	9：20 ～ 11：00	10 分	11：10 ～ 12：50	50 分	13：40 ～ 15：20	10 分	15：30 ～ 17：10	10 分	17：20 ～ 19：00

3 授業時間割

授業は、週単位で決められた**授業時間割**に従って行われます。

内容と注意

①全ての授業時間割表をあわせて、その年度に履修できる全ての科目を網羅することになります。

②授業時間割表には、科目名・カリキュラム年度・担当教員名・教室が曜日・時限・配当期ごとに記載されています。

③科目名に学年・学系の記載がある科目については、その対象学生の履修が優先されますが、対象外の学生も人数に余裕がある場合は履修することができる場合があります。

④集中講義科目については授業時間割表の月～土曜日の次に記載してあります。
⑤カリキュラム年度は入学した年度です。授業時間割表では略して「'24」と記載し、該当する学生の履修可能である科目を「●」印で表しています。

4 休 講

以下の場合、休講となります。
⑴ 学校行事を行う場合。(主要行事予定表・UNIPA により連絡します)
⑵ 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合。(UNIPA 等により連絡します)
⑶ 休講のお知らせがなく、授業開始時間から 30 分を経過しても授業科目担当教員がやむを得ない理由で講義を開始できない場合。(自然休講と呼びます)
ただし、特別な指示により、それ以上経過しても授業を行う場合があります。
⑷ 東武東上線が運休の場合。(P 10 参照)
⑸ 地震、台風、大雪などの自然災害により不測の事態が発生した場合。(P 10 参照)

5 補 講

休講等で授業回数が不足した場合は、補講を行います。補講の日程は授業科目担当教員によって指示されます。

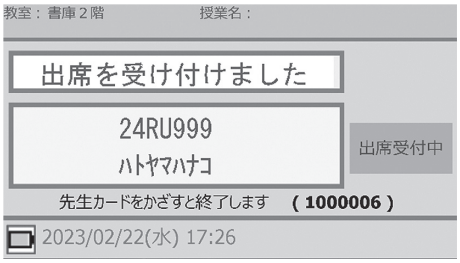
月～金曜日の 5 時限、又は土曜日に、授業担当教員が通常授業および、大学・学部行事に支障がないと判断した日時に補講を実施します。日程は、授業中又は UNIPA によりお知らせします。

6 授業の出席確認

授業の出席確認は、授業教室においてタブレット端末に、学生証をタッチして行います。担当教員の出席確認の指示に従って行ってください。授業によっては、遅刻・早退等の確認をするため、複数回の出席を取る場合もあります。タブレット端末にて出席確認を行った場合は、UNIPA で確認することができます。また、出席確認の方法は、授業によってはタブレット端末によらない場合もありますので、教員の指示に従ってください。学生証を忘れた場合は、授業時に担当教員に申し出てください。

学生証タッチイメージ

学生証を正常に読み込めた場合の画面



画面中央に学籍番号が表示されていれば、正常に読み取りが完了です。次の人がタッチできます。

何回行っても学生証を読み込めない場合は、出席していることを担当教員に申し出るとともに、学生厚生担当で学生証の確認を受けてください。上記画像以外の画面が表示されている場合は、担当教員にお知らせください。

7　授業の欠席

病気・ケガ等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受けとり、必要事項を記入の上、診断書等の欠席及び欠席に要する期間を証明できるもの（例．診断書であれば、療養期間（○月×日～○月×日）が記載されているもの）を添えて提出してください。ただし、公欠制度はありません。届出に対して大学（科目担当教員等）が判断を行います。

	欠席日数（連続した欠席日数）　※土日祝を含む	
	6日以内	7日以上
保証人記入欄の記入	不要	必要
提出先	各科目担当教員	教務担当窓口

8　提出物期限の厳守

履修登録・レポート・製図等の提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと成績評価を受けられないことになりますので、期限・提出場所は厳守するように注意してください。

本館 1 階事務室内にある教務担当レポート BOX は、提出期限になったら閉鎖します。閉鎖後の提出は受け付けていません。（事務室ではホチキス等の貸出しを行っていません）

提出先レポート BOX の入れ間違いについても、対応しません。

9　授業アンケートについて

目的：授業アンケートは、授業の充実度・専門性の向上など、より優れた授業の実現のために実施します。

種類：授業アンケートには大別すると 2 つの種類があります。一つは、東京電機大学の共通フォーマットにて行われるもの。また、もう一つは学系および共通教育群などの独自のフォーマットにて行われるもの。どちらの場合においても、科目担当教員の指示により行ってください。

注意：授業アンケートは授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。ただし、一時的な感情やいい加減な考えではなく、授業での様子をできるだけ正しく伝えるようにしてください。

集計結果の閲覧：東京電機大学の共通フォーマットで行われる授業アンケートの集計結果については、Web で閲覧できます。

10　その他授業について

⑴ 授業等のガイダンス

授業科目のガイダンスは、初回の授業等に必要に応じて行われますので、必ず出席してください。特に、実験・演習・体育等については、グループ分け等の説明がある場合が多いので、出席しないと履修に支障が出る場合があります。

⑵ テストによるクラス分け

「英語」「数学」「物理学」「化学」の科目では、プレースメントテスト等によりクラス分けを行います。

⑶ 修学基礎科目「東京電機大学で学ぶ」（1 年次前期）

「東京電機大学で学ぶ」は、本学の特色を理解し、ものづくりの醍醐味や理工系の学びの楽しさを知ることに加え、大学での学びを充実させるために重要な主体的学習や協同学習への姿勢を涵養することを目的としています。

この科目では、大学生活に目的意識を持って取り組むために必要な情報（卒業生によるキャリア・就職活動関連の講演、学科・学系ごとのカリキュラムの理解、卒業研究に関わる研究室情報など）を提供します。さらに、これからの時代に求められる汎用的能力を培うためにグループワークの機会を豊富に用意して学科・学系の仲間づくりの支援も行います。

こうした学びは全ての学生にとって学びの基礎となることから、本学ではこの科目を

修学基礎科目として指定し、1 年生が必ず学習することとしています。(1 年生全員が履修しますが、選択科目ですので、単位修得を義務付けるものではありません)

⑷ 科学技術概論

「科学技術概論（A ～ D)」は、これからの科学技術が学際的な幅広い分野のつながりにより構成されていることを知り、自身の専門課程につながる興味・関心を喚起することを目的とし、学部・学系の枠を越えた専門知見に基づく未来の技術を解説します。

本科目は、WebClass 等を活用した動画配信による講座を受講する形式（オンデマンド授業）で開講します。(講義内容の詳細については、シラバスを参照してください。)

【履修上の注意点】

①履修上限単位数に含まれます。

②履修登録について。

＜時間割表に曜日・時限が記載されている科目＞

・前期の履修登録期間に履修登録をした学生のみが履修できます。

・後期の履修登録修正期間では、履修の取り消しのみ登録できます。

＜時間割表に「集中」と記載されている科目＞

・通常の履修登録と同様です。

③受講方法は各学系により異なります。

・時間割表に曜日・時限が記載されている場合は、通常の授業と同様に教室で受講します。

・時間割表に「集中」と記載されている場合は、任意の場所・時間に受講可能です。ただし、課題提出や質問の受付期限等ありますので、各自で注意が必要となります。

④履修できる科目及び科目数が各学系で異なります。(下記参照)

⑤履修登録を希望しない場合でも、授業内容を動画で視聴することのみ可能です。(視聴のみで課題等はできません)

【履修制限について】

学系	履修制限の内容
理学系	「科学技術概論A・B・C・D」4 科目の中から2科目履修可
生命科学系	「科学技術概論A・B・C・D」4 科目の中から1科目履修可
情報システムデザイン学系	「科学技術概論B・C・D」3 科目履修可
機械工学系	「科学技術概論A・B・C・D」4 科目の中から1科目履修可
電子情報・生体医工学系	「科学技術概論A」1科目のみ履修可
建築・都市環境学系	「科学技術概論A・B・C・D」4 科目の中から1科目履修可

⑸ アセスメント科目

各学系に配当されている「アセスメント科目」は、卒業研究で要する専門知識・技術の定着及び確実な専門基礎力の定着を見極める科目です。

3 履 修

進級や卒業には、後述するように一定の条件が定められていますので、4 年間の学修について、自己責任と自己管理が重要であることを自覚し、次の点を考慮して履修計画を立ててください。

1 履修計画注意点

① 各学系・共通教育科目・専門教育科目（専門基礎科目）のページにある「履修モデル」を参考にして、履修科目の見通しを立ててください。

② 授業科目配当表と学期始めに配布する授業時間割表を参考にし、シラバスを読んで、授業科目の内容をつかむようにしてください。

③ **必修科目の履修登録**を忘れないようにしてください。

④ 各学系で定められている、**進級条件・卒業要件**をクリアできるように充分に考慮し、余裕をもって履修してください。

⑤ 履修上限単位数**（44 単位／年）**を超えないように注意してください。ただし、2024 年度カリキュラム「東京電機大学で学ぶ」、自由科目、夏季・春季休業中に実施する集中科目、インターンシップは履修上限単位数（44 単位／年）には含みません。

⑥ 同時限に開講する科目を重複して履修することはできないので注意してください。

⑦ 履修できる科目は、各自のカリキュラム年度の科目のうち、所属する学年又は原則として下級年次に配当された授業科目のみとなります。

⑧ 理工学部以外（他学部、他大学、短期大学、大学以外の教育施設）の科目も一定の条件内で履修できます。

2 履修登録

⑴ 履修登録の意味

各自がどの授業に出席し、どの科目を修得しようとしているのかについて、大学へ届け出ることを履修登録といいます。（必修科目も履修登録する必要があります）

> 履修登録していない科目は、授業に出席することも、学期末試験を受験することもできません。

⑵ 履修登録の期間

履修登録は、定められた期間に学生自身が行います。

① 履修登録期間（1 年間分の履修登録）・・・・4 月

② 履修登録修正期間（1 年間分の履修登録）・・4 月

③ 履修登録修正期間（後期分の履修登録）・・・9 月

※詳細の日程等については、UNIPA によりお知らせします。

※③の履修登録修正期間では、通年科目の修正はできません。

⑶ **履修登録の方法**

履修登録は、履修登録期間内に学生自身が UNIPA で入力します。(学内設置のパソコン、その他の場所でもインターネット接続可能なパソコン、スマートフォンから行うことができます。なお、一部 UNIPA 以外での申請科目もあります)

履修登録期間中であれば何回でも修正することができます（学内に設置してあるパソコンは使用できる時間が決まっています)。履修登録を行う際には、あらかじめ自分の履修したい科目を決定してからパソコンに向かい、すみやかに作業を終了するようにしてください。

また、**パソコンの操作ミスを含む入力ミスや、勘違い等による履修登録漏れがあった場合でも、履修登録期間及び履修登録修正期間以外では一切認められません**ので、履修登録の確認期間には各自で責任を持って確認してください。

なお、科目によっては**科目担当教員が履修制限する科目**があります。UNIPA や授業等で履修可能者やクラス分け結果をお知らせします。

履修登録結果は、後日、UNIPA で公開します。各自で必ず確認し、修正(追加及び取消等)の必要があるときは所定期間内に手続をしてください。

詳細は適宜 UNIPA で確認するようにしてください。

3　履修上限について

1 年間に履修することができる単位数（履修上限単位数）は **44 単位**と定められています。従って進級条件および卒業要件に注意しながら、しっかりと 4 年間の履修計画を立てることが必要となります。

なお、以下に該当する場合もしくは以下の科目については**履修上限 44 単位**の制限を受けません。

⑴ **履修上限の制限を受けない場合**

履修上限緩和要件		適用時期	上限緩和単位数	履修上限から除外する科目
GPA	その他			
3.1 以上(入学時からの累計)	前年度に36単位以上の履修登録を行ったもの	2 年前期から	通年 8 単位まで	・東京電機大学で学ぶ ・自由科目（P151 参照） ・夏季・冬季・春季休業中に実施する集中科目 ・インターンシップ

4　重複履修の禁止

⑴ **同一時限における重複履修の禁止**

原則として同一の配当期・曜日・時限の科目を重複して履修することはできません。

⑵ **同一科目の重複履修の禁止**

同一科目が複数開講されていても、一科目のみしか履修することはできません。

(担当教員や開講学系が異なっていても履修することはできません)

5　上級年次科目の履修について

上級年次に配当されている科目は履修できません。

但し、以下の基準に適用する成績優秀者に対して、学系及び学部長の判断により履修が可能となります。

適用学生：全成績評価（自由科目および「R」評価は除く）の 85%以上がＳ又はＡ評価であり、かつＧＰＡが 3.4 以上の学生（1 年次生は除く）。

※履修上限単位に含まれます。
※履修可能な科目については所属学系にお問い合わせください。
※上級年次科目の成績評価は、正規履修科目と同様に成績表に表記されます。

6　他学部科目の履修（進級条件・卒業要件の単位として算入されません）

未来科学部・工学部・工学部第二部・システムデザイン工学部科目の履修を希望する学生は、本人の所属する学系長、又は専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得れば履修することができます。

7　他大学科目の履修（進級条件・卒業要件の単位として算入されません）

⑴ 東京理工系 4 大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・東京都市大学の 4 大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の 3 大学の科目を履修することができます。

⑵ 東洋大学との単位互換について

本学部は東洋大学と単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、東洋大学の科目を履修することができます。

⑶ 山村学園短期大学との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

本学部では山村学園短期大学との間に単位互換協定を結んでいます。本協定により、希望者は特別科目等履修生として、山村学園短期大学の科目を履修することができます。

⑷ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）について（ホームページ：https://www.tjup.taibokudo.jp/）

本学部では、埼玉県に所在する 19 大学・短期大学と「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP)」を形成しており、その中で以下の 15 大学・短期大学と単位互換を行っています。

跡見学園女子大学、埼玉女子短期大学、十文字学園女子大学、城西大学、城西短期大学、女子栄養大学、駿河台大学、西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、
日本医療科学大学、文京学院大学、武蔵丘短期大学、山村学園短期大学、立正大学

8　他学部・他大学科目の履修手続

他学部・他大学科目履修を希望する学生は、所属する学系長又は専任教員の承認を得た上で、

授業担当教員の承認を得ることが必要です。

これらの履修を行う際に許可をもらう人及び履修費については、以下の表を確認してください。

	許可をもらう人	履　修　費
東京理工系４大学	所属する学系長	無　料
東洋大学	所属する学系長	無　料
山村学園短期大学	所属する学系長	１単位 500 円
他学部科目	所属する学系長又は専任教員、科目担当教員	無　料
埼玉東上地域大学教育プラットフォーム	所属する学系長	１大学 2,000 円

また、履修するにあたっては以下の点に注意してください。

① 理工学部配当表の科目と内容が重複する科目は認められません。(特に修得済みの科目や履修中の科目と内容の重複する科目は認められません)

② 自分の所属する学年又は原則として下級年次配当の科目でなければなりません。

③ 他の履修科目と時限が重複しないように気をつけてください。特に他大学、他学部の科目を履修する場合は、移動時間を含め、本学部の授業と重複しないように注意してください。(試験の日程が重なった場合も特に便宜はありません)

④ 通学定期券の発行はできません。

9　その他履修について

⑴ 履修人数の制限

履修登録は UNIPA 等で受け付けますが、科目によっては履修登録を受け付けた結果１つの時限に履修者が集中し、その履修人数が教室等の関係で一定人数を超えた場合に限り、履修人数の制限をかける場合があります。

履修人数は抽選又は科目担当教員の判断により制限をかけ、それらの結果によっては、希望する科目を履修できない場合があります。

履修登録に関する詳細や履修登録期間・具体的な履修登録方法等は UNIPA によりお知らせします。

⑵ 科目名の最後についているⅠ・Ⅱ、A・Bについて

Ⅰ・Ⅱというのは、Ⅰを履修してからⅡを学ぶことを原則としている科目です。

A・Bというのは、Aを履修してからBを学ぶほうが望ましいという科目です。

いずれも半期制の科目ではありますが、通年科目のつもりで履修計画を立ててください。

⑶ 卒業研究の履修登録について

卒業研究は自分の所属する学系（主コース）で履修登録をしてください（必修科目です）。

⑷ スポーツ実習 A・B・C・D、ウェルネススポーツ A・B

授業時間割表の表記は「科目名称（種目名）」として記載されています。

⑸ 履修登録をしなくても良い科目

・海外英語研修
・アウトドア実習
・インターンシップ
・海外事情

これらの科目は、参加の申し込みを行った後、参加が許可されることにより履修登録した事になります。（参加が許可されない場合もあります）

なお、実施の時期により**年度内に成績（単位）がつかない**場合がありますので、年度末に実施される研修については必ず事前に確認してください。

⑹ インターンシップ科目

インターンシップは、履修及び履修登録の取り扱いが他の科目と以下の点において異なりますので注意してください。

ア　インターンシップについて

インターンシップとは、一般的には、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことであり、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」としてとらえられています。（労働報酬はありません）

本学部でのインターンシップに関する科目は、全学系に開講され、講義科目の「情報と職業入門」及び実習科目の「インターンシップ」にて構成されています。

> **実習科目の「インターンシップ」を履修する学生は、その前提科目として「情報と職業入門」の単位を修得しなくてはなりません。**
> **「情報と職業入門」は、1・2年生のうちに単位修得しておくことを推奨します。**

イ　履修の取り扱い

インターンシップは科目配当表に記載されている複数の「インターンシップ」のうち、在籍学年に配当されている科目のみが履修可能であり、再履修はできませんので、授業科目配当表を確認の上注意してください。

ウ　インターンシップ科目の運用

インターンシップ科目の運用は以下のようになります。

・履修の希望を学系へ申し出て企業を決定します。
・１企業あたりの派遣学生数は企業毎に異なります。
・研修期間は合計２週間程度。
・研修形態は学系と打ち合せ、決定します。

・**履修登録の手続きは不要**です。
・履修上限単位数には含まれません。
・**研修前には必ず「情報と職業入門」の単位を修得**し、事前指導を受けてください。
・企業と学系で協働し目標設定や実習中のモニタリング、実施後の指導等を行います。
・研修の報告書や発表会等を基に成績評価を行います。評価は翌学期もしくは、翌年度となります。
・インターンシップ科目の認定は、原則一人につき一科目までです。

エ　履修の形態

インターンシップは、学系により科目名は異なりますが、全学系に配当されています。科目名は履修した配当期によって次のとおりになります。

2・3・4 年次前期：インターンシップA　　後期：インターンシップB

⑺ 重複履修特定科目について

特定科目とは、**再履修者**に対しその科目担当教員が、授業時間外に指導すること等を条件に、重複履修を許可する科目のことをいいます。該当科目がある場合は、UNIPA でお知らせします。

⑻ 単位修得している科目は再履修することはできません。

⑼ 同一の科目名の科目は、学部･学科･学系で配当の所属が異なっていても、1 科目のみしか、履修および単位修得することはできません。

10　再履修

履修した授業科目の単位が修得できなかったときに、再度その科目を履修からやり直すことを、**再履修**といいます。（単位修得済みの科目を再履修することはできません）

⑴ 再履修上の注意

①必修科目の単位を修得できなかったときは、必ず再履修しなければなりません。
②選択科目の単位を修得できなかったときに、再履修するかしないかは、各自の意思に任せられますが、その際、進級条件、卒業要件等に充分注意してください。
③再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、再履修年度の担当教員のもとで再履修しなければなりません。
④授業時間割は前年度と同学期及び同曜日・同時限に配置されるとは限りません。
⑤再履修科目の履修登録・受講・試験等については、新規での履修の場合と同様です。

4 試　験

授業科目の単位認定の方法として、試験が行われます。試験には、学期末試験・中間試験・追試験等があります。いずれの試験も**受験する際には必ず学生証を携帯してください。**

なお、試験は筆記のほかに、レポート提出・口頭試問などの方法により行われることもあります。

1　学期末試験

学期末試験は、原則として授業時間中に行われ、一部の科目については学期末の学部が定める期間（特定日※）に行われます。（科目によっては、小テスト、レポートなどの内容により採点する為、筆記試験を行わない場合もあります。）

※不測の事態により試験日程が変更され、急きょ特定日に試験が実施されることがあります。

⑴ 学期末試験の受験資格

学期末試験受験のためには、以下の条件を備えていることが必要となります。

① 履修登録をした授業科目であること。
② その学期までの学費を納入していること。
③ 休学期間中ではないこと。

⑵ 学期末試験受験上の注意

学期末試験の受験に際しては、以下のような注意が必要です。授業中に実施する場合や学部の指定する期間に実施する場合にかかわらず熟読し、よく理解しておいてください。

ア　試験時間割等の確認

試験日・試験時間割・試験教室・座席表など試験に関する情報は、試験開始日のおおむね 1 週間前に UNIPA にて公開されます。試験教室が通常の授業の教室と変更となる場合等がありますので、よく確認してください。

イ　試験教室・座席の指定

試験教室・座席は、試験科目により以下の 3 種類の指定があります。UNIPA で確認してください。

・授業着席（隣席との間を空けずに着席します）
・試験着席（原則として隣席との間を 1 席分空けて着席します。）
・教員にて指示（科目担当教員により事前に掲示等での指示、または当日口頭での指示等があります）

ウ　遅刻・退出について

遅刻－試験開始後 30 分を経過すると入室は認められません。
退出－試験開始後 40 分を経過しないと退出は許可されません。（ただし、終了 10 分前まで）

なお、事情により、上記に拠らない場合がありますので、試験監督者の指示に従ってください。

エ　学生証について

学生証は常に携帯し、試験（学期末試験・中間試験・追試験等）のときには常に机の上に出しておかなければなりません。また監督者からの要求があったときには、必ず提示しなければなりません。

学生証を持参していない学生は、いかなる理由があっても受験できません。

注）学生証を忘れた者は、証明書自動発行機で仮受験票を発行してください。ただし仮受験票発行には 1,000 円の手数料と別途システム利用料がかかります。当日 6 時限分の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限分の仮受験票は各自で処分してください。

オ　試験場での心得

試験期間中は試験監督者が一切の権限を持ちます。試験監督者の指示に従わない者や、態度不良の者は退室を命ぜられることがあります。

また、携帯電話等の持ち込み（時計としての使用も不可）は禁止しています。

カ　棄権

試験を棄権する場合でも、答案用紙に必ず、学年・学系・学籍番号・氏名を記入し提出しなければなりません。

キ　不正行為

カンニングなど不正行為をした者は、退室を命じられたうえ、原則として**その学期末試験の全部の試験が無効**となります。

2　追試験

⑴ 追試験の受験資格

以下に示す真にやむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった場合、追試験を受験することができます。（以下のカッコに記載の書類が必要となります。）

① 病気で受験できなかった場合（欠席した学期末試験の実施日が療養期間（○月○日～○月○日）内として記載されている「医師の診断書」）
② 親族の死亡などで受験できなかった場合（会葬礼状など）
③ 交通機関の運休・遅延などで受験できなかった場合（学生証裏面に記載されている通学定期券の通学区間内の遅延を証明する「遅延証明書」）
④ 火災・台風災害などに罹災した場合
⑤ 上記と同程度と認められる本人の責任でないやむを得ない理由がある場合

※追試験の実施方法は科目担当教員の判断によります。
※追試験日に登校し、受験できることが条件となります。

⑵ 手続き

・追試験を希望する学生は、追試験願に**欠席理由を証明する書類**を添えて、**欠席した学期末試験の実施日を含み 3 日以内（休・祝日を除きます。ただし、休・祝日に授業を行う日は含みます。）**に、教務担当へ提出してください。（追試験手数料は、1 科目につき 500 円です。別途システム利用料が必要となります。）

・**病状等の理由により、申請期間に申請できない場合**は、期限内（欠席した学期末試験の実施日を含み３日以内（休・祝日を除きます。ただし、休・祝日に授業を行う日は含みます。））に必ず教務担当へ電話連絡（049-296-0430）の上、電子メールに追試験願（電子ファイル）及び欠席理由を証明する書類（電子ファイル）を添付して、教務担当（ri-kyomu@jim.dendai.ac.jp）へ提出をしてください。
（期限を過ぎた後の電話連絡は追試験対象とはならないので注意してください。）

3　中間試験等

学期末試験以外の通常の授業中に行う小テストや学期の途中で行われる中間試験は、授業科目担当教員が実施日・方法などを決定し、授業中又は UNIPA により伝達します。

5 成 績

授業担当教員が採点し、60 点以上の評点を得たとき合格となり、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から見て「単位認定」、学生側から見て「単位修得（取得)」といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行われます。一旦単位を修得（取得）した授業科目は、履修の終了が認定されたことになるので、再度の履修をすることはできません。

1 成績評価基準

評点に対し、**S・A・B・C・D・ー**の評価が与えられ、本人が確認する成績通知書にはこの評価と評点が記載されます。**なお成績証明書には、評価のみ記載となり、不合格（D・ー）の評価の科目は記載されません。**

評点と評価の関係は、次のとおりです。

判定	成績評価		評点	成績評価基準
	成績通知書	成績証明書		
合格（単位修得）	S	S	90 ～ 100 点	当該科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている。
	A	A	80 ～ 89 点	当該科目の到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている。
	B	B	70 ～ 79 点	当該科目の到達目標を十分に達成し、妥当と認められる成績を修めている。
	C	C	60 ～ 69 点	当該科目の到達目標を最低限達成した成績を修めている。
	R	R	認定された科目	以下のうち、当該科目の到達目標を満たしていると認定されたもの。 ・単位互換等で他大学より取得した単位 ・編入学・再入学・転学部等において、入学前に取得した単位 ・本学部で指定する資格等の取得
不合格	D	記載されません	0 ～ 59 点	当該科目の到達目標を達成していない。
	―		放棄	試験を受験していない、もしくはレポートの不提出などで当該科目を放棄したとみなされるか、評価できない。

＊ 履修中（履修した授業科目にまだ評点が入らないとき）

注 (1) 単位認定の時期は、その授業科目の履修が終わる配当期の終了時点（前期末・後期末）です。これは再履修の場合も同じで、これ以外の時期に単位認定が行なわれることはありません。
注 (2) 配当期が変更された科目を再履修した場合の単位の認定の時期は、原則として現に受講している科目の配当期末とします。

2　成績の通知

前期の成績通知は９月上旬に、後期の成績通知は３月上旬に UNIPA で発表します。

成績評価は授業担当教員が厳正に行いますが、シラバス記載の評価方法・自身の学習態度や提出物・試験結果等から考えて評価内容に明らかな誤りがあると思われる場合、所定の期間内（前期は９月上旬、後期は３月上旬を予定）に限り、教務担当窓口に申請をしてください。具体性を欠く内容や嘆願的な内容の申請は受け付けません。詳細は UNIPA 掲示でお知らせします。

成績の通知後、担当教員から採点の訂正が行われた場合でも、原則としてその都度の訂正および発表は行われず、次学期の成績に反映されます。

3　成績順位

本学部では、成績の総合評価の指標として GPA（Grade Point Average）を採用しています。

GPA とは、科目を履修して最終的に与えられた S・A・B・C・D・－の評価（Grade）に４～０のポイント（Point）を配当しそれに単位数を掛け、修得したポイントの合計と単位数をもとに算出する平均値（Average）です。

そのポイントと計算式は以下のようで、GPA の最高値は“4”となり、最高値に近いほど評価が高くなります。

【ポイント】

評　点 (100 点法)	成績評価	GP (グレードポイント)	合　否
90 ～ 100	S	4	合　格
80 ～ 89	A	3	
70 ～ 79	B	2	
60 ～ 69	C	1	
0 ～ 59	D	0	不合格
放　棄	―	0	

【計算式】

$$GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{その科目で得たＧＰ（グレードポイント）})\text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数の合計}}$$

※ GPA の値は、小数点第 4 位を四捨五入して、小数点第 3 位まで表示します。
※ 分母の「履修登録した科目の単位数の合計」には、履修中の科目は含まれません。
※ 卒業要件とならない科目（自由科目）は含まれません。
※ 対象科目は履修し評価を受けた科目となるので、資格等で認定された単位**（R 評価）**は含まれません。

【用　途】
※ 成績証明書等に記載します。
※ 学部内における判定等（3 年次在学における卒業･履修上限を超えての履修･就学指導･その他）に使用します。

6　学生アドバイザーによる学修指導

1　面談指導

学力不振、学修意欲不振等の学生に対して、早期に適切な指導を行うことにより、学修活動の改善を支援することを目的として、面談指導を実施します。

（1）1 年次生対象（前期）
以下のいずれかの基準に該当する学生
・履修申告単位が 0 単位の者
・正当な理由がなく、無届で 1 ヶ月以上欠席した者

（2）成績不振者対象 (1 年次後期～ 3 年次)
以下のいずれかの基準に該当する学生
・前の学期の GPA が 1.1 未満の者
・正当な理由がなく、無届で 1 ヶ月以上欠席した者

（3）留年生対象

2　学修指導

学力不振の継続により進級・卒業が困難な状況にある学生に対して、早期指導を行うことにより、学生の学修意欲向上、学修活動の改善を支援することを目的として、面談指導を実施します。

2 学期連続（休学期間を除く）して、以下の両基準に該当し、面談の結果、学修意欲が欠如

していると判断された場合は、学系長が、学修意欲喚起と学修活動の早期改善を促すことを主眼とした退学予備勧告も視野に入れた学修指導を行うことがあります。

なお、退学予備勧告は、保証人にも文書にて通知します。

以下の両基準に該当する学生

・2 学期連続（休学期間を除く）して、修得単位が 8 単位未満の者（履修上限の制限を受けない科目を除く）

・2 学期連続（休学期間を除く）して、GPA が 1.0 未満の者

3　特別学修指導

前の学期に学修指導を受けた学生が、さらに以下の両基準に該当し、面談の結果、学修意欲が認められないと判断された場合は、学修意欲喚起、学修活動の早期改善及び今後の自分自身の進路についても再考する機会を設けることを主眼とした退学勧告も視野に入れた特別学修指導を保証人同席のもと、学部長が行うことがあります。

前の学期に学修指導を受けた者で、以下の両基準に該当する学生

・修得単位が 8 単位未満の者（履修上限の制限を受けない科目を除く）

・GPA が 1.0 未満の者

7　単位認定

1　入学前に修得した単位の認定

⑴ 編入学の場合

編入学前に、大学、短期大学、高等専門学校の専攻科で修得した成績のうち、教授会が教育上有益であると認めたものは、本学で修得したものとして単位認定することができます（高等専門学校での科目は、原則として 4・5 年次の科目に限ります）。

編入学の単位認定方法は**“科目対応認定”**で行います。修得している科目を本学部もしくは所属学系に対応する科目に振替える方法です。卒業要件、進級条件は正規入学の学生と同じになります。

2･3 年次への編入学の単位認定は必要に応じて**“包括単位認定”**を行うことがあります。認定単位数合計は原則として 2 年次編入学者に対しては 36 単位以上、3 年次編入学者に対しては 68 単位以上を目安としています。

詳しくは、教務担当窓口にて確認してください。

⑵ 申請方法

認定希望者は、教務担当窓口にある「単位認定申請書」に、入学前の最終成績証明書及び講義要目（シラバス）を添付して、**4 月上旬**に教務担当へ提出してください（詳細は教務担当窓口又は UNIPA で確認してください）。

申請を受けてから単位認定作業を行い（必要に応じて面談等を行う場合があります）、一ヶ月程で申請結果をお知らせします。

2　本学部の指定する資格による単位認定

次頁に記載されている資格を取得している学生は、申請により本学の科目として単位認定を受けることができます。資格による科目の単位認定を希望する者は、**根拠となる証書（合格証明書等）の原本を持参の上、**教務担当窓口へ申し出てください。

なお、この単位認定の注意事項は以下のとおりです。

①資格による単位認定の際は該当科目を履修登録する必要はありません。
②該当科目を履修中の場合は履修登録を取り消します。
③既に単位修得済みの科目については単位認定することができません。
④履修上限単位数には加算されません。
⑤該当科目が現学年より上級年次の配当であっても、成績表には表記され、進級条件・卒業要件にも加算することができます。
⑥同一の資格が全学系と各学系の双方にある場合は、希望によりどちらか一方を単位認定します。
⑦学系科目の対応については、所属学系の科目のみとし、他の学系の科目は単位認定しません。
⑧成績評価は「R」となり、ＧＰＡには反映されません。
⑨申請し認定された科目の成績評価「R」を取り消すことはできません。
⑩ＴＯＥＩＣのＩＰテストの取扱いについては、学内での実施に限り申請可能とします。
⑪申請してから成績表に表記されるまでの日程については下記を参考にしてください。

- **1 月～ 6 月に申請**の場合は**前期**成績表に表記
- **7 月～ 12 月に申請**の場合は**後期**成績表に表記

※資格による単位認定により所要単位数が充足され進級・卒業が可能となる場合もあるので、申請は余裕をもって行ってください。

資格と単位認定科目

	資格名称	科目名	学年	単位数
全学系	実用英語技能検定（2級）または TOEIC550 点以上 ※1	総合英語ⅠA	1	1
		コミュニケーション英語ⅠA	1	1
		総合英語ⅠB	1	1
		コミュニケーション英語ⅠB	1	1
	実用英語技能検定（準1級）または TOEIC730 点以上 ※1	総合英語ⅠA	1	1
		コミュニケーション英語ⅠA	1	1
		総合英語ⅠB	1	1
		コミュニケーション英語ⅠB	1	1
		総合英語ⅡA	2	1
		コミュニケーション英語ⅡA	2	1
		総合英語ⅡB	2	1
		コミュニケーション英語ⅡB	2	1
	実用英語技能検定（1級）または TOEIC850 点以上 ※1	総合英語ⅠA	1	1
		コミュニケーション英語ⅠA	1	1
		総合英語ⅠB	1	1
		コミュニケーション英語ⅠB	1	1
		総合英語ⅡA	2	1
		コミュニケーション英語ⅡA	2	1
		総合英語ⅡB	2	1
		コミュニケーション英語ⅡB	2	1
		プレゼンテーション英語A	3	1
		プレゼンテーション英語B	3	1
	IT パスポート	情報リテラシー (数理・データサイエンス入門)	1	2
	基本情報技術者	情報リテラシー (数理・データサイエンス入門)	1	2
		C 言語プログラミング	1	2
	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者)	情報リテラシー (数理・データサイエンス入門)	1	2
		C 言語プログラミング	1	2

※1　TOEIC のＩＰテストでは公開テストで発行される Official Score Certificate（公式認定証）は発行されず、スコアレポート・スコアシートでの結果報告となるため、ＩＰテストは学内での実施に限り認定します。

	資格名称	科目名	学年	単位数
理学系	基本情報技術者	数理プログラミングⅠ	1	2
	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者)	数理プログラミングⅠ	1	2
		数理プログラミングⅡ	2	2
生命科学系	統計検定２級	生物統計学	2	2
	バイオインフォマティクス技術者認定試験	生物情報科学Ⅰ	2	2
情報システムデザイン学系	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者)	基本情報処理技術	2	2
	基本情報技術者	基本情報処理技術	2	2
	CG エンジニア検定　エキスパート	コンピュータグラフィックス	2	2
		ＣＧプログラミング	3	2
	CG エンジニア検定　ベーシック	コンピュータグラフィックス	2	2
	色彩検定２級	色彩論	2	2
機械工学系	機械・プラント製図 (機械製図手書き作業) ３級	基礎製図	1	4
	機械・プラント製図 (機械製図ＣＡＤ作業) ３級	基礎製図	1	4
	機械設計技術者３級	機械基礎演習	3	2
	データサイエンス数学ストラテジスト上級	機械工学入門	1	2
電子情報・生体医工学系	電気主任技術者（第１・２・３種）	電気回路Ⅱ・演習	1	3
	基本情報技術者	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者)	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
		コンピュータ工学Ⅱ	2	2
建築・都市環境学系	測量士	測量学・演習	2	3
		測量実習	2	2
	測量士補	測量実習	2	2

8　進級と留年

理工系の大学では、学問の性質上、基礎から応用へと積み重ねて勉学していくことが不可欠です。

そこで、本学部では、学問の基礎から応用へと順序立てて学修できるように、それに適した授業科目を各学年に配当し、その学年ごとに履修を指定しています。

したがって、下級学年次に不合格科目が多い状態で上級学年次に進むと、基礎学力が不足しているにもかかわらず上級学年次配当の専門的授業科目を履修しなければならないことになり、教育的に好ましくない状況をもたらします。

このような事態を避けるため、本学部においては、低学年次配当授業科目の単位修得状況を考慮し、上級学年次へ**進級**するための条件を定め、この条件を充たさないときは、もとの学年次に**留年**するという**進級制度**をとっています。

原則として①～③の条件を全て満たした場合、上級年次へ進級することとなります。

①必要な学費及びその他の費用を納入していること。

②同一学年に合算して 12 ケ月以上在学すること。ただし、休学期間は在学年数に含まない。

③上級年次に進級するための条件がある場合は、その条件を満たしていること。

1　1 年次から 2 年次への進級条件

1 年次終了時に 1 年次配当科目から 30 単位以上修得していること（自由科目は含まない)。

2　2 年次から 3 年次への進級条件

2 年次から 3 年次への成績による進級条件はありません。(ただし、前記の学籍及び学費の条件を満たす必要があります。)

3　3 年次から 4 年次への進級条件

各学系の進級条件、下記の条件及び合計で、1 ～ 3 年次配当科目から 104 単位以上修得していること（自由科目は含まない)。

区　　分			単位数	卒業要件
人間形成			12	16
英語			6	8
技術者倫理			2	2
数学			4	6
自然科学技術			6	8
情報			2	4
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

進級条件は、学系、学年ごとに異なるので、各学系のページを熟読してください。

4　2・3年次への編入学者の進級条件

2・3年次への編入学者については入学時に修得している成績の単位認定を行いますので、各学系に表示してある条件とは異なる場合があります。不明な点については教務担当窓口で確認してください。

5　留　年

進級判定の結果、留年となった場合、同一学年をやり直すことになります。

留年したときには、次のような点に注意してください。

① 留年した場合であっても、入学した年度のカリキュラムが適用されます。また、進級・卒業判定基準も、入学した年度の基準が適用されます。（留年による変更はありません）

② 学生要覧は現在使用しているものを卒業まで使用します。

③ 同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級・卒業できないときは、**除籍**となります。

④ 4年次生が卒業要件を充足することができずに留年した場合は、次年度の前期に卒業要件を充足することができれば前期末に卒業することができます。

前期末に卒業を希望する学生は、前期の成績が発表されたら、指定の期日までに学系長へ申し出てください。（事前に前期末での卒業の意志を学系長に伝えておくことが望ましい）申し出を受けて、卒業の手続きを行いますので、申し出がない場合は卒業要件を充足していても、年度末での卒業となります。（年度末でも卒業要件を充足する必要があります）

（注）留年（休学による留年も含む）した場合の学費は、当該学年の正規学年次生の学費を納めなければならないので注意すること。

9 卒 業

休学期間を除き 4 年次に合算して 12 か月以上在学している学生で、年度末判定時に休学していない 4 年次生を対象に卒業判定が行われます。卒業するためには、次のすべての要件を満たすことが必要です。

1 卒業要件

⑴ 卒業するために必要な単位数（卒業要件単位数）を修得していること。
⑵ 自己の所属する学系に配当されている必修科目の単位を全て修得していること。
⑶ 各学年次に 1 年、合計 4 年以上（8 年以内、但し休学時は異なる）在学していること。
⑷ 卒業までに必要な学費およびその他の費用の全額を納入していること。
⑸ 卒業判定時に休学していないこと。

※卒業所要単位数には自由科目の単位は含まれない。

●理工学部においては、次により 124 単位以上を履修し、修得しなければならない。

科目区分	科目群・分野		単位数
共通教育科目	人間形成科目		16
	英語科目		8
専門教育科目	専門基礎	技術者倫理	2
		数学	6
		自然科学技術 （注 1）	8 （注 1）
		情報	4
	学系共通科目		80 （☆ 1）
	コース専門科目		

（☆ 1）学系共通科目群及びコース専門科目群における「80 単位」の内訳は以下のとおり。

コース選択	コース	学系共通科目	コース専門科目	合計
副コースが自学系の場合	主コース	34 単位	26 単位	80 単位
	副コース		8 単位	
	自主選択科目	12 単位（※ 1）		
副コースが他学系の場合	主コース	28 単位	26 単位	80 単位
	副コース	指定科目群から 14 単位（※ 2）		
	自主選択科目	12 単位（※ 1）		

（注 1）「科学技術概論Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ」の各学系の取り扱いは以下のとおり。

学系	卒業所要単位数への算入対象科目	卒業所要単位数に算入されない科目	卒業所要単位数への算入上限単位数
RU	科学技術概論Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ		4（2 科目）
RB	科学技術概論Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ		2（1 科目）
RD	科学技術概論Ｂ・Ｃ・Ｄ	科学技術概論Ａ	6（3 科目）
RM	科学技術概論Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ		2（1 科目）
RE	科学技術概論Ａ	科学技術概論Ｂ・Ｃ・Ｄ	2（1 科目）
RG	科学技術概論Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ		2（1 科目）

※1　自主選択科目

自主選択科目の単位を修得するには、特別な授業科目を履修するのではなく、**「全ての学系の学系共通科目」もしくは「コース専門科目」**の最低修得単位を超えた単位数が自動的にこの自主選択科目の単位数となり、卒業までに **12 単位以上**修得しなければならない。

例）理学系で主コースを数学コース、副コースを物理学コースに所属している学生の場合

修得した科目の科目群	取扱い
理学系共通科目	34 単位まで学系共通科目、35 単位以上は自主選択科目に算入
理学系以外の学系共通科目	自主選択科目に算入
数学コース専門科目	26 単位まで主コース専門科目、27 単位以上は自主選択科目に算入
物理学コース専門科目	8 単位まで副コース専門科目、9 単位以上は自主選択科目に算入
上記以外のコース専門科目（他学系も含む）	自主選択科目に算入

※UNIPA 上では「自主選択科目」という区分では表示されず、各科目群の科目として計上される。

※2　指定科目群

所属する学系と異なった学系から副コースを選択する場合、該当の副コースの指定科目群に配置されている以下の学系共通およびコース専門科目の中から **14 単位以上**修得のこと。

○理学系

◆数学コース

(学系共通)数理のふしぎ②,線形代数学②,複素解析学②,幾何学I②,代数学I②,解析学I②

(コース専門)代数学Ⅱ②,幾何学Ⅱ②,解析学Ⅱ②,代数学Ⅲ②,解析学Ⅲ②

◆物理学コース

(学系共通)力学②,電磁気学I②,量子力学I②,量子力学Ⅱ②,統計力学I②,天文学②

(コース専門)振動と波動②,量子力学Ⅲ②,統計力学Ⅱ②,連続体の物理②,固体物理学②,電磁気学Ⅱ②

◆化学コース

(学系共通)基礎有機化学②,有機化学I②,機器分析②,無機･分析化学②,化学実験A②

(コース専門)化学熱力学②,界面化学②,無機化学②,基礎高分子科学①,工業化学要論①,有機･高分子化学②,化学反応速度論②

◆数理情報学コース

(学系共通)離散数学②,統計学②,フーリエ解析入門②,画像処理②,数理プログラミングⅡ②

(コース専門)数理情報学基礎演習②,機械学習理論②,システム理論②,最適化法②,情報論②

○生命科学系

◆分子生命科学コース

(学系共通)生化学②,微生物学②,分子生物学②,生命物理化学②,生物統計学②,
生物情報科学I②

(コース専門)免疫学②,生体組織学②,薬理学②,創薬化学②

◆環境生命工学コース

(学系共通)生化学②,微生物学②,分子生物学②,生命物理化学②,生物統計学②,
生物情報科学I②

(コース専門)環境生物学②,食品製造学I②,食品化学②,生命環境工学②

○情報システムデザイン学系

◆コンピュータソフトウェアコース

(学系共通)コンピュータ基礎②,情報数学I②,コンピュータプログラミングI・同演習③,
アルゴリズムとデータ構造I②

(コース専門)アルゴリズムとデータ構造Ⅱ②,ゲームプログラミングI②,計算量と暗号②,
数理とデザイン②

◆情報システムコース

(学系共通)情報数学I②,情報・符号理論②,基礎確率論②

(コース専門)統計学I②,組み込みシステム②,動的システム②,情報セキュリティ概論②,
計算量と暗号②,応用Javaプログラミング②

◆知能情報デザインコース

(学系共通)情報数学I②,基礎確率論②

(コース専門)統計学I②,統計学Ⅱ②,多変量解析②,知能情報デザイン概論②,認知心理学②,
実験心理・行動科学②,データサイエンス入門②

◆アミューズメントデザインコース

(学系共通)デザイン学②,音楽とデザイン②,色彩論②,美術・芸術学②,技術と表現②

(コース専門)五感とデザイン②,メディア×カルチャー②,コンピュータグラフィックス②,
数理とデザイン②

○機械工学系

◆設計・解析コース

(学系共通)材料力学I・演習③,流体力学I・演習③,工業熱力学I・演習③,機械要素I・演習③

(コース専門)流体力学Ⅱ・演習③,工業熱力学Ⅱ・演習③,機械材料②

◆加工・制御コース

(学系共通)材料力学I・演習③,機械力学I・演習③,機械加工学I・演習③

(コース専門)材料力学Ⅱ・演習③,機械力学Ⅱ・演習③,制御工学②

○電子情報・生体医工学系

◆電子情報コース

(学系共通)電気回路I・演習③, 電磁気学I・演習③, 電子情報回路I・演習③, 制御工学I・演習③

(コース専門)信号処理工学A②, 信号処理工学B②, 通信工学②

◆電子システムコース

(学系共通)電気回路I・演習③, 電磁気学I・演習③, 電子情報回路I・演習③, 制御工学I・演習③

(コース専門)電気電子計測工学②, 電子物理学②, パワーエレクトロニクス②

○建築・都市環境学系

◆建築コース

(学系共通)建築・都市環境学へのアプローチ②, 静力学②, 地盤工学A・演習③, 建設材料学②, 水理学A・演習③

(コース専門)建築史②, 建築環境工学②, 耐震設計法②, 住居論②

◆都市環境コース

(学系共通)建築・都市環境学へのアプローチ②, 静力学②, 地盤工学A・演習③, 建設材料学②, 水理学A・演習③

(コース専門)防災工学②, リモートセンシング②, 都市衛生工学②, 気圏・地圏の環境②, 水圏の環境②

2　3年以上の在学での卒業について（3年卒業、3.5 年卒業）

本学の学生として３年以上在学した者で、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認められる場合は、以下の条件により４年間をかけなくても卒業することができます。

条件は以下のようになります。

⑴ 3年以上の在学での卒業における基準

① ３年次以上の在学での卒業を希望し、単位修得状況・履修登録状況について確認の上、所属学系長に相談していること。

② 所属学系の指導する早期卒業についての履修計画に従っていること。

③ 在学期間が３年以上の学生であること。

④ ３年次以上までに卒業要件の全て（※ 1、※ 2 参照）を満たし、卒業所要単位 124 単位以上を修得済みであること。

※ 1　３年卒業の場合は、３年次まで配当されている必修科目を全て修得すること。

※ 2　3.5 年卒業の場合は、４年次前期まで配当されている必修科目を全て修得すること。３年次から４年次への進級条件を充足していること。

⑤ 原則として全成績評価の 85%以上 (小数点第 1 位を切り捨て) が S 又は A 評価であり、(自由科目および「R」評価は除く）かつ、GPA が 3.4 以上であること。

⑥ 学系長および学部長の了解が得られていること。

⑦ 早期卒業判定時に本学大学院理工学研究科進学又は公務員（正規職員）への進路が確定していること。

⑧　３年以上の在学での卒業までに必要な学費が全て納入されていること。
⑨　早期卒業判定時に休学していないこと。
※３年次編入学者の早期卒業は認めない。

⑵ ３年以上の在学での卒業研究について

３年以上の在学での卒業を望む学生に対し、所属学系の判断により以下の①～④のうちいずれかを適用し実施する。

①　修業年限を３年とする。（卒業研究の履修はなし。）
②　修業年限を３年とする。（３年次後期に特別卒業研究を履修する。）
③　修業年限を３．５年とする。４年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、４年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。
④　修業年限を３．５年とする。３年次後期に特別卒業研究を、４年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、４年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。
※詳細については教務担当に問い合わせること。

⑶ ３年以上の在学での卒業申請方法

成績発表日に成績を確認し「３年以上の在学での卒業における基準」を充足した場合は、指定の期日までに学系長へ申し出ること。

3　卒業延期者の前期末での卒業申請について

４年次生が卒業要件を充足することができずに留年した場合は、次年度の前期に卒業要件を充足することができれば前期末に卒業することができます。

前期末に卒業を希望する学生は、前期の成績が発表されたら、指定の期日までに学系長へ申し出てください。（事前に前期末での卒業の意思を学系長に伝えておくことが望ましい）申し出を受けて、卒業の手続きを行いますので、申し出がない場合は卒業要件を充足していても、年度末での卒業となります。（年度末でも卒業要件を充足する必要があります）

4　卒業の時期

・卒業の時期は年度末で、卒業式は毎年３月の下旬に挙行されます。
・3.5 年での卒業の場合の卒業式については別途連絡いたします。
・卒業延期者の前期末での卒業の場合は９月４日付で卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。

5　学位の授与

理工学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

理学系	学士（理学）……	Bachelor of Science
生命科学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering
情報システムデザイン学系	学士（情報学）…	Bachelor of Information
機械工学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering
電子情報・生体医工学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering
建築・都市環境学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering

学位は卒業式の時に授与される学位記により証明されます。

10　DENDAI − UNIPA

1 「DENDAI − UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会などの機能を提供するシステムです。

履修登録や掲示確認など、学生生活を送る上で必ず使用することになりますので、早めに機能と操作方法を理解してください。

休講・補講・個別の学生呼出しなど即時性のある掲示も「DENDAI − UNIPA」上で行います。1 日に複数回、掲示を確認するよう心がけてください。

学生諸君の時間割、成績照会、出席情報等については保証人も閲覧できるように運営しています。

2 動作環境

【パソコン】

ディスプレイ	画面解像度 Full HD（1920 × 1080）以上推奨
OS	Windows 10、11、 Mac OS 11.x、10.15.x、10.14.x
ブラウザ	Microsoft Edge（※） Mozilla Firefox（※）、Chrome（※）、Safari（※）

【スマートフォン】

OS	Android 8.0、8.1、9、10、11、12 iOS 12、13、14、15
ブラウザ	Chrome（※）、Safari（※）

※　最新版の利用を推奨します。

3 「DENDAI − UNIPA」へのアクセス・ログイン方法

⑴ 以下の URL にアクセスします。
https://portal.sa.dendai.ac.jp

⑵ ログイン画面が開きます。
※スマートフォンから利用する場合は「スマートフォンはこちら」からログインしてください。

⑶ User ID に「学籍番号（英字部分は小文字）」を入力、Password に「パスワード」を入力し、ログインボタンをクリックします。
※新入生の初期パスワードは入学時にお知らせします。

4 「DENDAI − UNIPA」の操作方法

「DENDAI − UNIPA」に関する詳しい操作方法は、UNIPA 内の「外部リンク」タブにある「UNIPA マニュアル」で確認してください。

11 WebClass

TDU- ポートフォリオシステムには、電子ポートフォリオ本体と e-Learning システム WebClass があります。利用するには以下の URL にアクセスし、ログイン後に、「WebClass」を選択します。WebClass は、インターネット上で、授業資料の閲覧、問題演習、レポートの提出等が行えます。また、教員と学生間や学生同士でのコミュニケーションも行われます。授業での利用は、担当教員からの指示に従ってください。

https://els.sa.dendai.ac.jp　＜ PC、タブレット、スマートフォンで利用可＞

主な機能

- 資料の閲覧
- 掲示板
- レポート提出
- チャット
- 問題演習
- アンケート

図 1　ログイン画面

ログイン画面にUserIDとパスワードを入力します。UserIDは学籍番号（英字部分は小文字）です。Passwordは、総合メディアセンター共通パスワードです。入力後に「LOGIN」ボタンをクリックします。パスワードが不明な場合は総合メディアセンターで確認してください。

トップページには、所属しているコース一覧と新着情報が表示されます。WebClass上でのコースとは、授業科目のことです。

図 2　コース一覧画面

画面左側に「機能メニュー」、画面右側に「コンテンツ一覧」が表示されます。履修登録してある科目がカレンダーの形式で表示されます。科目名をクリックすることで、コース内へ移動し、コースの教材一覧が表示されます。

名　　称	機　　能	
新着お知らせ／メッセージ	履修者への連絡や個別の連絡などが表示されます。	
コンテンツ一覧	授業で使用する教材が表示されます。	
	会議室	質問や意見などが投稿できる掲示板やチャット機能があります。
	資　料	授業で使用する資料や参考資料などが閲覧でき、事前学習・事後学習に利用してください。
	テスト／アンケート	レポート提出、アンケート、問題演習ができ、小テスト、試験も実施されます。

第５章
資格と免許

本学卒業後に取得できる資格・免許

卒業後資格が得られたり、試験免除等となったりする主な資格・免許を下記に記載します。

資格・免許	取得条件	取得しやすい学系	取り扱い機関
高等学校教諭１種免許状　数学	所定の単位を取得し申請した者は資格を得られる。詳しいことは学部編「教職課程」参照。	理学系 情報システムデザイン学系	各都道府県教育委員会
高等学校教諭１種免許状　工業		機械工学系 電子情報・生体医工学系 建築・都市環境学系	
高等学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命科学系	
高等学校教諭１種免許状　情報		理学系 情報システムデザイン学系 電子情報・生体医工学系	
中学校教諭１種免許状　数学		理学系 情報システムデザイン学系	
中学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命科学系	
測量士補	Ｐ 188 参照		国土交通省国土地理院
測量士			
一級建築士	Ｐ 187 参照	別記の「建築士プログラム」修了者	(公財)建築技術教育普及センター
二級建築士			
木造建築士			
２級ビオトープ計画管理士・２級ビオトープ施工管理士	Ｐ 189 参照		(公財)日本生態系協会
技術士補	受験資格については特に制限はない。４年制の理工系大学を卒業すれば、試験科目のうち共通科目が免除される。	全学系 ※建築・都市環境学系で JABEE プログラムを修了すると登録により技術士補の資格を得ることができる。詳細はＰ 137 参照	(公社)日本技術士会
技術士	技術士補としての業務経験が４年以上の者、または技術士１次試験合格者で実務経験が７年を超える者は受験資格が得られる。	全学系	
ＥＩＴ（ＥＩ）	原則として４年生の工学系大学を卒業した者は、ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験の受験資格が得られる。この試験に合格するとＥＩＴまたはＥＩの資格が取得できる。	電子情報・生体医工学系 機械工学系 生命科学系	(特非)日本ＰＥ・ＦＥ試験協議会
ＰＥ	ＰＥ (Professional Engineer) ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験に合格し、実務経験（エンジニアリングに関連する技術業務 - 計画・研究・設計・分析・試験・評価又はこれらに関する指導）が４年以上ある者は受験の資格が得られる。		

※詳細は各取扱い機関に問合せすること。

※公務員試験についてはＰ 282 を参照すること。

建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士を受験するためには、一定の基準を満たして単位を修得して卒業しなければなりません。

◇一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格を得るためには理工学部理工学科において「建築士プログラム」を修了する必要があります。「建築士プログラム」を修了した場合、一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の各受験資格が得られます。受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。また、資格によって必要な修得単位数と実務経験年数が異なります。注意して履修計画を立ててください。

◇建築士プログラム修了条件

下表に示す条件を満たして卒業した者は「建築士プログラム」を修了したものとして認定し、卒業証明書に明記します。

<table>
<tr><td>指定科目</td><td colspan="3">一級建築士</td><td colspan="3">二級・木造建築士</td></tr>
<tr><td>①建築設計製図</td><td colspan="3">7 単位以上</td><td colspan="3">3 単位以上</td></tr>
<tr><td>②建築計画</td><td colspan="3">7 単位以上</td><td colspan="3" rowspan="3">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>③建築環境工学</td><td colspan="3">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>④建築設備</td><td colspan="3">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>⑤構造力学</td><td colspan="3">4 単位以上</td><td colspan="3" rowspan="3">3 単位以上</td></tr>
<tr><td>⑥建築一般構造</td><td colspan="3">3 単位以上</td></tr>
<tr><td>⑦建築材料</td><td colspan="3">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>⑧建築生産</td><td colspan="3">2 単位以上</td><td colspan="3">1 単位以上</td></tr>
<tr><td>⑨建築法規</td><td colspan="3">1 単位以上</td><td colspan="3">1 単位以上</td></tr>
<tr><td>①～⑨の計（a）</td><td colspan="3">30 単位以上</td><td colspan="3">10 単位以上</td></tr>
<tr><td>⑩複合･関連科目(b)</td><td colspan="3">適宜</td><td colspan="3">適宜</td></tr>
<tr><td>（a）＋（b）</td><td>60 単位以上</td><td>50～59 単位</td><td>40～49 単位</td><td>40 単位以上</td><td>30～39 単位</td><td>20～29 単位</td></tr>
<tr><td>必要な実務経験
年数（試験時）</td><td colspan="3">0 年</td><td colspan="3">0 年</td></tr>
<tr><td>必要な実務経験
年数（登録時）</td><td>2 年</td><td>3 年</td><td>4 年</td><td>0 年</td><td>1 年</td><td>2 年</td></tr>
</table>

指定科目（括弧内の数字は単位数を示す）

①建築設計製図：建築都市デザイン演習Ⅰ(3)、ⅡA(2)、ⅡB(2)、ⅢA(2)、ⅢB(2)
②建築計画　　：建築計画学(2)、住居論(2)、建築デザイン論(2)、建築史(2)
③建築環境工学：建築環境工学(2)
④建築設備　　：建築設備(2)
⑤構造力学　　：静力学(2)、応用力学A・演習(3)、応用力学B(2)、
構造実験(1)、耐震設計法(2)、地盤工学A・演習(3)、地盤工学B(2)、
土質実験(1)
⑥建築一般構造：鉄筋コンクリート工学(2)、鋼構造学(2)、建築構法(2)

⑦建築材料　　：建設材料学(2)、材料実験(1)
⑧建築生産　　：建設施工(2)
⑨建築法規　　：建築法規(1)
⑩複合・関連科目　：建築・都市デザイン概論(2)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、
防災工学(2)、都市プロジェクトの評価(2)、都市計画(2)
景観デザイン(2)

測量士補について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3 単位）、「測量実習」（2 単位）の 5 単位を含む測量に関する科目 30 単位以上を修得した者は、申請により測量士補の資格が得られます。

測量士について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3 単位）、「測量実習」（2 単位）の 5 単位を含む測量に関する科目 30 単位以上を修得した者は、測量士補の資格取得後、測量に関する 1 年以上の実務経験ののちに、申請により測量士の資格が得られます。

測量に関する科目（括弧内の数字は単位数を示す）

基礎微積分学Ａ(2)、基礎微積分学Ｂ(2)、基礎線形代数学Ａ(2)、基礎線形代数学Ｂ(2)、物理学Ａ(2)、物理学Ｂ(2)、静力学(2)、基礎統計学(2)、耐震設計法(2)、地盤工学Ａ・演習(3)、水理学Ａ・演習(3)、応用力学Ａ・演習(3)、応用力学Ｂ(2)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、土質実験（1)、水理実験（1)、計画数理(2)、水理学Ｂ(2)、都市衛生工学(2)、水文学(2)、地盤工学Ｂ(2)、防災工学(2)、都市計画(2)、リモートセンシング(2)、空間情報工学(2)、河川・海岸計画(2)、気圏・地圏の環境(2)、交通計画(2)

建設系資格の受験資格について

一定の基準を満たして卒業した者は、種目ごとに定められた実務経験の後に下記に示す建設系資格の「受験資格」が得られます。

●建設系資格

建設機械施工管理技士	（1 級・2 級）
土木施工管理技士	（1 級・2 級）
建築施工管理技士	（1 級・2 級）
電気工事施工管理技士	（1 級・2 級）
管工事施工管理技士	（1 級・2 級）
造園施工管理技士	（1 級・2 級）
電気通信工事施工管理技士	（1 級・2 級）

●東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系（2018 年度以降に入学した者）卒業者に 1 級技術検定の受検資格を認める件

東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系（2018 年度以降に入学した者）を卒業した後、受検しようとする種目に関し指導監督的実務経験 1 年以上を含む 3 年以上の実務経験を有する者

●東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系（2018 年度以降に入学した者）卒業者に 2 級技術検定の受検資格を認める件

種目及び試験区分		受験資格を認める者
建設機械施工管理	実地試験	東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系 (2018 年度以降に入学した者) を卒業した後、建設機械施工に関し、受検しようとする種別に関する 6 月以上の実務経験を含む 1 年以上の実務経験を有する者
その他の種目		東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系 (2018 年度以降に入学した者) を卒業した後、受検しようとする種目 (土木施工管理又は建築施工管理にあっては、種別) に関し 1 年以上の実務経験を有する者

※上記の必要科目については、入学後に変更となることがあります。
UNIPA で通知しますので、必ず確認してください。

2 級ビオトープ計画管理士・2 級ビオトープ施工管理士について

下記の分野の指定科目全てを受験申込の時点で単位を修得済み、または受験年度内に単位修得の見込みがある場合は各試験科目について、択一問題の半分が免除されます。この制度は理工学科の学生に適用されます。卒業生には、卒業した日から受験申込日までの期間が 5 年未満の方まで適用されます。

なお、この制度を適用して試験に合格しても、指定科目の単位修得が済んでいない場合は、ビオトープ管理士として認証されませんので注意してください。

＜共通＞

分野	指定科目
生態学	水圏の環境
	環境生物学
ビオトープ論	水圏の環境
	環境生物学
環境関連法	河川・海岸計画
	環境アセスメント

＜専門＞

専門科目	指定科目
計画部門	都市計画
	景観デザイン
	環境生物学
施工部門	河川・海岸計画
	環境生物学

在学中に受講可能な授業の中で、習得できる知識や技術などを使用して目指せる資格等

資格等	資格取得を目指せる学系	取り扱い機関
基本情報技術者試験	生命科学系、 情報システムデザイン学系、 電子情報・生体医工学系	独立行政法人情報処理推進機構
応用情報技術者試験	情報システムデザイン学系、 電子情報・生体医工学系	独立行政法人情報処理推進機構
ネットワークスペシャリスト試験	情報システムデザイン学系	独立行政法人情報処理推進機構
データベーススペシャリスト試験	情報システムデザイン学系	独立行政法人情報処理推進機構
画像処理エンジニア検定	情報システムデザイン学系	公益財団法人画像情報教育振興協会
マルチメディア検定	情報システムデザイン学系	公益財団法人画像情報教育振興協会

※詳細は各取扱い機関に必ず問合せすること。

第 6 章
教職課程

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

中学校や高校の教員になるということは、社会で重要な役割を担うことになります。そのような教員を育てるということは、社会においても大事な責務である為、直接大学とは関係のない方々にもお世話になることになります。

教職課程の履修希望者は、教職関係科目を充分に理解できる能力（単位修得）は勿論のこと、教員としての適格性が必要であることはいうまでもありません。また、一般の学生以上に手続きや確認事項等で手間暇がかかります。それらが全て完了して初めて免許状を手にすることができるのです。

従って、当然のことながら、いい加減な気持ちで受けていると、学外者の方にご迷惑をお掛けしたり、後輩にも影響が出る場合もあります。自分の進路をよく考えながら、履修を進めていくようにしてください。

教職課程を修めようとする者は、本学部に設置された共通教育科目及び各学系で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。講義概要はシラバスにおいて、把握してください。また、教育実習や介護等体験を伴う科目の履修や実習・体験等については、必要な時期に説明会や事前指導が行われますので、必ず出席するようにしてください。

なお、実習は学外で行うこととなっており、実習先が児童・生徒・高齢者といった抵抗力の弱い方々が対象となりますので、感染症に対する予防対策としてワクチン接種等が必須となります。掲示や窓口の指示に従ってください。

これらの連絡は UNIPA にて行われます。UNIPA の情報に注意し見落としがないようにしてください。

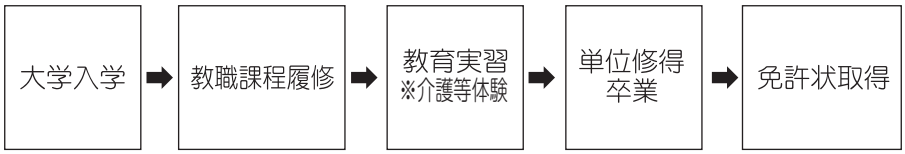
東京電機大学が養成する教師像について

東京電機大学は、建学の精神である「実学尊重」と、教育･研究理念である「技術は人なり」を掲げ、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を使命としています。この精神のもとに東京電機大学では、教師として必要な資質である、①学校教育に対する多角的理解、②教育に対する使命感や責任感、教育的愛情、③社会性や対人関係形成能力、④生徒理解や学級経営力、⑤専門教育を基盤として教科内容等の高度な指導力を備えた教師を養成します。

また、⑥東京電機大学卒業の教師として、科学技術の実学的価値や面白さを教えることのできる教師、科学技術を支える高い倫理観を持った「学び続ける教師」を養成します。

大学入学から免許状取得まで

大学入学から教員免許状取得までの手順は下図のとおりです。



月＼年次		1 年	2 年	3 年	4 年
4月	上旬	教職課程説明会			教育実習関係書類配布 教育実習事前オリエンテーション
		教職課程履修費納入			
	中旬	教職科目の履修登録			
5月					
6月					教育実習（実習校により実施期間は異なる）
9月	中旬	教職課程履修費納入			
10月	上旬				教員免許状一括申請に関する説明会
11月	上旬				一括申請書類提出
1月	下旬		教育実習オリエンテーション 介護等体験申込説明会		
2月			教育実習校受入れ可否打診		
3月	上旬		教育実習申込書提出 教育実習依頼に関する書類配布	進級発表 教育実習許可判定最終発表	卒業発表
	中旬				教員免許状交付 （卒業式当日）

※教職科目の履修登録は他の授業科目と同様に修正登録を行うことができます。
※各々の詳細については、その都度 UNIPA にてお知らせします。
※教職課程履修費については、UNIPA・説明会等でお知らせします。
※「介護等体験」は、中学校教員免許状希望者は必ず行うこと。

取得できる教員免許状の種類と教科

学部卒業に必要な単位の修得のほかに、教科及び教職に関する授業科目を修得することにより、次の教員免許状が授与されます。

なお、理工学部では、理工学科 1 学科の大学科制を導入し、6 学系・16 コースを設置しています。

自分が所属する学系から選択する「主コース」、自分が所属する学系または自分が所属する学系以外の学系から選択できる「副コース」の組み合わせにより、取得しやすい教員免許状の種類・教科が異なります。

それぞれの教員免許状の種類・教科が取得しやすい学系は、主に下表のとおりとなります。

基礎資格	免許状の種類	免許の教科	左記免許状が取得しやすい学系
学部卒業	中学校教諭一種免許状	数学	理学系、情報システムデザイン学系
		理科	理学系、生命科学系
	高等学校教諭一種免許状	数学	理学系、情報システムデザイン学系
		理科	理学系、生命科学系
		情報	理学系、情報システムデザイン学系、 電子情報・生体医工学系
		工業	機械工学系、電子情報・生体医工学系、 建築・都市環境学系

免許状取得要件

理工学部では「一種免許状」の取得が可能です。
以下に、理工学部における免許状取得要件について詳説します。

【1】基礎資格

学士の学位を有すること。(本学部を卒業することにより得られます。)

【2】単位修得要件

教員免許状取得のためには、取得免許状の種類に応じ、所定の単位を修得しなければなりません。下表は、要修得単位数一覧表です。

■中学校一種免許状・高等学校一種免許状　要修得単位数一覧表■

免許法上の要件として、下表の法定最低修得単位数を区分ごとに満たし、かつ、太枠内の合計単位数 59 単位以上を満たすことにより教員免許を取得することができます。

法令上の区分		中学校一種 法定最低	高等学校一種 法定最低	備考
【1】文部科学省が定める科目(免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目)	日本国憲法	2	2	★中学校免許取得時は【1】、【2】、【3】、【4】の科目について、所定の単位数を**全て**修得すること。 ★高校免許取得時は【1】、【2】、【3】の科目について、所定の単位数を全て修得すること。【4】の科目については、【2】の区分と【3】の区分で修得した単位数の合計が 59 単位以上となる場合は、必ずしも修得する必要はない。
	体育	2	2	
	外国語コミュニケーション	2	2	
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	2	
【2】教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	20	20	
	教科指導法※ 1	8	4	
【3】教育の基礎的理解に関する科目等※ 2		27 (29)	23 (25)	
【4】大学が独自に設定する科目※ 3		4	12	
	太枠内計	59	59	

※ 1　・教科教育法は当該教科のみカウントされます。
　　・教科指導法は高等学校の単位としてカウントされません。

※ 2　【3】における法定最低修得単位数は 27 単位（中学校一種)、23 単位（高等学校一種）ですが、本学において修得必須としている科目を全て修得した場合、それぞれの修得単位数の合計は 29 単位（中学校一種)、25 単位（高等学校一種）となります。

※ 3　中学校免許取得を目指す学生は、【4】大学が独自に設定する科目（介護福祉論、介護等体験特論）を必ず修得する必要があります。(履修方法については、P 204「履修上の注意」を参照)

次より、【1】【2】【3】【4】それぞれの科目区分で開講されている科目について説明します。

【1】文部科学省が定める科目

教員免許の取得には、文部科学省が定める科目の取得が必要です。理工学部においては、人間形成科目群・専門基礎科目群・英語科目群より**「日本国憲法」2単位、「体育」2単位、「外国語コミュニケーション」2単位、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」2単位**の8単位を必ず修得しなければなりません。※（　）内は単位数

文部科学省が定める科目	必要単位	教職コード	本学での該当科目　（　）内は、単位数
「日本国憲法」	2	00100	日本国憲法(2)
「体　　育」	2	00200	ウェルネススポーツA (1)　ウェルネススポーツB (1) スポーツ実習A (1)　スポーツ実習B (1) スポーツ実習C (1)　スポーツ実習D (1)
「外国語コミュニケーション」	2	00300	総合英語ⅠA (1) 総合英語ⅠB (1) 総合英語ⅡA (1) 総合英語ⅡB (1) コミュニケーション英語ⅠA (1) コミュニケーション英語ⅠB (1) コミュニケーション英語ⅡA (1) コミュニケーション英語ⅡB (1) プレゼンテーション英語A (1) プレゼンテーション英語B (1)
「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」	2	00400	情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）(2)

【2】教科及び教科の指導法に関する科目

この区分は、免許状の教科によって、取得するべき科目が異なります。表に従って、自身の希望する免許教科ごとに必要な科目を修得してください。

■数学（中学校一種・高校一種）

【教科に関する専門的事項】

下記の区分ごとにそれぞれ1単位以上、計20単位以上修得すること。※（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
代数学	20100	○基礎線形代数学A(2)※ 基礎線形代数学B(2)※ 線形代数学(2) 代数学Ⅰ(2) 代数学Ⅱ(2) 代数学Ⅲ(2) 代数学Ⅳ(2)	○基礎線形代数学A(2)※ 基礎線形代数学B(2)※ 情報・符号理論(2)
幾何学	20200	○幾何学Ⅰ(2) 幾何学Ⅱ(2) 幾何学Ⅲ(2)	○数理とデザイン(2) 幾何学Ⅰ(2) 幾何学Ⅱ(2)
解析学	20300	○基礎微積分学A(2)※ 基礎微積分学B(2)※ 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ(2) 解析学Ⅳ(2) 常微分方程式(2) 複素解析学(2) フーリエ解析入門(2)	○基礎微積分学A(2)※ 基礎微積分学B(2)※ 動的システム(2)
「確率論、統計学」	20400	○確率論(2) 統計学(2)	○基礎確率論(2) 統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 多変量解析(2)
コンピュータ	20500	○数理プログラミングⅠ(2) 離散数学(2) 機械学習理論(2)	情報数学Ⅰ(2) アルゴリズムとデータ構造Ⅰ(2) コンピュータグラフィックス(2) ○コンピュータ基礎(2) 基本情報処理技術(2) コンピュータ設計学(2) 数値解析学(2) コンピュータプログラミングⅠ・同演習(3)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。
※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。
　　の科目は、理学系から履修すること。

【教科の指導法】

※中学校免許の場合は、以下の科目を全て修得すること。

※高校免許の場合は、「数学科教育法」を必ず修得すること。（「数学科指導法」は選択科目の単位としてカウントされない。）

免許法上の区分	授業科目名 ※（　）内は単位数
数学の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	数学科教育法（4）、数学科指導法（4）

■理科 (中学校一種)

【教科に関する専門的事項】

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上修得すること。※（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命科学系配当科目
物理学	30100	○物理学 A(2)※ 物理学 B(2)※ 統計力学 I (2) 統計力学 II (2) 量子力学 I (2) 量子力学 II (2) 量子力学 III (2) 電磁気学 I (2) 電磁気学 II (2) 物理数学 I (2) 物理数学 II (2) 連続体の物理(2) 固体物理学(2) 振動と波動(2) 天文学(2)	○物理学 A(2)※ 物理学 B(2)※
化学	30300	○化学 A(2)※ 化学 B(2)※ 化学熱力学(2) 基礎有機化学(2) 有機化学 I (2) 有機化学 II (2) 無機・分析化学(2) 無機化学(2) 界面化学(2) 基礎高分子科学(1) 化学反応速度論(2) 有機・高分子化学(2) 量子化学(2)	○化学 A(2)※ 化学 B(2)※ 基礎有機化学(2) 有機化学 I (2) 有機化学 II (2) 生体高分子科学 I (2) 生命物理化学(2)
生物学	30500	生命科学(2) ○生物学(2)	生命科学(2) ○生物学(2) 細胞の科学(2) 環境生物学(2) 分子生物学(2) 微生物学(2) 免疫学(2) 生体組織学(2) 遺伝子工学(2) 薬理学(2) 生命環境工学(2) 生物プロセス工学(2) 生化学(2)
地学	30700	○生態地球科学(2)	○生態地球科学(2)
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	30200	○一般物理学実験(1)※ 物理学実験(2) 物理学課題探求 I (2) 物理学課題探求 II (2)	○一般物理学実験(1)※
	30400	○一般化学実験(1)※ 化学実験 A(2) 化学実験 B(2) 化学実験 C(2)	○一般化学実験(1)※
	30600	● 生命科学基礎実験 I (2) ● 生命科学基礎実験 II (2)	●生命科学基礎実験 I (2)　分子生命科学実験 II (2) ●生命科学基礎実験 II (2)　環境生命工学実験 I (2) 分子生命科学実験 I (2)　環境生命工学実験 II (2)
	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。
●　の科目は、どちらか 1 科目を必ず履修し修得すること。
※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。
　　の科目は、生命科学系から履修すること。

【教科の指導法】

※以下の科目を必ず修得すること。

免許法上の区分	授業科目名 ※（　）内は単位数
理科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	理科教育法 (4)、理科指導法 (4)

■理科 (高等学校一種)

【教科に関する専門的事項】

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上修得すること。※（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命科学系配当科目
物理学	30100	○物理学 A(2)※ 物理学 B(2)※ 統計力学 Ⅰ(2) 統計力学 Ⅱ(2) 量子力学 Ⅰ(2) 量子力学 Ⅱ(2) 量子力学 Ⅲ(2) 電磁気学 Ⅰ(2) 電磁気学 Ⅱ(2) 物理数学 Ⅰ(2) 物理数学 Ⅱ(2) 連続体の物理(2) 固体物理学(2) 振動と波動(2) 天文学(2)	○物理学 A(2)※ 物理学 B(2)※
化学	30300	○化学 A(2)※ 化学 B(2)※ 化学熱力学(2) 基礎有機化学(2) 有機化学 Ⅰ(2) 有機化学 Ⅱ(2) 無機・分析化学(2) 界面化学(2) 基礎高分子科学(1) 化学反応速度論(2) 有機・高分子化学(2) 量子化学(2) 無機化学(2)	○化学 A(2)※ 化学 B(2)※ 基礎有機化学(2) 有機化学 Ⅰ(2) 有機化学 Ⅱ(2) 生体高分子科学 Ⅰ(2) 生命物理化学(2)
生物学	30500	生命科学(2) ○生物学(2)	生命科学(2) ○生物学(2) 細胞の科学(2) 環境生物学(2) 分子生物学(2) 微生物学(2) 免疫学(2) 生体組織学(2) 遺伝子工学(2) 薬理学(2) 生命環境工学(2) 生物プロセス工学(2) 生化学(2)
地学	30700	○生態地球科学(2)	○生態地球科学(2)
「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	30200	○一般物理学実験(1)※ 物理学実験(2) 物理学課題探求 Ⅰ(2) 物理学課題探求 Ⅱ(2)	○一般物理学実験(1)※
	30400	○一般化学実験(1)※ 化学実験 A(2) 化学実験 B(2) 化学実験 C(2)	○一般化学実験(1)※
	30600	● 生命科学基礎実験 Ⅰ(2) ● 生命科学基礎実験 Ⅱ(2)	●生命科学基礎実験 Ⅰ(2)　分子生命科学実験 Ⅱ(2) ●生命科学基礎実験 Ⅱ(2)　環境生命工学実験 Ⅰ(2) 分子生命科学実験 Ⅰ(2)　環境生命工学実験 Ⅱ(2)
	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。

●　の科目は、どちらか 1 科目を必ず履修し修得すること。

※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。

　　の科目は、生命科学系から履修すること。

【教科の指導法】

※以下の科目を必ず修得すること。(「理科指導法」は選択科目の単位としてカウントされない。)

免許法上の区分	授業科目名 ※（　）内は単位数
理科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	理科教育法 (4)

■情報 (高校一種)

【教科に関する専門的事項】

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上修得すること。※ (　) 内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
情報社会 (職業に関する内容を含む。)・情報倫理	60100	数理情報学入門(1) ○情報倫理(2) 技術者倫理(2)※ ○情報システムデザイン概論(2)	○情報システムデザイン概論(2)　技術者倫理(2)※ ○情報倫理(2)
	60600	○情報と職業(2)	○情報と職業(2)
コンピュータ・情報処理	60200	数理プログラミングⅠ(2) ○数理プログラミングⅡ(2) 離散数学(2) 機械学習理論(2)	基本情報処理技術(2)　コンピュータ設計学(2) 数値解析学(2)　○コンピュータプログラミングⅠ・同演習(3) 情報数学Ⅰ(2)　アルゴリズムとデータ構造Ⅰ(2) コンピュータ基礎(2)　コンピュータグラフィックス(2)
情報システム	60300	データ科学(2) ○数理情報学基礎演習(2) 数理科学演習(1) 最適化法(2)	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ(2)　データベース(2) 数理最適化入門(2)　○コンピュータプログラミングⅡ・同演習(3) オペレーティングシステム(2)　オブジェクト指向プログラミング(2)
情報通信ネットワーク	60400	○情報論(2)	○情報ネットワーク概論(2)　応用 Java プログラミング(2)
マルチメディア表現・マルチメディア技術	60500	○画像処理(2) 人工知能(2) 数理情報学応用演習(2)	○造形デザイン入門(2)　ＣＧプログラミング(2) 組み込みシステム(2)　インタラクティブデザイン論(2)

免許法上の区分	教職コード	電子情報・生体医工学系配当科目
情報社会 (職業に関する内容を含む。)・情報倫理	60100	○情報倫理(2)　技術者倫理(2)※ ○情報システムデザイン概論(2)
	60600	○情報と職業(2)
コンピュータ・情報処理	60200	応用数値解析(2)　信号処理工学Ａ(2) ○コンピュータ工学Ⅰ(2)　信号処理工学Ｂ(2)
情報システム	60300	○電子情報回路Ⅰ・演習(3)　電子情報回路Ⅱ・演習(3)
情報通信ネットワーク	60400	○情報論(2)　通信工学(2) 電子情報工学実験Ⅰ(3)
マルチメディア表現・マルチメディア技術	60500	○コンピュータ工学Ⅱ(2)　電子情報工学実験Ⅱ(3)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。
※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。
情報論 は、理学系から履修すること。
情報システムデザイン概論 は、情報システムデザイン学系から履修すること。

【教科の指導法】

※以下の科目を必ず修得すること。

免許法上の区分	授業科目名　※ (　) 内は単位数
情報の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	情報科教育法 (4)

■工業 (高等学校一種)

【教科に関する専門的事項】

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上修得すること。※（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	機械工学系配当科目
工業の関係科目	70100	○工業力学Ⅰ・演習(3) 工業力学Ⅱ・演習(3) ○材料力学Ⅰ・演習(3) 材料力学Ⅱ・演習(3) 流体力学Ⅰ・演習(3) 流体力学Ⅱ・演習(3) 機械加工学Ⅰ・演習(3) 基礎製図(4) ○機械工学概論(2) 工業熱力学Ⅱ・演習(3) 計測工学(2) 機械工学実験・実習Ⅰ(1) 機械工学実験・実習Ⅱ(1) 機械工学実験・実習Ⅲ(1) 機械工学実験・実習Ⅳ(1) 機械設計製図Ⅰ(1) 機械設計製図Ⅱ(1) 機械設計製図Ⅲ(1) 機械設計製図Ⅳ(1) ○工業技術概論(2) C言語プログラミング(2)※ Python プログラミング(2)※
職業指導	70200	○職業指導(2)

免許法上の区分	教職コード	電子情報・生体医工学系配当科目
工業の関係科目	70100	○電子情報・生体医工学概論(2) 電気回路Ⅰ・演習(3) 電気回路Ⅱ・演習(3) ○電磁気学Ⅰ・演習(3) 電磁気学Ⅱ・演習(3) 工業数学Ⅰ・演習(3) 工業数学Ⅱ・演習(3) 制御工学Ⅰ・演習(3) 制御工学Ⅱ・演習(3) 過渡現象(2) 電気電子計測工学(2) 電子物理学(2) ディジタル回路(2) メカトロニクス(2) 人間工学(2) パワーエレクトロニクス(2) エネルギー変換工学(2) 先端エレクトロニクス概論(2) 基礎電子工学実験Ⅰ(3) 基礎電子工学実験Ⅱ(3) 電子システム工学実験Ⅰ(3) 電子システム工学実験Ⅱ(3) ○工業技術概論(2) C言語プログラミング(2)※ Python プログラミング(2)※
職業指導	70200	○職業指導(2)

免許法上の区分	教職コード	建築・都市環境学系配当科目
工業の関係科目	70100	○建築・都市環境学へのアプローチ(2) ○建築・都市デザイン概論(2) 基礎統計学(2) 静力学(2) 計画数理(2) 応用力学Ａ・演習(3) 応用力学Ｂ(2) 鉄筋コンクリート工学(2) 鋼構造学(2) 構造実験(1) 地盤工学Ａ・演習(3) 地盤工学Ｂ(2) 土質実験(1) 水理学Ａ・演習(3) 水理学Ｂ(2) 水文学(2) 水理実験(1) 建設材料学(2) 材料実験(1) 建設施工(2) 測量学・演習(3) 測量実習(2) リモートセンシング(2) 空間情報工学(2) 建築都市デザイン演習Ⅰ(3) 建築都市デザイン演習ⅡＡ(2) 建築都市デザイン演習ⅡＢ(2) 建築都市デザイン演習ⅢＡ(2) 建築都市デザイン演習ⅢＢ(2) 水圏の環境(2) 気圏・地圏の環境(2) 都市衛生工学(2) 環境アセスメント(2) 景観デザイン(2) 防災工学(2) 都市計画(2) 交通計画(2) 河川・海岸計画(2) 都市プロジェクトの評価(2) 建築法規(1) 住居論(2) 建築計画学(2) 建築史(2) 建築設備(2) 建築デザイン論(2) 建築環境工学(2) 耐震設計法(2) 建築構法(2) 立体図学(1) 地球観測(2) 建築・都市環境総合演習(2) ○工業技術概論(2) C言語プログラミング(2)※ Python プログラミング(2)※
職業指導	70200	○職業指導(2)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。

※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。

【教科の指導法】

※以下の科目を必ず修得すること。

免許法上の区分	授業科目名 ※（　）内は単位数
工業の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	工業科教育法 (4)

【留意事項】

高等学校一種「工業」の教員免許を取得するためには、本来は、P 195 に記載の、免許法に定められた所定の科目・単位を修得しなければなりませんが、現在のところ、免許法上の附則事項により、「【3】教育の基礎的理解に関する科目等（詳細はP 203 参照)」の単位については、「【2】教科及び教科の指導法に関する科目」の同数の単位の修得をもってこれに替えることができます。

従って、「【3】教育の基礎的理解に関する科目等」の単位を全く修得しなくても、人間形成科目群・専門基礎科目群・英語科目群の中から文部科学省が定める科目（8 単位：P 196 参照）を修得し、かつ工業の「【2】教科及び教科の指導法に関する科目（「職業指導：2 単位」、「工業科教育法：4 単位」を含む)」を 59 単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。(ただし、所属学系の工業の教科に関する科目が少ない場合は、前記の措置では 59 単位を充足しませんので、「【3】教育の基礎的理解に関する科目等」、あるいは他学系の工業の教科に関する科目を履修して単位を修得してください)

この措置により、免許状の取得は可能ではありますが、「【3】教育の基礎的理解に関する科目等」は、教員となるための基本的な科目であり、修得しているといないとでは、教職に就いた場合は勿論のこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異がでてくることがあります。

こうした点からも、教員を志望する者は、この措置に頼ることなく、「職業指導：2 単位」、「工業科教育法：4 単位」（計 6 単位）を修得の上、更に少なくとも「教職入門：2 単位」、「教育学概論：2 単位」、「教育心理学：2 単位」を修得しておくことを勧めます。

【3】教育の基礎的理解に関する科目等

この区分は、教育職員免許法施行規則において、さらに細かく「教育の基礎的理解に関する科目（第三欄）」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（第四欄）」、「教育実践に関する科目（第五欄）」として定められています。本学では各区分に対応する科目として以下の通り開設しています。

中学・高校免許について、「必須」となっている科目は必ず修得するようにしてください。

※「道徳理論と指導法」の単位は高校の免許取得にあたって、「【4】大学が独自に設定する科目」としてカウントされます。

〔2024 年度入学生用〕

免許法上の区分			授業科目名	教職コード	単位	小計	必須の場合○	
	科目	各科目に含める必要な事項					中学	高校
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	10202	2	11	○	○
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門		2		○	○
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校 安全への対応を含む。）	教育社会学		2		○	○
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学		2		○	○
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育		1		○	○
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論		2		○	○
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳理論と指導法	10303	2	中 10 高 8	○	※
		総合的な学習（探究）の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法		1		○	○
		特別活動の指導法	特別活動論		1		○	○
		教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）		2		○	○
		生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導論		2		○	○
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談		2		○	○
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習セミナー	10404	2	中 6 高 4	○	○
			教育実習Ⅰ		2		○	○
			教育実習Ⅱ		2		○	
		教職実践演習	教職実践演習（中・高）		2	2	○	○
					計	中 29 高 25		

注）中学校免許取得の場合は、120 時間以上（3 週間～ 4 週間）、高校免許取得の場合は、60 時間以上（2 週間）の教育実習を行う必要があります。

注）　は、卒業単位に算入されます。したがって履修上限 44 単位に入ります。

注）この表における「必須」は、取得しようとする免許状に対してであり、卒業するための必要要件ではありません。

【4】大学が独自に設定する科目（P195 法定最低修得単位数に注意）

この区分は、最低修得単位数を超えて修得した「【2】教科及び教科の指導法に関する科目」（※）ならびに「【3】教育の基礎的理解に関する科目等」の単位を充たす必要があります。一方で、「【4】大学が独自に設定する科目」としてのみ単位を充てることができる科目として、以下の科目が開講されています。

中学校免許状取得時（修得必須）

科目名	単位数	配当年	配当期
介護福祉論	2	2	前期・後期
介護等体験特論	1	3	通年

（※）・教科教育法は当該教科のみカウントされます。
・教科指導法は高等学校の単位としてカウントされません。

【履修上の注意】

■中学校の教員免許状を取得する場合に、「介護等の体験」が必須となります。省令等で指定する施設等で 7 日間の介護等の体験を行い、その体験を施設等の長に証明していただくことが、中学校教諭一種免許状授与の要件となります。

■「介護等の体験」希望者は、介護等体験を行う年度以前に、必ず「介護福祉論」を履修し、単位を修得する必要があります。また、3 年次に進級できる者であり、尚且つ 2 年次学年末の修得単位数（教職・自由科目除く）が正規進級者 72 単位以上、1 年次留年者 80 単位以上とします。3 年次に「介護等体験特論」を履修する必要があります。

■「介護等の体験」の実施は、本学では原則として特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間の合計 7 日間としています。各々の学校･施設ごとに課せられた準備をして､事前指導（学内）を受けてから体験を実施します。体験終了後に体験を振り返る事後指導（学内）を受けて、介護等体験が完了します。

■「介護等の体験」の申し込みは、教務担当が、埼玉県教育委員会、埼玉県社会福祉協議会を通して特別支援学校、社会福祉施設へ行います。

■「介護等の体験」の詳しい手続き方法等については、教職課程説明会（4 月上旬）、「介護福祉論」の授業中、介護等体験申込み説明会（1 月下旬予定）、UNIPA を通じて行いますので、中学校の教員免許状の取得希望者は、必ず出席してください。

高等学校免許状取得時（修得は必須ではない）

科目名	単位数	配当年	配当期
介護福祉論	2	2	前期・後期
介護等体験特論	1	3	通年
道徳理論と指導法	2	3	前期

※高等学校免許のみ取得したい場合、上記 3 科目は必須科目ではありません。

「【2】教科及び教科の指導法に関する科目」（※）と「【3】教育の基礎的理解に関する科目等」の合計単位数が 59 単位以上に達する場合、上記科目は、必ずしも修得する必要はありません。

（※）・教科教育法は当該教科のみカウントされます。
・教科指導法は高等学校の単位としてカウントされません。

教職課程の履修手続

1. 履修登録

所定の時期に履修登録を行ってください。登録方法は、他の科目と同様です。

2. 教職課程履修費の納入

教職課程の授業科目を履修するためには、履修登録の前に**教職課程履修願**を提出し、所定の**履修費（10,000 円：2023 年度実績）**を納入することが必要です。履修費を納入しないと下記の教職科目を履修することが出来ません。

これらの手続は前期は 4 月上旬頃、後期は 9 月中旬頃行いますので、UNIPA で確認をしてください。

教育学概論	道徳理論と指導法
教職入門	生徒・進路指導論
教育社会学	教育相談
教育心理学	教育実習セミナー
教育課程論	教育実習Ⅰ
特別活動論	教育実習Ⅱ
教育の方法と技術	教職実践演習（中・高）
（情報通信技術の活用含む）	介護福祉論
数学科教育法	介護等体験特論
数学科指導法	情報倫理
理科教育法	工業技術概論
理科指導法	職業指導
工業科教育法	特別支援教育
情報科教育法	総合的な学習の時間の指導法

◎在学中（学部・大学院）、1 回の納入とする。
◎いずれの場合においても、一度納入したら履修費は返金しない。

3. 教職課程履修券の交付

教職課程履修費を納入した者に、「教職課程履修券」を交付します。この履修券は卒業時に免許状を受領する際に必要となります。また、在学中有効ですが、再発行はしませんので、大切に保管してください。

4. 履修カルテについて

教職課程を履修する学生は履修履歴を把握するために履修カルテを Webclass を使用して作成することになっています。履修カルテを作成しないと教員免許は取得できませんので、必ず説明会等に出席をして、履修カルテを作成するようにしてください。

教 育 実 習

教育実習は、4 年次生になって、中学校は 120 時間以上（3 週間～ 4 週間）、高等学校は 60 時間以上（2 週間）以上にわたり、教育活動（教科指導および生徒指導等）に参加することによって行われます。高校一種「工業」の免許状を取得する場合は、前記したように必ずしも行う必要はありません。尚、教育実習期間中の就職活動等での欠席は認められませんので注意してください。

1. 教育実習の履修条件

本学においては、教育実習を行う場合、教育実習を大学として許可するかどうかの判定基準を設けています。判定基準に合格しないと教育実習が行えませんので注意してください。

⑴ 3 年次学年末において、「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、以下の単位を修得し、4 年次への進級した者。

・中学校で教育実習を行う者：

「教職入門：2 単位」、「教育学概論：2 単位」、「教育心理学：2 単位」を含む計 17 単位以上を修得済。

・高等学校で教育実習を行う者：

「教職入門：2 単位」、「教育学概論：2 単位」、「教育心理学：2 単位」を含む計 15 単位以上を修得済。但し、教育実習を行う教科が工業である場合、前述によらず「教職入門：2 単位」、「教育学概論：2 単位」、「教育心理学：2 単位」を修得済。

⑵ 3 年次学年末において、教育実習を行う教科に応じて、以下の「教科教育法」の単位を修得した者。

・数学で教育実習を行う者：「数学科教育法：4 単位」を修得済。
・理科で教育実習を行う者：「理科教育法 4 単位」を修得済。
・情報で教育実習を行う者：「情報科教育法 4 単位」を修得済。
・工業で教育実習を行う者：「工業科教育法 4 単位」を修得済。

⑶ 4 年次において「教育実習セミナー：2 単位」、「教職実践演習：2 単位」を履修しており、教員免許状の修得に必要な科目の 8 割程度の単位を修得済の者。

⑷ 教職課程履修手続き及び教育実習履修申し込みの手続きを完了している者。

2. 教育実習校

実習希望者は、2 年次の後期（12 月頃）の教育実習オリエンテーションに出席し、教務担

当に「教育実習申込書」を必ず提出してください（留年した場合は再度提出）。その後、2年次終了の春休みから自分の出身中学・高校、または縁故のある学校へ出向いて依頼をしてください。なお本学部では1．の教育実習許可判定基準により、実習校への正式な依頼を認めています。

依頼するにあたっては、本学で発行する「教育実習依頼状」等を実習校へ提出する必要がありますので、実習校から教育実習を許可された者は UNIPA でお知らせします。

3. 教育実習の手続き

① **「教育実習申込書」**を、教務担当へ提出すること。

② 教育実習費・謝礼金が必要な場合は、大学ではなく各自の負担となりますので、直接実習校に納入すること。

③ 実習の際、次の必要書類を整えて、実習校へ携行すること。

イ）教育実習日誌（本学部所定のものを各自売店で購入すること）

ロ）出勤簿用紙（教務担当で用意する）

ハ）教育実習評価表用紙（教務担当で用意する）

ニ）教育実習終了証明書用紙（教務担当で用意する）

④ 実習終了後、ただちに イ）教育実習日誌を教育実習セミナーの担当教員へ提出すること。

※ みなさんは実習が終了しましたら、必ず実習校へお礼状を送るようにしてください。

免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学部の場合は埼玉県の教育委員会となります。

申請方法には、大学が免許状の申請を一括して受付け、卒業式当日に免許状が交付される**一括申請**と、個人が直接教育委員会へ申請する個人申請があります。

1. 一括申請

卒業式当日に免許状交付を希望する学生については、教務担当が事務を代行して、埼玉県教育委員会へ一括申請を行います。10 月上旬頃に一括申請説明会を行いますので、希望者は必ず出席し、申請手続きを行ってください。

審査合格者に対しては、卒業式当日に、**教職課程履修券**と引きかえに教員免許状を交付します。

2. 個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ、個人で申請して交付を受ける方法です。詳しい事は各教育委員会へ各自で問い合わせてください。在学中適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わる事があります。その場合は取得しなくてはならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。

○ **免許状取得見込証明書**

教員採用試験を受験する際に必要な「教育職員免許状取得見込証明書」は、現在履修中の授業科目を修得見込として扱い、教務担当で発行します。

○ **免許状取得証明書**

免許状を取得した後、「教育職員免許状取得証明書」が必要となった場合は、交付を受けた教育委員会へ請求してください。

科目区分	免許法上の区分		項目に含めることが必要な事項	DP	科目名	コマ数	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態	備考	教職コード
教職課程科目	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	DP4	情報と職業	1	2	選	全	半期(後)	講義	情報必修科目	60600
				DP4	情報倫理	1	2	自	2	半期(後)	講義	情報必修科目	60100
				DP1	工業技術概論	1	2	自	3	半期(後)	講義	工業必修科目	70100
				DP1	職業指導	1	2	自	3	半期(前)	講義	工業必修科目	70200
			各教科の指導法	DP1	数学科教育法	1	4	自	2	通年	講義	数学必修科目・通年科目	10101
				DP1	数学科指導法	1	4	自	3	通年	講義	中学数学必修科目・通年科目	10101
				DP1	理科教育法	1	4	自	2	通年	講義	理科必修科目・通年科目	10101
				DP1	理科指導法	1	4	自	3	通年	講義	中学理科必修科目・通年科目	10101
				DP1	情報科教育法	1	4	自	2・3	通年	講義	情報必修科目・通年科目	10101
				DP1	工業科教育法	1	4	自	2・3	通年	講義	工業必修科目・通年科目	10101
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	DP1	教育学概論	1	2	選	1	半期(前)	講義	中学/高校免許必修科目	10202
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	DP1	教職入門	1	2	自	1	半期(前)	講義	中学/高校免許必修科目	10202
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校 安全への対応を含む。）	DP1	教育社会学	1	2	選	1	半期(後)	講義	中学/高校免許必修科目	10202
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	DP1	教育心理学	1	2	選	1	半期(後)	講義	中学/高校免許必修科目 前期・後期開講	10202
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	DP1	特別支援教育	0.5	1	自	2	半期(前)	講義	中学/高校免許必修科目・集中講義	10202
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	DP1	教育課程論	1	2	自	2	半期(前)	講義	中学/高校免許必修科目	10202
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	DP1	道徳理論と指導法	1	2	自	3	半期(前)	講義	中学免許必修/高校免許選択科目	10303
			総合的な学習の時間の指導法	DP1	総合的な学習の時間の指導法	0.5	1	自	3	半期(前)	講義	中学/高校免許必修科目・集中講義	10303
			特別活動の指導法	DP1	特別活動論	0.5	1	自	2	半期(前)	演習	中学/高校免許必修科目・集中講義	10303
			教育の方法及び技術/情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	DP1	教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）	1	2	自	3	半期(後)	講義	中学/高校免許必修科目	10303
			生徒指導の理論及び方法・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	DP1	生徒・進路指導論	1	2	自	2	半期(前)	講義	中学/高校免許必修科目	10303
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	DP1	教育相談	1	2	自	2	半期(後)	講義	中学/高校免許必修科目	10303
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	DP1	教育実習セミナー	1	2	自	4	半期(前)	講義	中学/高校免許必修科目・集中講義	10404
				DP1	教育実習Ⅰ	1	2	自	4	通年	実験・実習	中学/高校免許必修科目・通年科目	10404
				DP1	教育実習Ⅱ	1	2	自	4	通年	実験・実習	中学免許必修/高校免許選択科目・通年科目	10404
			教職実践演習	DP1	教職実践演習（中・高）	1	2	自	4	半期(後)	演習	中学/高校免許必修科目	10404
	第六欄	大学が独自に設定する科目		DP1	介護福祉論	1	2	選	2	半期(前/後)	演習	中学免許必修/高校免許選択科目　前期・後期開講	10505
				DP1	介護等体験特論	1	1	自	3	通年	演習	中学免許必修/高校免許選択科目・集中講義	10505

※ 選択科目は「履修上限単位数」及び「卒業要件単位数」に算入されます。

第７章
事務取扱い

1　事務取扱事項と取扱時間（埼玉鳩山キャンパス）

担当部署	主な事務取扱事項	場所，取扱時間
教務担当	• 授業，試験，成績に関すること • 履修登録に関すること • 単位認定（資格等）に関すること • 授業の欠席に関すること • 教職課程に関すること • 学習サポートセンターに関すること • 科目等履修生に関すること • 大学院に関すること（大学院入試を除く） • 成績，卒業証明書等の発行 • 教務担当レポートボックスの管理	【本館１階事務室】 （月～土曜日） 9時10分～11時30分 12時30分～17時30分
学生厚生担当	• 課外活動に関すること • 施設利用に関すること • 奨学金に関すること • 休学，復学，退学等学籍に関すること • コース変更，転学系等に関すること • 学生相談に関すること • 学生証に関すること • 住所変更，保証人等の変更に関すること • 学費に関すること（学費延納を含む） • スクールバス運行に関すること • 拾得物，遺失物の取扱い • 在学証明書，学割の発行 • 学生教育研究災害傷害保険の取扱い	
就職担当	• 就職，大学院進学等卒業後の進路相談 • 求人紹介，キャリア支援，就職活動支援 • インターンシップ，アルバイト紹介	
庶務担当	• スチューデントアシスタント（ＳＡ），副手（ＴＡ）制度に関すること • 研究生，研究員に関すること • 入学試験に関すること（大学院入試を含む） • 学生募集に関すること • 環境保全に関すること • 構内の清掃，衛生に関すること • 火災予防，災害防止及び警備に関すること • 施設設備管理・建物の保全・校地整備に関すること • 電気，電話，ガス，水道施設の管理に関すること • 地域連携に関すること • 産官学交流に関すること	
健康相談室	• 健康診断に関すること • 健康相談に関すること • 傷病応急処置 • 健康診断証明書発行	【本館１階】 （月～土曜日） 9時20分～11時30分 12時30分～16時20分 ※急患は随時
学生相談室	• 学業，心身の健康，対人関係等の個人相談	【本館１階】 学生相談室の入口の掲示板でお知らせします。
国際センター鳩山ブランチ	• 海外語学研修を含む外国留学に関すること • 外国人留学生の受入に関すること • 日本人学生と留学生の交流に関すること	【12号館１階128室】 （月～金曜日） 10時～17時

※日曜、祝日、夏季特別休暇、冬季特別休暇中等は窓口を取扱停止とします。

※土曜日については勤務者が少ないため、ご質問の内容によっては、お答えできない場合もございます。

2　主な書類の提出先

1.　学籍異動に関する願

種　　別	取扱窓口	手続き・必要添付書類等
退学願	学生厚生担当	願い用紙、(診断書等)、学生証
休学願		願い用紙、(診断書等)、在籍料振込用紙（本人控のコピー）
復学願		願い用紙、(診断書等)
転学部願		願い用紙 転学部を希望する場合は、10 月中に学生厚生担当窓口へ申し出てください。
転学系願		願い用紙 コース選択とコース変更に伴なう転学系を認めています。「コース制とコースの選択」の頁を参照してください。

※「学籍について」の項も参照のこと

2.　身上の変更に関する届

以下の項目に変更が生じた場合は変更届を提出してください。

事　　項		取扱窓口	備　　考
変更届	改姓・国籍 (学生・保証人)	学生厚生担当	変更が分かる書類（戸籍抄本など)、学生証
	住所 (学生・保証人)		学生証
	連絡先 (学生・保証人)		
	保証人		学生証　※新・旧保証人の署名・捺印を要する。

3. その他

種　別	取扱窓口	摘　要・備　考
欠席届	教務担当	P154「第 4 章履修案内 -2 授業 -7 授業の欠席」を参照。
閉館時間中の正課授業実施願		卒業研究などで、21 時以降（土曜日は 17 時以降）および休祭日に学内にいる場合には、必要事項を記入の上、指導教員の承認を受けて、実施当日の前の週の窓口取扱時間内に提出してください。出席する学生名はその都度確認の上、記載するようにしてください。
学費延納願	学生厚生担当	詳細については「学費について」の項を参照
車両通学願		前期・後期に実施する「安全運転講習会」を受講し、指定期間内に車両通学願に必要書類を添えて提出してください。
学内集会願		課外活動で教室を使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とし、3 日前まで（自治会公認団体、自治会未公認団体、個人） ●休日は貸し出ししません。
体育館・グランド使用願		課外活動で体育館またはグランドを使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とする。（自治会公認団体） ● 1 週間前を限度とする。（自治会未公認団体、個人）
テニスコート使用願		課外活動でテニスコートを使用する場合に提出してください。 ●テニスコート 1・2・3（自治会公認団体） ●テニスコート西 1、西 2（自治会未公認団体、個人の使用は、1 日、1 面、3 時間まで）
トレーニングルーム		詳細は UNIPA 掲示参照のこと
学外活動願		学外で課外活動やボランティア活動等を行う場合に提出してください。
石段広場		要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ提出してください。
食堂		要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ「錦電サービス」の許可を得た上で提出してください。

3　証明書の交付

各種証明書の発行申請は、Web 上で手続きを行います。

発行申請をした証明書の印刷は、本館 1 階自動証明書発行機または証明書コンビニ発行サービスの利用により全国のコンビニエンスストア（セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン[50 音順]）の各店舗内に設置されているマルチコピー機を利用して発行できます。
（資格関係等の一部証明書については、各取扱部署窓口でのお渡しとなります。）

各種証明書の申請方法・手数料・コンビニ発行可否・証明書種類等の詳細については、以下の大学ホームページを確認してください。

【大学ホームページ URL】

トップ > 東京電機大学について > 学生生活 > 証明書発行・事務窓口 > 在学生の方
https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/office/office/certificate.html

【QR コード】

1.　学内の証明書自動発行機またはマルチコピー機から発行するもの

No.	証明書の種類	備　　考
1	在学証明書（和文）	
2	成績証明書	
3	卒業見込証明書	4 年次生のみ発行可能　※ 1
4	健康診断証明書（年度内に限る）	当該年度に学内定期健康診断を受診した学生のみ発行可能。
5	学割証（学生旅客運賃割引証）	専用用紙のため、学内の証明書自動発行機のみ発行可能。
6	仮受験票	仮受験票については P 164 を参照、学内の証明書自動発行機のみ発行可能。

※ 1　3 年以上在学での卒業希望者に対しては、卒業を希望する学期の初めから発行します。

2. 学内の証明書自動発行機のみ申請可能で、窓口にて発行するもの

No.	証明書の種類	申請窓口	発行までの期間 ※1	備　　考
1	学生証再発行	学生厚生担当	1日	汚損、紛失の場合のみ発行可。
2	在学証明書（英文）		3日	
3	通学証明書		即時	※2
4	成績証明書（英文）	教務担当	7日	
5	卒業見込み証明書（英文）		7日	
6	人物に関する証明書		10日	※3
7	教職免許状取得見込証明書		2日	4年次生の教職課程履修者のみ発行可。
8	大学院進学用調査書（他大学院宛）		10日	本学の大学院へ進学する場合は必要ありません。※3
9	科目等履修生在籍証明書		2日	
10	科目等履修生単位取得証明書		2日	

※1　発行までの期間に事務の取り扱いがない日は含みません。

※2　通学定期券は、殆どの場合学生証の提示で購入できますが、一部のバス会社等、通学証明書を必要とする場合があります。

その場合には、通学証明書交付願に必要事項を記入し、申し込んでください。

通学区間は、学校最寄り駅と居住地最寄り駅との最短経路になります。

＊非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）は、通学定期券を購入することはできません。

※3　原則として、学生に身近な卒業研究指導教員又は、学生アドバイザーなどが記入します。申請が出てから教員へ作成依頼をしますので、余裕をもって申請してください。

4　卒業後の証明書申請

卒業後に証明書を必要とする場合は、本学ホームページに取得方法の記載がありますのでご確認ください。

トップページ（https://www.dendai.ac.jp）にアクセスし、以下のように辿ってください。

「卒業生の方」→「各種証明書発行 卒業生の方」

→「証明書コンビニ発行サービスについて 卒業生の方（電機学校、短大含む）」

問い合わせ先

〒350－0394

埼玉県比企郡鳩山町石坂

東京電機大学理工学部事務部教務担当

ＴＥＬ 049（296）0430

（在学生の問い合わせは受け付けません。）

第８章
学籍と学費

1 学 籍

学生の皆さんは、入学により本学の学生としての身分を取得し、卒業により失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。入学後、諸般の事情により退学や休学の許可を得なければならない時には、理工学部事務部（学生厚生担当）で次の手続きをしてください（いずれも所定の願用紙を使用し、本人と保証人が連署・押印のうえ、手続きを行なってください）。

なお、**すべての手続きには期限があり、手続きを怠ると、除籍となる場合があります。**詳細は理工学部事務部（学生厚生担当）にお問い合わせください。

⑴ 休学

傷病その他の理由で引き続き３ヶ月以上出席できないときは、休学願を提出し許可を得る必要があります。休学できる期間は半期ごと（６ヶ月）ですが、前期の申請時期のみ通年（前期と後期）での休学申請も可能です。休学期間は在学年数に算入されません。

【手続き方法】

①学生厚生担当窓口に休学希望と申し出る。
②学生アドバイザー・学系長との面談を行い、学生厚生担当窓口にて休学書類一式を受け取る。奨学金利用者は申し出る。
③在籍料（半期 60,000 円）を納入する。（学費の納入は必要ありません。）
④必要書類を学生厚生担当窓口に提出する。傷病による場合は、医師の診断書を添付すること。
⑤休学の決裁が下りた後、休学許可通知が郵送される。
⑥休学期限後の手続き方法については、休学期間満了の時期に本人宛に郵送で通知する。

【注意】

・休学の申し出は学費の納期限内に限ります。
・休学中は授業科目の履修ができません。したがって、履修した科目は取消となります。
・特別な事情があると認められた場合は、願い出により再休学を許可する場合があります。
・休学が可能な期間は通算で３年までとなります。
・休学期限後は「復学・休学・退学」いずれかの手続きが必要です。
・引き続き休学する場合も再度手続きが必要です。
・手続きを怠ると、除籍となる場合があります。

⑵ 復学

復学とは休学期間満了後に、在学状態に戻ることをいいます。

休学の理由が消滅したときには、復学願を提出し許可を得る必要があります。

【手続き方法】

①休学期間満了時に、学生厚生担当より手続き方法および復学願を本人宛に郵送する。
②復学願に必要事項を記入する（本人と保証人の連署・押印）。
③必要書類を学生厚生担当窓口に提出する。傷病により休学していた場合は、医師の診断

書を添付すること。

【注意】

・復学の期日は、原則として学期の始めとなります。
・復学を希望する学期の学費納入期限までに、学費の納入が必要です。
・復学する学期の学費延納手続き（納入期限を延長する手続き）はできません。
・学費は、当該学年の正規進級学年次の学費が適用されます。
・手続きを怠ると、除籍となる場合があります。

⑶ 退学

傷病その他の理由により退学しようとするときは、退学願（学生証添付）を提出し、許可を得る必要があります。

【手続き方法】

①学生厚生担当窓口にて退学希望と申し出る。
②学生アドバイザー・学系長との面談を行い、学生厚生担当窓口にて退学書類一式を受け取る。奨学金利用者は申し出る。
③必要書類を学生厚生担当窓口に提出する。傷病による退学の場合は、医師の診断書を添付すること。
④退学の決裁が下りた後、退学許可通知が郵送される。

【注意】

・退学の申し出は学費の納期限内に限ります。
・退学の期日は原則として学期末となります。
・退学願を提出するためには、退学を希望する学期末までの学費を納入していることが必要です。
・退学を希望する学期末の手続き期限を経過した場合には、次の学期末での退学扱いとなります。
・手続きを怠ると、除籍となる場合があります。
・退学後は再入学が困難になります（再入学ができない場合もあります）ので、慎重に検討してください。

⑷ 除籍

次のいずれかに該当する者は除籍されます。

①最長在学年数（８年）を超えたもの（編入学・再入学の学生は別途の定めとなります）。
②休学による場合を除き、同一学年に通算して４年の在学を超えて、なお進級・卒業できない者。
③通算３年の休学期間を超えて、なお復学しない者。
④学業成績が特に不良で改善の見込みがない者。
⑤正当な理由がなく、無届で、引き続き３ヶ月以上欠席した者。
⑥前期分学費を７月末日までに、後期分学費を１月末日までに納入しない者。

※退学・除籍となった方については、一定の要件で再入学できる制度があります。

⑸ 転学部

転学部とは、理工学部から工学部・未来科学部・システムデザイン工学部、工学部第二部へ移ることをいいます。定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。定員に余裕がある場合でも、人物・成績とも優秀な者で、なお且つやむを得ない理由があるなど、一定の条件を満たす必要があります。なお、工学部第二部への転学部は経済的な理由があることが前提条件となります。(成績不良等の場合は許可になりません)。次年度から転学部を希望する学生は、10 月中に、学生厚生担当窓口に申し出てください。

なお、選考に当たり、審査料 5,000 円を別途徴収します。

⑹ 転学系

転学系についての詳細は、次項「コース制とコースの選択」を参照してください。

２年次から学年が進行していく過程で真にやむを得ない理由で、理工学部の他の学系へ異動したい場合は、他の学系の定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。

事前に学生厚生担当窓口にてご相談ください。

⑺ 再入学

再入学とは、本学を退学した者または除籍された者が再び本学に入学することをいいます。

ただし、懲戒による退学者は再入学が認められません。定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。詳細は、学生厚生担当窓口にご相談ください。

2　コース制とコースの選択

1.　コース制とは

理工学部は「次世代モードの学び」として、自分に合った学びが自由に選択できるように 16 種類の教育コースを開設しています。

コースとは、体系化された学問の最小ユニットです。みなさんは 2 年次に進級する際、自分にあった主コース（メインとなる学習コース）と副コース（サブとなる学習コース）の 2 つのコースを選択します。主コースと近い分野の副コースを選択する場合は、専門性をより一層高めることができ、主コースとは異なる分野から副コースを選択する場合は、１つの専門性にはとらわれずに将来に亘る広い視野と見識を養成することができます。

主コースは、自分が所属する学系のコースを必ず選択しなければなりません。副コースについては自分が所属する学系からも、自分が所属する学系以外の学系からも選択することが可能です。

各学系に開設されたコースは以下のとおりとなっています。

理学系	生命科学系	情報システムデザイン学系
数学コース	分子生命科学コース	コンピュータソフトウェアコース
物理学コース	環境生命工学コース	情報システムコース
化学コース		知能情報デザインコース
数理情報学コース		アミューズメントデザインコース

機械工学系	電子情報・生体医工学系	建築・都市環境学系
設計・解析コース	電子情報コース	建築コース
加工・制御コース	電子システムコース	都市環境コース

2. コース選択の時期と方法

2 年次から主コースと副コースを選択します。希望コース申告は 1 年次終了前の 12 月～1 月に行います。主コースについては希望先を申告し、原則的に第 1 希望が優先されます。主コースの人数に大きな偏りが生じた場合には、1 年次の GPA に基づき選考されます。なお GPA と面接結果を基に選考するコースもあります。副コースについては本人の希望が優先されます。

3. コース変更について

主コースの変更は 2 年前期の申請期間に申告でき、受入コースの承諾を前提に認められます。

副コースの変更は上記同時期と 2 年後期の申請期間に申告でき、本人の希望が優先されます。

コース変更を行うと履修中の科目および既修得科目は、コース変更後の主コース・副コースに従います。また、進級条件も変更後のコースの条件に変わりますのでコース変更は十分に考えた上で申告してください。

くわしい日程は、UNIPA にて告知をしますので、必ず確認してください。

コース変更の時期

	2 年次前期終了時	2 年次後期終了時	3 年次以降
主コース変更	○	×	×
副コース変更	○	○	×

3　学費について

1.　納入期限及び学費振込用紙の発送時期

学部・年次		納入期限		学費振込用紙の発送
		前学期	後学期	
理工学部	新入生	（入学手続時に前学期分学費は納入済）	10 月末日	後学期分の振込用紙を 7 月下旬に発送。
	新入生以外	4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分（前・後学期の 2 枚）を発送。

※納入期限が金融機関の休日にあたる場合は翌営業日

2.　納入方法

本学所定の学費振込用紙を用いて銀行から振り込んでください。前学期と後学期の年 2 回払いです。事情により ATM やネットバンキングを使用する場合は、必ず学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確に入力して振り込んでください。

3.　学費振込用紙について

① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。
② 保証人住所及び氏名は、理工学部事務部（学生厚生担当）に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は、理工学部事務部（学生厚生担当）にて手続きしてください。
③ 保証人以外の宛先を希望する場合は、経理部（会計担当）にて手続きしてください。
④ 紛失した場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをとってください。

※上記④は、電子メールでの手続きも可能です。
⇒ 経理部（会計担当）メールアドレス：gakuhi@jim.dendai.ac.jp

4.　学費延納

① 経済的な理由等により学費を納入期限内に納入できず延納を希望する場合は、納入期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。
② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由の記入が必要です。納入期限日までに提出できるよう準備してください。用紙は理工学部事務部（学生厚生担当）にて配付します。
③ 延納が許可される期間は、前学期は 6 月末日、後学期は 12 月末日迄です。
※ 復学する学期の学費延納手続きはできません。

5.　その他

① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は、学則により除籍となります。
② 留年者の学費は、当該学年の正規学年次の学費となります。
③ 休学の場合は、半期 6 万円の在籍料がかかります。在籍料の振込用紙は理工学部事務部（学生厚生担当）で受け取ってください。

学費に関する情報はホームページにて確認できます。
https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/expenses/

第９章
生活案内

1　学生生活への助言・相談

学生生活の中で、教員と接して個人的に指導・助言を受けることは非常に大切なことです。本学では学生と教員の交流には特に留意して、**「学生アドバイザー及び学生相談室」**の二つの指導・助言制度を設けています。

⑴ 学生アドバイザー制度とオフィスアワー

「学生アドバイザー制度」は、皆さんが有意義で充実した学生生活を送るために、学生アドバイザーである本学の専任教員に抱えている悩みを相談できる制度です。

学生アドバイザーを担当する本学の先生は、毎週「オフィスアワー」を設けて、皆さんが自由に相談（例えば、学生生活、学業、就職・大学院進学、奨学金等）に来ることができるように教員室等で待機しています。

オフィスアワーは、全ての学生に開かれており個人だけのものではありません。より多くの学生が利用できるように事前に相談したいことをまとめておくようにしましょう。

皆さんの学生アドバイザーを担当する先生は、DENDAI-UNIPA の個人情報照会画面「学生基本情報（学生アドバイザー）」に掲載、または UNIPA への掲示でお知らせします。オフィスアワーの時間・相談場所については、学生アドバイザーの「教員時間割」の画面において確認してください。

⑵ 学生相談室

学生相談室は、学生の様々な悩みごとについての相談に応じ、問題の解決に協力し適切な指針を与えることを目的としています。相談には専門家があたり、相談の内容については**個人の秘密が厳守**されています。

たとえば

・学校が面白くない。
・もっと充実した学生生活を送りたい。
・今と違った生き方があるのではないかと迷っている。
・誰とも自由につきあえるようになりたい。
・自分の性格について知りたい。
・進路についてなんとなく不安がある。
・人間関係がうまくいかない。
・人とうまく話ができない。

など、どのような相談でもかまいません。

⑶ こころとからだのサポート 24

※理工学部事務部（学生厚生担当）窓口等に設置のパンフレット参照

電話（フリーダイヤル）により、24 時間年中無休で、外部委託の専門機関が心身の相談を受付けています。

2　留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3 週間程度の語学研修から 1 年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等、よく検討の上、計画を立ててください。

⑴ 留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校等にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば、「海外英語研修」の単位として認定されます。

【海外渡航型プログラム】

1）コロラド大学ボールダー校（米国）　：8 月に実施（約 3 週間）、募集は 4 月頃
2）ビクトリア大学（カナダ）　：8 月に実施（約 3 週間）、募集は 4 月頃
3）ケンブリッジ大学ホマートン校（英国）：8 月に実施（約 2 週間）、募集は 4 月頃
4）カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（米国）
　：2 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃
5）クイーンズランド工科大学（オーストラリア）
　：2 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃

②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。

1）韓国語研修：韓国の協定校等にて、8 月に実施（約 3 週間）、募集は 4 月頃
2）中国語研修：中原大学（台湾）にて、3 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃
3）英語研修
　・FPT 大学（ベトナム）にて、8 月に実施（約 3 週間）、募集は 4 月頃
　・ブリティッシュカウンシル認定校（英国）にて、2 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃
4）ENSMM PBL プログラム：フランス国立高等精密機械工学大学院大学（フランス）にて、3 月に実施（約 1 週間）、募集は 10 月頃
5）タイ文化研修：泰日工業大学（タイ）にて、8 月・3 月に実施（約 2 週間）、募集は 4 月・10 月頃

＊年度により実施の有無や時期等は変更になる場合があります。
＊各種研修について、UNIPA や国際センターホームページ（https://www.dendai.ac.jp/about/international/center.html）等で募集等詳細をお知らせしています。

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要

望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

＊本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないのでご注意ください。

⑵ 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに実施した語学研修の募集要項や参加した学生の報告等を国際センターやホームページ上で閲覧できますので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、IELTS（International English Language Testing System）などの受験とそのスコアが必要です。留学先により英語要件があり、それを満たすためには通常 1 年以上の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学系および理工学部事務部（教務担当）の履修指導を受けてください。

⑶ 国際センターについて

国際センター（東京千住キャンパス 1 号館 4 階　9 時～ 17 時）

「国際センター」では、TDU の特色を生かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、日本人学生の海外留学等、さまざまな支援を行っています。

国際センター鳩山ブランチ（場所：12 号館 1 階 12128 号室　10 時～ 17 時／月～金）

「国際センター鳩山ブランチ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活についての相談ができます。また、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

3　学割証（学生旅客運賃割引証）

1.　学割証の使用用途（発行条件）

帰省・正課教育・課外活動・就職活動・修学見学等で、遠距離を JR 各社列車で移動する場合で、乗車区間が片道 100㎞以上ある場合に学割証が利用できます。

2. 学割証の申込方法

証明書発行機にて取得してください。(無料)

3. 団体旅行

学生団体運賃割引制度は、学生と引率教職員同行で利用できます（人数の条件・割引率は、鉄道会社によって異なります)。利用の際は、「学外活動願」とともに「団体旅行申込書」(駅・旅行会社にあり）に必要事項を記入し、理工学部事務部（学生厚生担当）へ提示してください。

4. 学割証利用上の注意

⑴ 学割証は、記名人以外は使用できません。(不正使用をすると追徴金が科せられ、以後、発行停止になります。)
⑵ 必ず学生証を携帯してください。
⑶ 学割証の有効期限は発効日から３ケ月間です。

4 健 康 管 理

衣・食・住は私達が生活する上において欠くことのできないものです。これと同様に大切なのは健康であるということです。健康であるということは学生生活を送るうえでもとても大切なことです。本学でもみなさんの健康管理について十分配慮していますが、まずはみなさん自身が日頃から健康の保持に努めることが大切です。

更に、色々な感染症（インフルエンザ、麻疹、結核、新型コロナウイルスなど）は本人だけの影響にとどまらず、周囲に及ぼす影響も大きく、大学閉鎖に繋がることもあります。ぜひご自身の母子手帳を確認し、事前に抗体価などを調べ、必要時は早めにワクチン接種しておくことをお勧めいたします。

1. 健康相談室

授業中・課外活動中等に学内で急に気分が悪くなったり、思わぬケガをしたときは、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもと看護師がそれぞれの応急処置にあたっています。

健康相談室では身長や体重、血圧や体脂肪率を自動的に測定する健康管理システムを設置しています。学生の皆さんがこのシステムを定期的に利用することにより健康状態のバロメーターにすることができます。

そのほか、ここでは平常の健康相談にも応じていますので、何となく身体に異常を感じるといった症状のときなども、遠慮なく来室してください。

2. 相談室の場所・開室時間

本館1階にあります。

開室時間は

月曜～土曜　9：20 ～ 16：20

（ただし、11：30 ～ 12：30 は休憩時間ですが、急患は受付けます。）

健康保険証について

急病等で医療機関を受診する際は必ず必要となります。個人管理で携帯するか手元に保管しておいてください。なお自宅外通学となる方は遠隔地被保険者証の交付を受けることをお勧めしております。保護者の加入している健康保険組合等に申請してください。

3. 定期健康診断

毎年、学校保健安全法及び感染症法に基づき、全学生を対象に定期健康診断を実施しております。奨学金申請やクラブ活動、就職活動などで健康診断証明書が必要な場合は、受診記録に基づき作成しております。特にクラブ関係の団体活動を行う予定の学生は、その団体全員の受診が必要となります。忘れずに毎年受診してください。

定期健康診断の実施項目は次のとおりです。

1. 胸部レントゲン撮影
2. 身体計測
   （身長、体重、日常視力）
3. 内科診察（検尿、血圧測定）

定期健康診断の日程は、事前に UNIPA にて詳細をお知らせします。再検査（精密検査）の詳細も同様に UNIPA にて連絡致します。

学内の定期健康診断を受診せず、学外で健康診断を受診した場合は、その証明書を健康相談室窓口に提出してください。その場合、本学より健康診断証明書の交付はできません。

4. その他の健康診断について

クラブ活動（強化合宿・公式試合等参加）のために健康診断を受けたい場合は所定の健康診断受診申込書に記入の上、2 週間前に健康相談室に申し込んでください。

ただし、この健康診断では、レントゲン撮影などができないので、定期健康診断を受けなかった学生に対しては、診断による活動許可ができない場合があります。

5. 健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。指定用紙での発行を希望する場合は 2 週間前までに健康相談室へご相談ください。

5 保 険 制 度

⑴ 学生教育研究災害傷害保険（学研災）＋通学中等傷害危険担保特約（通学特約）

正課及び課外活動中または通学途中などに発生した傷害事故を補償する保険です。

入学手続時に修業年限分の保険料を納入し、全員が加入者です。この保険の窓口は「理工学部事務部（学生厚生担当）」です。国内外を問わず、事故にあった時は必ず連絡してください。

なお、留年等により正規の修業年限を超えた場合は、単年度分の保険料を学費と併せて納入いただきます。

●保険金の種類・金額

	保険金額 / 担保範囲	死亡	後遺障害	医療	入院（日額）
学研災2,000万円コース	正課中 学校行事中	2,000 万円	120 万円～ 3,000 万円	0.3 万～ 30 万円	4,000 円
	上記以外で学校施設内にいる間	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	0.6 万～ 30 万円	
	学校施設外での課外活動中	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	3 万円～ 30 万円	
通学特約	「通学中」 「学校施設等と相互間の移動中」	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	0.6 万～ 30 万円	

注１）医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療日数に応じて異なります。

２）正課・学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が、１日目から支払われます。また、課外活動中の事故は、実治療日数が 14 日以上、移動中の事故は、実治療日数が４日以上の場合に支払われます。

●保険料・保険期間（学生教育研究災害傷害保険＋通学中等傷害危険担保特約）

保険期間	保険料
	理工学部
１年間	1,000 円
２年間	1,750 円
３年間	2,600 円
４年間	3,300 円

注１）保険期間は所定の修業年限です。

２）保険期間の切れた者（留年・休学者）は、単年度分の保険料を学費と併せて納入いただきます。

３）詳細は、「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」（入学時に配布）参照のこと。

⑵ 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）※インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（インターン賠）を含む

国内外での研究期間中、正課授業中、学校行事中、大学の認める就業体験（インターンシップ）中、およびその往復で、他人にケガをさせたり他人の財物を損壊したりしたことによって法律上の賠償責任を負担することになった際に生じる損害を補償します。

入学手続時に修業年数分の保険料を納入し、全員が加入者です。この保険の窓口は、「理工学部事務部（学生厚生担当）」です。

なお、留年などにより正規の修業年数を超えた場合は、単年度分の保険料を学費と併せて納入いただきます。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険概要	活動内容	
	正課、学校行事、課外活動、インターンシップ、ボランティア活動およびその往復	
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	
保険料（1 年間）	340 円	

注１）保険期間は所定の修業年限です。
２）保険期間の切れた者（留年・休学者）は、単年度分の保険料を学費と併せて納入いただきます。
３）詳細は、「学研災付帯賠償責任保険加入者のしおり」（入学時に配布）参照のこと。

⑶ インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険（インターン賠）

自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等における就業体験（インターンシップ）中や、教育実習中、ボランティア活動中、およびその往復で、他人にケガをさせたり他人の財物を損壊したりしたことによって法律上の賠償責任を負担することになった際に生じる損害を補償します。

注１）インターン賠は、学研賠加入者であれば自動的に加入することとなります。
２）インターンシップに参加の際には、本学のホームページ上の「<インターンシップ保険>インターンシップ先情報入力フォーム」に参加情報を入力してください。日数の長短にかかわらず報告が必要です。その報告をもってインターン賠が適用になります。

⑷ 加入証明書について

学研災及び学研賠は、加入証明書を発行することができます。研究機関やインターンシップ先から加入証明書の発行依頼があった場合は、次の手続きをしてください。

【証明書の発行申請】

必ず、本学のホームページ上の「<インターンシップ保険>インターンシップ先情報入力

フォーム」において、インターンシップ先の報告を行った上で、「インターンシップ賠加入証明書発行願」入力フォームへ改めて情報を入力してください。

【証明書の受取方法】

理工学部事務部（学生厚生・就職担当）より、PDF を添付したメールにて提供されます。

6　奨学金制度

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、本学独自の奨学金や日本学生支援機構をはじめ、各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は**理工学部事務部（学生厚生担当）**で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の**連絡は UNIPA で行いますので、見落とすことのないよう十分注意してください。**なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する者は、随時、相談してください。学生厚生担当窓口において、相談内容を受けて申請対象となるか確認します。

奨学金制度は変更が生じる場合があります。最新の情報は奨学金案内、UNIPA で確認してください。

主な奨学金制度には次のものがあります。

⑴ 特別奨学金（本学独自）【給付型】

故桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付金及び学校法人東京電機大学からの積立金を基金として設立された奨学金です。学業成績・人物ともに優秀な本学学生で、経済的理由により修学困難な者に対して給付されます。

資　　格	本学学部の 2 ～ 4 年に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者。 家計基準あり。
給 付 額	学費の一部または全額（2023 年度：28 万円）
給付期間	1 年
募集時期	5 ～ 6 月
採用者数	理工学部 8 名（2023 年度）

⑵ 大学院進学特別奨学金（本学独自）【給付型】

本学学部成績優秀者の大学院修士課程への進学促進を目的とした、経済的支援策です。本学大学院修士課程学内推薦入試の基準を満たした学生を対象に学部 4 年次に募集・選考を行い、採用候補者を決定します。本学大学院修士課程学内推薦入試で合格し、次年度本学大学院修士課程へ入学した後に給付されます。

資　　格	本学大学院推薦基準を満たす学生（学部 4 年次）
給 付 額	20 万円（大学院修士課程初年度のみ）
募集時期	4 月（学部 4 年次）
採用者数	理工学部 28 名（2023 年度）

⑶ 東京電機大学学生救済奨学金（本学独自）【貸与型】

保証人（家計支持者）の経済的な急変が理由で学費の支払いが困難となり、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。在籍期間中１回に限り貸与されます。

資　　格	大学院・学部に在学する学生
貸 与 額	年間学費の 1/2 相当額
募集時期	３月頃と９月頃の年２回
採用者数	理工学部６名（2023 年度）
返　　還	無利子・卒業後５年間

⑷ 東京電機大学学生支援奨学金（本学独自）【貸与型】

本学主催の海外英語短期研修への参加及び高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。在学期間中１回に限り貸与されます。

資　　格	大学院・学部に在学する学生
貸 与 額	30 万円以内にて査定
募集時期	主として４月と９月の年２回
採用者数	２名（2023 年度）
返　　還	無利子・最長卒業後５年間

⑸ 東京電機大学学生応急奨学金（本学独自）【給付型】

本学への特定の寄付金をもって設置された奨学金です。本学の学生で人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して給付されます。

資　　格	大学院・学部に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者。
給 付 額	大学院生　30 万円の範囲内で決定 学部生　　50 万円の範囲内で決定
募集時期	定期的な募集は行っていません。１年以内に家計急変があり学費支弁が困難な者で、他奨学金の貸与状況・家計急変状況・学費延納状況等から総合的に判断し、応急奨学金の趣旨に相応しい人物を採用します。
採用者数	０名（2023 年度）

⑹ 東京電機大学校友会奨学金（本学独自）【貸与型】

東京電機大学校友会が 1984 年度より設立した奨学金で、家庭の経済的事情の急変により学業継続が困難な学生に対して在籍期間中１回に限り奨学金が貸与されます。

資　　格	本学学生
貸 与 額	１回に納入する学費等の相当額。卒業後５年間で返還（無利子）
募集時期	主として４月と９月の年２回
採用者数	０名（2023 年度）

⑺ 東京電機大学学生サポート給付奨学金（本学独自）【給付型】

学校法人東京電機大学サポート募金への寄付金をもって設置された奨学金です。本学学部に在学し、過去１年以内に家計急変があり、修学意欲がありながら学費支出が困難な学生に対して給付されます。奨学生に採用された学生は、大学が主催する学生行事において、他の学生生活を支援する学生ボランティアスタッフとして協力をしていただきます。

資　　格	大学院・学部に在学し、家計急変により学費支出が困難な者で、学生ボランティアスタッフとして協力ができる者。 家計基準あり。
給 付 額	25 万円
募集時期	５月と９月の年２回
採用者数	理工学部３名（2023 年度）

⑻ 日本学生支援機構による奨学金【貸与型】

優秀な学生で経済的理由のため修学困難な者に対して貸与される奨学金で、「第一種奨学金（無利子）」と「第二種奨学金（有利子）」があります。

それぞれ家計基準が異なります。

＜第一種奨学金（無利子）＞

成績基準	１年次生については、高等学校での評定平均値が 3.5 以上であること。 ２年次生以上については、所属学系の上位１／３以内の成績であること。 ※住民税非課税世帯・生活保護受給世帯の者はこの限りではない。
貸 与 額	自宅　：　２万円・３万円・４万円・5.4 万円の中から選択 自宅外：　２万円・３万円・４万円・５万円・6.4 万円の中から選択
貸与期間	最短修業年限（４年）の終期まで。 ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取消される場合があります。
募集時期	原則として４月上旬と９月

＜第二種奨学金（有利子）＞

成績基準	学修に意欲があり学業を確実に修了できる見込があると認められる人
貸 与 額	2 万円・3 万円・4 万円・5 万円・6 万円・7 万円・8 万円・9 万円・10 万円・11 万円・12 万円の中から選択
貸与期間	最短修業年限（4 年）の終期まで。 ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取消される場合があります。
募集時期	原則として 4 月上旬と 9 月

＊併用貸与……第一種奨学金の貸与のみでは学業継続が困難な者に対しては、第二種奨学金の貸与もあわせて認められる場合があります。

⑼ 高等教育の修学支援制度【給付型＋授業料等減免】

2020 年 4 月より開始された制度です。経済的理由により修学困難な方に対する制度で、「給付型奨学金」と「授業料等減免」が設けられています。

今後、制度の変更が生じる可能性があります。最新の情報は奨学金案内、UNIPA で確認してください。

成績基準	①1 年生は高等学校等における評定平均値が 3.5 以上または高等学校卒業程度認定試験合格者であること。2 年生以上は GPA 等が在学する学部等における上位 1/2 の範囲に属すること。 ②修得した単位数が標準単位数以上であり、かつ、将来社会で自立し、活躍する目標を持って学修する意欲を有していることが、学修計画書により確認できること 上記①、②のいずれかに該当する学生			
収入基準	住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯			
資産基準	本人と生計維持者（原則として父母）の資産額の合計が 2,000 万円未満（生計維持者が 1 人のときは 1,250 万円未満）であること			
給付額と減免額		第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
給付型奨学金（月額）	自宅	38,300 円	25,600 円	12,800 円
	自宅外	75,800 円	50,600 円	25,300 円
授業料減免（年額）		700,000 円	466,700 円	233,400 円
減免・給付期間	最短修業年限（4 年）の終期まで。 ※一度決まった区分が卒業まで続くわけではなく、一年に一度成績・家計による審査が行われます。その結果によっては、授業料減免と奨学金給付が停止または取消される場合があります。			
募集時期	原則として 4 月上旬と 9 月			

⑽ 各種団体による奨学金

地方公共団体、その他民間育英団体の奨学金が各種あります。詳しい内容は、募集の依頼があり次第 UNIPA でお知らせします。ほとんどの奨学金が４月～５月に募集を行いますので、掲示を見逃さないように注意してください。このほかに大学を通さずに募集される場合もありますので、直接地方公共団体等に問い合わせることも必要です。

大学に前年度募集依頼のあった地方公共団体・民間育英団体（抜粋）　2023 年度

給付奨学金名	対象者 （推薦枠・条件）	募集時期	給付金額	成績基準	所得基準
松栄奨学基金	学部２年生 (RU、RE 学系・大学枠１名)	3月 上旬頃	5 万円 / 月額	財団基準 GPA　3.0 程度	財団基準 給与所得者 800 万円以下（源泉徴収票） 上記以外 400 万円以下（所得証明書）
川本・森 奨学財団	学部生・院生	3月 下旬頃	学部生 2.5 万円 / 月額 院生 3 万円 / 月額	学内基準 評定平均値 3.5 以上 GPA　3.0 以上	財団基準 日本学生支援機構第一種奨学金と同等
岡部享和財団	学部２年生以上・院生 （大学枠２名）	3月 下旬頃	3 万円 / 月額	財団基準 GPA　3.0 以上	財団基準 給与所得者 600 万円未満（源泉徴収票） 上記以外 340 万円未満（所得証明書）
守谷育英会	学部生・院生 （都内の大学・都内在住）	4月 初旬頃	12 万円 / 月額	学内基準 GPA　3.0 以上	学内基準 給与所得者 841 万円以下（源泉徴収票） 上記以外 355 万円以下（所得証明書）
前澤育英会	学部１年生 （都内在住、大学枠２名）	4月 中旬頃	4 万円 / 月額	学内基準 評定平均値 3.7 以上	財団基準 世帯合計所得 421 万円未満 上記以外は 307 万円未満
中村積善会	学部生・院生 （大学枠２名）	4月 中旬頃	5 万円 / 月額	学内基準 評定平均値 3.5 以上 GPA　3.2 以上	財団基準 日本学生支援機構第一種奨学金と同等
日揮・実吉 奨学会	学部生・院生 （大学９名、理工枠４名）	4月中旬 頃	40 万円 / 年額	学内基準 評定平均値 3.0 以上 GPA　2.8 以上	学内基準 給与所得者 400 万円以下（源泉徴収票） 上記以外 250 万円以下（所得証明書）
ナガワひまわり 財団	大学２年以上 修士課程 （推薦枠なし、財団 50 名）	4月 中旬頃	3 万円 / 月額	財団基準 GPA　3.0 以上	財団基準 給与所得者 800 万円未満（源泉徴収票） 上記以外 400 万円未満（所得証明書）
JPC 奨学財団	大学・大学院 （推薦枠なし、財団 13 名程度）	4～5月	3.5 万円 / 月額	学内基準 評定平均値 4.0 以上 GPA　3.0 以上	なし
長谷川財団	学部生・院生	5月 初旬頃	3 万円 / 月額	学内基準 GPA　3.2 以上	学内基準 給与所得者 500 万円以下（源泉徴収票） 上記以外 350 万円以下（所得証明書）
種とまと財団	３年で４年に進級が見込まれる方 ４年で院生に進学が見込まれる方 （大学枠１名）	9月 中旬頃	8 万円 / 月額	学内基準 GPA　3.2 以上	学内基準 給与所得者 500 万円以下（源泉徴収票） 上記以外 350 万円以下（所得証明書）
林レオロジー 記念財団	学部３・４年に進級する人 院生に進学する人 （理工研１名、学部１名）	10月 上旬頃	学部生 3 万円 / 月額 院生 5 万円 / 月額	学内基準 GPA　3.5 以上	なし

7　短期貸付金制度

短期貸付金制度は、皆さんが緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度で、**理工学部事務部（学生厚生担当）**で取り扱っています。

この貸付制度は､同窓会の先輩の皆さんが設けた「東京電機大学同窓会助け合い基金」をもって運用されています。

【短期貸付金の取扱い】

取扱時間	月曜日～土曜日　9：10 ～ 17：30 （休憩時間）11：30 ～ 12：30
貸付金額	10,000 円（上限）
貸付期間	1 ヶ月以内（返済期日厳守）

授業期間外の取扱時間は、窓口時間に合わせて短縮または変更する場合があります。

一日に貸付できる人数には限りがあります。また、返済期限を過ぎた場合は、今後の貸付が禁止となり、遅延手数料が発生します。金銭の借用については返済の見通しを立ててから行動し、助け合い基金の趣旨に反した安易な借用は認めませんので注意してください。
(遅延手数料として 1 ヶ月毎に貸付額の 1%を徴収します)

8　賃貸アパートの紹介

本学では直接斡旋はしていませんが、錦電サービス㈱にアパートの斡旋を委嘱しています。

錦電サービス㈱　〒 350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学　理工学部内
TEL　049 － 296 － 2962 ㈹
http://www.kinden-service.co.jp

9　課外活動

大学の課外活動の目的は、団体の活動に参加することによって、自主性を養い、協調精神を身につけ秩序を知り、自己の人間形成に役立てることにあります。しかし、課外活動に必要以上のエネルギーを費やし学生の本分である勉学がおろそかになるようであってはなりません。皆さんは、課外活動のこの趣旨目的を十分に把握した上で各自の個性に合った団体を選び意義ある学生生活を過してください。

10　アルバイト

本学ではアルバイトを希望する学生にその紹介を行っています。しかし学生の本分である学業が疎かになってはなりません。教育的配慮と事故防止の観点から時期と職種を制限しています。

⑴ 大学宛求人票公開

本館１階エントランスホール掲示板（取扱窓口：学生厚生・就職担当）

⑵ 時期の制限

通常授業が行われている期間は紹介しません（家庭教師・塾講師のみ随時紹介）。長期休業中（夏季・冬季・春季）のみ紹介となります。

⑶ 職種の制限

制限職種一覧表を参照してください。

⑷ 申込方法

公開されている求人票に連絡先が記載されているので、直接求人先に応募してください。

⑸ 勤務上の注意

① 労働内容、条件などが求人票に記載されている内容と著しく異なる場合には、理工学部事務部（学生厚生・就職担当）まで申し出てください。

② 病気、急用、その他突発的な理由で遅刻・欠勤などする場合には、必ず勤務先へ連絡してください。安易な行動は勤務先へ多大な迷惑をかけるばかりでなく、自分の信用を落とすことになりますので特に注意してください。

③ 勤務先におけるいかなる事故に対しても、大学は一切責任を負いません。

制　限　職　種　一　覧　表

	具体例	理　由　及　び　参　考　事　項
危険を伴うもの	●プレス、ボール盤、旋盤、裁断機など自動機械の操作	危険事故が伴う。 （例外…理工系でその専攻に役立つもの）
	●高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い（助手も含む）	免許を必要とし、高度の危険度がある。
	●自動車、単車の運転、自転車による重量物（30kg以上）の配達	最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ、刑事責任まで負うことになる。
	●線路内や交通頻繁な路上での作業（測量、白線引き、交通整理）	
	●土木・水道工事現場作業	
	●建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業	落下物・転落等の危険度が大きい（内装工事は除く）。
	●２階以上の高所での屋外作業（ガラス拭き、器具取りつけ等）	
	●ヘルメット着用が必要とされる作業	
	●警備員	会場整備、誘導、受付は除く。
人体になもの有害	●農薬、劇薬など有害な薬物の扱い（メッキ作業、白蟻駆除等）	健康上、人体に有害と考えられる。
	●特に高温度・低温度の作業	
	●塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	
法令に違反するもの	●労働争議に介入するおそれのあるもの	職業安定法 20 条参照
	●営利職業斡旋業者への仲介斡旋	職業安定法の趣旨（雇用関係の成立の斡旋）に反する。
	●マルチ・ネズミ講商法に関するもの	無限連鎖講の防止に関する法律参照
	●出来高払（一定額の賃金の保証のないもの）	労働基準法 27 条参照
	●募集・採用の対象を男性のみ又は女性のみとするもの	男女雇用機会均等法参照
	●募集・採用の人数を男女別に設定するもの	
	●募集・採用に当たり、性別により異なる条件を付すもの	
教育的に好ましくないもの	●街頭でのチラシ配り、ポスター張り	内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	●不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	相手側の了解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	●訪問販売、勧誘、専門におこなう集金	
	●競馬、競輪場等、ギャンブル場内の現場作業	
	●バー、クラブ、マージャン、パチンコなど風俗営業の現場作業、長期継続の深夜作業	
	●深夜作業	
	●選挙の応援に関連する一切の業務	大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
	●スパイ行為、興信所業務に類する調査	
望ましくない求人	●人命にかかわることが予想される業務	水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	●労働条件が不明確なもの	賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの。登録制によるもの。
	●人員の限定を条件とするもの	例えば 10 人中１人でもかけると他の９人を不採用とするようなもの。
	●学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしばくり返されるもの	
	●大学の判断により好ましくないもの	

11 後援会

1. 後援会について

後援会は学生の父母（または、保証人）と教職員が会員となり、会員の中から選出された役員により、学生が充実した楽しいキャンパスライフを過ごせるように様々な事業をおこなっています。

また、後援会の事業は会員の皆様からの会費によって運営されています。

2. 後援会の事業

・父母懇談会の開催

各キャンパス及び地方 10 会場で開催をしています。父母懇談会では、ご父母の皆様へ大学の現況報告をお知らせし、教職員と面談する機会を設けています。

・『父母のための東京電機大学ガイド』の発行

・会誌『学苑』の発行

年に 3 回、会員へ郵送しています。学苑には、学生生活の報告、教育・事業の報告、大学行事の報告等が掲載されています。

・メールマガジン配信

『学苑』でお伝えしきれない内容や緊急連絡等をメールマガジン登録会員 (父母) へ配信しています。

・クラブ活動への補助

委員会・クラブ・同好会の課外活動に対し、補助金による支援を行っています。

・学園祭・体育祭への補助

旭祭（東京千住キャンパス）、鳩山祭（埼玉鳩山キャンパス）及び全キャンパスが一同に集う合同体育祭に補助金による支援を行っています。

・キャリア・就職支援

学生と本学卒業生が懇談し、卒業生の活動状況と将来計画の相談等を行う『仕事研究セミナー』の開催に対して補助金による支援を行っています。

・国際交流への補助

学生と留学生との交流をはかるため、特に国際センターＨＰの留学促進ページの更新など、学生へ海外留学の魅力を広報することに対して補助金による支援を行っています。

後援会のホームページ

http://www.soe.dendai.ac.jp/gakusei/G_supporter_association/supporter_association.html

12 校 友 会

校友会は学園各校（大学院、大学、短期大学、高等学校、中学校、電機学校）の同窓会で構成され、卒業生と在学生が会員となっています。

1. 在学生（在学会員）支援

校友会は、学園祭・合同体育祭やクラブ活動等への資金補助、奨学金貸与、就職活動支援といった支援を行っています。特に校友会の各県支部や職域電機会（同じ職種・企業の同窓会）は、就職活動の際、皆さんの力になると思います。

2. 東京電機大学校友会奨学金

本奨学金は、在学生（在学会員）の本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難が生じた場合、校友会が貸与するものです。

貸与を希望する方は､学生アドバイザーまたは事務部（学生厚生担当）に相談してください。

【受付】学園各校の学費等納入期限の１０日前まで

【審査】書類審査と面接により貸与を決定します

【貸与】学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の１/２相当額

【返還】卒業から半年経過した後、５年間の元本均等返済（一括返済可・無利息）

3. 大学同窓会の活動

大学同窓会はＯＢ・ＯＧ会やクラス会の援助だけでなく、学園や校友会と連携して在学生（在学会員）を支援しています。主な活動は次の通りです。

⑴ 在学生の活動支援

団体・個人を問わず、クラブ活動、研究活動、競技会への出場、ボランティア活動といった活動の資金補助をしています。要申請です。

⑵ 優秀団体表彰

丹羽初代学長が大学同窓会へ寄せた基金により、クラブ活動支援を目的として、学園祭開催に合わせて「丹羽賞」「同窓会奨励賞」授与式を開催し、優秀な学生団体を表彰しています。

【丹羽賞】過去１年間に優秀な成績をあげた学生団体に授与。

【同窓会奨励賞】丹羽賞の対象ではないが、地道に活動を続けている学生団体に授与。

⑶ 就職活動支援

毎年１月・２月に学園と協力して、“就職セミナー”を開催しています。産業界で活躍している先輩による就職進路相談は、就活生から好評を得ています。

4. 校友会を訪ねてください

校友会は東京千住キャンパス１号館２階にあります。先輩のこと、出身地の校友会支部のことなど、知りたいことがありましたらお気軽にご相談ください。

一般社団法人 東京電機大学校友会
〒 120-8551
東京都足立区千住旭町５番 東京電機大学 東京千住キャンパス１号館２階
TEL : 03-5284-5140　　E-mail : kouyukai@jim.dendai.ac.jp
FAX : 03-5284-5187　　URL : https://www.tduaa.or.jp/koyu/
業務時間 9:00 ～ 17:00

13　東京電機大学シーサート（TDU-CSIRT）

CSIRT（Computer Security Incident Response Team：シーサート）とは、コンピュータセキュリティにかかるインシデントに対処するための組織の総称で、本学には東京電機大学シーサート（TDU-CSIRT）が設置されています。

TDU-CSIRT は、本学と本学のブランド価値を守るため、情報セキュリティに関する対応・対策窓口を提供すると共に、インシデント対応および発生の予防を支援することにより、学内外のセキュリティ向上に貢献することを目的として活動しています。

⑴ インシデントの通報案内

近年は、本学に向けた各種サイバー攻撃も非常に高度化・多様化しており、日常的に学内のコンピュータを狙った攻撃に晒されています。本学に関する情報漏洩、標的型攻撃、Web サイトの改ざんなどのインシデントを発見された場合は、E-mail にて TDU-CSIRT へ通報をお願いいたします。

【　情報セキュリティインシデント発見時の通報連絡先　】
tdu-csirt@csirt.dendai.ac.jp

■ 取り扱うインシデント対象範囲

TDU-CSIRT では、次のような情報セキュリティインシデントを取り扱い、インシデント対応を行います。

1．情報漏洩
　本学が管理する重要な情報（例えば個人情報等）について、情報漏洩、盗難および紛失、またはこれらの可能性が疑われる事案が発生した場合
2．標的型攻撃
　標的型攻撃の発生または発生が疑われる事案が起きた場合
3．Web サイトの改ざん
　本学が管理する Web サイトの改ざんが発生した場合
4．DoS（Denial of Service）攻撃
　本学に対して DoS 攻撃が発生した場合、外部に対して本学が管理するサーバ等が DoS 攻撃の攻撃元となる事案が発生した場合
5．不正侵入
　本学が管理するサーバ等へ不正侵入し、踏み台として、さらに組織の内部に侵入しようとしたり、外部の他組織を攻撃したりする事象が発生した場合
6．不審なシステムダウン
　本学が管理するサーバ等への不正侵入等による不審なシステムダウンが発生した場合

7．その他

その他、本学の情報セキュリティを脅かす事象が発生した場合

⑵ Web サイトによる各種情報提供

TDU-CSIRT では Web サイトで次のような情報を発信・提供しています。
定期的に確認し、セキュリティ向上に活用してください。

・学内外に向けたセキュリティに関する注意喚起情報
・コンピュータやソフトウェアに関する脆弱性（ぜいじゃくせい）情報
・セキュリティ向上を目的とした啓発情報

⑶ ウイルス対策ソフトの提供

本学では、ウイルス対策ソフトの包括ライセンス契約を締結しています。学部や大学院に在学中、個人が所有する PC（Windows、Mac）でウイルス対策ソフトを費用負担なく利用することができます。学内ネットワークに接続する PC には必ずウイルス対策ソフトをインストールしてください。

※ウイルス対策ソフトのダウンロードは学内ネットワークからのみ可能です。
利用方法等、詳しくは Web サイトをご確認ください。

■ TDU-CSIRT Web サイト

https://www.csirt.dendai.ac.jp/

ハラスメント防止宣言

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。そのためには、すべての学生・教職員が教育・研究などの諸活動を進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において、相手を差別したり、性的な対象として心理的・身体的に傷つけたりすることは絶対にあってはならないことです。

埼玉鳩山キャンパスでは、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じて適切なハラスメント相談員を紹介します。キャンパス対策委員長は、必要に応じて、キャンパス調査委員会を設置して事実関係を調査し、ハラスメントの防止および問題解決に取組むことを宣言します。

TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

ハラスメント防止
鳩山キャンパス対策委員会

ハラスメント相談受付窓口は、
・学生相談室　・健康相談室
・学生厚生担当　・教務担当
です。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。
教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。

セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の２つに分けられます。

対価型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環境型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ヌードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの？」、「子供はまだなの？」と聞く。

アカデミック・ハラスメントとは

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。
拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら

- 勇気をもって、「ＮＯ」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に居合わせたなら

周りの人にもできることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

加害者にならないために

私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

第 10 章
各種施設

1　スポーツ施設

各種スポーツ施設は、理工学部の学生や教職員の健康や体力増進のために、体育館やグラウンドをはじめ多くの方の好みに合ったスポーツが実施できるようにつくられた施設です。効率よく、気持ちよく利用するために以下の利用方法に従ってください。

1.　利用方法

体育の授業以外の時間帯に使用できます。利用可能な施設と時間帯を確認して利用計画を立て、学生厚生担当において所定の手続きをし、スポーツ施設の利用許可を受けてください。ただし、授業や学内行事が優先となります。

利用申込みは、**公認学生団体は使用日の 14 日前**、**一般学生は 7 日前**から可能です。**テニスコートの一般学生の利用は 1 人 1 面 3 時間まで**です。長期休業の際の申込みについては、別途お知らせします。

テニスコート、多目的コートは許可を得た使用願を理工学部受付に提示し、鍵を借りて利用してください。

2.　施設利用の心得

・体育館　　土足は禁止します。下足箱に靴をおき、館内は館内用シューズを履いてください。スリッパでの運動は禁止します。体育館の下足箱に長期に渡り靴や館内用シューズを置いている様子が見受けられた場合には、撤去します。

・テニスコート　テニスシューズかそれに類する物を履いてください。使用後はネットをゆるめてください。

・グラウンド　雨天時や雨天後などグラウンド状態不良の場合は、原則、使用を禁止します。

・更衣室　自由に使用できますが、ロッカーを私物化しないようにしてください。またロッカーには、**貴重品や高価な物は絶対に置かず各自で貴重品ロッカーを利用する**か携帯してください。ロッカーを含め体育館内に放置された私物は撤去します。

・ごみは必ず持ち帰るかごみ箱に入れてください。

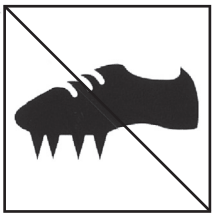
・施設使用後は、モップがけ、トンボ、コートブラシなどで必ず整備を行ってください。

・盗難防止のため、貴重品等の管理には各自で十分に注意してください。

埼玉鳩山キャンパス総合グラウンド
人工芝 使用上の注意

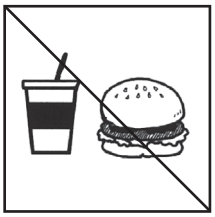
総合グラウンドは、平成29年度「理工学部開設40周年記念事業」として、新しく、全天候対応のグラウンドに生まれ変わりました。
総合グラウンドをいつも快適なコンディションで使用できるよう、大切に使用してください。

使用可能なシューズ



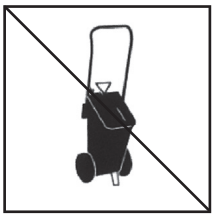
金属製スパイク・ハイヒールでの入場は禁止します。
ただし、100mレーンは、陸上競技用金属スパイクの使用が可能です。

飲食の禁止



グラウンド内では、水分補給以外の飲食は禁止します
(水以外のスポーツドリンク・ガム・飴も含みます)。

ライン引き



専用パウダー以外のライン引きは禁止します。
(石灰は使用厳禁)
ラインを引く際は、事前に学生厚生担当へ相談してください。

靴底の泥・ゴミ

靴底に付着した泥・ゴミをきれいに落としてから入場してください。
また、退場の際は、チップを払い落としてください。

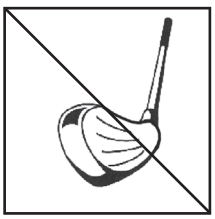
火気の使用禁止

火気の使用は禁止します。
また、喫煙および高温になる器具等の持ち込みも禁止します。

車両の進入禁止

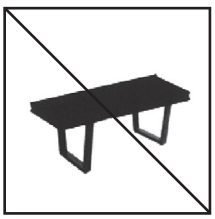
自転車・バイクも含め、車両の進入を禁止します。ただし、救急車・整備車両等は除きます。

ゴルフ等の禁止



ゴルフ等の人工芝を傷める行為は禁止します。

重量物の設置



ベンチ・サッカーゴール等の重量物を長期間設置することは、人工芝が損傷しますので禁止します。やむを得ない場合は、ゴムマット等を敷いて養生の上、使用してください。

東京電機大学　理工学部事務部

2　総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、学園全体にさまざまなサービスを提供しています。東京電機大学の学生は、これから紹介するサービスを「全部」利用する権利があります。どのようなサービスを利用できるのか知り、おおいに活用してください。サービスの詳細については、Web ページでもご案内しています。

総合メディアセンター Web ページ　**https://www.mrcl.dendai.ac.jp/**

各サービスのメニューが表示されます。見たいサービスやカテゴリをクリックしてください。

1.　サービス時間・施設・設備・開館予定（運用カレンダー）

<table>
<tr><th colspan="2">場所</th><th>月～金</th><th>土</th><th>長期休業期間</th></tr>
<tr><td>図書閲覧室</td><td>1 号館 2・3 階</td><td rowspan="2">9：00 ～ 20：10</td><td rowspan="2">9：00 ～
18：00</td><td rowspan="2">9：00 ～
16：30</td></tr>
<tr><td>アクティブラーニング
ゾーン</td><td>1 号館 1 階</td></tr>
<tr><td>117 教室</td><td>10 号館（本館）
1 階</td><td>授業期間中開館</td><td colspan="2">閉室</td></tr>
<tr><td>第 1・2 実習室</td><td rowspan="2">2 号館 1 階</td><td rowspan="2">9：15 ～ 20：00</td><td colspan="2" rowspan="2">9：15 ～ 16：50</td></tr>
<tr><td>プリントルーム</td></tr>
</table>

※都合により変更になる場合があります。また、休業期間中にも開館している日があります。詳細は、総合メディアセンターの Web ページから「運用カレンダー」もしくは各施設にある掲示を確認してください。

2.　施設・設備

⑴ 図書閲覧室

□閲覧エリア

閲覧席が設置されており、ノートパソコンや資料を活用しながら学習することができます。

□図書閲覧カウンター

図書の貸出やレファレンスなどを受付しています。

□開架書架エリア

図書が主題別に分類されています。理工系の専門書のほか、受験書や就職本、旅行、レジャー、地図などのコーナーもあります。読みたい資料を自由に探して閲覧することができます。

□ブラウジングエリア

くつろいで新聞や雑誌を閲覧することができます。

□静粛閲覧エリア
　個人用の閲覧席や個室を設置し、集中して静かな環境で学習することができます。

□グループスタディエリア
　グループの学習や、プレゼンテーションの練習等で使用することができます。スクリーンを設置し、プロジェクタの貸出もしていますので、研究発表の練習の場としても利用できます。

□書庫
　図書のほか博士論文や製本雑誌などの資料があります。書庫入口に設置されているカードリーダに学生証をかざしてから入庫してください。

⑵ アクティブラーニングゾーン
　アクティブラーニングゾーンの中のラーニングコモンズエリアには可動式の椅子、机があります。またホワイトボードも自由に利用できます。プリントシステムの複合機と大判プリンタを設置しています。

⑶ 117 教室
　最大 180 人収容できます。授業が行われないときは自習用に開放しています。
　有線 LAN・電源コンセント・複合機を備えた部屋です。個人用 PC を使用して受講できます。

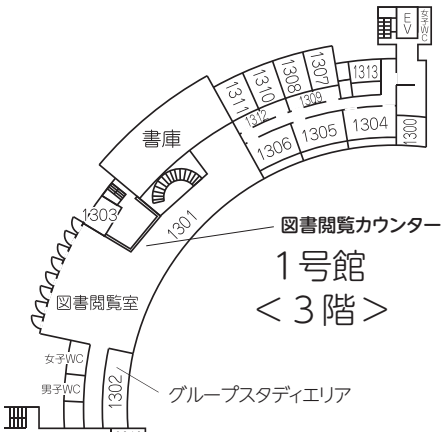
⑷ 第１・第２実習室
　可動式パーティションによって分割授業ができる実習室です。授業が行われないときは自習用に開放しています。

⑸ プリントルーム
　複合機と大判プリンタを設置しています。学会などの発表用ポスターの印刷ができます。開館時間中はいつでも利用できます。

⑹ 総合メディアセンター窓口
　コンピュータ・情報サービス全般に関することを受け付けています。

(7)キャンパス内の設備マップ

全体図



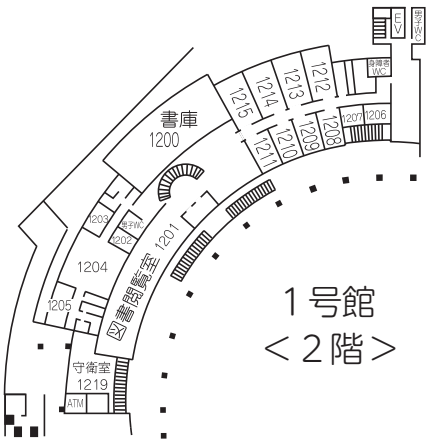
1号館
＜3階＞

図書閲覧室

グループスタディエリア

ブラウジングエリア

エントランスホール



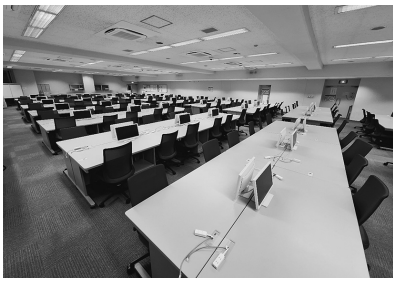
1号館
＜2階＞

1号館・2号館
＜1階＞

アクティブラーニングゾーン

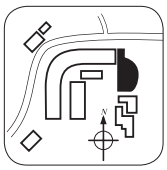
第1・2実習室
※固定端末なし

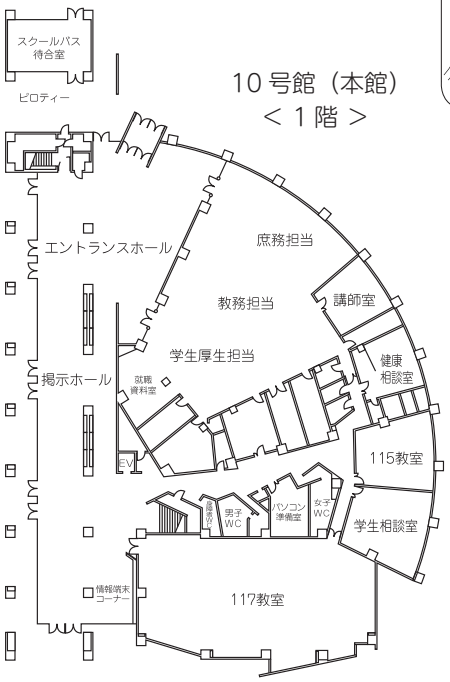
プリントルーム
※固定端末なし



117 教室
※固定端末なし

全体図





3.　ユーザ ID とパスワード

⑴ ユーザ ID

総合メディアセンターの各種サービスやポータルサイト（DENDAI-UNIPA）などを利用するには、個人に付与された「ユーザ ID」が必要です。

ユーザ ID は「学籍番号」または「メールアドレス」です。利用するサービスによって異なります。

⑵ 共通パスワード

学内の各種サービスは、個人で設定した 1 つのパスワードで利用することができます。

メールやポータルサイト、学内無線 LAN 等、複数のサービスを全て同じパスワードで利用できることから「共通パスワード」といいます。

本学では、パスワードに関するガイドラインを「東京電機大学情報システム利用者パスワードガイドライン」として定めています。ガイドラインをよく確認して安全性の高い設定にするとともに、他人の目に触れないよう責任を持って管理してください。

なお、共通パスワードは学内外問わず総合メディアセンターの Web ページから変更できます。また、パスワードを失念したときは再発行の申請が必要です。パスワード再発行の申請は「2 号館 1 階　総合メディアセンター窓口」にて受付しています。

□パスワードに関する諸注意

詳細は「東京電機大学情報システム利用者パスワードガイドライン」を読んでください。

[学外サービスとのパスワードの使い回し禁止]

共通パスワードには、学外サービスと同じパスワード（類似したもの、法則性のあるものも同様）を設定をしないでください。学外サービスでパスワードが漏れてしまえば、同じパスワードを使っている学内外全てのサービスが不正に利用されてしまう恐れがあります。

[安全性の高いパスワードを設定する]

パスワードの安全性を高めるには、他人から推測されにくくツール等で解析がされにくいように、様々な文字種を利用して文字数を多くすることが重要です。ガイドラインでは、設定する文字列の長さや使用する文字の種類等のルールが定められています。よく読んで適切に設定してください。

[初期パスワードは速やかに変更する]

初期パスワードは、前期授業前に行われるガイダンス中にお知らせいたします。初期パスワードは変更期限を設けています。受け取ったら、速やかにパスワード変更を行ってください。変更期限まで変更されない場合は、不正利用を防止するために利用を停止します。

なお、変更期限を超えていてもパスワードの変更ができます。パスワードを変更することで各種サービスの利用ができるようになります。

[パスワードは厳重に管理]

パスワードは、他人に知られたり、忘れたりしないよう厳重に管理してください。例えば、パスワードを書いた付箋をパソコンに貼り付けたり、他人に教えたりしてはいけません。

4.　コンピュータ・情報サービス（IT サービス）

総合メディアセンターでは、コンピュータ・情報サービスのシステムを数多く整備しています。ここでは、皆さんが直接利用するシステム、サービスを紹介します。

詳しい利用方法、最新の情報については、Web ページを確認してください。

⑴ ソフトウェアライセンス

学生所有のパソコンにおいても大学で契約しているライセンス形態に応じて、利用できるソフトウェアがあります。Microsoft 製品（Microsoft 365）、Adobe 製品、その他授業・研究に必要なソフトウェア、ウィルス対策ソフトなどソフトウェアによってサービス内容が異なりますので、詳しくは Web ページを確認してください。

⑵ メール（Microsoft 365）

学生には入学と同時にメールアドレスが付与されます。

メールアドレスは、**“学籍番号 @ms.dendai.ac.jp”** です。本学のメールは、Microsoft 365 を使用しています。学内外どこからでもインターネット環境と Web ブラウザがあれば、自分のメールを確認できます。

このメールアドレスには、大学からのお知らせが送られてきますので、日々確認してください。マナーを守り、コミュニケーションツールとして活用してください。

⑶ Zoom

本学ではオンライン講義や学内のイベントなどに Zoom を使用しています。在学中は連続 24 時間までミーティングを開催することができます。本学専用ページにアクセスしてから使用してください。

Zoom（本学専用ページ） https://dendai.zoom.us/

⑷ Box

Box は、クラウド型のオンラインストレージサービスです。在学中は容量無制限で利用できます。ネットワークを経由してファイルの読み書きができます。パソコンのハードディスクと同じように使用できます。

機密性のある重要なファイルのやり取りや、メールに添付できない大きなファイルの受け渡しに便利です。

また、ファイルやフォルダは他人との共有ができます。グループでの情報を共有し管理することができ、Box ノートの機能を使うことでファイルのみではなくディスカッションもできます。

⑸ ネットワーク

ノートパソコンなどを使用してネットワークを利用できます。無線 LAN、有線 LAN（情報コンセント）を備えていますので、使用目的に合わせてご利用ください。無線 LAN は、学内の共有スペースで使用できます。有線 LAN の使用できる場所は Web ページをご確認ください。

⑹ プリントシステム

プリントシステムはオンデマンド方式の印刷環境です。学内のネットワークに接続されたパソコンなどから利用できます。プリント・コピー・スキャンができる複合機やモノクロ・カラー大判プリンタがあります。ただし、教育・研究目的以外の利用は禁止しています。

プリントシステムはプリントポイントによる出力管理を行っています。毎年度初めに各ユーザに 1,000 ポイントを追加付与します。システムを利用の度に利用種別に応じたプリントポイントが消費されます。

プリントポイントの追加には申請が必要です。申請は証明書コンビニ発行サービスで行います。

年度末に残ったポイントは、翌年度に繰り越しされます。

参考）プリンタ設置台数

場所	室名	複合機	モノクロ大判	カラー大判
1 号館 1 階	アクティブラーニングゾーン	2 台		1 台
1 号館 2 階	図書閲覧室	1 台		
1 号館 3 階	図書閲覧室	2 台※		
10 号館(本館) 1 階	117 教室	3 台		
2 号館 1 階	第 1 実習室	1 台		
	第 2 実習室 A	1 台		
	第 2 実習室 B	1 台		
	第 2 実習室 C	1 台		
	プリントルーム	1 台	1 台	1 台
12 号館 1 階	アトリウム	1 台		1 台

※ 1 号館 3 階図書閲覧室に設置している複合機の内の 1 台は、交通系電子マネーで利用できる課金制複合機です。

※設置場所・台数は変更する場合があります。最新の情報は Web ページを確認してください。

5. 図書サービス

本学は多くの技術資料、日本語のみならず海外の最新の雑誌などを所蔵しています。オンラインのジャーナルやデータベースを利用することもできます。

また、学習のための環境も用意しています。プレゼンテーションの練習やグループ学習、静かに自学自習をしたい方のための場所があります。

(1) 資料・データベース検索

□ 蔵書・論文検索

本学で所蔵している図書や雑誌は、OPAC（オンライン蔵書目録）で検索ができます。Web ページの「図書サービス」⇒「蔵書検索（OPAC)」から利用してください。

本学を含めた全国の大学図書館等が所蔵する学術論文や図書・雑誌は国立情報学研究所（NII）の提供する CiNii（サイニィ）から検索できます。

□ 電子ジャーナル

IEL Online、ACM Digital Library、nature、Science、ScienceDirect、J-STAGE、電子情報通信学会論文誌、日経 BP 社雑誌など、多くの分野の主要電子ジャーナルをオンラインで検索して読むことができます。

□ 各種データベース

JIJI-Web（時事通信社)、日経テレコンや朝日新聞クロスサーチのような新聞記事データベース。理科年表プレミアム、化学書資料館のような資料データベース。Web of Science

のような重要学術雑誌の文献検索ができるデータベースも用意しています。

□ 電子図書館

所蔵している資料には、パソコンやスマートフォンで読めるものがあります。電子図書館に所蔵されている資料は、オンラインであればその場で簡単に貸出・返却ができます。

⑵ レファレンスサービス

学習・調査・研究を行う上で必要となる文献・情報についての相談にも応じています。皆さんが図書閲覧室を効果的に利用できるよう、資料の紹介や、情報を提供しますので、お気軽にご相談ください。

必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写・図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介もします。

⑶ 図書閲覧室内利用の資料

資料には貸出のできないものがあります。閲覧などの利用は図書閲覧室内のみとなります。該当する資料は次の通りです。

① 禁帯出の赤ラベルが貼ってある資料
② 雑誌
③ 修士論文及び博士論文（一部複写不可のものもあり）
④ 視聴覚資料（DVD・Blu-ray など）
⑤ 貴重書

他キャンパスにある①～④の資料は取寄せができます。例外として取寄せのできない雑誌もあります。取寄せが必要な場合は、図書閲覧カウンターで手続きをしてください。

⑷ 貸出・返却・予約

□ 貸出

自動貸出機を利用して貸出手続きができます。付録資料ありの図書や予約資料は、学生証を持参し図書閲覧カウンターへお越しください。また、他キャンパス所蔵の図書資料も、取寄せて利用することができます。貸出冊数と貸出期間は次の通りです。

対象	貸出冊数	貸出期間
学部 1 ～ 3 年生	5 冊	2 週間
卒業年次生（学部 4 年生）	10 冊	1 ヶ月
大学院生	10 冊	1 ヶ月

予約がなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出機を利用するか、Web ページからユーザ ID とパスワードを入力するだけで簡単に手続ができます。

※注意！

資料を延滞した場合、返却の遅れた日数分貸出停止となります。なお、借用中の資料を紛失・汚損した場合には弁償していただきます。

□ 返却

借用した資料は、定められた期日までに返却してください。どのキャンパスでも返却できます。返却期限日は、Web ページから簡単に確認することができます。卒業・退学・除籍・転学などの場合は、即時返却してください。

休館日、開館時間外の返却はブックポストを利用してください。ブックポストは、各キャンパスの総合メディアセンター正面出入口に設置されています。

埼玉鳩山キャンパスは、1 号館 2 階風除室内に設置しています。

□ 予約

資料は Web ページから予約できます。資料が到着したらメールでお知らせします。貸出可能日以降に図書閲覧カウンターで受け取れます。

	所属キャンパスの資料	他キャンパスの資料
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7 日間	

※資料が各キャンパスに届くまでの日数

埼玉鳩山　⇔　東京千住　1 ～ 2 日

所蔵館が「千葉」となっている資料は、各キャンパスに届くまで 1 週間程度かかります。

※状況によって日数が変更になる場合があります。

⑸ 購入希望

本学に所蔵が無く、総合メディアセンターに資料の購入を希望される場合は、Web ページから依頼できます。購入不可（却下）の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

⑹ コピー（複写）について

図書資料のコピー（複写）は図書閲覧室の複合機を利用してください。著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

複写に関しては、著作権法第 21 条において「著作者は、その著作物を複製する権利を専有する」とされています。著作権で保護される著作物を複写する場合は、原則として著作権者の許諾が必要です。ただし、著作権法が定める条件をすべて満たす場合は、著作権者の許諾なしに複写できます。

著作権法第 31 条第 1 項第 1 号は、著作権者の許諾なく、図書館が所蔵資料を複写できる主な条件として次のように定めています。

○　複写の目的が「調査研究」であること
○　複写箇所が「著作物の一部分」であること
○　複写物の提供は「一人につき一部」であること
詳しくは、国立国会図書館の「著作権にかかわる注意事項」をご確認ください。
⇒ https://www.ndl.go.jp/jp/copy/copyright/

⑺ お知らせ

□ Web ページのお知らせ

Web ページではこれまでに紹介した情報のほか、次の情報とサービスを提供しています。詳しくは総合メディアセンターの Web ページから「図書サービス」をご覧ください。

○　借用図書の貸出期間の更新
○　文献複写・図書資料貸借依頼（他機関へ依頼の場合は有料）
○　新着図書情報
○　貸出ランキング情報

□ メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。次の連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

○　予約図書資料・文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
○　図書資料の貸出・更新・返却履歴（前日分）・返却期限日・延滞のお知らせ
○　購入希望図書到着・却下のお知らせ

6.　その他のサービス

⑴ プログラム相談員

パソコン操作やプログラム作成時のエラー、授業の課題の相談、総合メディアセンターのサービス利用などで困ったときは、プログラム相談員にご相談ください。本学の大学院生が相談にのります。詳細は Web ページをご確認ください。

期間：授業期間中
場所：2 号館 1 階プリントルーム

⑵ 機器の貸出

各窓口では、次にあげる機器等の貸出を行っています。貸出日当日に返却をしてください。

□ 総合メディアセンター窓口

○　外付け DVD ドライブ
○　ヘッドセット（授業利用優先）
○　LAN ケーブル（1 m）
○　カードリーダ（SD カード等対応）

□ 図書閲覧カウンター
○ ノートパソコン（図書閲覧室外への持出し可）
○ プロジェクタ
○ USB 扇風機
○ ひざかけ

⑶ グループスタディの利用（予約制）

グループスタディの利用は予約が必要です。以下の URL より申し込みください。グループスタディは２名以上から利用できます。

申込み URL　https://www.mrcl.dendai.ac.jp/groupstudyarea/

⑷ サイネージ（電子掲示板）

学内各所に学園情報や各部署からのお知らせを表示するサイネージを設置しています。

⑸ イベントとセミナー

毎年、図書閲覧室ガイダンスや、ソフトウェアのセミナーなど、各種イベントを開催しています。詳細の情報は、総合メディアセンター Web ページのお知らせ、UNIPA や掲示板、図書閲覧室内、サイネージなどでお知らせしています。お気軽にご参加ください。

7.　窓口・問い合わせ先

総合メディアセンターへのお問い合わせは、次に挙げる窓口またはメールアドレスにお願いします。

⑴ 総合メディアセンター窓口（2 号館 1 階 2119 室）

○ コンピュータ・情報サービス全般に関すること
○ 共通パスワード再発行申請
○ 研究室などで利用するソフトウェアのライセンス申請

メール：h-computer@mrcl.dendai.ac.jp

⑵ 図書閲覧カウンター（1 号館 3 階）

○ 図書サービス全般に関すること

メール：h-library@mrcl.dendai.ac.jp

8.　利用上の注意

⑴ 目的外の利用、不正行為の禁止

総合メディアセンターの施設や提供しているサービスは、教育・研究を目的としたものです。目的外の利用をした場合やその他不正行為を行った場合は、学則に則って処分します。

⑵ スタッフの指示に従うこと

施設内スタッフの指示に従ってください。指示に従わない場合はその場で利用を停止し退出していただきます。またサービス利用も停止となる場合があります。

⑶ 濡れた傘の持ち込み禁止

施設内には、濡れたままの傘を持ち込むことは禁止です。濡れた傘は、傘立てに置くか、備え付けの傘袋に入れて持ち込んでください。傘立てに置いた傘は個人の責任により管理してください。

⑷ 飲食、喫煙の禁止

環境保持のため、施設内に飲食物を持ち込むことや喫煙は堅く禁止します。
※ただし、蓋のできる密閉容器に入った飲み物に限り、持ち込みを認めています。
※ 117 教室は、軽食の持ち込みと、食事を認めています。

⑸ 携帯電話、スマートフォンでの通話禁止

施設内での携帯電話やスマートフォンでの通話は禁止します。どうしても使用する必要がある場合は、施設から退出して使用してください。

⑹ 大声、学習に関係の無い雑談

施設内には学修を目的とした多くの利用者がいます。他の利用者の迷惑とならないようマナーを守って利用してください。

⑺ コンピュータ・情報サービスの利用に当たっての注意事項

本学では、「東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン」を策定し、学生がコンピュータや携帯情報端末、ネットワーク等を利用するにあたって遵守すべき事項をまとめています。ガイドラインの内容を十分に理解し、適正かつ安全に利用するようにしてください。

ガイドラインに違反する場合、総合メディアセンターの管理するコンピュータやネットワーク等の利用を停止する場合があります。さらに悪質な場合には学則により処罰されることがあります。

⑻ インターネットや SNS を利用するに当たっての注意事項

□著作権等の権利を侵害しない

インターネット上には違法にコピーされた著作物（文章・画像・音声・動画・ソフトウェアなど）が流通しています。著作物を違法にコピーすることや違法にコピーされた著作物を不正使用することは、重大な犯罪となるため絶対に行わないでください。また、正規に購入したソフトウェアであっても許可されたライセンスの範囲を超えて使用することは不正使用となりますので絶対に行わないでください。

これらの違法行為が発覚すると刑事罰の対象となることがあり、ソフトウェアメーカー等著作物の権利者から多額の損害賠償を請求される場合があります。

□個人や特定団体等への誹謗中傷や配慮に欠けた不用意な言動をしない

コメントの書き込みや記事の投稿が可能なソーシャルメディアを利用する場合には、不用意な言動が、あなた自身や家族に深刻な状況をもたらすことがあります。投稿内容は様々な地域や立場の人たちが目にします。それぞれ文化的背景や価値観を持っている人たちです。ある人には問題ない言動であっても、別の人に対しては攻撃的や配慮に欠けた言動と捉えられる場合があります。投稿する話題の選び方、言葉遣いと表現には注意しましょう。

東京電機大学情報システム利用者パスワードガイドライン

1. 本ガイドラインの目的

本ガイドラインは、学校法人東京電機大学情報戦略ポリシーに基づき、本学の情報システムを利用する際のパスワードに関し、利用者が予め理解しておくべき事項を示すことを目的とする。

パスワードは他人に知られると利用者本人の個人情報が漏洩するだけでなく、漏洩したパスワードを使って本学の情報システムを不正に利用されたり、犯罪などに悪用されたりする危険性がある。

本学の情報システムを利用する者は、パスワードの重要性を十分に理解し、他人から推測されにくく解析されにくい安全性の高いパスワードを設定すること、学外サービスとの間でパスワードの使い回しをしないこと、他人の目に触れないようにパスワードを管理することなど、責任を持って自己のパスワードの適切な管理と利用を行わなければならない。

2. パスワードに係る全般的な注意事項

2. 1. 初期パスワードの変更

利用者は、アカウントが発行されたら直ちに初期パスワードを自己のものに変更すること。初期パスワードのまま情報システムの利用を継続してはならない。なお、初期パスワードは発行後一定期間が経過すると利用できなくなるので、その前に変更すること。

2. 2. 安全性の高いパスワードの設定

安全性の高いパスワードは、他人から推測されにくく、ツール等によるデータ解析で割り出しにくいものである。攻撃者がパスワードを解析する方法には、インターネット上で流失したパスワードを試す「リスト型攻撃」、文字の組み合わせを全て試す「総当り攻撃」、パスワードによく使われる文字列を試す「辞書攻撃」などがあり、これらからパスワードを守るにはデータ解析に時間がかかり、パスワードを探し当てることが事実上不可能にする必要がある。そのためにはパスワードには様々な文字種を利用し、パスワードの文字列の長さを長くすることが重要である。

利用者は、上記のような安全性の高いパスワードを設定するために、以下の条件を全て満足するように自己のパスワードの文字列を設定する必要がある。

⑴ パスワードの文字列の長さを、10 文字以上 20 文字以下で設定する。
⑵ パスワードの文字列には、以下の各文字種から各 1 文字以上を含むこと。
- 英大文字（A ～ Z）
- 英小文字（a ～ z）
- 数字（0 ～ 9）
- 記号のうち、情報システムで使用可能なもの

⑶ 以下の文字列は他人が容易に推測もしくは解析により特定可能であるため、パスワードとして設定してはならない。
- 利用者個人が保有する情報から容易に推測できる文字列（名前、ユーザ ID、メールアドレス、生年月日、電話番号等）
- 辞書の見出し語、著名な人名、地名、商標等の固有名詞
- 上記を複数結合したもの
- 上記に数字や記号を追加したもの
- 同じ文字や文字パターンの繰り返し
- キーボードの文字配置等、容易に推測できる並びの文字列

2. 3. 学外サービスで学内パスワードの使い回しをしない

本学の情報システムで使用しているパスワードを学外サービス（学外の Web サイトで提供されるサービス等）で使い回した場合、複雑なパスワードを使っていても 1 箇所でもパスワードが漏れてしまえば、同じパスワードを使っていた学内外の全てのサービスが不正に利用されてしまう。

そのため、利用者は、以下のとおり本学の情報システムで使用しているパスワードを学外サービスで使い回してはならない。学外サービス毎に全く関係のない複雑なパスワードを設定すること。ただし、本学の情報システムとして認証連携している学外サービスについてはこの限りでない。

⑴ 学外サービスでは、本学で使用するパスワードを使い回してはならない
⑵ 学外サービスでは、本学で使用するパスワードと類似したパスワードは推測されやすいため、使用してはならない
　例：パスワードの何文字かだけを変更し、数字や規則性のある文字を付けて設定するなど。
⑶ 学外サービスでは、本学で使用するパスワードと法則性があるパスワードは推測されやすいため、使用してはならない
　例：複雑なパスワードを部分的に分けて順番を変えて設定するなど。

2. 4. パスワードの変更

これまでは世間一般においてパスワードの定期的な変更が推奨とされてきたが、昨今では、むしろ定期的な変更を行うことでパスワードがパターン化し簡単なものになることが問題とされている。そのため、利用者は、短期間にパスワードの定期的な変更を行う必要はない。ただし、パスワードが漏洩した場合、またはその危険が発生した場合は、直ちに東京電機大学シーサート（TDU-CSIRT）にその旨を報告すると共に、パスワードを変更すること。

利用者は、パスワードの変更を以下のとおり実施すること。
⑴ 利用者は必要に応じてパスワードを変更すること
⑵ 変更後のパスワードは変更前のパスワードと類似のものであってはならない

⑶ 利用者はパスワードを短期間で変更することは不要である
⑷ パスワード漏洩による学内システムの不正利用の恐れがある場合や総合メディアセンターからパスワード変更の指示を受けた場合には速やかにパスワードを変更しなければならない

2. 5. パスワードの管理

利用者は、自己のパスワードを他人に知られたり自分でも忘れたりすることがないよう、以下のとおりパスワードを厳重に管理しなければならない。

⑴ パスワードが記載されたものを他人の目に触れる場所に置いてはならない。特に付箋等でパスワードのメモを端末に貼り付けてはならない。
⑵ ブラウザ等にはパスワードを保存しない。ブラウザ等にパスワードを保存すると、席を離れた時に勝手に利用されたり、不正アクセスを受けた際にブラウザ等から多数のシステムを利用されたりする恐れがある。
⑶ 不注意でパスワードが他人に知られたり入力中に盗み見られたりすることがないよう最大限の注意を払わなければならない。
⑷ 自己のユーザ ID やパスワードを他の者に使用させたり、開示したりしてはならない。
⑸ 他の利用者のユーザ ID やパスワードを使用してはならない。
⑹ 離席時のログオフ、スクリーンのパスワードロック、電源オフ等を行うことで、他人が画面を盗み見たり、操作されたりすることを適切に防止しなくてはならない。
⑺ ノート等にパスワードのメモを作成した場合、メモを他人に盗み見られることやメモの紛失、盗難がないように厳重に管理すること。
⑻ パスワード管理に携帯端末のアプリ等を利用する場合、クラウドサービスとの連携機能は使用せず、スタンドアロン状態での利用を優先すること。クラウドサービスにパスワードの情報を置くことにより、情報の保管箇所が多くなり、その分だけ漏洩する可能性が高くなる。
⑼ パスワードを管理している携帯端末が紛失や盗難にあった場合、遠隔操作により当該携帯端末のロックやワイプ（データ消去）を行う等、情報流出の回避に最大限努めること。

2. 6. パスワード詐取の可能性のある場所での利用の禁止と注意

公共利用の端末やホテル・インターネットカフェなどに設置されているような不特定多数の人が操作（利用）可能な端末で、本学の情報システムへのアクセスのための認証を行ってはならない。端末に残った情報からパスワードが搾取され不正アクセスや情報漏洩に繋がる恐れがある。

また、学外の端末やネットワークから本学の情報システムに認証してアクセスする場合、VPN 接続を行うなど、安全な暗号化通信が行われていることを確認しなければならない。

3. パスワードに関する各種手続き

3. 1. パスワードを失念した場合

利用者がパスワードを失念した場合には、総合メディアセンターに対して所定の様式でパスワードの再発行を申請しなければならない。

パスワードの再発行を受けた場合には、速やかに新しいパスワードに変更すること。変更後のパスワードは変更前のパスワードと類似のものであってはならない。なお、再発行されたパスワードは、再発行してから一定期間経過すると利用できなくなるので、その前に変更すること。

3. 2. パスワードに関するインシデント（事故）が発生した場合

利用者は、パスワードが漏洩し、アカウントを他人に使用された場合、またはその危険が発生した場合は、直ちに東京電機大学シーサート（TDU-CSIRT）にその旨を報告すると共に、パスワードを変更すること。

以　上

[本ガイドラインの発信者：
情報統括責任者、情報セキュリティ最高責任者、総合メディアセンター]

東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン

（位置付け）

本ガイドラインは、学校法人東京電機大学情報戦略ポリシーに基づき、東京電機大学の学生が、コンピュータ、携帯情報端末やネットワークを利用するに当たって遵守すべき事項をまとめたものである。

（一般利用）

1．ネットワークの利用において、やりとりする情報の内容については、本学は基本的に関知せず、利用者が良識を持って判断しなければならない。
2．利用者ＩＤを他人に譲渡または貸与してはならない。また、他の利用者ＩＤを用い、なりすましを行ってはならない。
3．掲示板・ＳＮＳ・Ｗｅｂページなどネットワーク上で学内から意見を表明するときは、関与者の人権やプライバシーを尊重すると共に、知的所有権（著作権、商標権、特許権など）に配慮しなければならない。
4．大学設置の情報資産を本来の目的以外に使ってはならず、特に商業目的に使ってはならない。
5．卒業等により利用資格を失った場合、それまで使用していた利用者ＩＤを使用してはならない。

（電子メールの利用）

1．第三者のプライバシーや知的所有権は十分尊重しなければならない。
2．ネズミ講やマルチ商法・チェーンメールなどに加担してはならない。
3．送信先や転送先のメールアドレスは十分に確認しなければならない。
4．サイズの巨大（一般的に３ＭＢ以上）な添付ファイル付きメールを送信しないこと。大人数に対して大きいサイズの添付ファイル付きメールではなく、別の手段（Box 等）を用いること。
5．添付ファイルにマルウェアが内在する可能性を考慮しなければならない。
6．安全を確保するためには暗号メールを必要に応じ使用することが望ましい。
7．メール中のＵＲＬを不用意にクリックしてはならない。
8．送信元が不確かなメールは送信者へ確認するか無視しなければならない。

（Ｗｅｂサイトへのアクセス）

1．不適切なサイトへのアクセスは行ってはならない。
信頼できないサイトへのアクセスは、取引時のトラブルなどに十分注意しなければならない。
2．信頼できないサイトへ個人情報等の入力は行ってはならない。

3．ＷｅｂブラウザやＯＳのアップデートを常に行い、最新の状態に保たなければならない。
4．サイトで禁止されている行為をしてはならない。
　例えば、電子ジャーナル等のサイトでは機械的なダウンロードは禁止されていることがある。

（ソーシャルメディアの利用・情報の公開）

1．第三者のプライバシーや知的所有権を十分尊重しなければならない。
2．公序良俗に反する情報を発信してはならない。
3．研究内容等を含む発信を行う際は十分注意し、機密が漏洩しないようにしなければならない。
4．公開した情報は多くの人に閲覧されることを想定しなければならない。
5．公開範囲を常に意識しなければならない。
6．完全な匿名性は存在しないことを認識しなければならない。
7．一度公開した内容を完全に削除できないことを認識しなければならない。
8．情報は正確に記述するよう努め、誤解を招かないよう注意しなければならない。
9．サービス登録・利用時には利用規程を確認しなければならない。

（ファイルの扱い）

1．知的所有権（著作権、商標権、特許権など）を犯すなど違法なファイルを取り扱ってはならない。
2．法令により単純所持が禁止されているファイルを自己の意志に基づいて所持してはならない。
3．出所が不明なファイルや内容に確証が持てないファイルをダウンロードしてはならない。
4．大きなサイズのファイルをネットワークでやりとりするときは、他の利用者への影響を考慮しなければならない。

（パソコン、情報機器での注意）

1．ソフトウェアには常にセキュリティパッチを適用し最新の状態を保たなければならない。
2．送信元が不確かなメールに含まれるＷｅｂサイトへのリンクや添付ファイルは開いてはならない。
3．マルウェア対策ソフトウェア（アンチウイルスソフト等）を適時使用しなければならない。対策ソフトウェアは常に最新の状態に保たなければならない。
4．外部から取得した（ダウンロードやメールの添付・メディアでのコピー）ファイルは、マルウェア対策ソフトウェアなどでスキャンしてから使用しなければならない。
5．マルウェアの稼働を確認した場合は速やかに無効化し、無効化出来ない場合コンピュータをネットワークへ接続してはならない。
6．データの改ざんや破損に備え、重要な情報は常にバックアップを行わなければならない。
7．他人の利用者ＩＤを用いてネットワークへ接続してはならない。

（罰則）

このガイドラインに違反する場合、総合メディアセンターの管理するコンピュータやネットワーク利用を停止する場合がある。さらに悪質な場合には学則にのっとり処罰する場合がある。

（注意）

本ガイドラインは時代の変化と共に変更する場合があるので総合メディアセンターからの通達によく注意しておくこと。

［本ガイドラインの発信者：情報統括責任者、総合メディアセンター］

3　理工学部基礎教育センター（CFE）

理工学部基礎教育センター（CFE）は、専門基礎科目群の科目について、その内容とカリキュラム構成の検討を主な仕事としている組織です。また入学前教育やプレースメントテスト実施の責任部署でもあります。このことにより、入学してくる学生の実力を的確に把握した基礎教育が可能となり、その情報を各学系と共有することで、学系の上級年次での授業運営が円滑に進む仕組みになっています。また、学習サポートセンター（SSC）と連携し、そこでの学生の質問や疑問点の情報を基に専門基礎科目の授業の改善を図っています。

理工学部基礎教育センターのメンバーは

・センター長
・数学、物理学、化学、情報、実験、語学の基礎教育に関わる教員
・担当職員（学習サポートセンターの庶務業務も兼ねる）

から成り、定期的に（毎月 1 回）打ち合わせの機会を設けて、基礎教育の場面で起きる様々な問題点を共有し、各学系の先生方とも連携しながら、その迅速な解決を図っています。

理工学部基礎教育センターは、学習サポートセンターの教員室と共通の部屋（12 号館 1 階 127 室）にあります。月曜から金曜の午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分まで担当職員が常駐し、学系の先生方の訪問や質問、学生からの基礎教育への要望などに即座に対応できる体制を整えております。

学生のみなさんが何か疑問を感じたとき、ぜひ遠慮せずに理工学部基礎教育センターを訪れてみてください。私たちはその解決のための方策を見出す努力を惜しみません。

本学の Web サイトに「理工学部基礎教育センター」のページがあります。

【理工学部基礎教育センターの Web ページの URL】

https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/cfe/saitama_hatoyama.html

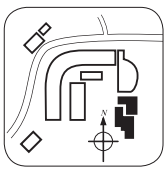
【理工学部基礎教育センターの Web ページのアクセス方法】

本学のトップページ（https://www.dendai.ac.jp）にアクセスし、以下のように辿ってください。

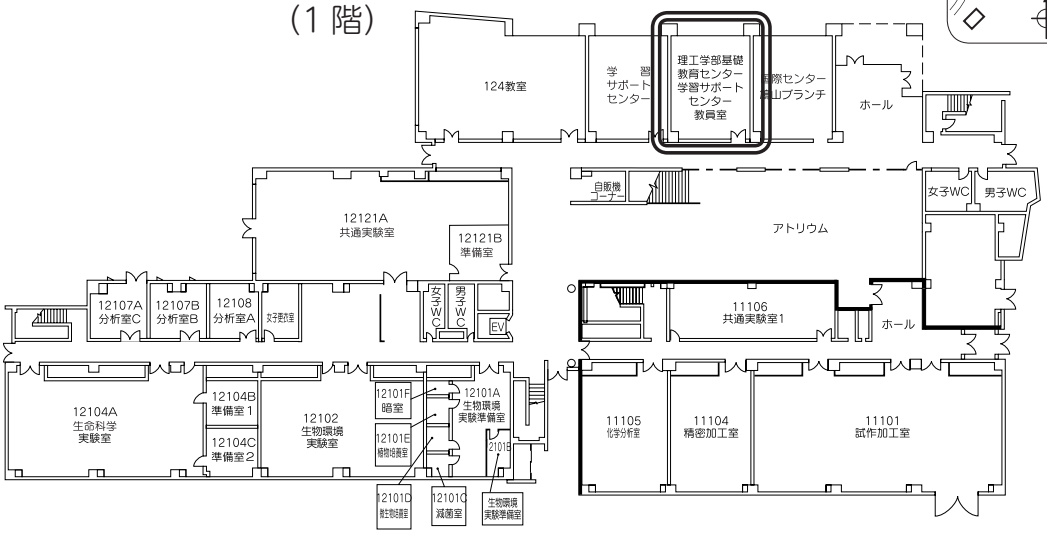
「在学生・保護者の方」→「埼玉鳩山キャンパス在学の方」→「授業・履修・学習支援」→「理工学部基礎教育センター」

11 号館（総合研究所埼玉共同利用施設）・12 号館

全体図



（1 階）



4　理工学部学習サポートセンター（SSC）

みなさんが大学の授業を受ける上では、高校までに学んできた数学、物理学、化学、英語が基礎となり重要になってきます。

学習サポートセンター（SSC）では、上記科目の基礎の復習、見直し、勉強を進める上での相談など学習の支援を行っています。上級学年で学習する科目の理解力（応用力）を高めるとともに、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

基礎科目をもう一度勉強し直したい。勉強方法など相談したい。そう思った時は、気軽に利用してください。

教員構成　　非常勤教員・学習サポートセンター指導員・ティーチングアシスタント（TA）

対象科目　　数学・物理学・化学・英語

実施形態　　個別指導
グループ学習
※ 希望によりどちらも対応

実施場所（受付）　　学習サポートセンター　12 号館 1 階 126 室
基礎教育センター・学習サポートセンター教員室　12 号館 1 階 127 室

開室時間　　12：00 ～ 18：00（授業期間中）
※予約も可能

科目により、開室曜日が異なります。本館 1 階にある学習サポートセンター掲示板のポスターまたは UNIPA を参照してください。

本学の Web サイトに「学習サポートセンター」のページがあります。

【学習サポートセンターの Web ページの URL】

https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/study_support/saitama_hatoyama.html

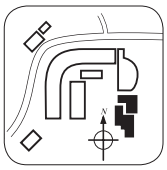
【学習サポートセンターの Web ページのアクセス方法】

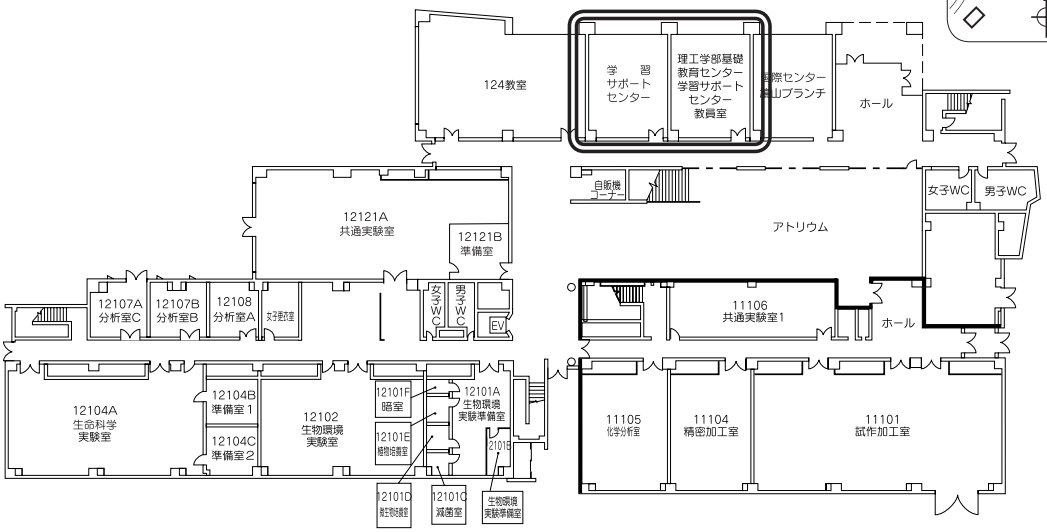
本学のトップページ（https://www.dendai.ac.jp）にアクセスし、以下のように辿ってください。

「在学生・保護者の方」→「埼玉鳩山キャンパス在学の方」→「授業・履修・学習支援」→「学習サポートセンター」

11 号館（総合研究所埼玉共同利用施設）・12 号館

全体図





第 11 章
就職・進学

1　キャリア支援・就職

はじめに

経済や技術進歩の動きは日本の中だけで解決できる問題ではなく、世界を相手にする時代になっています。実感がないかもしれませんが、今は社会に出てグローバルに活躍する時です。大学生活の中で何を学び、何を経験していくかは、皆さんの将来にとって非常に大切な事です。

理工学部事務部（学生厚生・就職担当）は、入学から卒業まで全面的に支援していきますので、皆さんには充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

大学の環境・施設をフルに活用し、疑問・質問が生じた場合は遠慮なく、先生方や理工学部事務部（学生厚生・就職担当）に相談してください。

目標のある生活

大学生活を始めるにあたって、大学に進学した理由や学部、学系を選択したきっかけをもう一度自分なりに振り返ってみましょう。大学入学という目標を達成し気が抜けてしまった人もいるかもしれませんが、ここで次の目標をたててみましょう。目標にチャレンジする・何か趣味に熱中する・友人と沢山遊ぶ…　今しかできないことを楽しんで経験することは、「人生」という大きな流れにおいて非常に大切な事です。

キャリアを考える

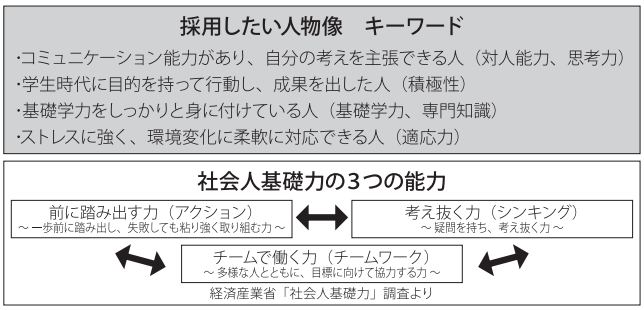
キャリア career とは「経歴」「職業」の意で「人生」をもさす言葉です。キャリアは社会へ出たあと、会社で異動があるとき、新しい道へ進むときなどに深く考える事になります。

将来の自分は「どんな人になっていたいか」を思い描き、それに近づくための方法を考えてみましょう。目標に向けて今をどう過ごし、何をしておくべきかをしっかりと考えることが大切です。皆さんの今後のステップとして、まず１・２年のうちから今後の「人生」を考え、３・４年で専門性を身につけていくことが挙げられます。

また、キャリアアドバイザー、ジョブサポーターなどの相談員からのアドバイスを適宜受けることができます（予約優先）。

大学生活のヒント

ここで少し就職について考えてみましょう。企業は「採用したい人物像」として以下の内容を挙げています。これらは大学でやっておくべきことのヒントとなります。



身につけよう！

今後の人生で直面する問題には**「一つの決まった答え」**というものはありません。

社会では、**「自分で考え、行動を起こす能力」**が求められています。

この限られた４年間を通して、卒業後の進路やその後の長い人生のために「大切なもの」を探し、身につけて行きましょう。

セルフチェックシート

それぞれの年次の目標とガイドを掲げます。
できた項目の□にチェックを入れよう。

Freshman 1年目

自己発見

充実した学生生活を送る

□入学後の目標を立てる
□将来の目標も考える
□将来に向けて学生生活を設計する
□キャリア支援関連の科目を履修する
□キャリア・ヒューマン教育を受ける
□読書・文章を書く習慣を身につける
□クラブ、課外活動に参加する
□新しい仲間を作る

充実した学生生活をおくるためにフレッシュマンゼミに参加しよう
大学生としてのスキル獲得に向けてキャリア・ヒューマン教育を受けよう

Sophomore 2年目

自分磨き

社会と自分の関係を考える

□興味を掘り下げ得意科目をつくる
□研究したいことを見つける
□将来就きたい職業を考える
□キャリア・ヒューマン教育を受け、問題解決能力を伸ばす
□英語力をつける
□幅広い教養を身につける
□アルバイトで社会経験を積む
□社会奉仕活動（ボランティア）に参加する

思考力強化のためにキャリア・ヒューマン教育に参加しよう

取っておくと役立つ資格、目標としたい検定試験例

電気･通信

電気工事士／電気主任技術者／電気通信主任技術者／電気工事施工管理技士／工事担当者／家電製品エンジニア／無線従事者（陸上特殊無線技士・海上特殊無線技士など）／ラジオ・音響技能検定

情　報

パーソナルコンピュータ利用技術認定／ＩＴパスポート／ＩＴストラテジスト／基本情報技術者／応用情報技術者／データベーススペシャリスト／システム監査技術者／ＩＴサービスマネージャ／情報処理安全確保支援士／プロジェクトマネージャー／システムアーキテクト／ネットワークスペシャリスト／エンベデッドシステムスペシャリスト／ORACLE MASTER ／ MCP／ MOT ／ CCNA ／ Java 認定資格／CompTIA ／CIW ／ MOS

4年間の設計図を描いていこう！

大学院進学
より高度な研究者をめざして

Junior 3年目

社会への跳躍
コミュニケーション能力をつける

□就職支援行事に積極的に参加する
□キャリア・ヒューマン教育を受け、コミュニケーション能力や論理思考力、プレゼンテーション能力を磨く
□インターンシップに参加する
□卒業研究について考える
□将来の目標となる社会人像を定める
□特技や得意分野をさらに広める
□主体的に計画や実験に関わり成果を出す
□新聞を読む習慣をつける
□文章による表現能力を磨く

就職活動が本格化。3年の前期からキャリア・就職ガイダンスに参加しよう。社会で役立つ力を身に付ける講座に参加しよう。

Senior 4年目

夢の実現へ
4年間の集大成

□武器となる工学の専門知識を持つ
□キャリア・ヒューマン教育で中心となり、グループワークを進める
□具体的なキャリアプランを立てる
□誰にも負けないスキルを持つ
□次世代技術についての知識を深める
□プレゼンテーションスキルを向上させる
□研究で成果をあげる（積極的に学会等での発表をしよう）
□社会人としての知識やマナーを身につける

進路が決まった。
さぁ、卒業まで最後の追い込みだ！

進路決定！ビジネスマナーやスキルを身につけ社会に出るための準備をしよう

機械・デザイン

自動車整備士／航空整備士／機械設計技術者／ガス溶接作業主任者／画像処理エンジニア検定／消防整備士／冷凍空調技士／ CAD 利用技術者／ CAD トレース技能審査／ DTP エキスパート／マルチメディア検定／ CG エンジニア検定

建築・土木

建築士／土木施工管理技術士／管工事施工管理技術士／測量士（補）／設備士／インテリアコーディネーター／インテリアプランナー／福祉住環境コーディネーター検定／宅地建物取引主任者／土地家屋調査士

その他

技術士（補）／ FE ／ EIT ／ PE ／危険物取扱者／ボイラー技士／公害防止管理者／エックス線作業主任者／エネルギー管理士／ TOEIC ／ TOEFL ／工業英語検定

キャリア支援のおもなスケジュール

種類	行事名称	開催時期
キャリア・就職ガイダンス	進路ガイダンス	3月
	大学院進学ガイダンス	6月
	就職ガイダンス	9・12月
業種・職種研究	業種職種研究セミナー	9月～10月
	卒業生による仕事研究セミナー	12月
	学内企業説明会	3月～
各種講習会及び模試	自己分析	4・5・10・1月
	マナー対策	11・1月
	履歴書・エントリーシート対策	5・10・1月
	面接試験対策	複数回(4月～1月)
	筆記試験対策	複数回 (5月～1月)
進路希望調査	進路希望登録	11・12月
全学年対象	キャリア・ヒューマン教育	通年
インターンシップ対策	インターンシップガイダンス	3月～9月
Uターン希望者対象	Uターンガイダンス	6・11月
外国人留学生対象	就活対策ガイダンス	7・12月
学校教員希望者対象	教員採用説明会	随時
公務員希望者対象	公務員ガイダンス	複数回 (5月～12月)
資格支援	1・2級建築士講座	半期
資格支援	1・2級建築施工管理技師講座	半期
資格支援	MOS講座	随時
基礎力アップ	学内TOEIC試験	年5回
社会参加	インターンシップ	随時

注　◆支援行事には有料のものや事前申込が必要なものもあります。詳しい開催案内は掲示やUNIPA、本学HPで確認してください。
◆支援行事は追加や変更となる場合があります。又、開催時期は目安としてください。

【公務員】

公務員は、国または地方公共団体で公務を扱う国家公務員と地方公務員の大きく二つに分けられます。その中でも行政職、技術職など幅広い職務内容があり、公務員として採用されるには、公務員試験に合格しなければなりません。原則として、一次試験では「筆記試験」、二次試験では「人物試験」が行われます。

試験内容は「教養試験」と「専門試験」があり、「教養試験」では知能分野（数的処理、文章理解）と知識分野（自然科学、社会科学、人文科学）から出題されます。「専門試験」の【技術職】では、必修科目（数学・物理）と希望の分野により「選択解答制」（電気・電子・情報、機械、土木、建築、化学）となり、【行政職】では法律系、経済系、事情系から出題されます。どちらの試験も出題範囲や出題数が多く、早いうちから対策が必要です。試験日程や内容については人事院や各自治体ホームページで公開されていますので、公務員志望者は早めに情報を確認するようにしてください。

本学では公務員志望者を対象とする公務員試験対策講座等を実施しています。各自が十分な学習や対策を講じるとともに、これらの講座に積極的に参加して実力を養うことを心がけてください。

【学校教員】

教員採用試験では、公立・私立共に、教科の専門的知識が十分にあり、幅広い教養や豊かな人間性、倫理観が備わり、教育に対する情熱と使命感をもった健康で明るい人物が求められています。

公立学校の教員採用試験は、教職教養、一般教養、専門科目、集団面接、個人面接、集団討論、論文試験、実技試験、適性検査、場面指導、模擬授業などで構成されています。その内容・形式は、都道府県ごとに異なりますので、ホームページや過去の問題などを調べ、対策を練ることが必要になります。また、多くの自治体で大学生向けの教師塾や講座などが開催されています。各種ボランティア活動も行われています。それらに積極的に参加することを勧めます。

私立学校の採用試験では、学校ごとに内容が異なります。日本私学教育研究所のホームページに全国各地の私立学校の教員募集情報が掲載されています。また、都道府県の私学協会のホームページにも私学教員適性検査、私学教職員志望者履歴書依託・預かり・登録等の制度、私学教職員採用情報などが掲載されています。それらを参考にして情報を収集してください。

近年、セカンドキャリアや 40 歳以上の教員採用も行われるようになりました。将来を見据えて、教員免許状の取得を考えてください。

【理工系なのに英語って必要？】

TOEIC スコアを社員採用時に参考にしている企業は 7 割以上、技術系の社員に期待するスコアは平均で 500 ～ 700 点という調査があります。企業では理工系の大学出身にも『英語力』を期待していますので、在学中にできるだけ身につけておくことが大切です。そのためには定期的なレベルチェックが欠かせません。学内の TOEIC 試験は公開テストの半額以下で受験が可能です。定期的に試験を受けて、卒業までに 600 点レベルを目標に学習計画を立てて取り組んでください。

埼玉鳩山キャンパス就職資料室

埼玉鳩山キャンパス就職資料室は本館 1 階事務室内にあり、求人票、会社資料等が閲覧できます。個々の会社案内等の資料は、本学に求人の依頼があった企業のものが主体ですが、参考資料その他も取り揃えてあります。

開室時間　月～土　9：10 ～ 17：30
（休憩時間 11：30 ～ 12：30）

東京千住キャンパス就職資料室

東京電機大学東京千住キャンパスにある就職担当部署の学生支援センターを利用することも可能です。埼玉鳩山キャンパスと同じ就職関連資料の閲覧することができます。就職活動で都内に行った際は、学生支援センターに立ち寄ってみましょう。

開室時間　月～金　8：50 ～ 20：00
（休憩時間　13：40 ～ 14：40）
土　8：50 ～ 17：00
（休憩時間　13：10 ～ 14：10）

2　大学院への進学

近年、高度な専門知識や自発的に課題を探求・設定し、検証・解決する能力に長けた大学院生の社会的需要が高まってきています。国際社会において能力を発揮できる人材を育成するため、海外の研究者と交流し、世界の最新動向を肌で感じてもらえるよう、海外の学会や国際会議にも積極的に大学院生を派遣しています。本学大学院は次代の科学技術をリードできる高度の専門技術者・研究者の養成を目指します。

なお、大学院理工学研究科には、下表に示す修士課程 6 専攻を設置しています。修士課程修了後は、先端科学技術研究科博士課程（後期）への選択肢も用意しています。

研究科名	専攻名	部門名
理工学研究科	理学専攻	数理科学部門
		物質科学部門
	生命理工学専攻	生命科学部門
		生物環境部門
	情報学専攻	情報システム部門
		情報デザイン部門
	機械工学専攻	機械工学部門
	電子工学専攻	電子工学部門
	建築・都市環境学専攻	建築・都市環境学部門

修士課程の入学試験は、学内推薦入試（5 月頃・9 月頃）・一般入試（6 月頃・2 月頃）・早期卒業入試（9 月頃・3 月頃）等が行われます。

また、奨学金制度などによって、経済的な側面からも研究活動を支援しています。

大学院での研究などの詳細については、各専攻や理工学部事務部が主催するガイダンスにて案内します。ガイダンス詳細は、UNIPA にて周知しますので確認の上参加してください。

3　科目等履修生

卒業してから、特定分野につきさらに勉強したい、教育職員免許状を取得したい、あるいは職務上の理由から単位が必要なときなどは、本学部の科目等履修生として履修することができます。

詳細は別掲の「科目等履修生規程」を参照してください。

第 12 章
学則及び諸規程

※最新の情報は本学 HP にてご確認ください。

1　東京電機大学学則

第1章　総　則

第1条（目的・使命）本大学は、建学の精神「実学尊重」並びに教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道徳的能力を展開させ、もって技術で社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

2　本大学は、第３条第１項に定める学部及び学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部の学部規則に定める。

第2条（自己評価等）本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2　前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3　本大学は、第１項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章　組　織

第3条（学部・学科の組織）本大学に、次の学部及び学科を置く。

工学部
- 電気電子工学科
- 電子システム工学科
- 応用化学科
- 機械工学科
- 先端機械工学科
- 情報通信工学科

工学部第二部
- 電気電子工学科
- 機械工学科
- 情報通信工学科

理工学部
- 理工学科

未来科学部
建築学科
情報メディア学科
ロボット・メカトロニクス学科
システムデザイン工学部
情報システム工学科
デザイン工学科

2　前項の各学科の入学定員及び収容定員は、別表第１とする。

3　第１項に定める各学部に学部規則を定める。

4　前項の学部規則に、次の事項を定める。

（１）学部・学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

（２）学年・学期に関する事項

（３）教育課程及び単位に関する事項

（４）成績及び卒業に関する事項

（５）その他、大学則施行上の必要事項

第４条（大学院）本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

第５条（総合メディアセンター・研究推進社会連携センター等）本大学に、総合メディアセンターを置く。

2　本大学に、研究推進社会連携センターを置く。

（１）研究推進社会連携センターに総合研究所を置く。

3　本大学に、国際センターを置く。

4　本大学に、ものづくりセンターを置く。

5　前４項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第３章　運営の機関及び教職員

第６条（学長・副学長・学部長等）本大学に、学長を置く。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出に関する規則は、別に定める。

2　本大学に、副学長を置くことができる。副学長は学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

3　副学長に関する規則は、別に定める。

4　各学部に、学部長を置く。学部長は当該学部に関する校務をつかさどる。

5　前４項のほか、教育・研究の運営上必要な職を置く。

第７条（職員）教育職員として、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

2　事務職員、技術職員及び必要な職員を置く。

第８条（大学評議会）大学に、大学評議会（以下、「評議会」という。）を置く。

2　評議会は、学長、理事若干名、副学長、学部長、研究科委員長、その他学長が必要と認めた者をもって組織する。

3　評議会は、学長が招集する。
4　評議会の運営その他は別に定める。

第９条（学部教授会）各学部に、教授会を置く。
2　教授会は、その学部の教授をもって組織する。ただし、必要があるときは、その学部の准教授及び専任の講師を、教授会構成員とすることができる。
3　教授会は、学部長が招集する。

第 10 条（連合・合同教授会）工学部及び工学部第二部については、その連合教授会を開くことができる。
2　学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。
3　教授会は、学長に全学部の合同教授会の開催を要請することができる。

第 11 条（教授会の役割、審議事項）教授会は、次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、学長が決定するに当たり意見を述べるものとする。
（1）学生の入学・卒業に関する事項
（2）学位授与に関する事項
（3）前２号の他、大学に関する重要事項で、その学部の教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
2　前項第３号の学長が教授会に意見を聴くと定める事項は、別に定める。
3　教授会は、第１項の他、学長及び学部長がつかさどる大学等に関する次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、意見を述べることができる。
（1）学生の進級・休学・退学等に関する事項
（2）教育課程及び授業に関する事項
（3）履修・試験・成績等に関する事項
（4）学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
（5）学部規則の改正に関する事項
（6）学部長候補者の推挙に関する事項
（7）学科長等及び系列主任等の選定に関する事項
（8）人事のうち教員の教育研究等の業績審査に関する事項
（9）その他大学に関する事項
4　教授会は、大学校務全般にわたる若しくは各学部に共通する次の事項について審議し、意見を述べることができる。ただし、必要があるときは、全学部の合同教授会においてこれを行う。
（1）大学則の改正に関する事項
（2）学長室長、学長補佐、教育改善推進室長、入試センター長、学生支援センター長、国際センター長、研究推進社会連携センター長、ものづくりセンター長及び総合メディアセンター長の選定に関する事項
（3）その他の重要な事項
5　教授会は、前４項の他、学長及び学部長が諮問した事項を審議する。
6　学長は、別に定める事項で通常の教育研究に関する教授会における審議結果を追認することにより、決定することができる。

第４章　修学期間及び授業

第 12 条（修業年限）修業年限は、４年とする。

第 13 条（最長在学年限） 最長在学年限は、８年とする。ただし、編入学、転入学及び再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の２倍に相当する年数とする。

第 14 条（学年・学期・授業期間）学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終る。

２　学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各学部において定める。

３　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

４　各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

第 15 条（休業日）休業日は、次の通りとする。

日曜日
国民の祝日に関する法律に規定する休日
創立記念日　９月 11 日
夏季休業
冬季休業
春季休業

２　夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各学部においてその都度定める。

３　必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

４　休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

第 16 条（授業の時）工学部、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第５章　教育課程及び単位

第 17 条（教育課程の編成方針）本大学においては、学部及び学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

２　教育課程の編成に当たっては、当該学部及び学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

３　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

４　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

第 18 条（授業科目）授業科目については、各学部規則において定める。

２　各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。

３　共通教育科目として、特定の主題について２以上の科学の分野にわたる内容を総合した科

目を設けることができる。

第 19 条（履修の要件）履修の要件については、各学部規則において定める。

2　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1 年間または 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部において定めるものとする。

3　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、各学部において定めるものとする。

第 20 条（他学部等の科目履修）本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項により修得したものとみなすことのできる科目及び単位数等は、各学部において定めるものとする。

第 21 条（教員の免許状授与の所要の資格の取得）教育職員の免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。

2　本大学において取得できる免許状の種類は別表第 2 とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は各学部規則において定める。

第 22 条（単位の算定基準）各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。

2　授業科目の単位数の算定に当たっては、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位数を計算するものとする。

（1）講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。

（2）実験、実習、製図及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。

3　文部科学大臣が別に定めるところによって、前項に規定する講義、演習等の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。また同様の手段により、授業を外国において履修させることができる。

4　第 2 項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第 6 章　試験、成績、進級、卒業及び学位授与

第 23 条（履修届）学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

第 24 条（試験）授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。ただし、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

第 25 条（試験の方法・時期）試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。

2　試験の時期は、学期末とする。ただし、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

第 26 条（受験資格）学生は、本学則及びこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

第 27 条（成績評価・単位認定）授業科目の成績評価は、S、A、B、C及びDとし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。

2　試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

3　本学は、第 1 項に係る成績評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行なうものとする。

第 28 条（他の大学等における授業科目の履修等）本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合及び外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 29 条（大学以外の教育施設等における学修）本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本大学において修得したものとしてみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 30 条（入学前の既修得単位等の認定）本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前 2 項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第 1 項及び第 2 項並びに前条第 1 項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 31 条（進級）本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

2　前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

第 32 条（卒業）本大学は、4 年以上在学し、学生が所属する学部における履修要件を満たした者を卒業と認定する。

2　本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として 3 年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。）で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

第 33 条（学位の授与）本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

2　前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工学部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	電子システム工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	応用化学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	先端機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
工学部第二部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
理工学部	理工学科	学士（理学）（東京電機大学）
		学士（工学）（東京電機大学）
		学士（情報学）（東京電機大学）
未来科学部	建築学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報メディア学科	学士（工学）（東京電機大学）
	ロボット・メカトロニクス学科	学士（工学）（東京電機大学）
システムデザイン工学部		
	情報システム工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	デザイン工学科	学士（工学）（東京電機大学）

第 7 章　入学、学籍の異動及び賞罰

第 34 条（入学の時期）入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

第 35 条（入学資格）本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

（1）高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者

（2）外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者

（3）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（4）専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

（5）文部科学大臣の指定した者

（6）高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

（7）本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達した者

（8）その他、学校教育法及び同施行規則の規定により入学資格を有する者

第 36 条（入学志願手続）入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければならない。

第 37 条（入学者の選考）本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

2　入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

第 38 条　（入学手続）入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必要な書類に、別表第３に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

第 39 条（保証人）学生は、在学中、保証人がなければならない。

2　保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。

3　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

第 40 条（変更の届）学生は、氏名、本籍、住所及び保証人もしくはその住所に変更があったときは、すみやかに届出なければならない。

第 41 条（編入学・転入学）次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

（1）大学を卒業した者

（2）短期大学を卒業した者

（3）高等専門学校を卒業した者

（4）他の大学で１年以上を修了した者

（5）その他、学校教育法及び同施行規則の規定により編入学資格を有する者

2　他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

3　前２項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。

4　本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。

第 42 条（転学部・転学科）本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

2　転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

第 43 条（休学）傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き３ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

第 44 条（休学期間）休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。ただし、特別の事情があると認めたときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

2　休学期間は、通算して３年をこえることができない。

3　休学期間は在学年数に算入しない。

4　工学部、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部においては、休学者は学期ごとに 60,000 円の在籍料を納入する。工学部第二部においては、休学者は学期ごとに 30,000 円の在籍料を納入する。

第 45 条（復学）休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出て、学部長の許可を受けて、復学することができる。

2　復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

第 46 条（退学）傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

第 47 条（除籍）次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

（1）最長在学年数をこえた者

（2）工学部、工学部第二部、未来科学部及びシステムデザイン工学部においては、同一学年に通算して４年の在学をこえてなお進級できない者。また、理工学部においては、同一学年に通算して４年の在学をこえてなお進級・卒業できない者

（3）学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者

（4）第 44 条第２項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者

（5）正当な理由がなく、無届で、ひき続き３ヶ月以上欠席した者

（6）工学部、理工学部、工学部第二部、未来科学部及びシステムデザイン工学部において、前期分学費を７月末日までに、後期分学費を１月末日までに納入しない者

第 48 条（再入学）本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は、許可しない。

第 49 条（留学）本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2　留学期間は１年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、１年未満であっても特別に留学を認めることができる。

3　前項により認められた留学期間については、１年を限度として第 12 条に定める修業年数に算入することができる。

4　留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

第 50 条（表彰）学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

第 51 条（懲戒）本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2　懲戒の種類は、その情状により、退学、停学及び訓告とする。

3　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行なう。

（1）性行不良で改善の見込みがない者

（2）本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分にいちじるしく反した者

第８章　学費及びその他の費用

第 52 条（学費及びその他の費用）入学検定料、学費及び科目等履修費は、別表第３とする。

2　学費とは、入学金及び授業料をいう。

3　学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。

4　すでに納入した学費及びその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。
5　授業料は分納することができる。

第９章　研究生、研究員、科目等履修生及び外国人留学生

第 53 条（研究生・研究員）本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。
2　本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。
第 54 条（科目等履修生）本大学の学生以外の者で、本大学で開設している１または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。
2　科目等履修生については、別に定める。
第 55 条（外国人留学生）外国人で第 35 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。
2　外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。
3　外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。
第 56 条（社会人特別学生）社会人で第 35 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。
2　社会人特別学生は、企業依託学生及び工学部第二部社会人課程学生とする。
3　社会人特別学生についての事項は、別に定める。
第 57 条（準用）前３条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生及び社会人特別学生に準用する。

第 10 章　改正及び雑則

第 58 条（改正）本学則の改正は、第 11 条第４項に定める教授会の意見を聴取し、評議会の議を経なければならない。
第 59 条（施行細則その他）本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

附　　則（省略）
別　　表（省略）

2　東京電機大学理工学部規則

第1章　総　　則

第1条（趣旨）この規則は、東京電機大学学則（以下「大学則」という。）第3条第3項に基づき、理工学部（以下「本学部」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程及び単位、成績及び卒業その他大学則施行上必要な事項を定める。

第2条（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）本学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次のとおりとする。

（1）人材の養成に関する目的

高度に発展を続ける将来の科学技術分野では、科学技術者自身が社会的ニーズを的確に捉え自立した発想のもとに企画・開発していくことが望まれる。そのような科学技術者を「未来型科学技術者」として、その養成を目的とする。また、未来型科学技術者は同時に社会に立脚し、リーダーとしての魅力が望まれる。人間性および教養の豊かな研究者・技術者および学校教員の育成をも目的とする。

（2）教育研究上の目的

基礎分野としての理学と応用分野としての工学・情報学を基盤として学系およびコースを構成し、それらよりなる複合分野の教育研究を推進することを目的とする。

2　本学部の理工学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、前項と同様とし、理工学科の各学系においては、次のとおりとする。

（1）理学系

①　人材の養成に関する目的

理学系では、数理学及び自然科学における基本理論及び基本法則を身につけた、問題を本質的に捉えて解決できる応用力の高い理学分野の専門家を養成します。また、理学分野としての学校教員の育成をも目的とする。

②　教育研究上の目的

理学系では、数学及び自然科学を共通の基礎とし、演習や実験を行いながら理学の専門分野として、数学、物理学、化学及び数理情報学の四つの専門分野の教育を行います。また、自然の仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現、体系化することによって発展してきた近代の自然科学の諸分野を研究する。

（2）生命科学系

①　人材の養成に関する目的

生命科学系では、生物が持つ高度な機能の本質を解明し理解すると同時に、それら機能の制御や活用を目指した教育と研究を通して、生命科学に関連する様々な課題に取り組む能力を備えた人材を養成する。

②　教育研究上の目的

生命科学系では、専門知識や技術を体系的に習得するとともに、学際領域を視野に入

れた応用力や正しい倫理観を養うことにより、今後直面する生命科学分野の諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行う。

（3）情報システムデザイン学系

① 人材の養成に関する目的

情報システムデザイン学系では、複雑化・高度化する社会環境において、高度な情報システム技術を駆使できると同時に、幅広い視野から自律的に分析・判断・企画・行動できる実践力とコミュニケーション能力を備えた次世代型スペシャリストを養成する。

② 教育研究上の目的

情報システムデザイン学系では、情報、ネットワーク、コンピュータに関わる知識・技術を基盤として人間、社会システムから、文化、芸術、アミューズメントにいたるまで文理複合的視点から幅広い分野の教育研究を行う。

（4）機械工学系

① 人材の養成に関する目的

機械工学系では、機械工学の基礎となる（四つの）力学を身につけることに重点を置き、さらに、新しいものづくり技術に興味を抱き、環境にも配慮できる教養を備え、基幹産業を支える気概のある技術者の育成を目指す。

② 教育研究上の目的

我が国の産業の発展は、自動車、鉄道、航空機、造船など機械工学の発展とともにあったと言っても過言ではありません。産業分野の拡大と多様化に伴って、教育、研究分野も変化を遂げつつありますが、機械工学が直面する難題に粘り強く取り組むことのできる技術者の育成を目指す。

（5）電子情報・生体医工学系

① 人材の養成に関する目的

電子情報・生体医工学系では、技術者として豊かな人間性と電気電子工学の知識と技術を有し、電子機器、医療機器、福祉機器、材料・デバイスなどの電子システムものづくりを通して、未来の人間社会に貢献できる技術者を養成する。

② 教育研究上の目的

電子情報・生体医工学系では、電気電子工学を基礎として、社会のニーズに応じた新しいものづくりや、起こりうる社会問題に対して、人間や環境に配慮した解決方法を見いだす能力を、教育研究を通じて養う。

（6）建築・都市環境学系

① 人材の養成に関する目的

建築・都市環境学系では、人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、社会基盤の創造と保全に寄与でき、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の養成を目的とする。

② 教育研究上の目的

建築･都市環境学系では、教育研究を通じて、社会が直面する諸問題を多面的に考察･評価し、解決方法を論理的に導きだす能力を培う。

第２章　学年及び学期

第３条（学年・学期）学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終る。

２　学年を次の２つの学期に分ける。

前学期　４月１日から９月４日まで

後学期　９月５日から翌年３月 31 日まで

第３章　教育課程及び単位

第４条（授業科目）授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目及び教職課程に関する科目とし、別表第１のとおり開講する。

第５条（履修の要件）本学部における履修の要件については、別表第２のとおりとする。

第６条（履修単位の制限）本学部では、１年間に履修できる単位数を 44 単位までとする。ただし、自由科目及び学部で指定した科目は、履修できる単位数の上限に含まない。

２　所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、前項に定める上限を超えて、科目を履修することができる。履修方法は別に定める。

第７条（教員の免許状授与の所要の資格の取得）本学部において取得できる免許状の種類は大学則別表第２とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は別表第３とする。

第４章　成績及び卒業

第８条（成績評価・単位認定）本学部は大学則第 27 条に基づき、科目の成績評価を行う。

２　本学部における、成績評価及び GPA（Grade Point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPA ポイント
90 ～ 100	S	4
80 ～ 89	A	3
70 ～ 79	B	2
60 ～ 69	C	1
0 ～ 59	D	0
放棄	−	0

第９条（卒業）本学部は、４年以上在学し、第５条別表第２に規定する履修の要件に従い、合計 124 単位以上を修得した者を卒業と認定する。

２　本学部は、大学則第 32 条第２項に定める卒業の基準を別に定める。

第 10 条（退学勧告等）学系長は、本学部が定める基準を満たさない者で、学修意欲が継続して欠如していると判断した場合、口頭にて教育的指導を行うとともに、退学予備勧告を行

うことができる。
2　学部長は、退学予備勧告を受けた者が、本学部が定める基準をさらに満たさず、学修意欲が認められないと判断した場合、教授会の議を経て、退学を勧告することができる。
3　前各項の基準は、別に定める。

第5章　改正

第 11 条（改正）この規則の改正は、本学部教授会の議を経なければならない。

付　　則（省略）
別　　表（省略）

3　東京電機大学学位規程

第1章　総　　則

第1条（目的）本学学位規程は、本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条（学位の種類等）本学において授与する学位は、博士、修士及び学士であり、それに付記する専攻分野は次のとおりとする。

博士（工学）	博士（理学）
博士（情報学）	
修士（工学）	修士（理学）
修士（情報学）	
学士（工学）	学士（理学）
学士（情報環境学）	学士（情報学）

第3条（学位の授与の要件）博士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、博士課程（後期）を修了した者に授与する。

2　前項に規定する者のほか、本学大学院学則第23条第2項により博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査及び学力の確認に合格し、かつ、人物学力とも本学大学院の博士課程（後期）に所定期間在学し所定の専攻科目について所定単位以上を修得した者と同等以上と認められた者に授与することができる。

3　修士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、修士課程を修了した者に授与する。

4　学士の学位は本学大学学則の定めるところにより、本大学を卒業した者に授与する。

第2章　学位の授与

第4条（学位の授与）前条における大学院の修士課程及び博士課程（後期）の修了者については、本学大学院学則第23条第1項の定めるところにより、また本大学の卒業者については、本学大学学則第32条第1項の定めるところにより、それぞれ学位を授与する。

第5条（論文提出による学位の授与）第3条第2項により、博士の学位論文を提出した者については本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところにより審査の上、学位を授与することができる。

第6条（課程の修了及び論文の審査の議決）研究科委員会は、第3条第1項及び第3項による者については本学大学院学則の定めるところにより、それぞれ課程の修了の可否を議決する。

2　前項の研究科委員会は、会員総数（長期海外出張者及び休職者を除く）の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

3　第1項の議決は出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

4　第3条第2項によるものについては本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程

の定めるところに従って決する。

第７条（学長への報告）研究科委員会が前条の議決をしたときは、当該研究科委員会の委員長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

２　学部教授会が卒業を認定したときは、当該学部長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

第８条（学位記の交付）学長は、前条の報告に基づいてそれぞれ学位記を授与するものとする。

第３章　論文の公表、学位の名称の使用

第９条（論文要旨等の公表）本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から３月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第 10 条（学位論文の公表）博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位の授与を受けた日から１年以内にその論文全文を公表するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに公表したときはこの限りでない。

２　前項にかかわらず、博士の学位の授与を受けた者は、やむをえない事由がある場合には、研究科委員会の承認を受け、その論文全文に代えて要約したものを公表することができる。この場合、研究科はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

３　博士の学位を授与された者が行う前２項の規定による公表は、本学総合メディアセンターの協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

第 11 条（学位の名称の使用）学位の授与を受けた者は、学位の名称を用いるときは、当該学位を授与した本学名を、博士（工学）（東京電機大学）、博士（理学）（東京電機大学）、博士（情報学）（東京電機大学）、修士（工学）（東京電機大学）、修士（理学）（東京電機大学）、修士（情報学）（東京電機大学）、学士（工学）（東京電機大学）、学士（理学）（東京電機大学）、学士（情報環境学）（東京電機大学）、学士（情報学）（東京電機大学）のように付記するものとする。

２　学位記の様式は、別表第１から別表第４のとおりとする。

３　外国人留学生に対し、本人からの申請に基づき、別表第１から別表第４の学位記に代えて、別表第５の様式で英語版学位記を交付する。

第４章　学位授与の取消、学位記の再交付、学位授与の報告

第 12 条（学位授与の取消）学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該研究科委員会又は当該学部教授会の議を経て学位の授与を取消すことができる。

第 13 条（学位記の再交付）学位記（英語版も含む）の再交付は行わない。

第 14 条（学位授与等の報告）本学において博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の

学位を授与した日から３月以内に所定の様式により、文部科学大臣に報告するものとする。

２　本規程一部改正等を行ったとき、文部科学大臣に報告するものとする。

付　　則（省略）

別表第１（学部の課程を修了した場合）

学位記

氏名

年月日生

本学　学部　学科（　学系）の所定の単位を修得しその課程を修めたことを認める

東京電機大学　学部長　印

本学　学部長の認定により学士（　）の学位を授与する

年　月　日

東京電機大学長　印

工又は理工又は情報環境又は未来科学又はシステムデザイン工第　号

注：学位記に明記する学部名は、工学部、工学部第二部、理工学部、情報環境学部、未来科学部、システムデザイン工学部とする。

別表第２（大学院修士課程を修了した場合）

学位記

氏名

年月日生

本学大学院　研究科　専攻の修士課程において所定の単位を修得しかつ必要な研究指導を受け学位論文の審査および最終試験に合格したことを認める

東京電機大学大学院　研究科

委員長　印

本学大学院　研究科委員長の認定により修士（　）の学位を授与する

年　月　日

東京電機大学長　印

工又は理工又は未来科学又はシステムデザイン工第　号

別表第３（大学院博士課程（後期）を修了した場合）

学位記

氏名

年月日生

本学大学院先端科学技術研究科　専攻の博士課程（後期）において所定の単位を修得しかつ必要な研究指導を受け学位論文の審査および最終試験に合格したことを認める

東京電機大学大学院先端科学技術研究科

委員長　印

本学大学院先端科学技術研究科委員長の認定により博士（　）の学位を授与する

年　月　日

東京電機大学長　印

先端科学技術　甲第　号

別表第４（論文提出による場合）

学位記

氏名

年月日生

論文名

本大学に右の学位論文を提出し所定の審査および学力の検定に合格したことを認める

東京電機大学大学院先端科学技術研究科

委員長　印

本学大学院先端科学技術研究科委員長の認定により博士（　）の学位を授与する

年　月　日

東京電機大学長　印

先端科学技術　乙第　号

4　試験に関する細則

第１条（目的）本細則は、大学及び大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

第２条（試験の種類）試験は学期末試験、中間試験、追試験とする。

２　学期末試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末又は学年末に履修終了の認定のために行う試験をいう。

３　中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。

４　追試験は急病等真にやむを得ない事情により、学期末試験又は中間試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。

５　第１項に定めるほか再試験を加えることができる。

第３条（再試験）再試験は前条第２項に定める試験の成績不良のため履修終了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもって履修終了の認定にあてることができる。

第４条（受験資格）学期末試験又は中間試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修登録を行い、かつ、その授業に常時出席していなければならない。

２　第２条第１項に定める試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。

３　追試験は学期末試験の受験資格をみたし、かつ、学部事務部が指定する期間内に所定の手続きをした学生につき考慮するものとする。なお、中間試験における追試験については科目担当者の指示によるものとする。

第５条（追・再試験の手続き）追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて追試験願を学部事務部に提出し、受験票の交付を原則受けなければならない。

２　特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続きをしなければならない。

第６条（学生証、受験票の提示）学期末試験の受験者は定刻までに試験室に入り、つねに学生証を机の上に置かなければならない。

２　追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければならない。

第７条（遅刻及び退室）受験者の遅刻は、試験開始後 30 分以内は認める。ただし、試験時間は延長しない。

２　受験者の退出は、試験開始後 40 分を経過してから許可する。

３　前２項については、当該学部教授会または研究科委員会の議を経て、取扱いを変更することができる。

第８条（試験監督者）試験監督者は、当該試験実施について一切の権限を有する。

２　試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。

３　試験監督者については、前２項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

第９条（不正行為）試験監督者は、試験中に不正行為を行った学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。

２　試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときは、その答案を取上げた上退室を命ずることができる。

３　前２項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

第 10 条（不正行為に対する処置）前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。

（１）当該試験の属する学期末試験の一部又は全部を無効とする。

（２）当該試験を無効とする。

付　　則（省略）

別　　表（省略）

5　学生生活についての規程

第１条（目的）この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

第２条（学生に対する通知・連絡）学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて１週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

第３条（学生証）学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年４月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

２　学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。

３　学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。

４　学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

第４条（保証人）学生は、入学手続き時に父母又はこれに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。

　保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに東京千住キャンパスにおいては学生支援センター長、埼玉鳩山キャンパスにおいては理工学部事務部長（以下「センター長・事務部長」という。）あてに届け出ること。

第５条（現住所及び連絡先）学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届をセンター長・事務部長あてに提出すること。

第６条（学生による掲示）学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

２　学内における学生の掲示場所は所定の学生掲示板とする。

３　掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。

４　新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特にセンター長・事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。

５　期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

第７条（学生による印刷物の発行・配布）学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

第８条（学生の学内集会）学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願をセンター長・事務部長あてに提出すること。

ア　団体名

イ　団体の責任者の氏名

ウ　集会の目的

エ　集会の場所
オ　集会の日時
カ　参加者の人数
キ　学外者参加団体名及び人数
ク　その他

提出期限は原則として、開催日の１週間前とする。

2　集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。

3　集会は、東京千住キャンパスにおいては 22 時 20 分、埼玉鳩山キャンパスにおいては 21 時までとする。

ただし、センター長・事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。

4　学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願をセンター長・事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。

又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

ア　団体名及び宿泊責任者の氏名
イ　宿泊場所
ウ　宿泊の目的
エ　宿泊人数
オ　宿泊する学生の氏名及び連絡先
カ　宿泊する学生の保証人の連絡先

5　本条で認められている事項は、第 10 条で定める手続きを行っている団体に適用される。なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

第９条（学生の学外における正課外活動）学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の１週間前までに、所定の学外活動願をセンター長・事務部長あてに提出すること。

第 10 条（団体の結成）学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえセンター長・事務部長あてに願い出ること。

2　団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかにセンター長・事務部長あてに届け出ること。

3　学生の団体の継続については、毎年５月末日現在における所属学生の名簿を、センター長・事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体については、センター長・事務部長が解散したものとみなす。

付　　則（省略）
別　　表（省略）

6　学生アドバイザーに関する規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学（以下「本学」という）の学生（学部）が有意義な大学生活を送るため、本学教員が、学生の在学期間中において、修学、就職指導、課外活動その他学生生活全般に関して、指導又は助言等を行う学生アドバイザーについて必要な事項を定める。

第２条（責務）学生アドバイザーは、学生に対し、次に関する事項について指導又は助言等を行う。

（１）修学に関する事項
（２）キャリア教育、進路、就職に関する事項
（３）学生生活に関する事項
（４）奨学金に関する事項
（５）学生の諸手続きに関する事項
（６）その他学生生活全般に関する事項

２　学生アドバイザーは、第１項に定める指導または助言等を円滑に行うため、週１時間のオフィスアワーを設け、自ら選定した場所に在室するものとする。

３　前項のオフィスアワー及び在室場所については、予め当該学部の学生に周知するものとする。

第３条 (委嘱) 学部長は、原則として、任期付教員及び特別専任教授を除く専任教員のうち、学科、学系から推薦された教員を学生アドバイザーとして委嘱する。

２　学部長は、委嘱した学生アドバイザーを当該学部教授会に報告する。

第４条（任期）学生アドバイザーの任期は、各学部において決定する。

第５条（手当）学生アドバイザーに委嘱された教員には、給与規程に定める手当を支給する。

第６条（報告）学生アドバイザーは、担当する学生と面談した結果、相談された事案に対処できないと判断した場合、学生が所属する学科長又は学系長にその内容を報告するものとする。

２　第１項の報告を受けた学科長又は学系長は適切な対応を図るとともに、必要に応じて当該学部長並びに学生支援センター長に報告するものとする。

３　学部長並びに学生支援センター長は、第２項において報告を受けた事項について、必要な措置を講ずるものとする。

４　本条に関係する者は、知り得た情報をみだりに他に漏らしてはならない。

第７条（その他）この規程に定めるもののほか、学生アドバイザーに関し必要な事項は、各学部、学生支援センター（学生厚生担当）及び関係部署と協議のうえ決定する。

第８条（規程の改廃）この規程の改廃は、学生支援センター運営委員会及び大学評議会の議を経て、各学部教授会の承認を経なければならない

付　　則（省略）
別　　表（省略）

7　部室使用に関する内規

第１条（目的）この内規は、東京電機大学がその教育方針に基づき、課外活動の健全な育成、発展をはかるために学生団体に貸与する専用部室の使用に関し、必要な事項を定める。

第２条（使用者）部室を使用できる者は、学生生活についての規程が定める学生団体及びそれに所属する学生とする。また、部外者が、みだりに立ち入ることを禁止する。

第３条（施設等管理者及び指導）部室の施設等管理者は、学生支援センター長、管財部長、総合メディアセンター長、部顧問とし、部室の管理運営上の指導を行う。

２　前項に加え、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部長が施設管理者となる。

３　施設・設備の管理上及び防災上等で必要な場合に、施設等管理者及び施設等管理者の命を受けた者が部室に立ち入ることがある。

第４条（遵守事項）部室を使用する者は、次の事項を遵守し、施設等管理者の指示に従わなければならない。

（１）本来の目的のみに使用し、通常の課外活動に必要としない物品は持込まないこと。
（２）施設設備の改装等を行わないこと。
（３）整理整頓に心掛け、特に火災・盗難の予防ならびに衛生に留意すること。
（４）建物内では、下駄、スパイク等を使用しないこと。
（５）活動上不必要な掲示を行わないこと。
（６）部室内で飲酒・喫煙を行わないこと。
（７）暖房・電灯・水道及び電話等の使用について節約に努めること。
（８）使用時間内といえども、教育研究に支障をきたすような活動を行わないこと。
（９）使用が終わったときは、火気・戸締り等を点検の上、異常のないことを確認すること。
（10）その他学生としての良識に従って使用すること。

第５条（使用期間）部室を使用できる期間は１年間とし、学生生活についての規定が定める学生団体の継続手続をもって更新手続とする。新規使用については、部室の空室状況に応じて検討する。

第６条（使用時間）部室を使用できる時間は、東京千住キャンパスの部室においては学生支援センター、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部において別に定める。

第７条（使用責任）部室を使用する者は、この内規の定めるところに従って日常これを使用し、一切の使用上の責任を負うものとする。

第８条（破損の修理）施設、備品等を破損、汚損等した場合は、次に掲げる施設等管理者に速やかに届け出なければならない。

（１）東京千住キャンパスの施設、備品等　　学生支援センター長
（２）埼玉鳩山キャンパスの施設、備品等　　理工学部事務部長

２　正規の使用中で正当な行為による場合の他は、その学生団体又は個人がこれを修復又は弁償する。

第９条（使用の禁止等）部室を使用する者が、この内規に違反し、または施設等管理者の指示に従わないときは、部室の使用を禁止することができる。

第 10 条（内規の改廃）本内規の改廃は、学生支援センター運営委員会の議を経て、学生支援センター長が決定する。

付　　則（省略）
別　　表（省略）

8　理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

第１条（目的）この取扱細則は、理工学部学生の車両通学及び埼玉鳩山キャンパスにおいて学生が運転する車両の駐車に関し必要な事項を定める。

第２条（車両の定義）この取扱細則でいう車両とは、道路交通法に基づく運転免許を要する車両をいう。

第３条（車両通学の許可願）車両を運転して通学を願い出る者（以下「車両通学者」という。）は、別紙により必要事項記入の上理工学部長あてに申請しなければならない。

第４条（許可）理工学部長は申請があった者の内で、次の条件を具備若しくは合致している場合は駐車許可証（以下「許可証」という。）を発行する。許可証の発行を受けていない者の車両による通学は認めない。

（１）公共の交通機関を利用して通学することが客観的判断に照らして著しく困難な者

（２）原則として運転免許証取得後６カ月以上を経過していること。

（３）自動車損害賠償責任保険及び次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四　　輪	7,000 万円以上	100 万円以上	500 万円以上
自動二輪	5,000 万円以上	100 万円以上	200 万円以上

（４）道路運送車両法による１年毎の定期点検整備を受けていること。

第５条（許可証の有効期間）許可証の有効期間は当該年度内とする。

第６条（順守事項）車両通学者は、道路交通法等の関係法令及び学内諸規程を順守し、安全運転の励行に努めなければならない。

第７条（許可の取消及び違反者の処置）車両通学者が道路交通法等の関係法令及び学内諸規程に違反した場合並びに第４条の条件を具備若しくは合致しない場合は、理工学部長は車両通学許可を取消すことができる。

２　前項における違反者に対しては、次のとおり段階的に処置することとする。

①　本人に対する警告

②　前号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、学部長より厳重に訓戒する。

③　第２号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、車両通学許可を取消すこととする。

３　前項第３号により車両通学許可を取消された者が車両で通学した場合、学則第 46 条に則り、停学または退学処分とすることができる。

第８条（事故処理）車両通学者が運転中に起こした事故について大学は一切責任を負わない。

２　埼玉鳩山キャンパスに車両を駐車している間に生じた破損、盗難等の事故について大学はその補償を行わない。

３　前各項の事故が発生したときは当事者はその内容を理工学部事務部（学生厚生担当）に連絡しなければならない。

第９条（安全運転講習会）大学は車両通学者を対象にした安全運転講習会を必要に応じて実

施することとする。

2　車両通学者は前項の講習会に出席しなければならない。理由なく欠席した者には駐車許可を取消すことがある。

第 10 条（その他の事項）駐車中は許可証を車内の見えやすいところにおかなければならない。

2　許可証は他人に貸与してはならない。

3　許可証を紛失したときは理工学部事務部（学生厚生担当）に直ちに届け出なければならない。

4　指定の駐車場以外には駐車をしてはならない。

付　　則（省略）

別　　表（省略）

9　特別奨学生規程

第１条（目的）この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ、学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第２条（基金）この奨学金の基金は、次の各号の基金をもって構成する。

（１）桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金

（２）その他の基金

第３条（奨学金）奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。

２　奨学金の各校への配分は、当該年度の予算に計上して行う。

第４条（給付額）奨学金の給付額は、各学校の学則に定める当該年度の学費の一部若しくは全額とする。

２　給付金は、学費に充当しなければならない。

第５条（奨学生の選考、決定、採用等）奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。

２　前項により奨学生を採用したときは、学校の長は遅滞なく理事長あて（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第６条（奨学生の資格の喪失）奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。

（１）学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

（２）成績不良若しくは素行不良のとき。

（３）学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

２　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

第７条（事務）奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。

２　前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部（総務担当）において行う。

第８条（実施）この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付　　則（省略）

別　　表（省略）

10　東京電機大学大学院進学特別奨学金規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学の学生であって、本学大学院修士課程へ進学する成績優秀な者に対して、経済的支援のために奨学金を給付することを目的とする。

２　本奨学金の名称は、「大学院進学特別奨学金（以下「奨学金」という。）」といい、本奨学金を給付された者を「奨学生」という。

第２条（奨学金）奨学金の原資は、学校法人東京電機大学学術振興基金（第３号基本金）の奨学援助金をもって充当する。

２　奨学金の給付総額は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（給付金）奨学金は、学部４年次の６月に採用手続きを行い、大学院修士課程入学初年次のみにおいて給付する。

２　奨学金は、本学大学院修士課程の授業料に充当しなければならない。

第４条（給付額）奨学金の給付額は、20 万円とする。

第５条（奨学生の選考、決定等）奨学生の選考は以下のとおりとする。

（１）奨学金の給付を希望する者は、大学院推薦入試出願時に奨学金の申請を行う。

（２）奨学生の選考については、各学科・学系において選考を行い、入学先の研究科委員長に推薦する。

（３）研究科委員長は、当該研究科委員会の選考を経て奨学生候補者を学長に推薦する。

（４）学長は、大学調整連絡会議の議を経て奨学生を決定する。

（５）学長は、決定した奨学生を理事長へ報告する。

第６条（奨学生の資格の喪失）奨学生が次の各号のいずれかに該当し、学長が奨学生として不適当と認めたときは、その資格を失うものとする。

（１）退学（除籍）、停学となった者

（２）学則に違反して処分を受けたとき

（３）成績不良若しくは素行不良のとき

２　前項にかかわらず、学長は、学生が奨学金出願書類等に虚偽の記載をしていたときは奨学生としての資格を取り消す。

３　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金の全額を大学へ返納しなければならない。

第７条（事務）奨学生に係る事務は、学生支援センター（学生厚生担当）及び理工学部事務部（学生厚生担当）が行う。

第８条（実施）この規程の実施についての必要事項は別に定める。

第９条（規程廃止）この規程は、奨学生がいなくなったことが確認できた時に廃止手続を行う。

付　　則（省略）

別　　表（省略）

11　東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

第１条（目的）この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

第２条（救済奨学資金）この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（救済奨学生の選考・決定等）救済奨学生は、東京電機大学大学院及び東京電機大学のいずれかに在籍する学生であって、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

（１）失業又は事業の倒産
（２）被災
（３）長期療養
（４）死亡
（５）その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

２　救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

第４条（救済奨学金の貸与額）東京電機大学大学院、東京電機大学工学部、工学部第二部（平成 17 年度以前入学者）、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

２　東京電機大学工学部第二部（平成 18 年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

３　救済奨学金は学費に充当しなければならない。

第５条（採用）救済奨学生の採用は、原則として毎年４月又は 10 月とし、各校における在籍期間中１回とする。

第６条（救済奨学生の資格停止）救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した救済奨学金を返還させることができる。

第７条（救済奨学生の資格取消）救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。

（１）退学したとき、又は除籍されたとき。
（２）学則に違反して処分を受けたとき。
（３）救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

２　前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

第８条（救済奨学金の返還）救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

２　救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。

３　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し５年間とする。

ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子）貸与した救済奨学金は無利子とする。

第10条（褒賞金の給付・返還の免除）次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。

（1）卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。

（2）卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。

2　救済奨学生が死亡又は不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

第11条（事務）救済奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第12条（実施）この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付　　則（省略）

別　　表（省略）

12　東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し（以下貸与された者を「支援奨学生」という。）、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

第２条（支援奨学資金）この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（支援奨学生の推薦・決定等）支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在学する学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

（１）本学主催の海外語学短期研修に参加する者

（２）自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者

（３）その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

２　支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

（１）休学中の者

（２）留学中の者

（３）所定修業年限を超えて在学している者

３　支援奨学生の採用は、学生支援センター長が推薦し、学長がこれを決定する。

第４条（支援奨学金の貸与額）支援奨学金の貸与額は、30 万円の範囲内で学生支援センター長が査定する。

２　支援奨学金は前条第１項の各号に定める使途に充当しなければならない。

第５条（採用）支援奨学生の採用は、各校における在学期間中１回とする。

第６条（支援奨学生の資格停止）支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

第７条（支援奨学生の資格取消）支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

（１）退学したとき、又は除籍されたとき。

（２）学則に違反して処分を受けたとき。

（３）支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

２　前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

第８条（支援奨学金の返還）支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

２　支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。

３　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し５年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

第９条（利子）貸与した支援奨学金は無利子とする。

第 10 条（事務）支援奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第 11 条（実施）この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付　則（省略）別　表（省略）

13　東京電機大学学生応急奨学生規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学（以下「本学」という）の学生であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第２条（奨学金）この奨学金は、学校法人東京電機大学への特定の寄付金をもって充当する。

第３条（給付金）奨学給付金は、本学の学則に定める当該年度の学費の一部とする。

２　給付金は、学費または学資に充当しなければならない。

第４条（奨学生の選考、決定、採用等）奨学生は、救済奨学金選考委員会の選考を経て、学長がこれを決定し、採用する。

２　前項により奨学生を採用したときは、学長は遅滞なく理事長あて（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第５条（奨学生の資格の喪失）奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。

（１）学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

（２）成績不良若しくは素行不良のとき。

（３）提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

２　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

第６条（事務）奨学生に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が行う。

第７条（実施）この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付　　則（省略）

付　　則（省略）

14　東京電機大学学生サポート給付奨学生規程

第1条（目的）この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在学し、過去1年以内に家計急変があり、修学意欲がありながら学費支弁が困難な学生に対し、奨学金を給付することを目的とする。

2　本奨学金の名称は、「東京電機大学学生サポート給付奨学金（以下「奨学金」という。）」といい、本奨学金を給付された者を「奨学生」という。

3　同条第1項のほかに、学費支弁が困難な大学院進学希望者に対して本奨学金の給付を行う。

4　本奨学金における大学院進学希望者への給付については、別途定める。

第2条（奨学金）奨学金は給付型とし、奨学金の原資は学校法人東京電機大学サポート募金（奨学金使途指定）への寄付をもって充当する。

2　奨学生の人数は、年間若干名とする。

第3条（給付額）奨学金の給付額は、25万円とする。なお、本奨学金の給付は各校における在学期間中1回に限る。

2　給付された奨学金は学費に充当しなければならない。

第4条（奨学生の選考、決定、採用等）奨学生の選考は以下のとおりとする。

（1）奨学金の給付を希望する者は、所定の願書を在学する各キャンパスの学生厚生担当へ提出する。

（2）学生支援センターにおいて提出された願書について、本奨学生としての要件等を踏まえ書類選考を行う。

（3）書類選考を通過した者に対し、各キャンパスの学生厚生担当において経済状況の確認、及び修学意欲について面接による審査を行う。

（4）学生支援センター長は面接による審査結果に基づき、理工学部事務部長と協議の上、奨学生候補者を決定する。

（5）学生支援センター長は奨学生候補者について、学生支援センター運営委員会の議を経て、学長に推薦する。

（6）学長は、大学調整連絡会議の議を経て奨学生を決定する。

（7）学長は、決定した奨学生を学校法人東京電機大学サポート募金委員会委員長へ報告する。

第5条（奨学生の資格の喪失）奨学生が次の各号のいずれかに該当し、学生支援センター長が奨学生として不適当と認めたときは、その資格を失うものとする。

（1）学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

（2）給付を受ける年度において、休学をしたとき。

（3）成績不良若しくは素行不良のとき。

（4）学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

2　奨学生は前項各号の事由により、奨学生の資格を失ったときは、学生支援センター長と関係する研究科委員長又は学部長が協議し、学長が不適当と認めた場合は、給付された奨学金を遅滞なく大学に全額返還しなければならない。

第6条（事務）奨学生に係る事務は、学生支援センター（学生厚生担当）及び理工学部事務部

（学生厚生担当）において行う。

第７条（実施）この規程の実施についての必要事項は、別に定める。

第８条（改廃）この規程の改廃は、学生支援センター運営委員会の議を経なければならない。

付　　則（省略）

別　　表（省略）

15　東京電機大学科目等履修生規程

第１条（準拠）この規程は、東京電機大学学則第 54 条に拠り、本大学科目等履修生に関する事項を定める。

第２条（科目等履修生）本大学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を履修することを希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考の上、授業科目の履修を許可することができる。

第３条（出願資格）科目等履修生として出願できる者は、本大学学則第 35 条に該当する者とする。

第４条（出願手続）科目等履修生として履修を希望する者は､学則に定める資格審査料（別表）を添えて、次の書類を提出しなければならない。

（１）履修願書（別紙様式）
（２）履歴書（別紙様式）
（３）最終出身学校の卒業証明書若しくは卒業見込証明書
（４）最終出身学校の成績証明書
（５）健康診断書
（６）その他必要と認める書類

２　科目等履修生として登録した者が５年以内に再び科目等履修生として出願をするときは、次のように取り扱う。

（１）資格審査料を免除する。
（２）前項に定める書類のうち一部については、前回提出の書類をもって充てることができる。

３　出願の手続は所定の期日までに完了しなければならない。

第５条（履修手続）科目等履修生として履修を許可された者は、指定の期日までに別表に掲げる履修料を納入しなければならない。

２　履修料を納入した者には、科目等履修証を交付する。

３　すでに納入した科目等履修費は返還しない。

第６条（履修許可の時期）科目等履修生の履修許可の時期は、原則として学年又は学期の始めとする。

第７条（履修期間）科目等履修生の履修許可期間は、当該年度限りとする。又、さらに引き続き履修を希望する者は、あらためて願い出なければならない。

第８条（履修科目）科目等履修生が履修できる科目は、正規課程の学生の教育研究に支障が生じない科目に限る。

第９条（試験）科目等履修生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。

第 10 条（単位）科目等履修生として試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

第 11 条（単位取得証明）科目等履修生として取得した単位については、本人の請求により、単位取得証明書を交付することができる。

第 12 条（特別科目等履修生）本学との単位互換の協定に基づいて、本学学部で開設している一又は複数の授業科目の履修を許可された者を特別科目等履修生という。

2　前項に規定する特別科目等履修生については、学則及びこの規程に抵触しない限り、本学と締結した単位互換協定における取決めに従うものとする。

第 13 条（改正）この規程の改正は、各学部の教授会の議を経なければならない。

付　　則（省略）

別　　表（省略）

第13章
沿　革

1 沿　革

1907（明治 40 年）9. ・東京・神田に電機学校創立（9 月 11 日）
1949（昭和 24 年）4. ・東京電機大学開設＜工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置＞
1950（昭和 25 年）4. ・東京電機大学短期大学部開設＜電気科第二部設置＞
1952（昭和 27 年）4. ・工学部第二部開設＜工学部第二部電気工学科設置＞
1956（昭和 31 年）2. ・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
1958（昭和 33 年）4. ・東京電機大学大学院（夜間）開設＜工学研究科電気工学専攻（修士課程）設置＞
1960（昭和 35 年）4. ・工学部第一部電子工学科設置
1961（昭和 36 年）4. ・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
・工学部第二部電気通信工学科設置
1962（昭和 37 年）4. ・大学院工学研究科博士課程開設＜電気工学専攻（博士課程）設置＞
・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
1965（昭和 40 年）4. ・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
1975（昭和 50 年）4. ・工学研究科電気工学専攻（修士課程）（昼間）設置
1977（昭和 52 年）4. ・鳩山キャンパス開設・理工学部開設＜数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置＞
1981（昭和 56 年）4. ・理工学研究科開設＜数理学専攻（修士課程）・システム工学専攻（修士課程）・建設工学専攻（修士課程）・機械工学専攻（修士課程）設置＞
・総合研究所開設
1983（昭和 58 年）4. ・理工学研究科博士課程開設＜応用システム工学専攻（博士課程）設置＞
1984（昭和 59 年）4. ・理工学研究科数理学専攻（博士課程）設置
1986（昭和 61 年）4. ・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
1990（平成 2 年）4. ・千葉ニュータウンキャンパス開設
・工学研究科情報通信工学専攻（修士課程）・電子工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科情報科学専攻（修士課程）・応用電子工学専攻（修士課程）設置
1991（平成 3 年）4. ・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程）・物質工学専攻（修士課程）設置
1992（平成 4 年）4. ・工学研究科情報通信工学専攻（博士課程）・電子工学専攻（博士課程）、建築学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理学専攻（博士課程）を数理科学専攻（博士課程）に名称変更
1993（平成 5 年）4. ・工学研究科機械システム工学専攻（博士課程）、物質工学専攻（博士課程）設置
・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更

1995（平成 7 年）4. ・工学研究科建築学専攻（博士課程）設置
1997（平成 9 年）4. ・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
・産官学交流センター設立
1997（平成 9 年）6. ・ハイテク・リサーチ・センター設立
1999（平成 11 年）4. ・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
・フロンティア共同研究センター設立
2000（平成 12 年）4. ・理工学部生命工学科、情報社会学科設置
2001（平成 13 年）4. ・情報環境学部開設＜情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置＞
・大学院工学研究科機械工学専攻（修士課程・博士課程）、精密システム工学専攻（修士課程・博士課程）設置
2002（平成 14 年）4. ・工学部第一部情報メディア学科設置
・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
・理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理･情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を知能機械工学専攻（修士課程）に名称変更
2003（平成 15 年）4. ・理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報工学専攻（修士課程）に名称変更
2004（平成 16 年）4. ・情報環境学研究科（修士課程）開設＜情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置＞
・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置
・理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置
・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
2005（平成 17 年）7. ・東京電機大学短期大学廃止
・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止
2006（平成 18 年）4. ・先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設＜数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置＞（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止）
・理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更
・情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）
2007（平成 19 年）4. ・学園創立 100 周年（9 月 11 日）
・未来科学部開設＜建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置＞

・工学部開設＜電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置＞（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止）
・理工学部理工学科設置＜４学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系＞（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）

2008（平成 20 年）4. ・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）

2009（平成 21 年）4. ・未来科学研究科（修士課程）開設＜建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置＞
・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学部理工学科学系再編＜５学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編＞

2010（平成 22 年）4. ・工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の廃止

2010（平成 22 年）9. ・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程）の廃止

2011（平成 23 年）3. ・建設技術研究所の廃止

2011（平成 23 年）4. ・工学研究科精密システム工学専攻（修士課程）、理工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻（修士課程）の廃止
・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止

2012（平成 24 年）4. ・東京千住キャンパス（100 周年記念キャンパス）開設（先端科学技術研究科（東京神田キャンパス所属）、工学研究科（修士課程）、未来科学研究科（修士課程）、工学部、工学部第二部、未来科学部が東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転）
・情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止
2012（平成 24 年）10.・研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立
2013（平成 25 年）4. ・理工学研究科電子･機械工学専攻（修士課程）、建築･都市環境学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・工学研究科建築学専攻（修士課程）の廃止
・工学部第一部機械情報工学科、情報通信工学科の廃止
・理工学部数理科学科、建設環境工学科、知能機械工学科の廃止
2013（平成 25 年）9. ・工学部第一部環境物質化学科の廃止
2014（平成 26 年）4. ・工学部第一部電気工学科の廃止
・理工学部生命工学科の廃止
2014（平成 26 年）8. ・インスティテューショナル　リサーチ　センター設立
2014（平成 26 年）9. ・工学部第一部建築学科の廃止
・理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の廃止
2015（平成 27 年）4. ・工学部第一部情報メディア学科の廃止
・工学部第二部電気工学科の廃止
2015（平成 27 年）9. ・工学部第一部機械工学科の廃止
2016（平成 28 年）4. ・工学部第一部電子工学科の廃止
・工学部第一部の廃止
2016（平成 28 年）6. ・地域連携推進センター設立
2017（平成 29 年）4. ・工学部電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科設置（※工学部環境化学科の学生募集停止）
・システムデザイン工学部開設＜情報システム工学科、デザイン工学科設置＞
・情報環境学部情報環境学科の学生募集停止
・ものづくりセンター千住設立
・工学部第二部電子工学科廃止
2018（平成 30 年）4. ・理工学部理工学科生命科学系、機械工学系、電子工学系設置
・情報環境学部、情報環境学研究科が、千葉ニュータウンキャンパスから東京千住キャンパスへ移転
・工学部第二部社会人課程（実践知重点課程）設置
2020（令和 2 年）4. ・理工学部オナーズプログラム（次世代技術者育成プログラム）開始
2021（令和 3 年）4. ・システムデザイン工学研究科（修士課程）開設〈情報システム工学専攻、デザイン工学専攻設置〉

・工学研究科電子システム工学専攻（修士課程）、先端機械工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科機械工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）設置
（※理工学研究科電子・機械工学専攻（修士課程）の廃止）

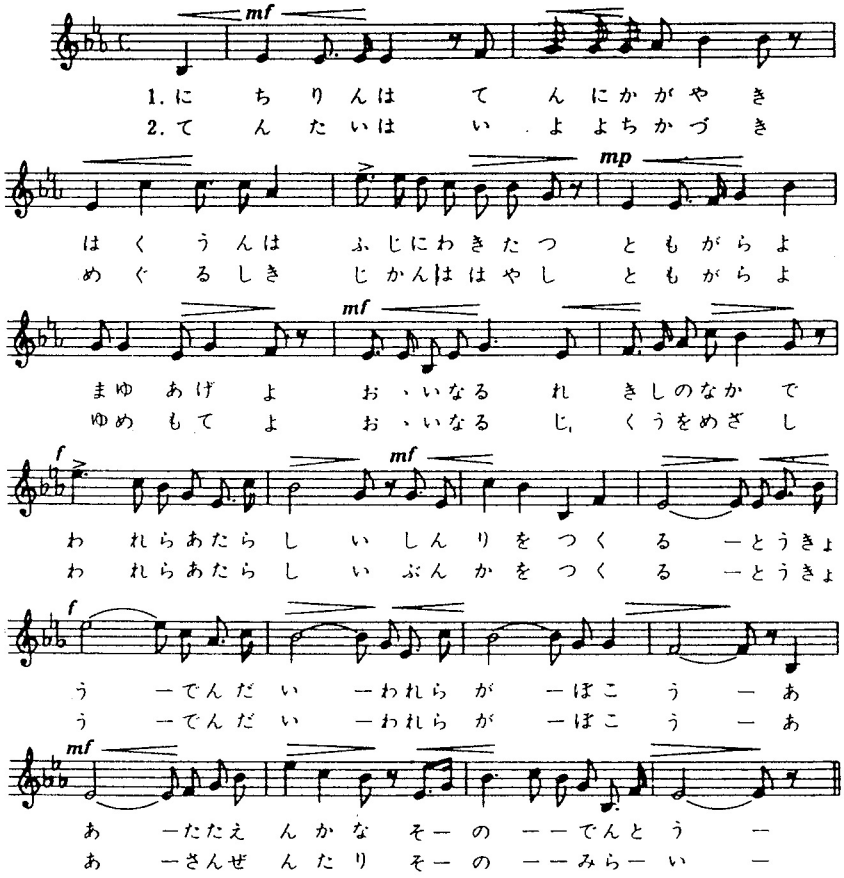
2022（令和 4 年）4. ・情報環境学研究科（修士課程）の廃止
・工学部環境化学科の廃止

第 14 章
大学校歌・学生歌

東京電機大学　校歌

歯切れよく　雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



東京電機大学校歌

一

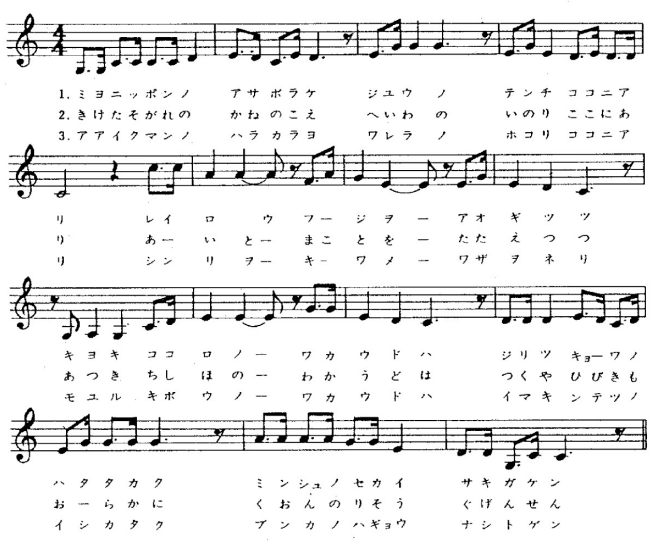
日輪（にちりん）は　天にかがやき
白雲（はくうん）は　富士に沸（わ）きたつ
朋（とも）がらよ　眉（まゆ）あげよ
大いなる　歴史のなかで
われら新しい　真理を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ讃（たた）えん哉（かな）
その伝統

二

天体は　いよよ近づき
めぐる四季　時間は早し
朋（とも）がらよ　夢もてよ
大いなる　時空（じくう）をめざし
われら新しい　文化を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ燦然（さんぜん）たり
その未来

東京電機大学　学生歌

望月直文作詞
田辺尚雄作曲



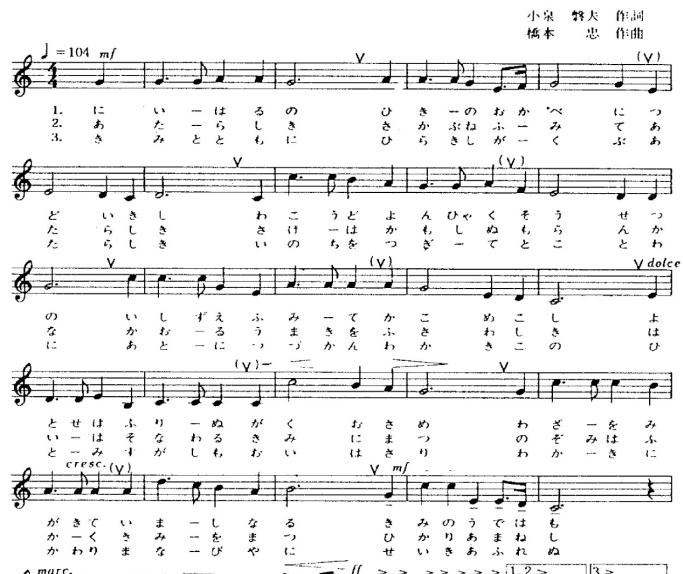
一、見よ日本のあさぼらけ　自由の天地ここにあり
玲瓏富士を仰ぎつつ　高潔き心の若人は
自律協和の旆高く　民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音　平和の祈願ここにあり
信愛と誠実をたたえつつ　熱き血潮の若人は
撞くや響もおほらかに　久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ　我等の誇りここにあり
真理を究め技術を錬り　燃ゆる希望の若人は
今金鉄の意志かたく　文化の覇業なしとげん

東京電機大学理工学部　讃歌

小泉磐夫作詞
橋本忠作曲



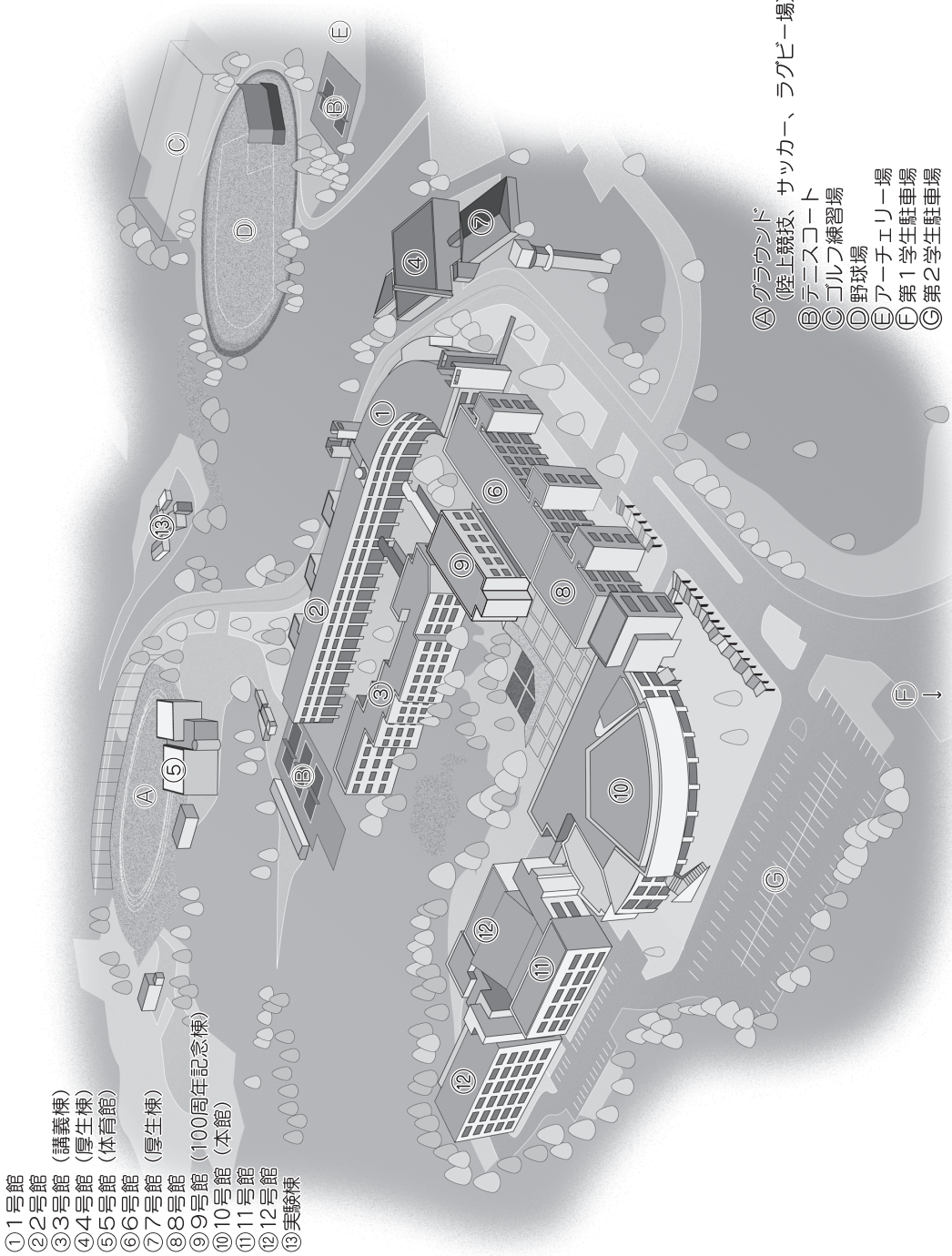
一、新春の比企の丘辺に　集い来し若人四百
創設の礎踏みて　固め来し四年は経りぬ
学修め業を磨きて　今し鳴る君の腕はも
その門出茲に祝わん　世に臨む備は成ると

二、新しき酒槽踏みて　新しき酒は醸しぬ
盛らん哉香る甘酒を　ふさわしき杯は備る
君に待つ望は深く　君に待つ光汎し
その門出共に祈らん　自愛しめ若き命を

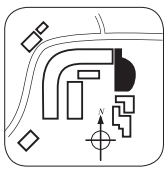
三、君と共に拓きし学部　新しき生命を継ぎて
永遠に後に続かん　若き等の瞳清しも
老は去り若きに代り　学舎に生気溢れぬ
その門出共に唱わん　「吾が学部よとわに栄あれ」

第 15 章
埼玉鳩山キャンパス案内図

埼玉鳩山キャンパス案内図

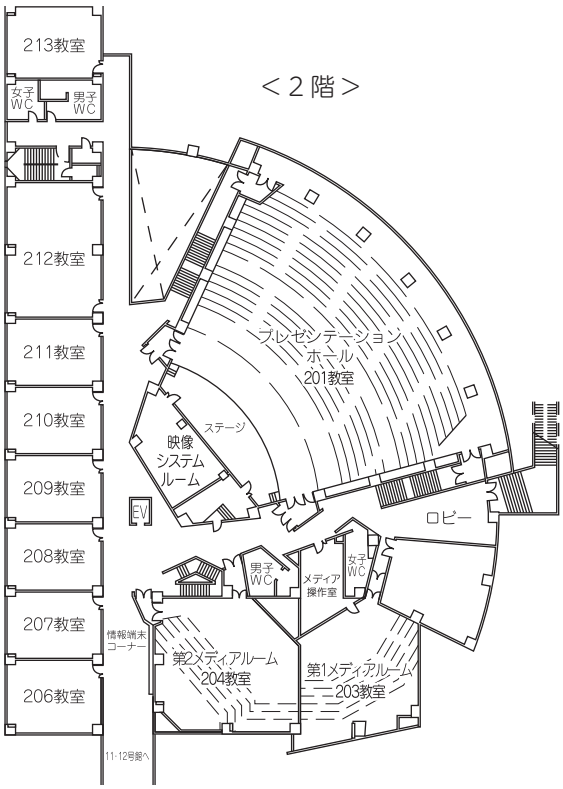


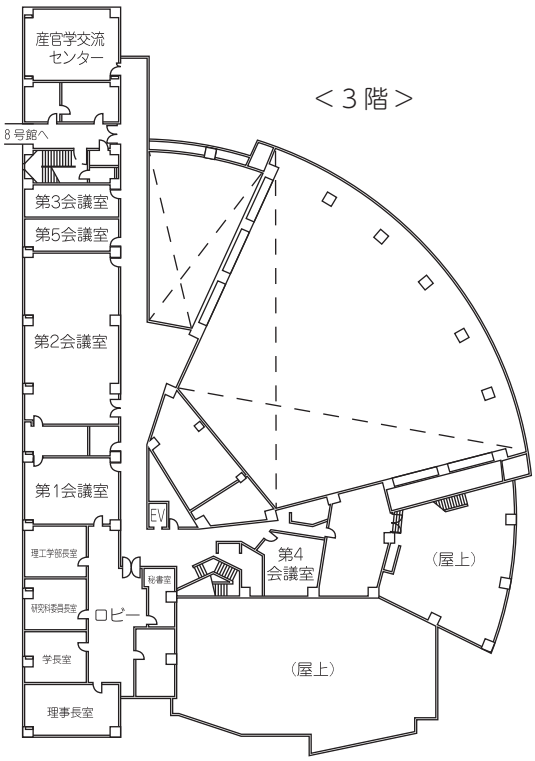
全体図



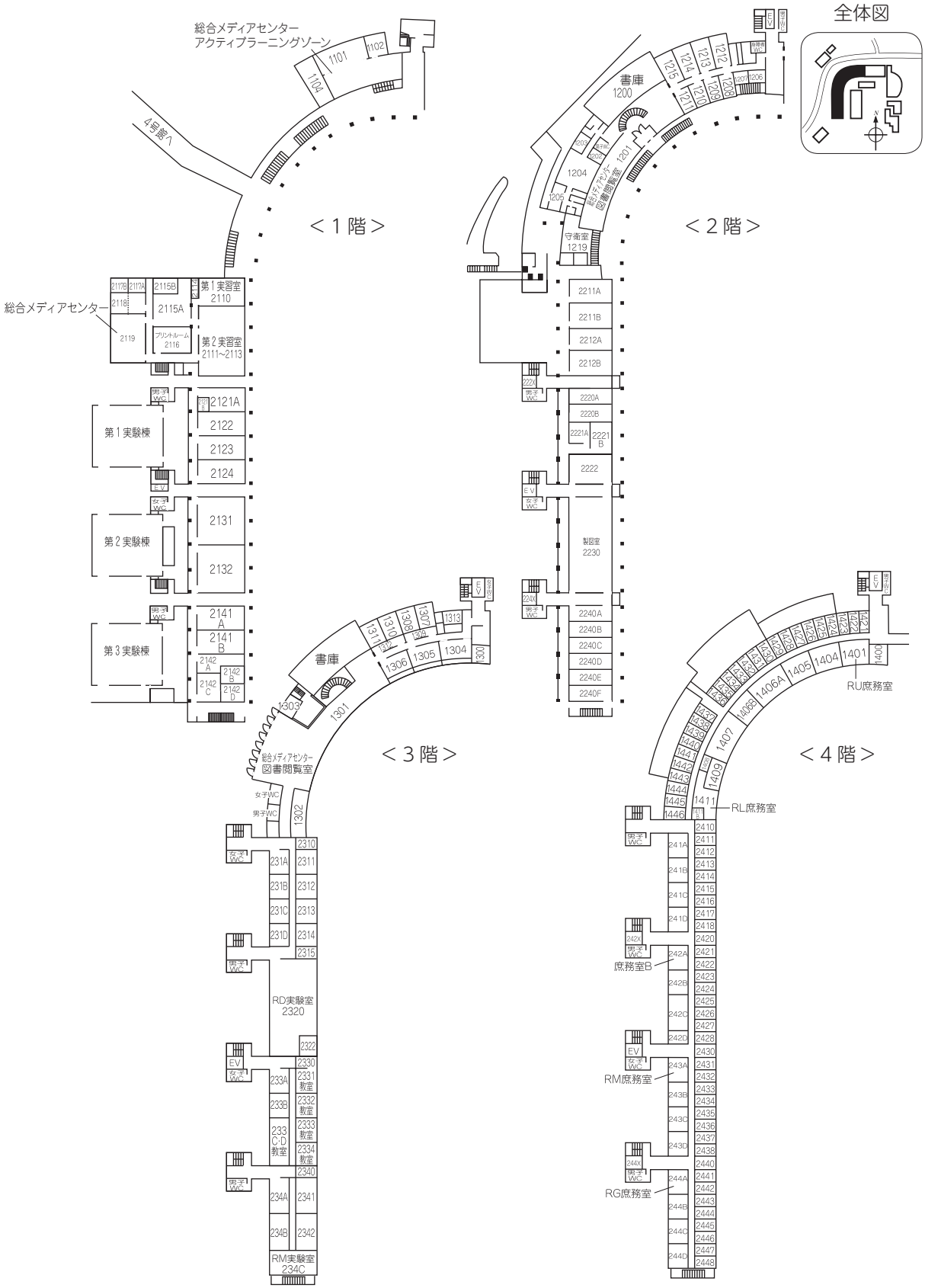
10号館(本館)

スクールバス
待合室
ピロティー
＜1階＞
エントランスホール
庶務担当
教務担当
講師室
学生厚生担当
健康
相談室
掲示ホール
就職
資料室
EV
115教室
男子
WC
女子
WC
パソコン
準備室
学生相談室
情報端末
コーナー
117教室

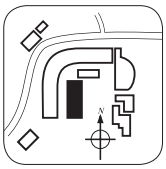

＜2階＞
213教室
女子
WC
男子
WC
212教室
211教室
210教室
209教室
208教室
207教室
206教室
プレゼンテーション
ホール
201教室
ステージ
映像
システム
ルーム
EV
ロビー
男子
WC
女子
WC
メディア
操作室
情報端末
コーナー
第2メディアルーム
204教室
第1メディアルーム
203教室
11・12号館へ


＜3階＞
産官学交流
センター
8号館へ
第3会議室
第5会議室
第2会議室
第1会議室
EV
理工学部長室
研究科委員長室
学長室
理事長室
ロビー
秘書室
第4
会議室
（屋上）
（屋上）

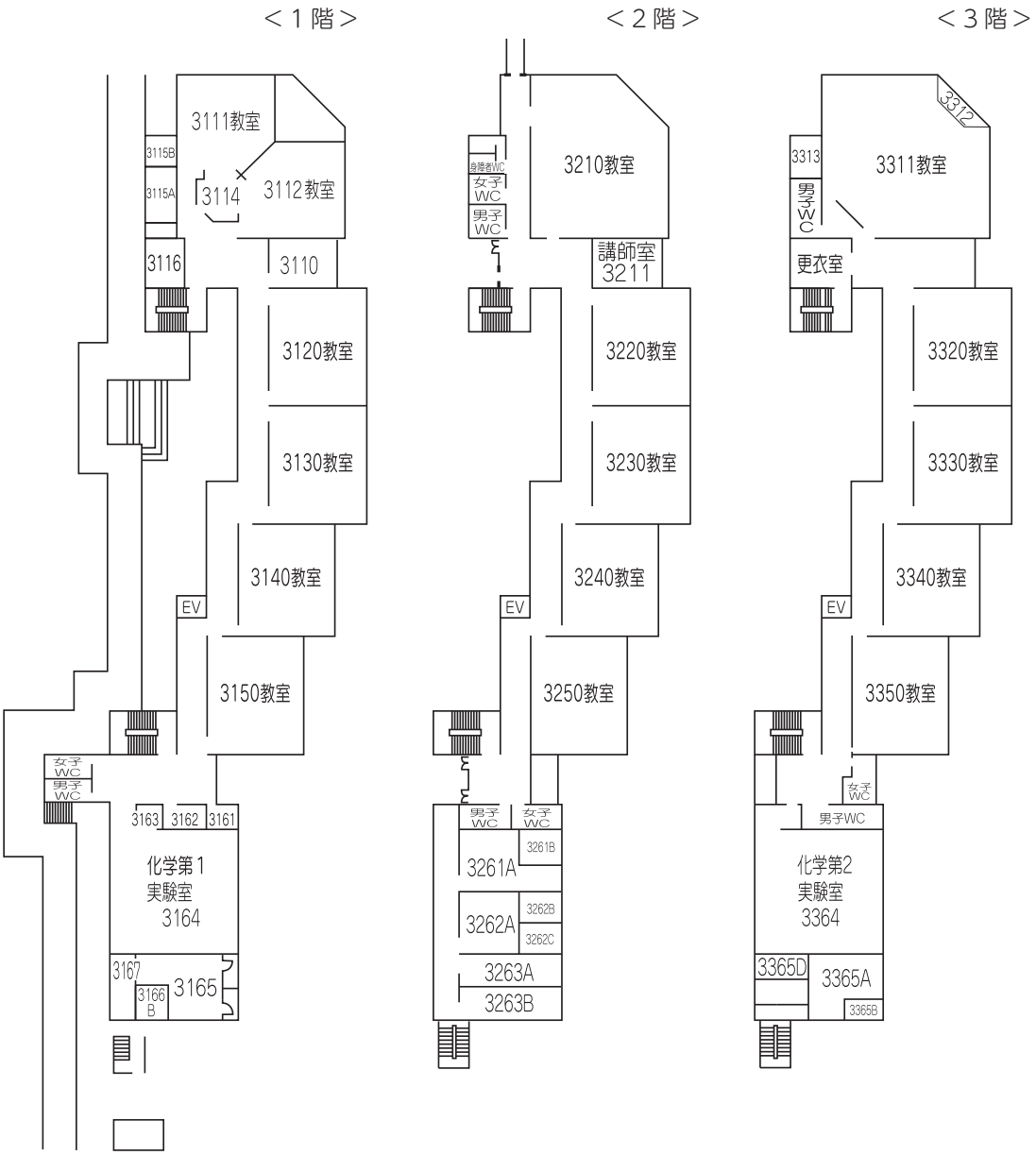
1号館・2号館


全体図
＜1階＞
＜2階＞
＜3階＞
＜4階＞
総合メディアセンター
アクティブラーニングゾーン
4号館へ
総合メディアセンター
第1実習室
2110
第2実習室
2111~2113
プリントルーム
2116
第1実験棟
第2実験棟
第3実験棟
書庫
1200
守衛室
1219
製図室
2230
総合メディアセンター
図書閲覧室
RD実験室
2320
RM実験室
234C
RU庶務室
RL庶務室
庶務室B
RM庶務室
RG庶務室

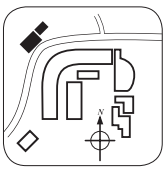
全体図



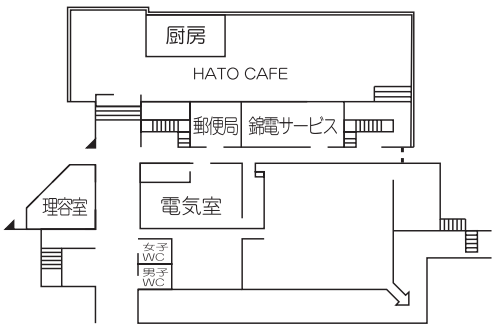
3号館（講義棟）


＜1階＞
3111教室
3115B
3115A
3114
3112教室
3116
3110
3120教室
3130教室
3140教室
EV
3150教室
女子WC
男子WC
3163
3162
3161
化学第1
実験室
3164
3167
3166B
3165
＜2階＞
身障者WC
女子WC
男子WC
3210教室
講師室
3211
3220教室
3230教室
3240教室
EV
3250教室
男子WC
女子WC
3261B
3261A
3262A
3262B
3262C
3263A
3263B
＜3階＞
3312
3313
男子WC
3311教室
更衣室
3320教室
3330教室
3340教室
EV
3350教室
女子WC
男子WC
化学第2
実験室
3364
3365D
3365A
3365B

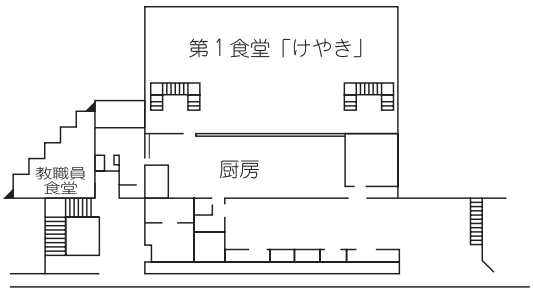
全体図



4号館（厚生棟）

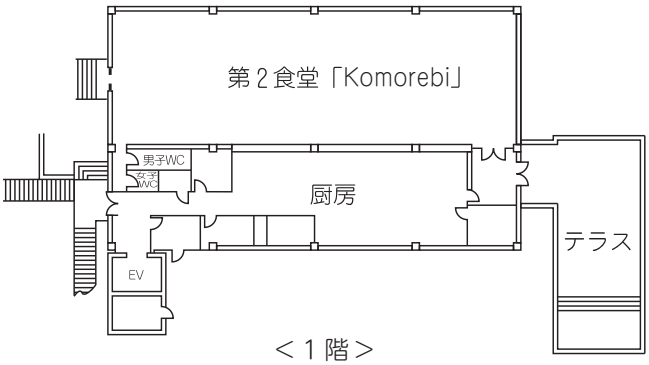


＜1階＞



＜2階＞

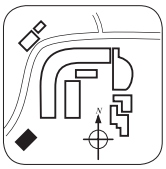
7号館（厚生棟）

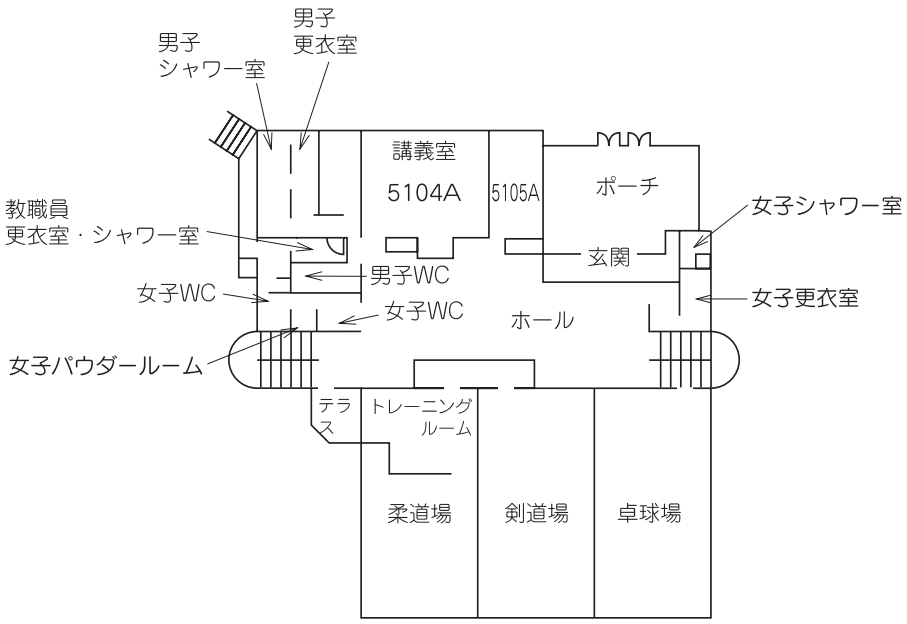


＜1階＞

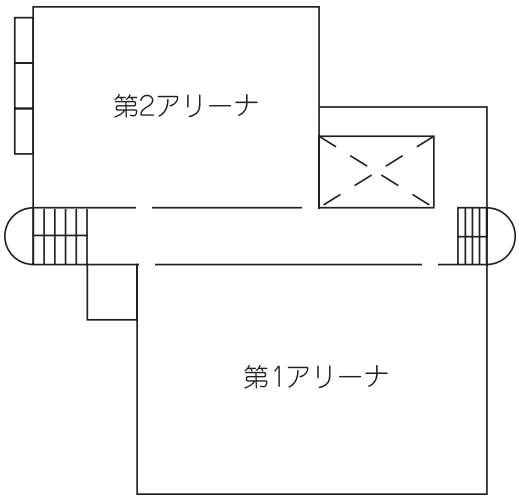
5号館（体育館）

全体図



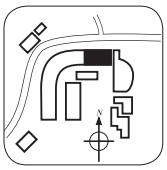


＜1階＞

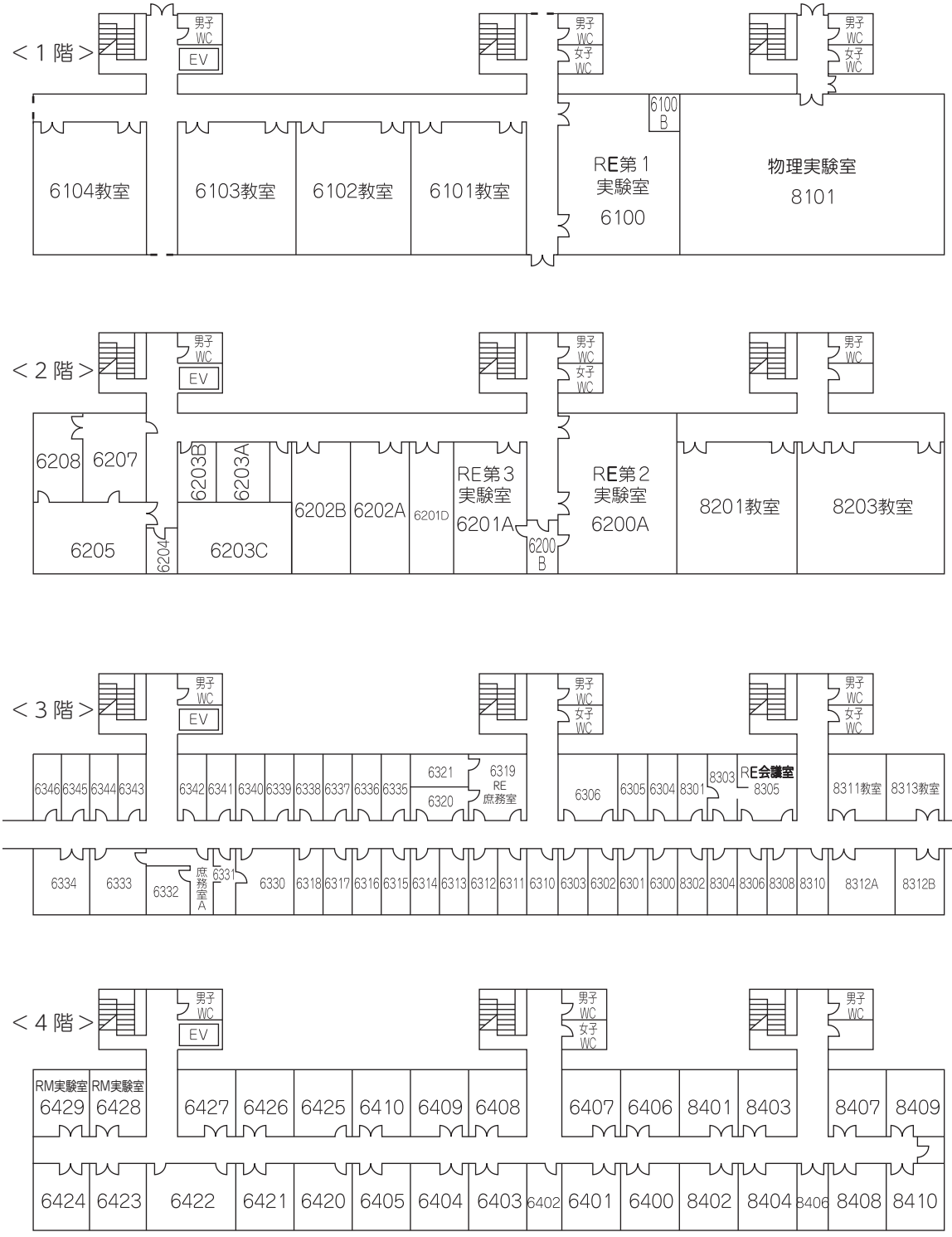


＜2階＞

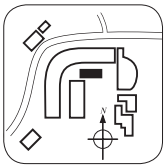
全体図



6号館・8号館

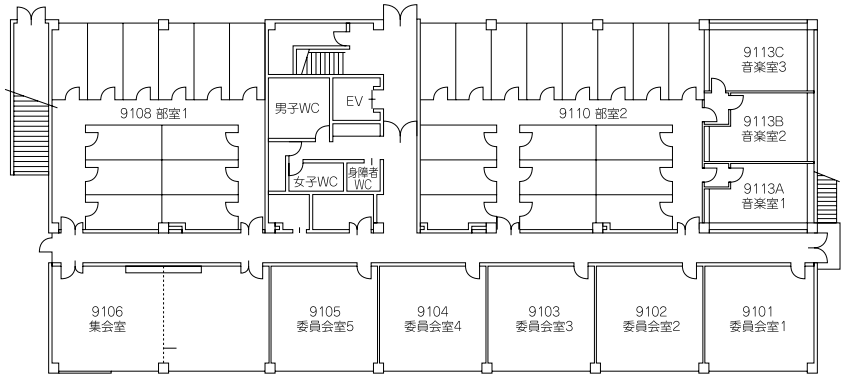

＜1階＞
男子WC
EV
女子WC
6104教室
6103教室
6102教室
6101教室
6100B
RE第1実験室
6100
物理実験室
8101
＜2階＞
6208
6207
6205
6204
6203B
6203A
6203C
6202B
6202A
6201D
RE第3実験室
6201A
6200B
RE第2実験室
6200A
8201教室
8203教室
＜3階＞
6346 6345 6344 6343
6342 6341 6340 6339 6338 6337 6336 6335
6321
6320
6319 RE庶務室
6306 6305 6304 8301 8303 RE会議室 8305
8311教室 8313教室
6334 6333 6332 庶務室A 6331 6330 6318 6317 6316 6315 6314 6313 6312 6311 6310 6303 6302 6301 6300 8302 8304 8306 8308 8310 8312A 8312B
＜4階＞
RM実験室 6429
RM実験室 6428
6427 6426 6425 6410 6409 6408
6407 6406 8401 8403 8407 8409
6424 6423 6422 6421 6420 6405 6404 6403 6402 6401 6400 8402 8404 8406 8408 8410

全体図

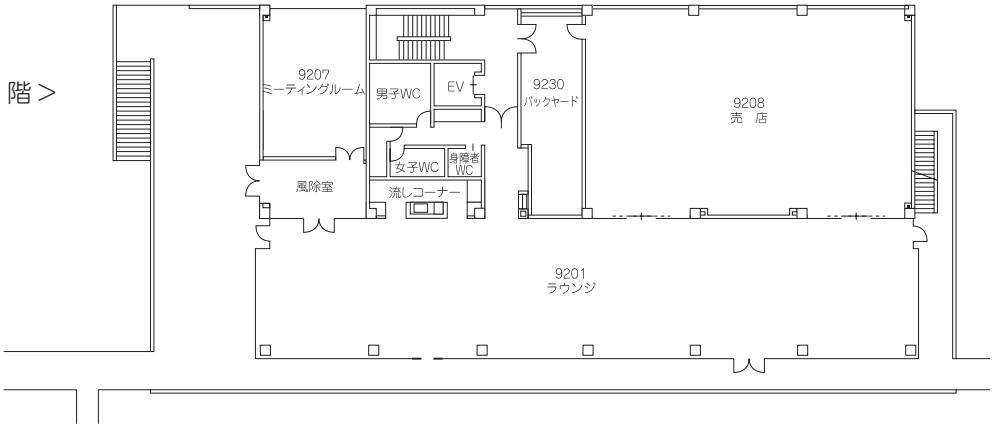


9号館

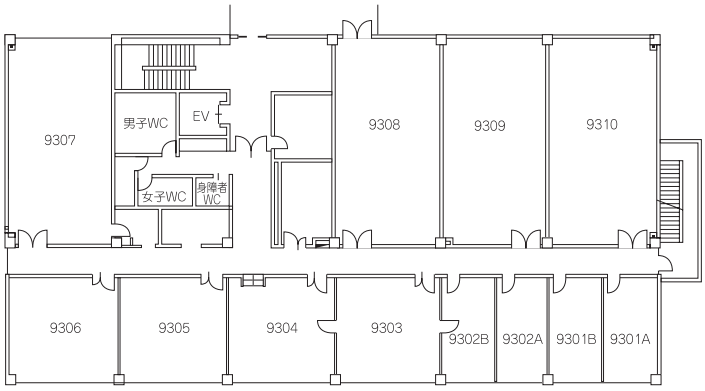
＜1階＞



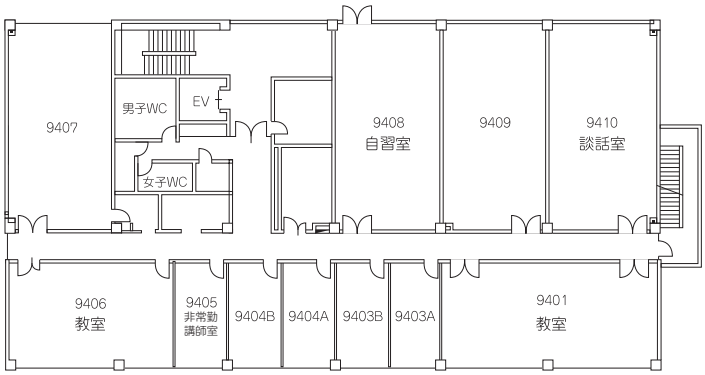
＜2階＞



＜3階＞

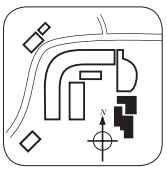


＜4階＞

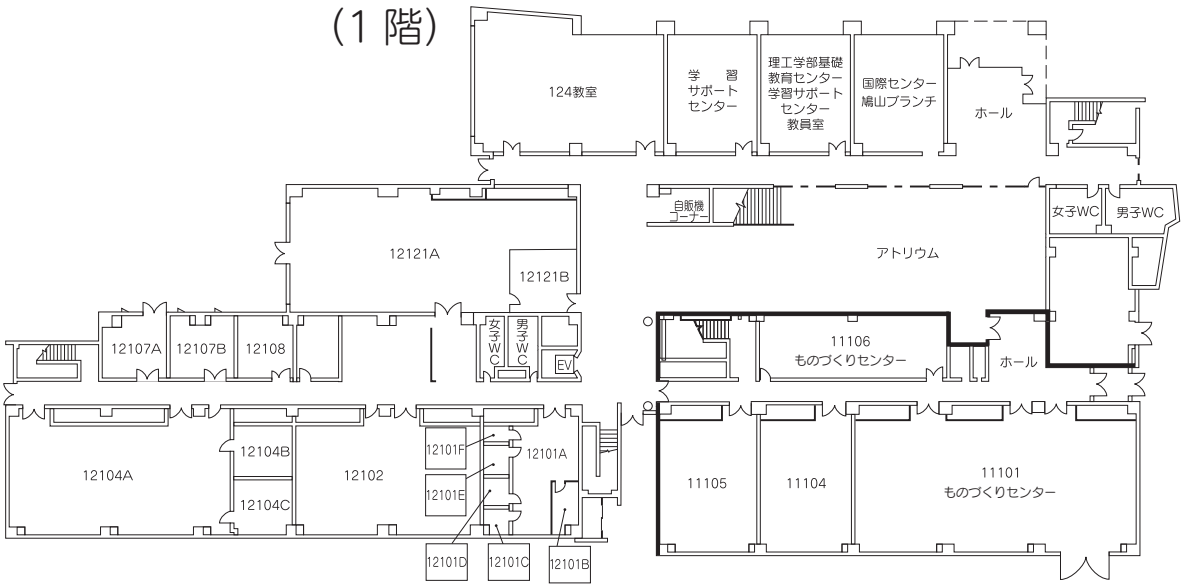


11 号館・12 号館

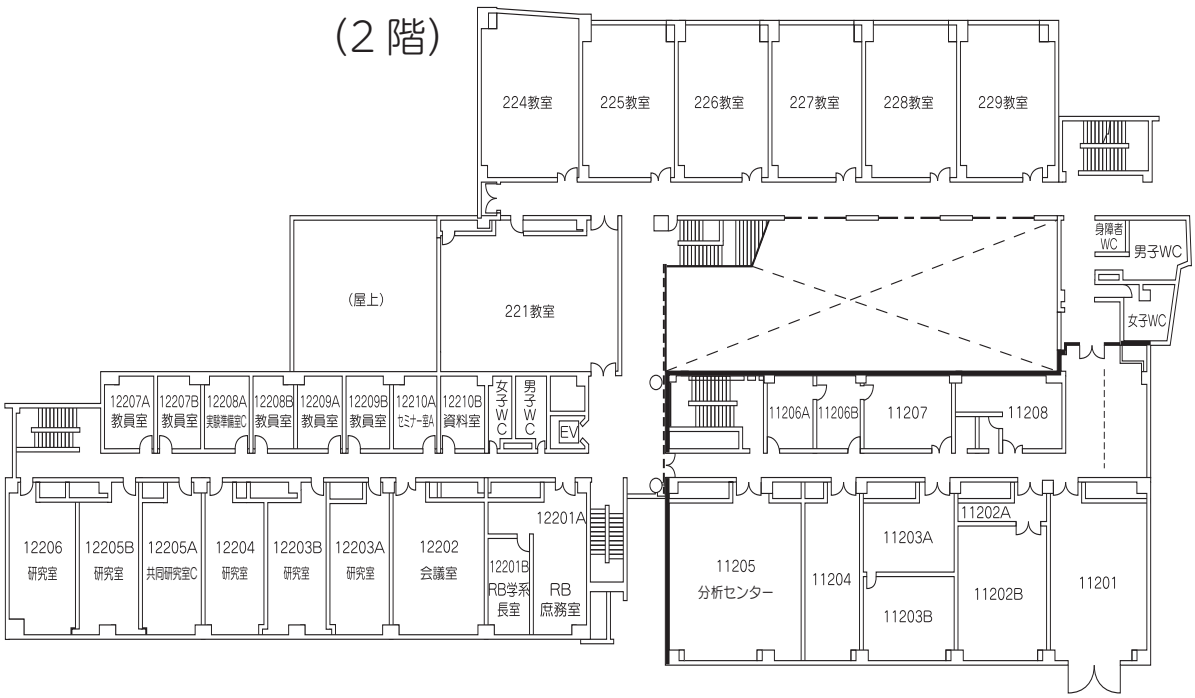
全体図



(1 階)

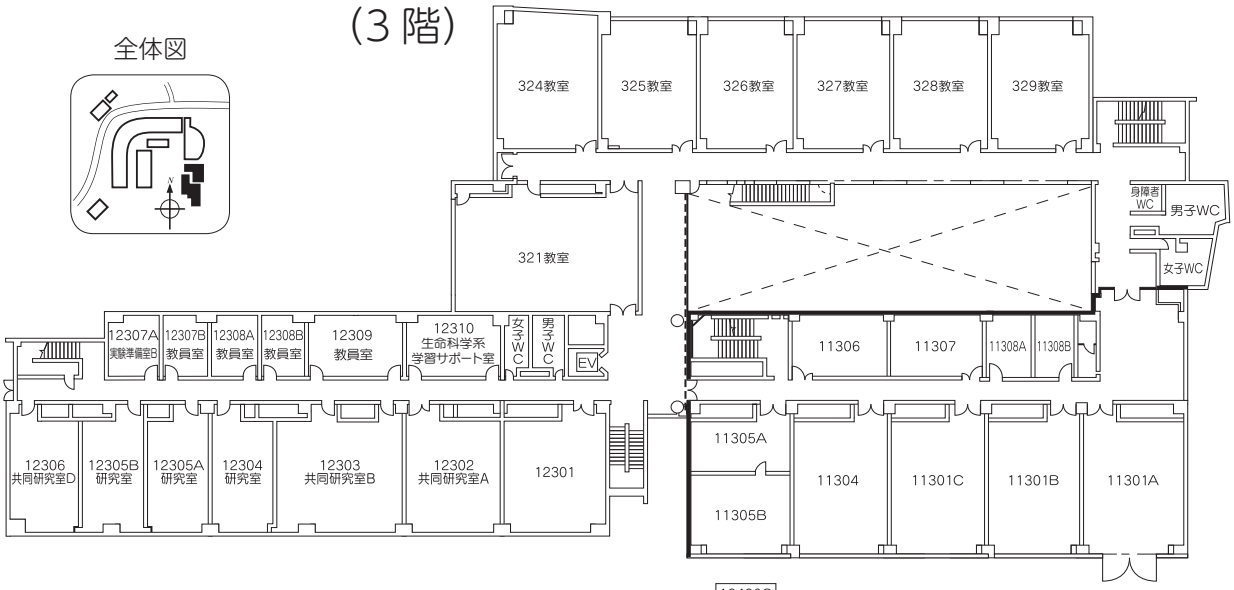


(2 階)

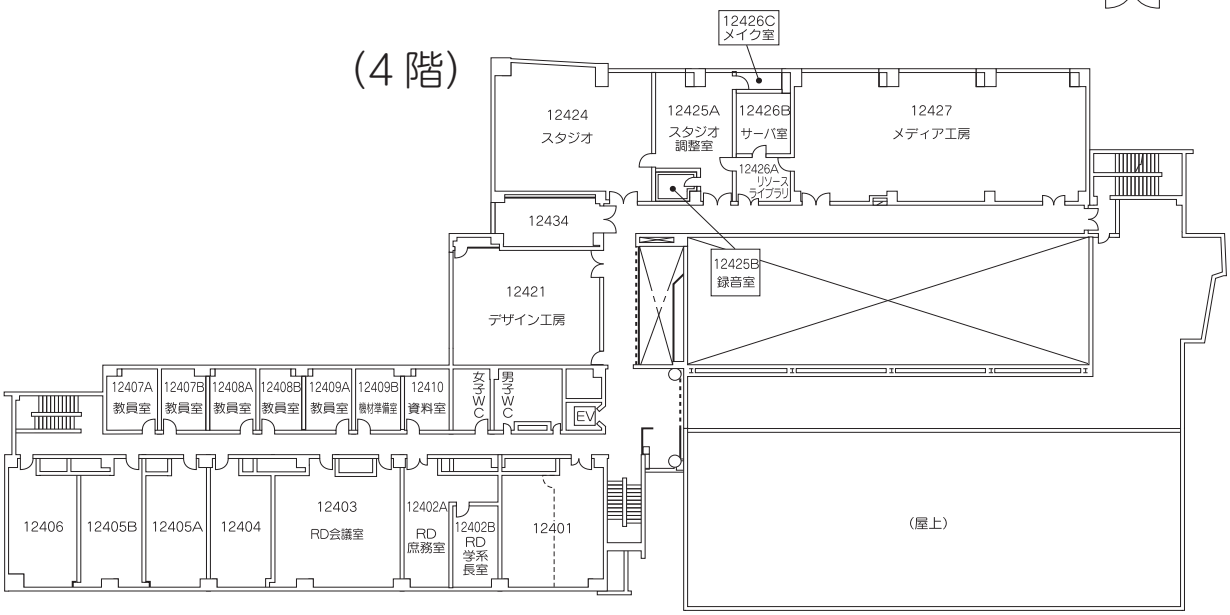


全体図

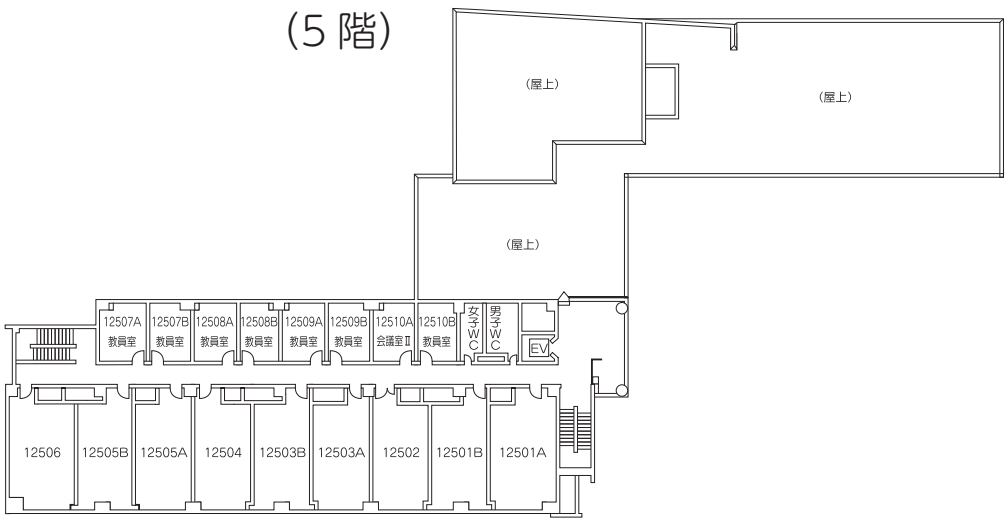
(3階)


324教室
325教室
326教室
327教室
328教室
329教室
321教室
身障者WC
男子WC
女子WC
12307A 実験準備室B
12307B 教員室
12308A 教員室
12308B 教員室
12309 教員室
12310 生命科学系学習サポート室
女子WC
男子WC
EV
11306
11307
11308A
11308B
12306 共同研究室D
12305B 研究室
12305A 研究室
12304 研究室
12303 共同研究室B
12302 共同研究室A
12301
11305A
11305B
11304
11301C
11301B
11301A

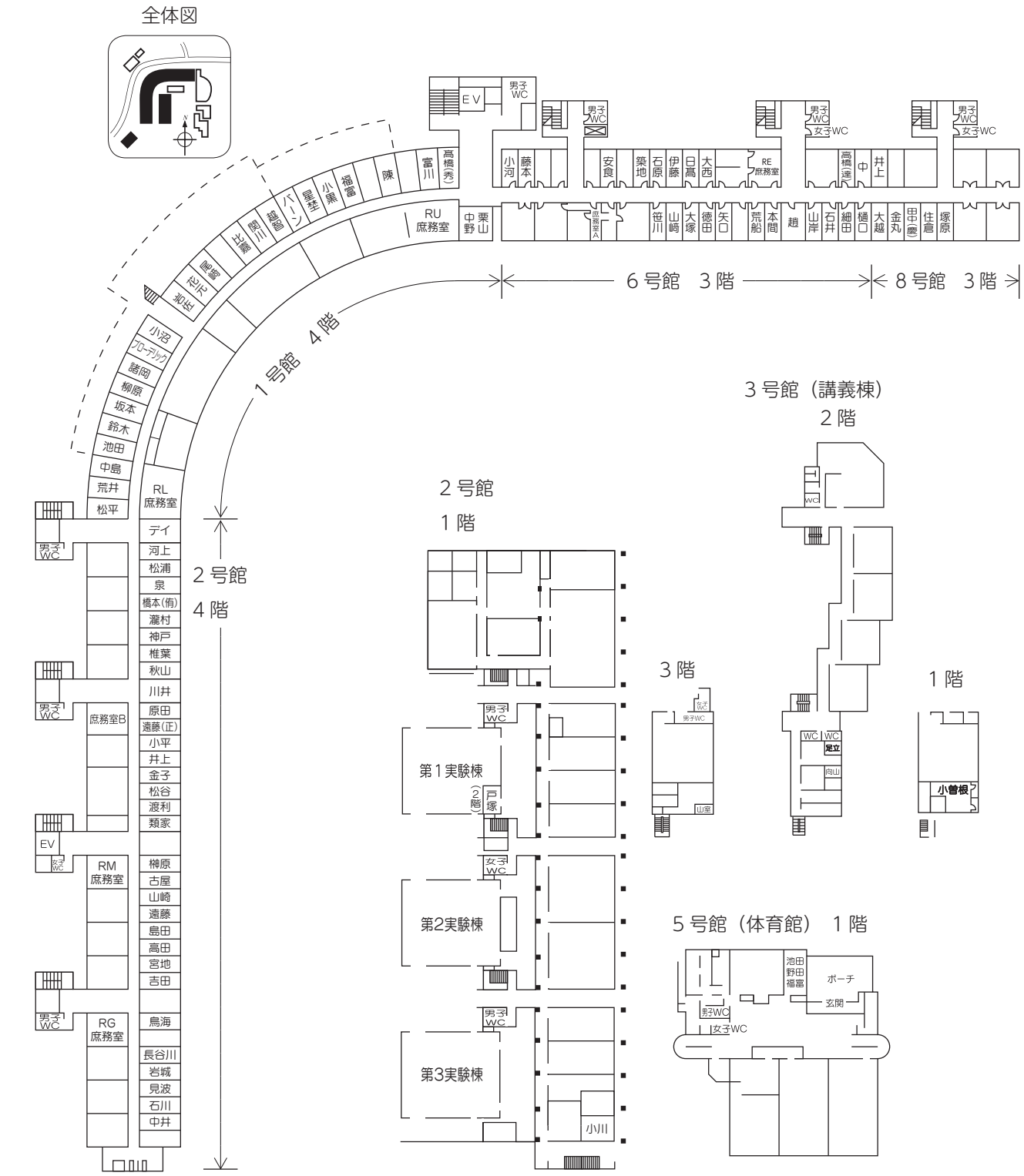
(4階)


12426C メイク室
12424 スタジオ
12425A スタジオ調整室
12426B サーバ室
12427 メディア工房
12426A リソースライブラリ
12434
12425B 録音室
12421 デザイン工房
12407A 教員室
12407B 教員室
12408A 教員室
12408B 教員室
12409A 教員室
12409B 機材準備室
12410 資料室
女子WC
男子WC
EV
12406
12405B
12405A
12404
12403 RD会議室
12402A RD庶務室
12402B RD学系長室
12401
(屋上)

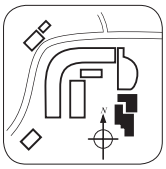
(5階)


(屋上)
(屋上)
(屋上)
12507A 教員室
12507B 教員室
12508A 教員室
12508B 教員室
12509A 教員室
12509B 教員室
12510A 会議室II
12510B 教員室
女子WC
男子WC
EV
12506
12505B
12505A
12504
12503B
12503A
12502
12501B
12501A

埼玉鳩山キャンパス教員室一覧

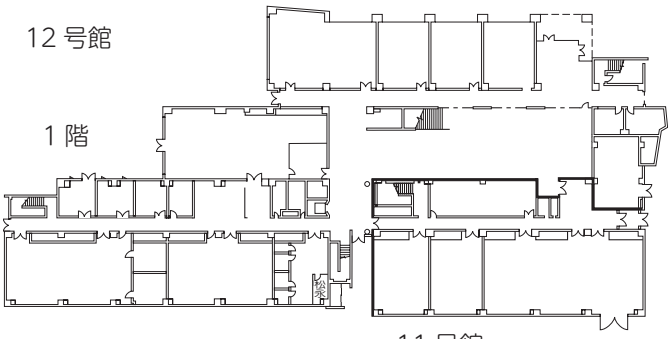


全体図



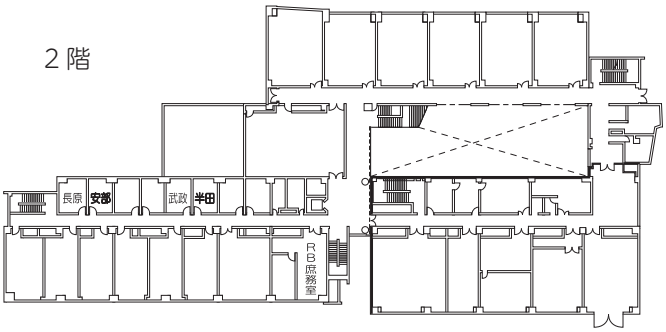
12 号館

1 階

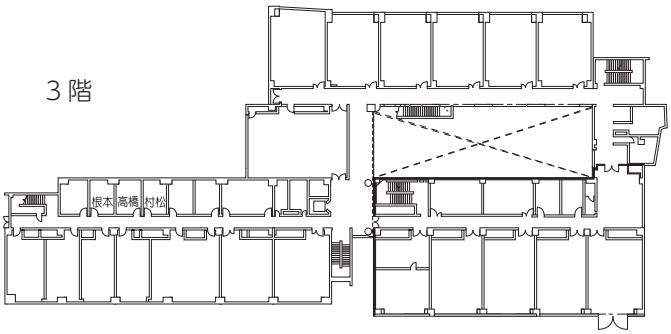


11 号館

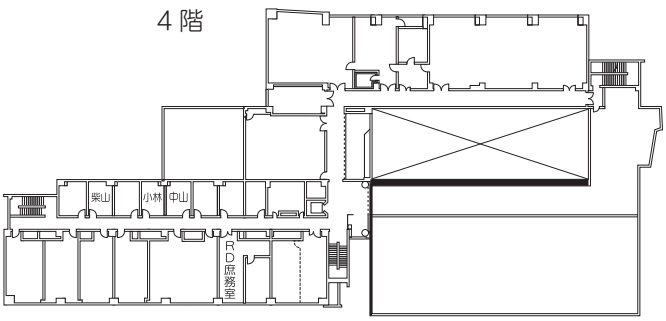
2 階



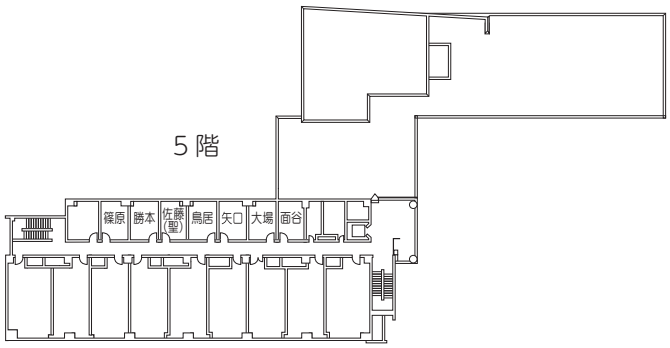
3 階



4 階



5 階



教員一覧

（令和６年４月１日現在）

＊は学系長、群主任

理学系

氏名	職名	室番号
＊ 向山義治	教授	3262 B
安食博志	教授	6341
石原聖司	教授	6338
大塚尚久	教授	6316
細田真妃子	教授	6301
山岸日出	教授	6303
山﨑浩一	教授	6317
小川英生	特定教授	2142D
中野哲夫	特定教授	1400
伊藤祥司	特任教授	6337
足立直也	准教授	3261 B
石井聡	准教授	6302
井上真	准教授	8301
小黒隆	准教授	1427
越智禎宏	准教授	1430
小曽根崇	准教授	3165
髙橋秀慈	准教授	1421
富川祥宗	准教授	1422
中惇	准教授	6304
星埜岳	准教授	1428
山室憲子	准教授	3365 B
類家正稔	准教授	2428
関川隆太郎	助教	1431
樋口あや	助教	6300

生命科学系

氏名	職名	室番号
＊ 武政誠	教授	12209 A
長原礼宗	教授	12207 A
根本航	教授	12307 B
半田明弘	教授	12209 B

氏　　名	職　　名	室　番　号
村　松　和　明	教　　授	12308 B
川　井　　悟	特定教授	2420
栗　山　　昭	特定教授	1400
椎　葉　　究	特定教授	2417
安　部　智　子	准　教　授	12207 B
高　橋　俊　介	准　教　授	12308 A
松　永　直　樹	助　　手	12101 B

情報システムデザイン学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊　中　山　　洋	教　　授	12409 A
秋　山　康　智	教　　授	2418
柴　山　拓　郎	教　　授	12407 B
高　橋　達　二	教　　授	6305
陳　　致　中	教　　授	1424
松　浦　昭　洋	教　　授	2412
矢　口　博　之	教　　授	12509 B
神　戸　英　利	特定教授	2416
小　林　春　美	特定教授	12408 B
面　谷　　信	特任教授	12510 B
泉　　智　紀	准　教　授	2413
勝　本　雄一朗	准　教　授	12508 A
篠　原　修　二	准　教　授	12507 B
築　地　立　家	准　教　授	6339
徳　田　太　郎	准　教　授	6315
鳥　居　拓　馬	准　教　授	12509 A
日　髙　章　理	准　教　授	6336
藤　本　　衡	准　教　授	6345
笹　川　隆　史	講　　師	6318
大　場　久　恵	助　　教	12510A
小　河　誠　巳	助　　教	6346
佐　藤　聖　也	助　　教	12508 B
橋　本　侑　知	助　　教	2414

機械工学系

氏名	職名	室番号
＊ 遠藤正樹	教授	2422
井上貴浩	教授	2424
榊原洋子	教授	2431
古屋治	教授	2432
山崎敬則	教授	2433
渡利久規	教授	2427
原田陽平	准教授	2421
松谷巌	准教授	2426
小平和仙	講師	2423
金子雅直	助教	2425
戸塚穂高	助手	第1実験棟（2階）

電子情報・生体医工学系

氏名	職名	室番号
＊ 田中慶太	教授	8306
荒船龍彦	教授	6312
大越康晴	教授	8302
大西謙吾	教授	6335
本間章彦	教授	6311
矢口俊之	教授	6314
住倉博仁	准教授	8308
塚原彰彦	准教授	8310
金丸真奈美	助教	8304
趙崇貴	助教	6310

建築・都市環境学系

氏名	職名	室番号
＊ 鳥海吉弘	教授	2441
岩城和哉	教授	2444
島田政信	教授	2435
高田和幸	教授	2436
中井正則	教授	2447
見波進	教授	2445

氏　　名	職　　名	室　番　号
長谷川　延　広	特任教授	2443
石　川　敬　祐	准　教　授	2446
宮　地　一　裕	准　教　授	2437
遠　藤　雅　実	助　　教	2434
吉　田　雪　乃	助　　教	2438

共通教育群

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊　河　上　　睦	教　　授	2411
中　島　浩　貴	教　　授	1444
松　平　圭　一	教　　授	1446
柳　原　良　江	教　　授	1440
荒　井　嘉　夫	特任教授	1445
池　田　瑞　音	准　教　授	1443・5105Ａ（体育館）
岩　佐　康　弘	准　教　授	1436
坂　本　暁　彦	准　教　授	1441
鈴　木　　翔	准　教　授	1442
花　元　宏　城	准　教　授	1435
尾　﨑　ちひろ	講　　師	1434
小　沼　史　彦	講　　師	1437
ジェイソン・バーン	講　　師	1429
ジェフ・ブローデリック	講　　師	1438
瀧　村　裕　子	講　　師	2415
ﾃﾞｲ・ﾏｼｭｰ・ﾏｰﾃｨﾝ	講　　師	2410
野　田　達　也	講　　師	5105Ａ（体育館）
福　富　信　也	講　　師	1426・5105Ａ（体育館）
比　嘉　徹　徳	助　　教	1432
諸　岡　千　裕	助　　教	1439

大学キャンパス所在地

埼玉鳩山キャンパス

理工学部
理工学研究科（修士）、先端科学技術研究科（博士）
〒 350 − 0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

【理工学部事務部窓口取扱い時間】
月～土　　9：10 ～ 17：30
（休憩時間）　11：30 ～ 12：30

東京千住キャンパス

工学部、工学部第二部、未来科学部、システムデザイン工学部
工学研究科（修士）、未来科学研究科（修士）、
システムデザイン工学研究科（修士）
先端科学技術研究科（博士）
〒 120 − 8551 東京都足立区千住旭町 5 番

本冊子は新入生のみ配布されます。
卒業するまで大切に取扱いください。

2024（令和6）年4月1日　発行

編　者　　理工学部事務部教務担当
発行者　　東京電機大学理工学部
〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
　　電話　049（296）0430

印刷所　　関根印刷所
〒360-0113　埼玉県熊谷市御正新田413-5
　　電話　048（536）0162

〔非売品〕

UD FONT by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

TDU